生産終了
DISCONTINUED

OMRON

印刷物はありません

SAPライブラリ

NS5/NS8/NS10/NS12-V1
NS-Designer V6

リファレンスマニュアル

Man. No. SBSA-521H

おことわり

(1) 本マニュアルの内容の一部または全部を無断で複写、複製、転載することを禁じます。
(2) 本マニュアルの内容に関しては、改良のため予告なしに仕様などを変更することがありますので、予めご了承ください。
(3) 本マニュアルの内容に関しては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなどお気付きのことがありましたら、お手数ですが巻末記載の当社支店または営業所までご連絡ください。
その際、巻末記載のマニュアルNo.も併せてお知らせください。

著作権・商標について

・Windowsはマイクロソフト社の登録商標です。
・その他、本文中に掲載しているシステム名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

SAP ライブラリ
リファレンスマニュアル

はじめに

このたびは、プログラマブルターミナル NS シリーズをご使用いただき、誠にありがとうございます。
NS シリーズは、FA の生産現場などで生じる様々な情報を伝達するプログラマブルターミナル(PT)で、SAP ライブラリは NS シリーズのプログラムをより簡単に行うための部品集です。プログラマブルターミナルの機能や性能などを十分にご理解の上、正しくお使いください。なお、ご使用の際は、「NS シリーズ プログラミングマニュアル」、「NS シリーズ セットアップマニュアル」「NS-Designer オペレーションマニュアル」も併せてご覧ください。

対象となる読者の方々

本マニュアルは、次の方を対象に記述しています。
電気の知識(電気工事士あるいは同等の知識)を有する方で
・FA 機器の導入を担当される方
・FA システムを設計される方
・FA 機器を設置、接続される方
・FA 現場を管理される方

お願い

- 本マニュアルは、SAP ライブラリの設定を行う上で、必要な情報を記載しています。お使いになる前に本マニュアルをよく読んで、十分に理解してください。また、お読みになった後も本マニュアルは大切に保管して、いつも手元においてお使いください。
- 本マニュアルは、Smart Active Parts の機能を説明した資料です。各ユニットやコンポの使用上の制約事項、組み合わせによる制約事項などについては記載されていません。ご使用にあたりましては、必ず各製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

ご承諾事項

●保証内容

(1)保証期間

本ソフトウェアの保証期間は、ご購入後またはご指定の場所に納入後1年といたします。ただし「カタログ等」に別途記載がある場合を除きます。

(2)保証範囲

- 本ソフトウェアの使用許諾を受けたお客様が、上記保証期間中にコンピュータ・プログラムの瑕疵(マニュアルとの重要な不一致)を発見し、当社に返却した場合は、当社は瑕疵(当該マニュアルとの重要な不一致)のないコンピュータ・プログラムを記録した媒体と交換いたします。{もしくは、当社の選択により、当社ホームページより瑕疵(当該マニュアルとの重要な不一致)のないコンピュータ・プログラムをダウンロードしていただく方法により提供いたします。}また、当社の責任によるコンピュータ・プログラムの記録媒体の不良を発見し、当社に返却した場合、当社は、無償で、良品の媒体に記録したコンピュータ・プログラムと交換いたします。
- 万一、当社がコンピュータ・プログラムの瑕疵(マニュアルとの重要な不一致)を除去できないと判断した場合は、お客様が本ソフトウェア購入代金として支払った金額をお返しいたします。

●責任の制限

- 前条に定める交換または購入代金の返金は、本ソフトウェアの保証責任のすべてを定めるものであり、当社は本ソフトウェアの瑕疵により発生した、お客様の直接的、間接的あるいは波及効果による損害等いかなる損害に対しても一切の責任を負いません。
- 当社は、本ソフトウェアを当社以外の第三者が変更、改造することにより生じた瑕疵や、本ソフトウェアのインストールその他の使用によって当社商品、インストールされたソフトウェア、またはすべてのコンピュータ機器、コンピュータプログラム、ネットワーク、データベースが DDos 攻撃(分散型 Dos 攻撃)、コンピュータウイルスその他の技術的な有害プログラム、不正アクセスを受けたことにより生じた損害につきましては、一切責任を負いません。
- 当社は、本ソフトウェアに基づき、当社以外の第三者が開発したソフトウェアおよびそれにより生じた結果について一切の責任を負いません。

●本ソフトウェアの用途

本ソフトウェアを本マニュアルに記載の用途以外の用途で使用しないでください。

●仕様の変更

本ソフトウェアの仕様および付属品は改善またはその他の事由により、必要に応じて、変更される場合があります。

●適用範囲

以上の内容は、日本国内での取引および使用を前提としております。日本国外での取引および使用に関しては、当社営業担当者までご相談ください。

安全上の注意

⚠ 警 告	正しい取扱いをしなければ、この危険のために、軽傷・中程度の傷害を負ったり、万一の場合には重傷や死亡に至る恐れがあります。また、同様に重大な物的損害をもたらす恐れがあります。

●安全に使用していただくための表示と意味について

本マニュアルでは、NS シリーズを安全に使用していただくために、注意事項を次のような表示と図記号で示しています。
ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守ってください。
表示と意味は次のとおりです。

●図記号の説明

	⃠記号は、禁止を意味しています。 具体的な内容は、⃠の中と文章で示します。 左図の場合は、「分解禁止」を表します。

⚠ 警 告	
通電中はユニットを分解しないでください。 感電の恐れがあります。	

安全上の要点

・本体および周辺機器は、開封時に製品の外観チェックを行い、損傷のないことを確認してください。また、製品を軽く振って、異音がないことを確認してください。
・取り付けできるパネルの板の厚さは、1.6～4.8mm です。防水・防塵能力を保つため、取り付け金具は 0.5～0.6N・m のトルクで均等に締め付けてください。規定以上のトルクで締め付けたり、締め付けが均等でないと、フロントシートが歪む恐れがあります。また、パネルは汚れや歪みがなく、取りつけ強度が十分に保てるパネルをご使用ください。
・パネル加工時は、金属くずのユニット内部への侵入に気を付けてください。
・EC 指令（低電圧指令）に対応される場合、強化絶縁された電源を使用してください。
・電源端子に AC 電源を接続しないでください。
・電圧変動の小さい DC 電源を使用してください。
・耐圧試験は実施しないでください。
定格電源電圧：DC24V（許容範囲 DC20.4～27.6V）
容量　　：25W 以上（NS5:15W 以上）
・電源端子台への接続は、2mm^2 以上のツイスト電線を使用し、必ず M3.5 用の圧着端子で接続してください。また、端子台の適正締め付けトルクは、0.8N・m です。正しく締め付けてください。
・ノイズによる誤動作防止のため、接地は正しく行ってください。
・基板の実装部分を素手で触れないでください。また人体の静電気は事前に放電してください。
・シリアルポート A、B コネクタの 6 番ピンの+5V を使用される場合、供給される機器の電流容量が 250mA 以下であることを確認の上、ご使用ください。NS 本体の+5V 出力は+5V±5%,250mA 最大です。
・ケーブルの着脱は、NS 本体の電源が OFF の状態で行ってください。
・通信ケーブルを接続した後は、必ずコネクタのネジを締めてください。
・コネクタの引っ張り荷重は 30N 以下です。それ以上の荷重はかけないでください。
・電源を ON/OFF する場合やリセットスイッチを押す場合は、システムの安全を確かめてから操作してください。
・電源 ON/OFF のしかたによっては、システム全体が停止することがあります。電源 ON/OFF は手順にしたがって行ってください。
・画面データ、マクロ、ホスト側プログラムは十分な動作確認を行ったうえで、実際の使用を開始してください。
・ディップスイッチの設定を変更したときは必ずリセットするかまたは電源を再投入してください。
・メモリカードアクセス中は以下の操作をしないでください。
NS 本体の電源を OFF にする
NS 本体のリセットスイッチを押す
メモリカードを抜く
必ず手順を守って引き抜いてください。
・システムの安全のため、必ずホスト側で運転中信号を定期的に呼び出し NS 本体
が正常動作していることが確認できるプログラムを組み込んで運転してください。
・タッチスイッチは 30N 以下の力で押してください。
・タッチスイッチは、システムの安全を確認したうえで押してください。
・タッチスイッチはバックライトが消灯している場合や、表示が無表示の場合、不用意に押さないでください。
・タッチスイッチを高速に連続して押すと、入力が取り込めない場合があります。一つの入力を確認した後に、次の入力操作に移ってください。
・画面データを初期化する場合は、作成した画面データが NS-Designer 側でバックアップされていることを確認した上で、初期化してください。
・システムメニューでのパスワード変更時、書込みが終了するまで(「書き込み」ボタンの形状が元に戻るまで)、リセット、または電源を切らないで下さい。パスワードの保存に失敗した場合、画面が動作しなくなる可能性があります。
・デバイスモニタ機能を使用する場合、システムの安全を十分に確認してから下記の操作を行ってください。
モニタデータ、タイマ／カウンタの現在値の変更
動作モードの切換え
強制セット／リセット
タイマ／カウンタの設定値の変更
・絶対にベンジン、シンナーなどの揮発性の溶剤や化学雑巾などは使用しないでください。

・床に落下させるなどして強い衝撃を与えてしまった電池は、液漏れする恐れがありますので絶対に使用しないでください。
・本製品を分解して修理、改造しないでください。
本体、および不要になった電池の廃棄については、地方自治体により規制を受ける場合があります。それぞれの自治体規制に従って廃棄してください。
・USB コネクタを適応外の機器に接続しないでください。
・USB コネクタに機器を接続する前に、必ず機器の概観チェックを行い、損傷のないことを確認してください。
・電池を装着するときは、種類を確認して正しく装着してください。

改定履歴

改訂記号	改訂日	改訂箇所・内容
−	2003 年 4 月	新規作成
B	2003 年 7 月	ｲﾝﾊﾞｰﾀ用デバイスライブラリ追記(3G3MV-PDRT2,3G3RV-PDRT2)
C	2003 年 10 月	ｲﾝﾊﾞｰﾀ用デバイスライブラリ(3G3MV-PDRT2,3G3RV-PDRT2)DRT2 機能分追記
D	2003 年 10 月	CJ1M 用デバイスライブラリ、インストール先変更に伴う修正 E5ZN-DRT 用デバイスライブラリに関する補足事項追記
E	2003 年 10 月	3G3RV ﾕﾆｯﾄｽﾃｰﾀｽﾓﾆﾀ ﾗｲﾌﾞﾗﾘｲﾒｰｼﾞ画像の修正
F	2003 年 12 月	ｲﾝﾊﾞｰﾀ用デバイスライブラリ
G	2004 年 7 月	PLC,通信ﾕﾆｯﾄ,ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾗ,ｻｰﾎﾞ,ｲﾝﾊﾞｰﾀ,温調,ﾓｰｼｮﾝ関連 SAP ライブラリ追加 デバイスライブラリ→SAP(Smart Active Parts)ライブラリに名称変更
H	2018 年 11 月	承諾事項の更新に伴う改訂

SAP ライブラリの構成

第 1 章 SAP ライブラリの概要
　1-1 SAP ライブラリとは
　1-2 SAP ライブラリの特徴
第 2 章 SAP ライブラリの流用方法
　2-1 SAP ライブラリー覧
　2-2 SAP ライブラリを使用するには
第 3 章 SAP ライブラリ使用上の注意点
　3-1 SAP ライブラリ使用環境
　3-2 SAP ライブラリ使用時の注意点
第 4 章 SAP ライブラリ編集時の注意点

第 5 章 SAP ライブラリの操作方法
　5-1 PLC
　5-2 通信ユニット
　5-3 モーション関連
　5-4 インバータ
　5-5 サーボ
　5-6 温度調節器
　　5-6-1 温度調節器(E5ZN)
　　5-6-2 温度調節器(E5□R)
　　5-6-3 温度調節器(E5□N)
　　5-6-4 Ver5 以前
　5-7 DRT2
　5-8 ループコントローラ

目　次

第１章　SAP ライブラリの概要 ・・・

5-3-2.12 スキャンリスト(共通パラメータ設定) 5-50
5-3-2.13 通信設定(共通パラメータ設定) 5-51
5-3-2.14 入力信号設定(各軸パラメータ設定) 5-52
5-3-2.15 動作モード設定(各軸パラメータ設定) 5-53
5-3-3 MC
5-3-3.1 調整運転 5-54
5-3-3.2 プログラム運転 5-55
5-3-3.3 設定 5-56
5-3-3.4 ティーチング 5-57
5-3-3.5 現在値モニタ 5-58
5-3-3.6 I/O ステータスモニタ 5-59
5-3-3.7 I/O ステータスモニタ(名称なし) 5-60
5-3-3.8 軸エラー 5-61
5-3-3.9 タスクエラー 5-62
5-3-3.10 ユニットエラー 5-63
5-3-4 MCH
5-3-4.1 調整運転 5-64
5-3-4.2 プログラム運転 5-65
5-3-4.3 設定 5-66
5-3-4.4 ティーチング 5-67
5-3-4.5 現在値モニタ 5-68
5-3-4.6 I/O ステータスモニタ 5-69
5-3-4.7 I/O ステータスモニタ(名称なし) 5-70
5-3-4.8 軸エラー 5-71
5-3-4.9 タスクエラー 5-72
5-3-4.10 ユニットエラー 5-73
5-3-4.11 サーボパラメータ設定 5-74
5-3-4.12 プログラム運転ステータス 5-75
5-3-4.13 自動モードステータス 5-76
5-3-5 Ver5 以前のライブラリ
5-3-5.1 JOG 運転 5-78
5-3-5.2 ティーチング 5-79
5-3-5.3 原点サーチ 5-80
5-3-5.4 原点復帰 5-81
5-3-5.5 現在値変更 5-82
5-3-5.6 直接運転 5-83
5-3-5.7 メモリ運転 5-84
5-3-5.8 シーケンス設定 1、位置データ設定 5-85
5-3-5.9 シーケンス設定 2 5-86
5-3-5.10 加減速時間設定 5-87
5-3-5.11 速度データ設定 5-88
5-3-5.12 ドウェルタイマ設定 5-89

5-4 インバータ
5-4-1 3G3MV
5-4-1.1 回転速度モニタ 5-92
5-4-1.2 出力周波数モニタ 5-93
5-4-1.3 出力電流モニタ 5-94
5-4-1.4 パラメータ No.1～12 (r/min 単位) 5-95
5-4-1.5 パラメータ No.13～24 5-96
5-4-1.6 コンベア基本調整 (r/min 単位) 5-97
5-4-1.7 ファン／ポンプ基本調整 (r/min 単位) 5-98
5-4-1.8 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整(r/min 単位) 5-99
5-4-1.9 PID 制御調整 5-100
5-4-1.10 昇降機基本調整 (r/min 単位) 5-101
5-4-1.11 ユニットステータスモニタ 5-102
5-4-1.12 入力ステータスモニタ (00～03) 5-104
5-4-1.13 入力ステータスモニタ (04～06) 5-105
5-4-1.14 出力ステータスモニタ 5-106
5-4-1.15 動作時間モニタ 5-107
5-4-1.16 ワーニングトルクモニタ 5-108
5-4-1.17 出力周波数／出力電流モニタ 5-109
5-4-1.18 パラメータNo. 1～15 5-111
5-4-1.19 パラメータNo. 16～27 5-113
5-4-1.20 コンベア基本調整 5-114
5-4-1.21 ファン／ポンプ基本調整 5-115
5-4-1.22 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整 5-116
5-4-1.23 PID制御調整 5-118

5-4-1.24 昇降機基本調整 ····· 5-119
5-4-1.25 周波数指令設定／表示の単位選択 ····· 5-120
5-4-1.26 平均電力モニタ ····· 5-121
5-4-2 3G3RV
5-4-2.1 回転速度モニタ ····· 5-122
5-4-2.2 出力周波数モニタ ····· 5-123
5-4-2.3 出力電流モニタ ····· 5-124
5-4-2.4 パラメータ No.1～12 (Hz 単位) ····· 5-125
5-4-2.5 パラメータ No.13～24 ····· 5-126
5-4-2.6 ファン／ポンプ基本調整 (Hz 単位) ····· 5-127
5-4-2.7 ユニットステータスモニタ ····· 5-128
5-4-2.8 入力ステータスモニタ (00～03) ····· 5-130
5-4-2.9 入力スタータスモニタ (04～06) ····· 5-131
5-4-2.10 出力ステータスモニタ ····· 5-132
5-4-2.11 動作時間モニタ ····· 5-133
5-4-2.12 ワーニングトルクモニタ ····· 5-134
5-4-2.13 出力周波数／出力電流モニタ ····· 5-135
5-4-2.14 パラメータNo. 1～15 ····· 5-137
5-4-2.15 パラメータNo. 16～27 ····· 5-139
5-4-2.16 コンベア基本調整 ····· 5-140
5-4-2.17 ファン／ポンプ基本調整 ····· 5-141
5-4-2.18 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整 ····· 5-142
5-4-2.19 PID制御調整 ····· 5-144
5-4-2.20 昇降機基本調整 ····· 5-145
5-4-2.21 周波数指令設定／表示の単位選択 ····· 5-147
5-4-2.22 平均電力モニタ ····· 5-148

5-5 サーボ
5-5-1 R88D-WT/R7D-AP
5-5-1.1 現在値モニタ ····· 5-150
5-5-1.2 パラメータ設定 ····· 5-151
5-5-1.3 サーボドライバ調整 ····· 5-152
5-5-1.4 エラー表示 ····· 5-153
5-5-1.5 I/O ステータスモニタ1 (本体) ····· 5-154
5-5-1.6 I/O ステータス1 (名称なし) ····· 5-156
5-5-1.7 I/O ステータスモニタ2 (本体) ····· 5-157
5-5-1.8 I/O ステータスモニタ2 (名称なし) ····· 5-158

5-6 温度調節器
5-6-1 温度調節器 (E5ZN)
5-6-1.1 運転ﾚﾍﾞﾙ
運転ﾓﾆﾀ(標準制御用) ····· 5-160
運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用) ····· 5-161
警報値設定 ····· 5-162
PV ﾎｰﾙﾄﾞ値 ····· 5-163
SP 設定 ····· 5-164
5-6-1.2 調整ﾚﾍﾞﾙ
ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定 ····· 5-165
ﾏﾙﾁ SP 設定 ····· 5-166
ﾋｰﾀ断検出 ····· 5-167
PID 設定 ····· 5-168
入力補正値 ····· 5-169
ﾏﾆｭｱﾙﾘｾｯﾄ値 ····· 5-170
冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期 ····· 5-171
ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度 ····· 5-172
5-6-1.3 初期設定ﾚﾍﾞﾙ
入力種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点 (熱電対) ····· 5-173
入力種別、温度単位 (測温抵抗体) ····· 5-174
目標値ﾘﾐｯﾄ ····· 5-175
伝送出力上限下限設定 ····· 5-176
PID･ON/OFF ····· 5-177
正／逆動作 ····· 5-178
警報 1 種別、警報 1 励磁非励磁、警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ、警報 1 ﾗｯﾁ ····· 5-179
警報 2 種別、警報 2 励磁非励磁、警報 2 ﾋｽﾃﾘｼｽ、警報 2 ﾗｯﾁ ····· 5-180
警報 3 種別、警報 3 励磁非励磁、警報 3 ﾋｽﾃﾘｼｽ、警報 3 ﾗｯﾁ ····· 5-181
制御出力 1･2 割付 ····· 5-182
補助出力 1･2 割付 ····· 5-183
補助出力 3･4 割付 ····· 5-184

電流出力、電圧出力 ····· 5-185
ｾﾝｻ異常 LED 使用、入力異常出力 ····· 5-186
電源投入後動作 ····· 5-187
5-6-1.4 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ
SP ﾗﾝﾌﾟ ····· 5-188
ﾋｰﾀ断使用、ﾋｰﾀ断ﾗｯﾁ、ﾋｰﾀ断ﾋｽﾃﾘｼｽ ····· 5-189
操作量ﾘﾐｯﾄ上限下限、入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ ····· 5-190
入力補正種別 ····· 5-192
ﾏﾙﾁ SP 使用数、ｲﾍﾞﾝﾄ入力割付、ﾏﾙﾁ SP 使用 ON/OFF ····· 5-191
待機ｼｰｹﾝｽ再起動 ····· 5-193
α ····· 5-194
冷接点補償方式 ····· 5-195
5-6-1.5 通信設定ﾚﾍﾞﾙ
通信設定 ····· 5-196
5-6-2 温度調節器 (E5□R)
5-6-2.1 運転制御
ﾊﾞﾝｸ選択 ····· 5-197
運転ﾓﾆﾀ(標準制御用) ····· 5-198
運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用) ····· 5-199
運転ﾓﾆﾀ(位置比例制御用) ····· 5-200
SP 設定 ····· 5-201
ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定(標準／加熱冷却制御用) ····· 5-202
ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定(位置比例制御用) ····· 5-203
5-6-2.2 調整ﾚﾍﾞﾙ
入力補正値 ····· 5-204
SP ﾗﾝﾌﾟ時間単位、SP ﾗﾝﾌﾟ上昇値、SP ﾗﾝﾌﾟ下降値 ····· 5-205
ﾏﾆｭｱﾙﾘｾｯﾄ値 ····· 5-206
操作量変化率ﾘﾐｯﾄ ····· 5-207
ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度 ····· 5-208
ｽﾄｯﾌﾟ時操作量、異常時操作量 ····· 5-209
冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期 ····· 5-210
外乱ｹﾞｲﾝ、外乱時定数、外乱整定帯、外乱判定幅、外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ調節 ····· 5-211
5-6-2.3 調整 2 ﾚﾍﾞﾙ
一次遅れ演算、移動平均、開閉演算ローカット点 ····· 5-212
位置比例ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、開閉ﾋｽﾃﾘｼｽ、ｽﾄｯﾌﾟ時操作量、異常時操作量 (位置比例制御用) ····· 5-213
ｱﾅﾛｸﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀ ····· 5-214
5-6-2.4 ﾊﾞﾝｸ設定ﾚﾍﾞﾙ
LSP、警報値設定 ····· 5-215
LSP 設定 ····· 5-216
5-6-2.5 PID 設定ﾚﾍﾞﾙ
PID 設定、操作量ﾘﾐｯﾄ、自動選択ﾚﾝｼﾞ ····· 5-217
5-6-2.6 近似設定ﾚﾍﾞﾙ
直線近似 ····· 5-218
折線近似 1-10 ····· 5-219
折線近似 11-20 ····· 5-220
5-6-2.7 入力初期設定ﾚﾍﾞﾙ
ﾘﾓｰﾄ SP 上限値、下限値 ····· 5-221
入力 1 種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点 ····· 5-222
ｾﾝｻ誘導ﾉｲｽﾞ除去 ····· 5-224
5-6-2.8 制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ
正／逆動作 ····· 5-225
目標値ﾘﾐｯﾄ ····· 5-226
ｸﾛｰｽﾞﾄﾞﾌﾛｰﾃｨﾝｸﾞ、ﾄﾗﾍﾞﾙﾀｲﾑ、PV ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常時動作 (位置比例制御用) ····· 5-227
出力種別 ····· 5-228
制御ﾓｰﾄﾞ ····· 5-229
5-6-2.9 初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ
制御出力／伝送出力 1･2 割付 ····· 5-230
制御出力／伝送出力 3･4 割付 ····· 5-231
ｲﾍﾞﾝﾄ入力 1 割付 ····· 5-232
補助出力 1 割付、補助出力 1 励磁／非励磁 ····· 5-233
伝送出力 1 上限下限 ····· 5-234
一次遅れ演算･移動平均･開閉演算有効無効 ····· 5-235
直線近似、折れ線近似有効無効 ····· 5-236
5-6-2.10 警報設定ﾚﾍﾞﾙ
警報 1 種別、警報 1 ﾗｯﾁ、警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ ····· 5-237
待機ｼｰｹﾝｽ再起動 ····· 5-238
5-6-2.11 通信設定ﾚﾍﾞﾙ ····· 5-239
通信設定 ····· 5-239

5-6-2.12 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ
有効ﾁｬﾈﾙ数 ・・・

5-7-1.6 ユニットステータスモニタ(DRT2) 5-295
5-7-1.7 I/O ステータスモニタ(DRT2) 5-296

5-7-2 アナログ
5-7-2.1 アナログユニット メンテナンス情報 5-297
5-7-2.2 アナログ入力ユニット 入力別メンテナンス情報 5-298
5-7-2.3 アナログ出力ユニット メンテナンス情報 5-299
5-7-2.4 アナログ出力ユニット 出力別メンテナンス情報 5-300
5-7-2.5 温度入力ユニット メンテナンス情報 5-301
5-7-2.6 温度入力ユニット 入力別メンテナンス情報 5-302

5-8 ループコントローラ
5-8-1 時間関数ブロック
5-8-1.1 折れ線プログラム 2 時間幅/出力量設定 5-304
5-8-1.2 折れ線プログラム 2 ウェイト設定 5-306
5-8-1.3 折れ線プログラム 時間幅/出力量設定 5-308
5-8-1.4 台形プログラム パラメータ設定 5-310

第 1 章 SAP ライブラリの概要

第 2 章 SAP ライブラリの流用方法

第 3 章 SAP ライブラリ使用上の注意点

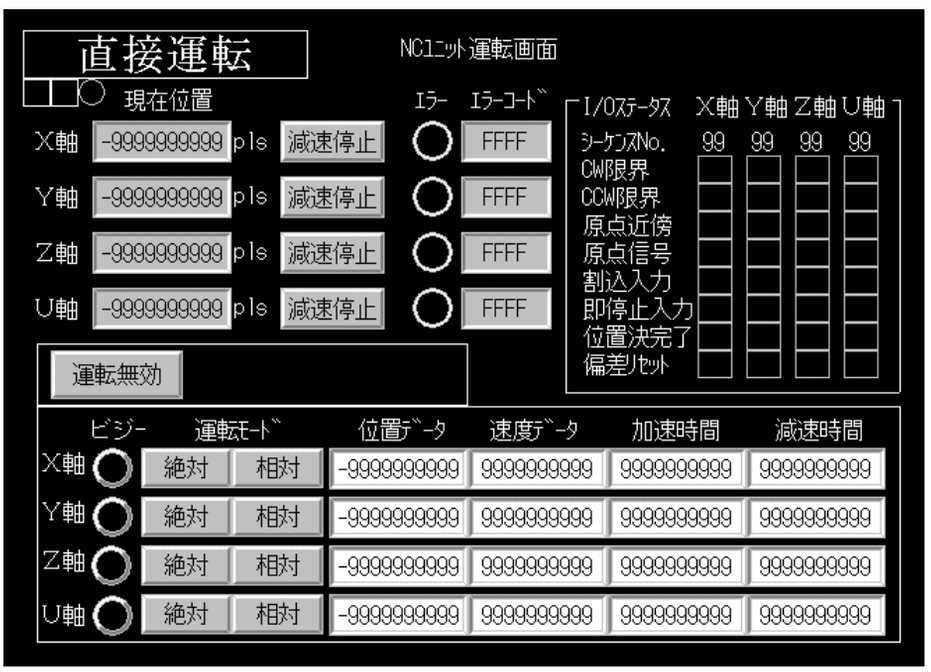
第 4 章 SAP ライブラリ編集時の注意点

第 1 章　SAP ライブラリの概要

1-1 SAP ライブラリとは

SAP ライブラリとは、Smart Active Parts ライブラリの略称です。各種設定／モニタ画面（ NC ユニット設定画面や温調モニター画面等）を NS-Designer Ver.6 以降の標準ライブラリとしてプレインストール可能なライブラリ群のことを言います。

SAP ライブラリを使用することにより、従来 PLC の各種ユニットに応じて一から作成しなければならなかった設定/モニタ画面を簡単に作成することができます。通信機能等を含む高機能なライブラリですので、使用時には「第 3 章 SAP ライブラリ使用上の注意点」、「第 4 章　SAP ライブラリ編集時の注意点」を参照ください。



例）NC ユニット直接運転用 SAP ライブラリ

1-2 SAP ライブラリの特徴

SAP ライブラリには、以下の特徴があります。

- SAP ライブラリ自体に通信機能があるため、各種デバイス（温調、NC ユニット、DRT2、インバータ等）との通信プログラムが不要（プログラムレス通信）です。
- SAP ライブラリは NS-Designer の「ライブラリ流用」から流用しますが、流用時に通信先（ NC ユニットや DeviceNet マスタ）の号機 No./ユニット No.を指定するだけで、各種設定／モニタの全通信アドレスが自動的に決定します。従来のように、通信先ユニットのマニュアルで通信アドレスを調べる必要はありません。
- SAP ライブラリを組み合わせて、簡単に NC、DRT2 等の各種モニタ／設定画面が作れますので、CX-Position や DeviceNet コンフィグレータ 等の専用ツールの代用が NS で可能になります。

第2章 SAP ライブラリの流用方法

2-1 SAP ライブラリー覧

NS-Designer Ver.6 には以下の SAP ライブラリが標準でインストールされています。

1） DRT2関連

DRT2 関連 ¥IN/MONITOR/OUT/Ver5 以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ(DRT2-***)/ｱﾅﾛｸﾞ(AD)/ﾕﾆｯﾄ本体

2） PLC

CS_CJ¥CS_CJ 共通　Ver5 以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ¥CJ1M_V1

3） ｲﾝﾊﾞｰﾀ

3G3MV/3G3RV ¥DeviceNet 接続/ｼﾘｱﾙ接続¥DRT2 機能/ﾊﾟﾗﾒｰﾀ調整/ﾓﾆﾀ

4） ｻｰﾎﾞ

R7D-AP/R88D-WT ¥I/O ｽﾃｰﾀｽﾓﾆﾀ/ｴﾗｰ表示/ｻｰﾎﾞﾄﾞﾗｲﾊﾞ調整/ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定/現在値ﾓﾆﾀ

5） ﾌﾟﾛｾｽｺﾝﾄﾛｰﾗ

LCB_LCU¥ 時間関数ﾌﾞﾛｯｸ¥ 台形プログラム/折れ線ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ/折れ線ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 2

6） ﾓｰｼｮﾝ関連

MC¥MC221/MC421

MCH¥ﾘﾚｰ CIO ﾃﾞｰﾀ DM/ﾘﾚｰ CIO ﾃﾞｰﾀ EM0/ﾘﾚｰ WR ﾃﾞｰﾀ DM/ﾘﾚｰ WR ﾃﾞｰﾀ EM0

NC¥NC1□3/NC2□3/NC4□3/Ver5.以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ¥ 高機能 I0 ﾕﾆｯﾄ用 DM ｴﾘｱ割付/任意 DM ｴﾘｱ割付

NCF¥出力 CIO 入力 CIO/出力 CIO 入力 DM/出力 DM 入力 CIO/出力 DM 入力 DM

7） 温度調節器

E5□N¥NS ﾀﾞｲﾚｸﾄ接続¥ 1 運転ﾚﾍﾞﾙ/2 測温抵抗体入力ﾀｲﾌﾟ/3 初期設定ﾚﾍﾞﾙ/4 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ

E5□R¥NS ﾀﾞｲﾚｸﾄ接続¥ 0 運転制御ﾚﾍﾞﾙ/1 運転ﾚﾍﾞﾙ/2 調整ﾚﾍﾞﾙ/3 調整 2 ﾚﾍﾞﾙ/4 ﾊﾞﾝｸﾚﾍﾞﾙ/5PID 設定
6 入力初期設定/7 制御初期設定/8 初期設定 2/9 警報設定/A 通信設定/B 高機能設定/C 拡張制御設定

E5ZN¥DeviceNet 接続 ¥E5ZN-DRT_V1_1 PID 設定/PV ﾎｰﾙﾄﾞﾌｪｰｽﾌﾟﾚｰﾄ/設定ｴﾘｱ 0/動作指令/目標値設定
¥ﾀﾞｲﾚｸﾄ接続¥ 1 運転ﾚﾍﾞﾙ/2 調整ﾚﾍﾞﾙ/3 初期設定ﾚﾍﾞﾙ/4 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ/5 通信設定ﾚﾍﾞﾙ

8） 通信ﾕﾆｯﾄ

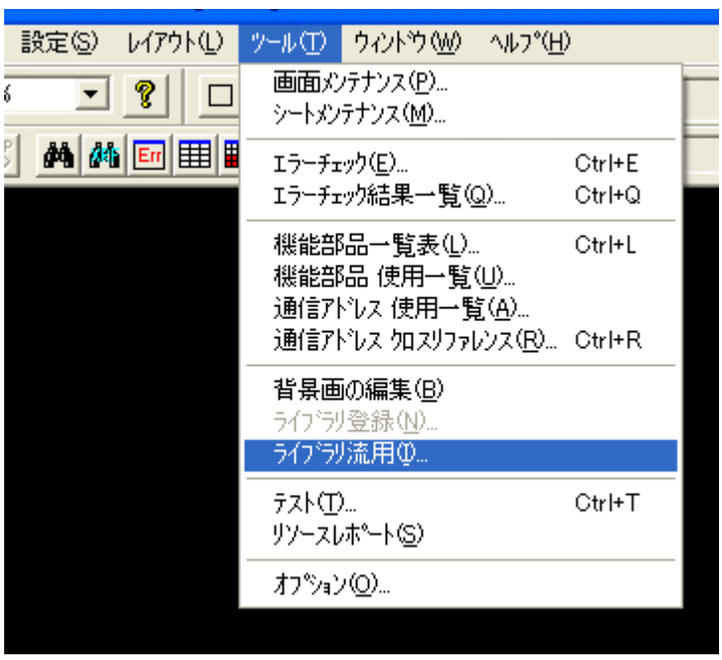
CLK/ETHERNET/SERIAL ¥SCB/SCU

Ver5 以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ¥ CS1W_CJ1W-CLK21_V1/CS1W_CJ1W-DRM21_V1

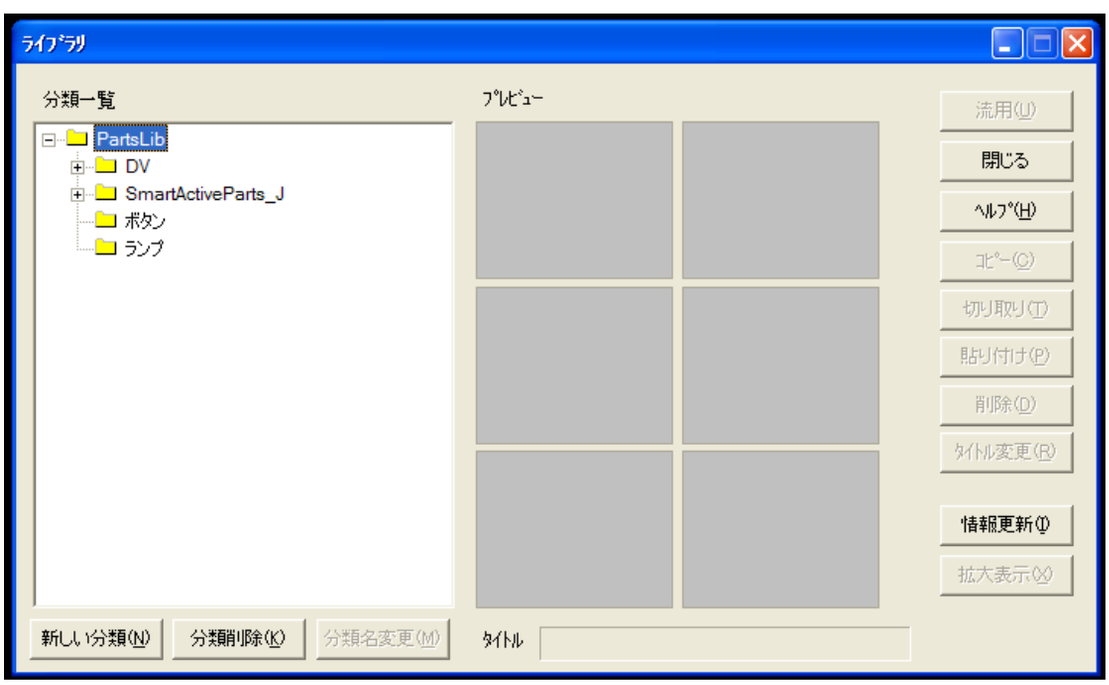
2-2 SAP ライブラリを使用するには

SAP ライブラリは「ライブラリ流用」を使って、画面に流用（貼付け）します。
以下の手順で SAP ライブラリを流用して下さい。

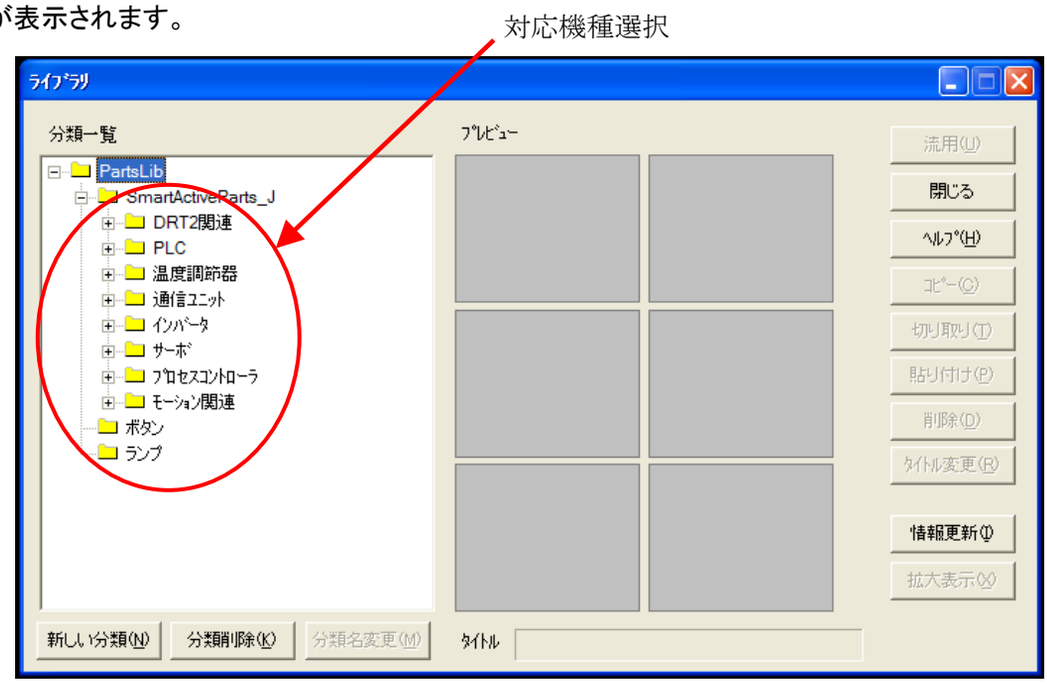
1）ライブラリ流用
メニューバーの「ツール」→「ライブラリ流用」を選択します。



2）流用する SAP ライブラリの選択
①「ライブラリ流用」を実行すると、以下の「ライブラリ」ダイアログが表示されます。



②「分類一覧」の「Smart Active Parts_J」をクリックすると、NS-Designer にインストールされている SAP ライブラリ対応機器リストが表示されます。

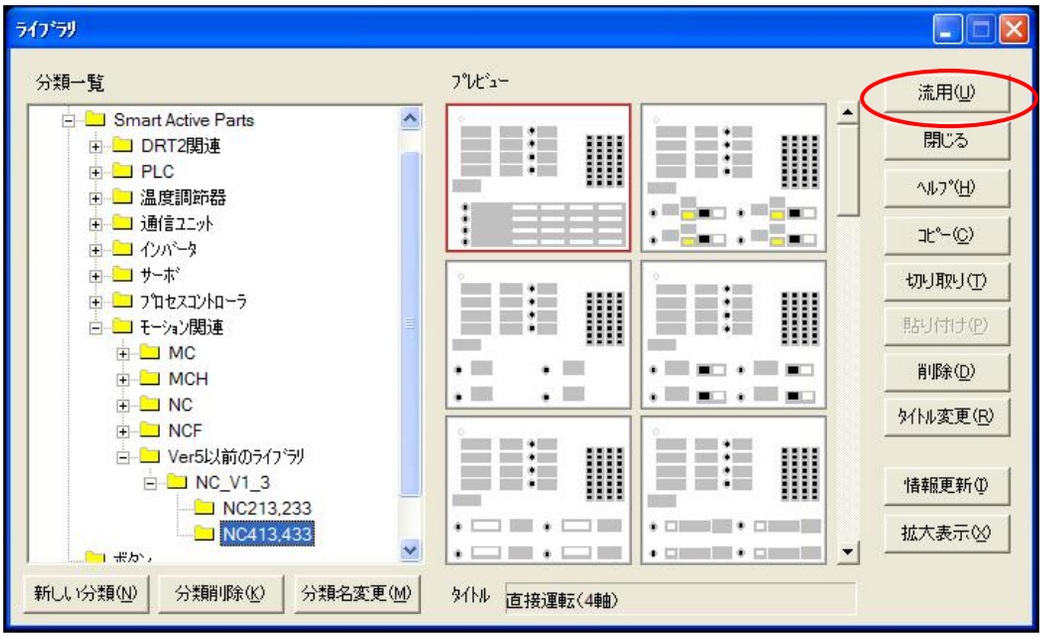


③「Smart Active Parts」内の SAP ライブラリ対応機器リストをクリックすると、その機器の SAP ライブラリがサムネイル形式でプレビューされます。プレビュー内のサムネイル画面をクリックすることで、流用する SAP ライブラリが選択されます。
選択された SAP ライブラリ名称はダイアログ下側のタイトル欄に表示されます。



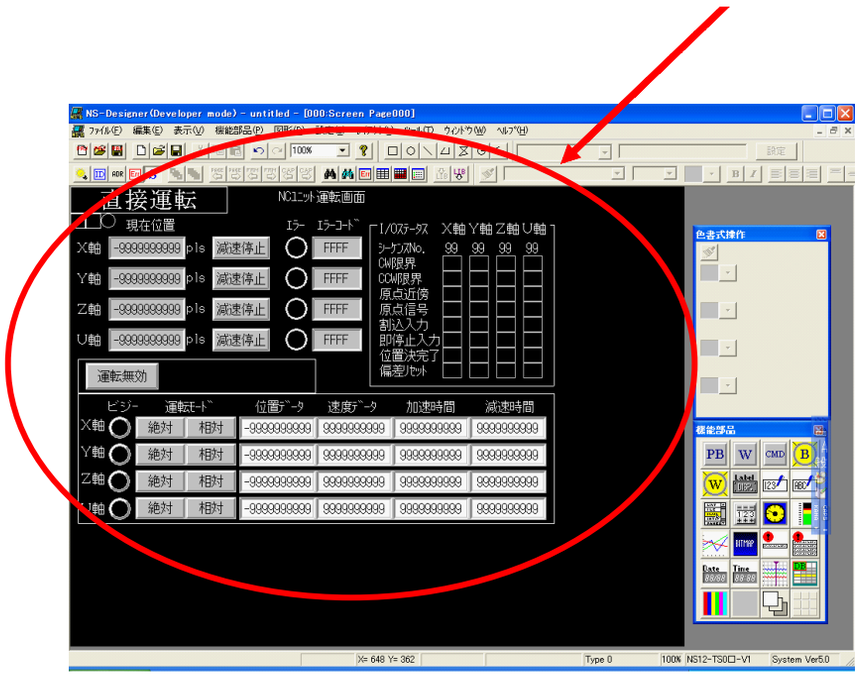
3）SAP ライブラリの流用

プレビューにて流用する SAP ライブラリを選択し、ダイアログ右上の「流用」ボタンをクリックします



4）画面への貼りつけ

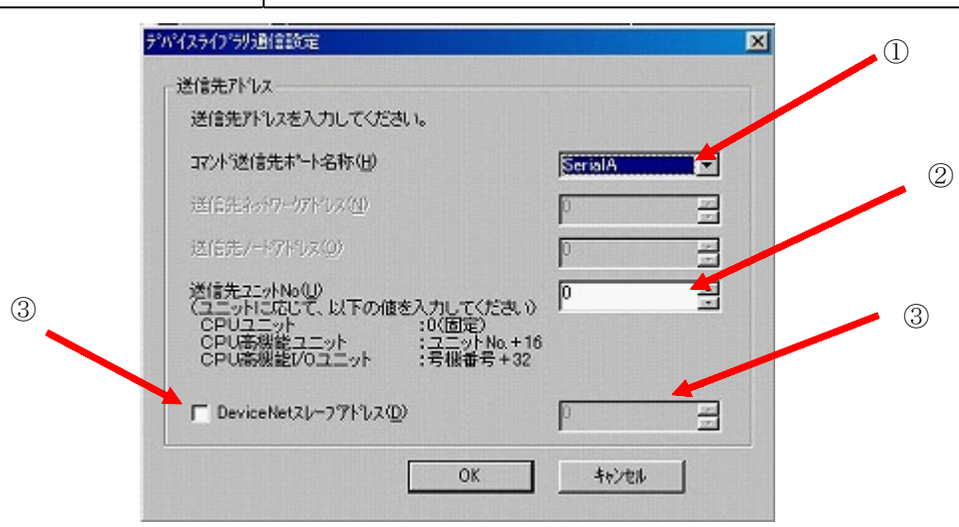
「流用」ボタンをクリックすると、選択した SAP ライブラリが画面左上に流用（貼りつけ）されます。



5）SAP ライブラリの通信設定

SAP ライブラリ流用後、SAP ライブラリをクリックして下さい。「SAP ライブラリ通信設定ダイアログ」が表示されますので、以下の項目の設定をおこなってください。

番号	項目	内容
①	コマンド送信先ポート	PLCと接続されているNS本体のポートを選択します
②	送信先ユニット No.	NC ユニット等のユニットの号機 No.ユニット No.を入力します
③	DeviceNet またはシリアルスレーブアドレス	例えば、画面に配置した SAP ライブラリが DeviceNet スレーブの場合は、DeviceNet スレーブアドレスに☑後、スレーブアドレスを設定します



SAP ライブラリの「流用」→「貼りつけ」→「通信設定」が完了しました。

SAP ライブラリ貼りつけ後の編集については「第3章　SAP ライブラリ使用上の注意点」および「第4章　SAP ライブラリ編集上の注意点」を参照ください。

第3章 SAP ライブラリ使用上の注意点

SAP ライブラリ使用時は以下の点にご注意ください。

3-1 SAP ライブラリ使用環境

1. NS-Designer Ver.6 以降が必要です。
2. プロジェクト（画面データ）のシステムバージョンは System Ver.5.0 以降となります。
   System Ver.4.0 以前の画面で SAP ライブラリを流用すると、警告ダイアログが表示され画面に貼り付けできません。

3-2 SAP ライブラリ使用時の注意点

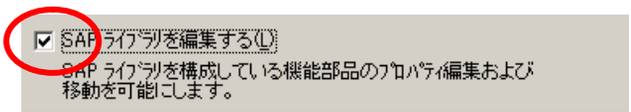
SAP ライブラリは通常の機能部品（ランプ、スイッチ等）と異なり、以下の制限事項があります。

1. SAP ライブラリのコピー／貼り付け／切り取りはできません。
   同じ SAP ライブラリを複数個置く場合は、「ツール」→「ライブラリ流用」にて SAP ライブラリを貼り付けてください。
2. 画面メンテナンスでは、SAP ライブラリを含む画面の複製／削除ができません。
   画面を削除する場合は、あらかじめ SAP ライブラリを削除後、画面メンテナンスで削除してください。
3. SAP ライブラリの種類によっては Ver 制限がある部品があります。（例：Ver5.0 以降で使用して下さい等）
   この例は Ver5.0 以降の機能を使用しており、それ以前のバージョンでは正常に動作しません。
   各種ライブラリの詳細は各種ライブラリのマニュアルを参照して下さい。

第 4 章　SAP ライブラリ編集時の注意点

SAP ライブラリを編集する場合は以下の点にご注意ください。

SAP ライブラリを編集する場合、「ツール」-「オプション」-「編集/表示」タブの「SAP ライブラリを編集する(L)」をチェックしてください。



チェックなしの場合は、SAP ライブラリの編集ができません。

SAP　ライブラリ内の部品の編集をする場合は、編集したい部品上で直接ダブルクリックして下さい。該当部品のプロパティダイアログが表示され、編集が可能になります。

1.各部品のサイズ、色、銘板などが編集可能です。また、SAP ライブラリ自身のサイズ/位置は変更可能です。
2.SAP ライブラリは、色／書式／フォントのコピー元にはできません。

MEMO

第 5 章　SAP ライブラリの操作方法

5-1 PLC

5-1-1 CPU

5-1-1.1 異常履歴

ユニット種別	CS/CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥CS_CJ¥CS_CJ 共通	タイトル	異常履歴
機能	CPU の異常履歴を表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	異常履歴	表示	異常履歴を 5 件表示します。上部から新しい異常が表示されます。ページ切替によって、最大 20 件分表示されます。 現在発生異常　：異常が発生していることを示すランプです。最新の情報を表示するには、読み込みボタンを押下してください。 発生日時　　：異常が発生した日付、時刻を表示します。 異常内容　　：異常内容が表示されます。 異常コード　：故障コードが表示されます。 詳細コード　：異常内容のコードが表示されます。
②	前ページ	設定	1 ページ前（新しい）の異常履歴を表示します。 最新の異常が表示されているページの場合、使用不可となります。
③	次ページ	設定	1 ページ後（古い）の異常履歴を表示します。 最古の異常が表示されているページの場合、使用不可となります。
④	読込	設定	異常履歴を読込み、最新異常から順に表示します。
⑤	異常のクリア	設定	異常履歴を削除します。

【備考】

※　この Smart Active Parts を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して $SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※　起動画面には使用しないで下さい。

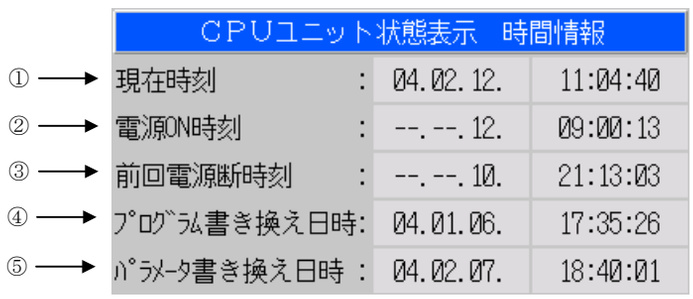
※　System Version 5 以降で使用して下さい。

※　CS1D には使用できません。（二重化照合エラーが表示されません）

5-1-1.2 時間情報

ユニット種別	CS/CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥CS_CJ CS_CJ 共通	タイトル	時間情報
機能	CPU の時間情報を表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	現在時刻	表示	現在時刻を表示します。
②	電源 ON 時刻	表示	電源 ON 時刻を表示します。 年、月は"-"固定です。
③	前回電源断時刻	表示	前回電源断時刻を表示します。 年、月は"-"固定です。
④	プログラム 書き換え日時	表示	プログラム書き換え日時を表示します。 CS1-V1 は"0"固定です。
⑤	パラメータ 書き換え日時	表示	パラメータ書き換え日時を表示します。 CS1-V1 は"0"固定です。

【備考】

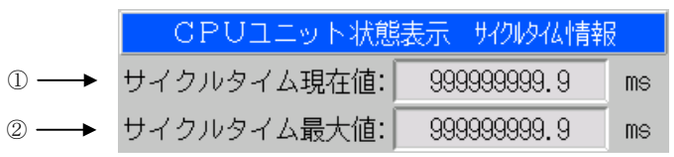
※ この Smart Active Parts を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して $SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

5-1-1.3 サイクルタイム情報

ユニット種別	CS/CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥CS_CJ CS_CJ 共通	タイトル	サイクルタイム情報
機能	CPU のサイクルタイムを表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



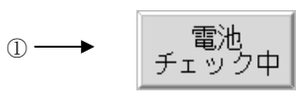
番号	項目	設／表	内容
①	サイクルタイム現在値	表示	サイクルタイムの現在値を表示します。
②	サイクルタイム最大値	表示	サイクルタイムの最大値を表示します。

【備考】
※System Version 5 以降で使用して下さい。

5-1-1.4 電池交換

ユニット種別	CS/CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥CS_CJ CS_CJ 共通	タイトル	電池交換用スイッチ
機能	電池チェック中／交換中の設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	電池チェック中	設／表	電池チェック中／交換中の設定を行う。 電池チェック中 ：電池異常をチェックします。ボタンの表示色は灰色です。 電池交換中 ：電池異常をチェックしません。ボタンの表示色は黄色点灯です。

【備考】

※ この Smart Active Parts を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して $SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

Ver5 以前のライブラリ

5-1-1.5 PLC→NS 時間合わせ

ユニット種別	CS_CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥Ver5 以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ¥CJ1M_V1	タイトル	PLC→NS 時間合わせ
機能	PLC の時計情報(年、月、日、時、分、秒)を NS の時計情報に設定します。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	PLC >> NS	設定	PLC の時計情報(年、月、日、時、分、秒)を、NS の時計情報に設定します。NS の「曜日」は「日付」から算出されます。 PLC の「日付」と「曜日」が正しく対応していない場合は、NS 側で算出された「曜日」が有効となり、NS と PLC の「曜日」に違いが生じるためご注意ください。

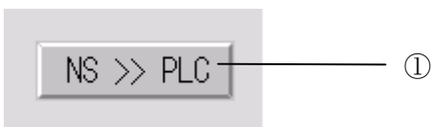
【備考】

※ 対象の PLC 機種は、CS/CJ シリーズです。

5-1-1.6 NS→PLC 時間合わせ

ユニット種別	CS_CJ	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥Ver5 以前のライブラリ¥CJ1M_V1	タイトル	NS→PLC 時間合わせ
機能	NS の時計情報(年、月、日、時、分、秒、曜日)を、PLC の時計情報に設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	NS >> PLC	設定	NS の時計情報(年、月、日、時、分、秒、曜日)を、PLC の時計情報に設定します。

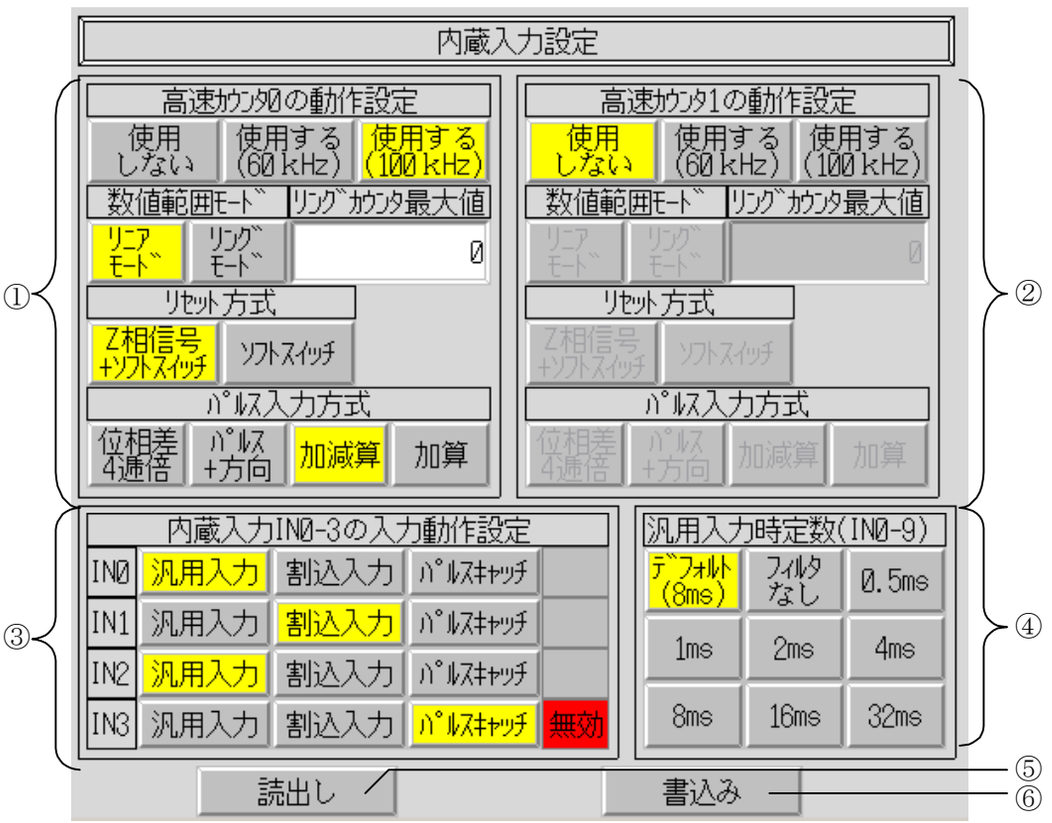
【備考】

※ 対象の PLC 機種は、CS/CJ シリーズです。

5-1-1.7 内蔵入力設定

ユニット種別	CJ1M	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥Ver5 以前のライブラリ¥CJ1M_V1	タイトル	内蔵入力設定
機能	CPU ユニット内蔵入力接点(2960CH ビット 00～ビット 09)に、汎用入力、入力割込、パルスキャッチ、および高速カウンタのいずれかの機能を割付します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	高速カウンタ 0 の動作設定	設定	高速カウンタ 0 の動作内容を設定します。
②	高速カウンタ 1 の動作設定	設定	高速カウンタ 1 の動作内容を設定します。
③	内蔵入力 IN0-3 の入力動作設定	設定	内蔵入力 IN0～3 の入力動作内容を設定します。
④	汎用入力時定数	設定	汎用入力時定数を設定します。
⑤	読出し	設定	PLC に設定された情報を読出し、画面上に表示します。
⑥	書込み	設定	画面上で設定した各設定を、PLC へ書込みます。

【備考】

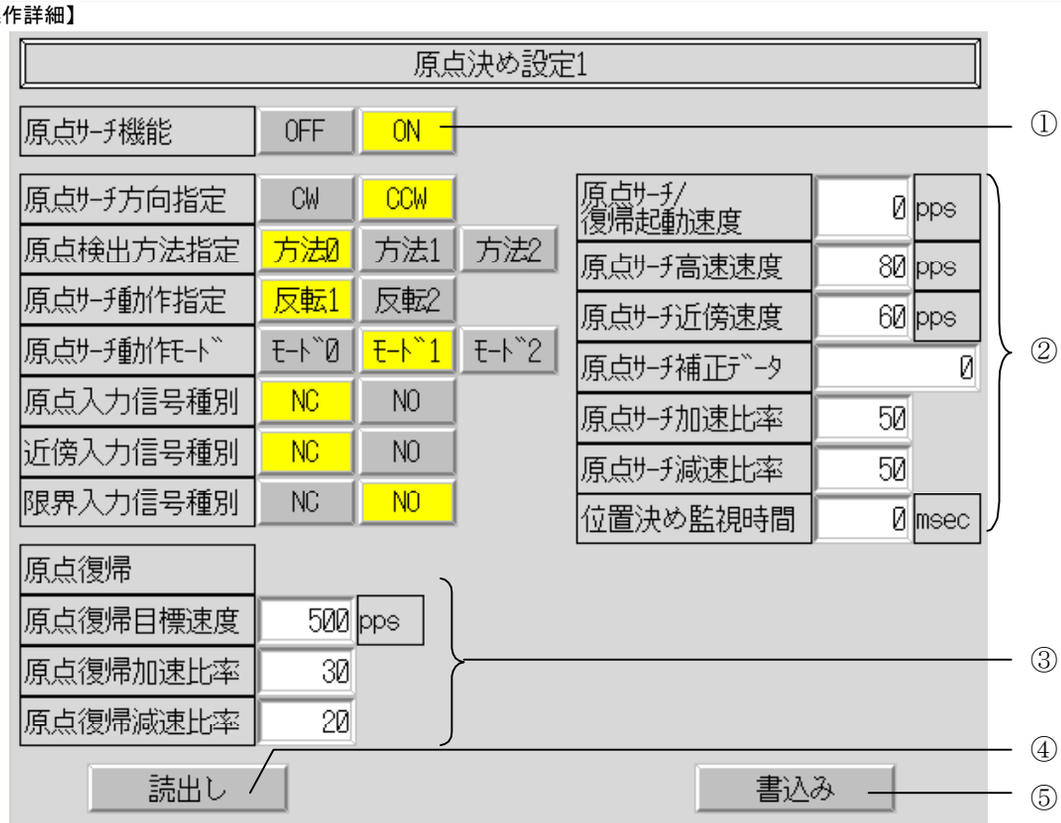
※ 高速カウンタ 0 のリセット方式が「Z 相信号+ソフトスイッチ」の設定の場合は、IN3 は Z 相信号(リセット入力)が割り当てられます。

※ 高速カウンタ 1 のリセット方式が「Z 相信号+ソフトスイッチ」の設定の場合は、IN2 は Z 相信号(リセット入力)が割り当てられます。

5-1-1.8 原点決め設定 1,原点決め設定 2

ユニット種別	CJ1M	インストール先	SmartActiveParts_J¥PLC¥Ver5 以前のライブラリ¥CJ1M_V1	タイトル	原点決め設定 1,原点決め設定 2
機能	原点サーチ/原点復帰機能を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	原点サーチ機能の使用有無	設定	パルス出力 0/1 原点サーチ機能を使用するか、使用しないかを設定します。
②	原点サーチ機能の各種パラメータ	設定	原点サーチ時に使用する各種パラメータを設定します。
③	原点復帰機能の各種パラメータ	設定	原点復帰時に使用する各種パラメータを設定します。
④	読出し	設定	PLC に設定された情報を読出し、画面上に表示します。
⑤	書込み	設定	画面上で設定した各設定を、PLC へ書込みます。

【備考】

※パルス出力 0 原点サーチ機能を使用するを選択した際は、入力割込 0/1、PWM 出力 0 は使用できません。ただし、高速カウンタ 0、1 は使用できます。

※パルス出力 1 原点サーチ機能を使用するを選択した際は、パルス出力以外に IN2/3、OUT5 を占有するため、他の用途では使用できません。

MEMO

5-2　通信ユニット

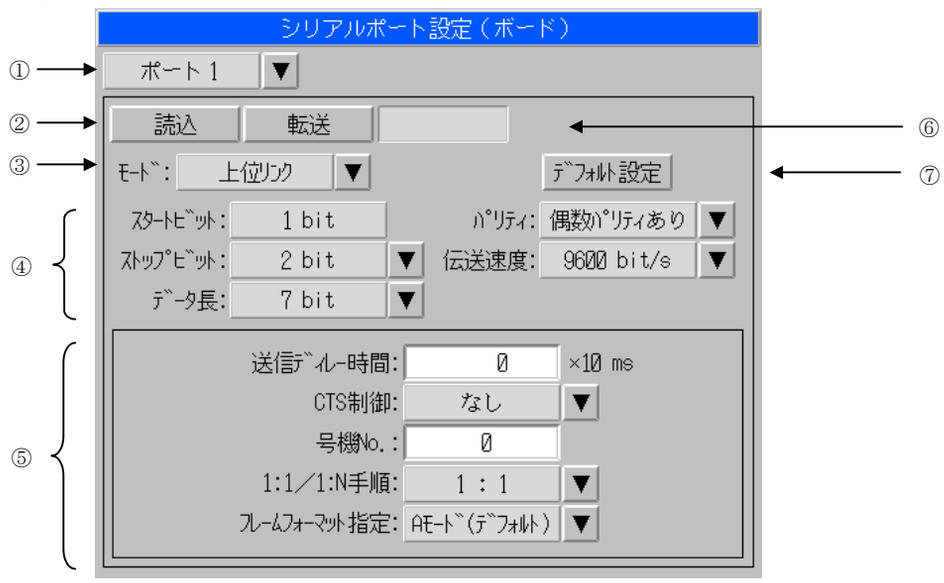
5-2 通信ユニット

5-2-1 SCB/SCU

5-2-1.1 シリアルポート設定(ボード)

ユニット種別	CS1W-SCB21-V1 CS1W-SCB41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥SCB	タイトル	シリアルポート設定(ボード)
機能	シリアルコミュニケーションボード(SCB)のシリアルポート設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート	設定	ポートを選択します。初期画面表示時はポート1を表示し、ポート1のモード、通信設定、詳細設定を読み込みます。
②	読込	設定	選択されたポートのモード、通信設定、詳細設定を読み出します。
③	モード	設／表	モードを選択します。選択したモードによって、通信設定、詳細設定の設定項目の表示が変わります。
④	通信設定	設／表	通信設定を設定します。通信設定はモードによって設定内容が異なります。 伝送速度:プロトコルマクロモード 1200～38400 bit/s NT リンク 標準の NT リンク or 高速 NT リンク それ以外 1200～115200 bit/s NT リンクの場合、設定可能な項目は、伝送速度のみです。
⑤	詳細設定	設／表	詳細設定を設定します。詳細設定はモードよって設定項目が異なります。 上位リンク :送信ディレー時間、CST 制御、上位リンク用号機 No. 1:1/1:N 手順、フレームフォーマット指定 プロトコルマクロ :伝送方式、送受信データ最大バイト数、受信バッファクリア設定、 データ交換タイミング、送信ディレー時間、CTS 制御、 レスポンスタイムアウト時間、送信開始タイムアウト監視時間 NT リンク :NT リンク(1:N モード)最大号機 No. シリアルゲートウェイ :送信ディレー時間、CTS 制御、レスポンスタイムアウト監視時間 無手順 :送信ディレー時間、CTS 制御、スタートコード、エンドコード詳細設定を設定します。詳細設定はモードよって設定項目が異なります。 上位リンク :送信ディレー時間、CST 制御、上位リンク用号機 No. プロトコルマクロ :伝送方式、送受信データ最大バイト数 NT リンク :NT リンク(1:N モード)最大号機 No. シリアルゲートウェイ :送信ディレー時間、CTS 制御、レスポンスタイムアウト監視時間 無手順 :送信ディレー時間、CTS 制御、スタートコード、エンドコード

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ ポートをリスタートするには、2.2.3 ポートリスタート(ボード)の Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定は不要です。

※ フレーム数:2 個

5-2-1.2 シリアルポート設定（ユニット）

ユニット種別	CS1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥SCU	タイトル	シリアルポート設定（ユニット）
機能	シリアルコミュニケーションユニット（SCU）のシリアルポート設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート	設定	ポートを選択します。初期画面表示時はポート1を表示し、ポート1のモード、通信設定、詳細設定を読み込みます。
②	読込	設定	選択されたポートのモード、通信設定、詳細設定を読み出します。
③	モード	設／表	モードを選択します。選択したモードによって、通信設定、詳細設定の設定項目の表示が変わります。
④	通信設定	設／表	通信設定を設定します。通信設定はモードによって設定内容が異なります。 伝送速度：プロトコルマクロモード　1200～38400 bit/s NT リンク　標準の NT リンク or 高速 NT リンク それ以外　1200～115200 bit/s NT リンクの場合、設定可能な項目は、伝送速度のみです。
⑤	詳細設定	設／表	詳細設定を設定します。詳細設定はモードよって設定項目が異なります。 上位リンク　：送信ディレー時間、CST 制御、上位リンク用号機 No. 1:1/1:N 手順、フレームフォーマット指定 プロトコルマクロ　：伝送方式、送受信データ最大バイト数、 受信バッファクリア設定、データ交換タイミング、 送信ディレー時間、CTS 制御、ﾚｽﾎﾟﾝｽﾀｲﾑｱｳﾄ時間、 送信開始タイムアウト監視時間 NT リンク　：NT リンク（1:N モード）最大号機 No. シリアルゲートウェイ　：送信ディレー時間、CTS 制御、 レスポンスタイムアウト監視時間 無手順　：送信ディレー時間、CTS 制御、スタートコード、エンドコード
⑥	転送	設／表	設定した内容を CPU に転送します。転送後、結果（「転送 OK」or「転送 NG」）を表示します。転送 OK の場合、ポートリスタートを促すメッセージボックスが表示されます。ポートをリスタートするには、別途専用のライブラリを使用して下さい。
⑦	デフォルト設定	設定	選択されているモードにおいて、デフォルト設定に変更します。

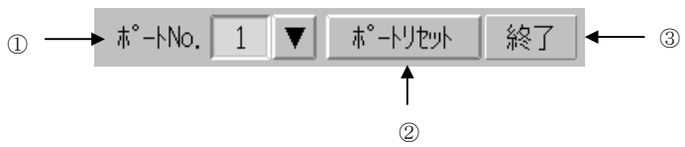
5-2 通信ユニット

【備考】
※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ System Version 5 以降 で使用して下さい。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ ポートをリスタートするには、2.2.4 ポートリスタート(ユニット)の Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用して下さい。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:2 個

5-2-1.3 ポートリスタート(ボード)

ユニット種別	CS1W-SCB21-V1 CS1W-SCB41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥SCB	タイトル	ポートリスタート(ボード)
機能	シリアルコミュニケーションボード(SCB)のポートリスタートを行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート No.	設定	ポート番号を選択します。
②	ポートリセット	設定	ポートをリスタートします。
③	終了	表示	ポートのリスタートが正常に終了したら、緑色点灯します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

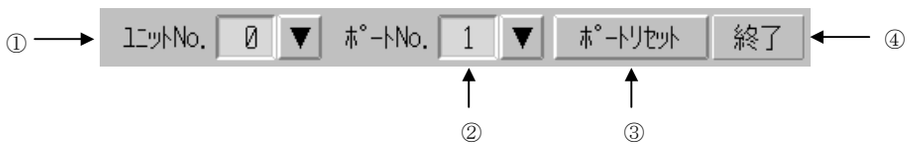
※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定は不要です。

5-2-1.4 ポートリスタート（ユニット）

ユニット種別	CS1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信 ユニット¥SCU	タイトル	ポートリスタート（ユニット）
機能	シリアルコミュニケーションボード（SCU）のポートリスタートを行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ユニット No.	設定	シリアルコミュニケーションユニットのユニット No.を選択します。
②	ポート No.	設定	ポート番号を選択します。
③	ポートリセット	設定	ポートをリスタートします。
④	終了	表示	ポートのリスタートが正常に終了したら、緑色点灯します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

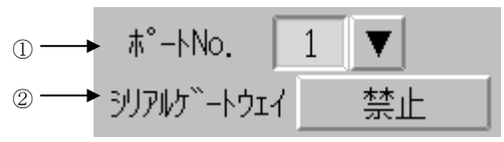
※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ ライブラリ流用時。ユニット番号の指定は不要です。

5-2-1.5 プロトコル転送許可(ボード)

ユニット種別	CS1W-SCB21-V1 CS1W-SCB41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥SCB	タイトル	プロトコル転送許可(ボード)
機能	シリアルコミュニケーションボード(SCB)のプロトコル転送許可／禁止の設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート No.	設定	ポート番号を選択します。
②	プロトコル転送	設定	プロトコル転送の許可／禁止を設定します。許可の場合、黄色点灯します。設定変更が可能なのは選択されたポートのモードがシリアルゲートウェイのみです。シリアルゲートウェイ以外の場合、エラーメッセージが表示されます。

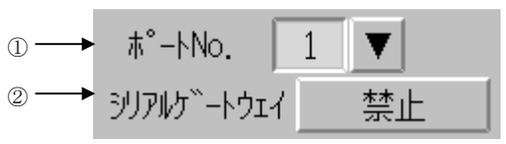
【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ System Version5 以降で使用して下さい。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定は不要です。
※ フレーム数:1個

5-2-1.6 プロトコル転送許可（ユニット）

ユニット種別	CS1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信 ユニット¥SCU	タイトル	プロトコル転送許可（ユニット）
機能	シリアルコミュニケーションボード（SCU）のプロトコル転送許可／禁止の設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート No.	設定	ポート番号を選択します。
②	プロトコル転送	設定	プロトコル転送の許可／禁止を設定します。許可の場合、黄色点灯します。設定変更が可能なのは選択されたポートのモードがシリアルゲートウェイのみです。シリアルゲートウェイ以外の場合、エラーメッセージが表示されます。

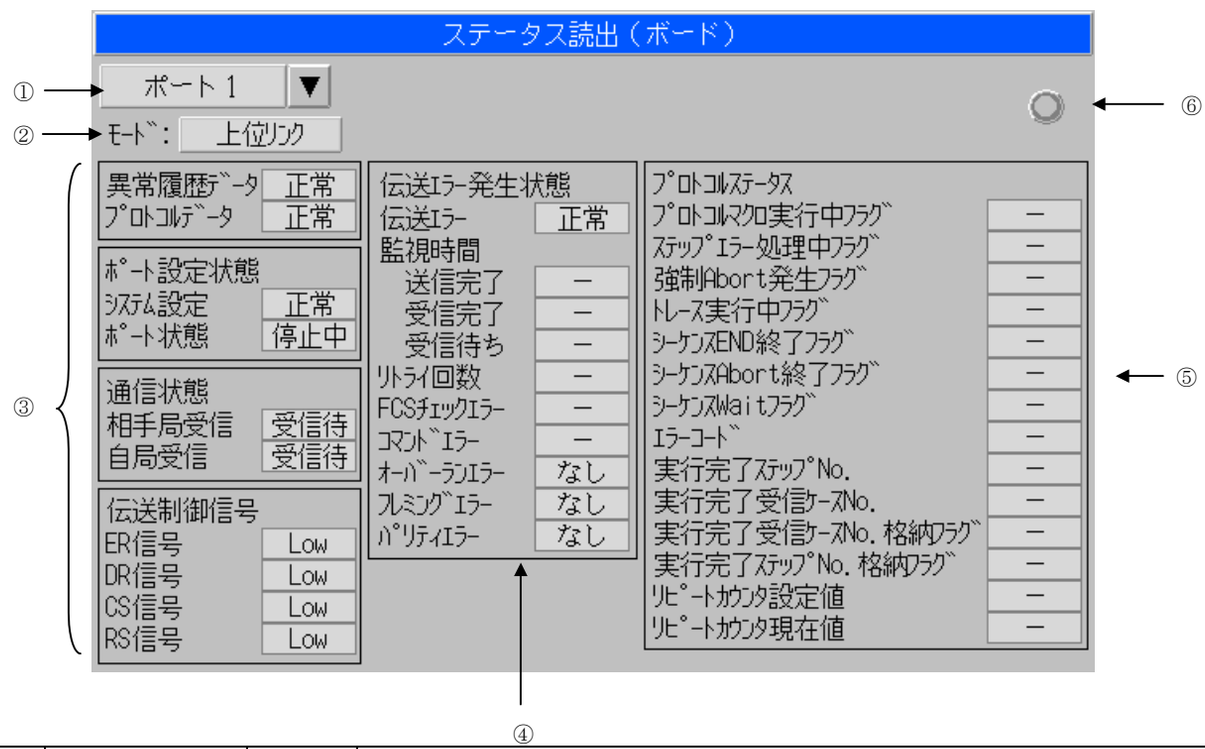
【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、チェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ System Version5 以降で使用して下さい。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数：1個

5-2-1.7 ステータス読出（ボード）

ユニット種別	CS1W-SCB21-V1 CS1W-SCB41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥SCB	タイトル	ステータス読出（ボード）
機能	シリアルコミュニケーションボード（SCB）のネットワーク稼動状況を表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート	設定	ポートを選択します。
②	モード	表示	選択したポートのモードが表示されます。
③	共通ステータス	表示	異常履歴データ、プロトコルデータ、ポート設定状態、通信状態、伝送制御信号のステータスを表示します。
④	伝送エラー発生状態	表示	伝送エラー発生状態を表示します。表示内容はモードによって異なります。 上位リンク　：伝送エラー、オーバーランエラー、フレミングエラー、パリティエラー以外表示なし（－） プロトコルマクロ　：全て表示 NT リンク　：表示なし（－） シリアルゲートウェイ　：全て表示 無手順　：全て表示
⑤	プロトコルステータス	表示	プロトコルステータスを表示します。表示内容はモードによって異なります。 上位リンク　：表示なし（－） プロトコルマクロ　：プロトコルマクロ用のステータスを表示 NT リンク　：表示なし（－） シリアルゲートウェイ　：表示なし（－） 無手順　：無手順用のステータスを表示
⑥	読出ランプ	表示	ON/OFF 以外のデータは 1 秒周期でデータを読み込みます。データを読み込む際に、黄色点灯します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降　で使用して下さい。

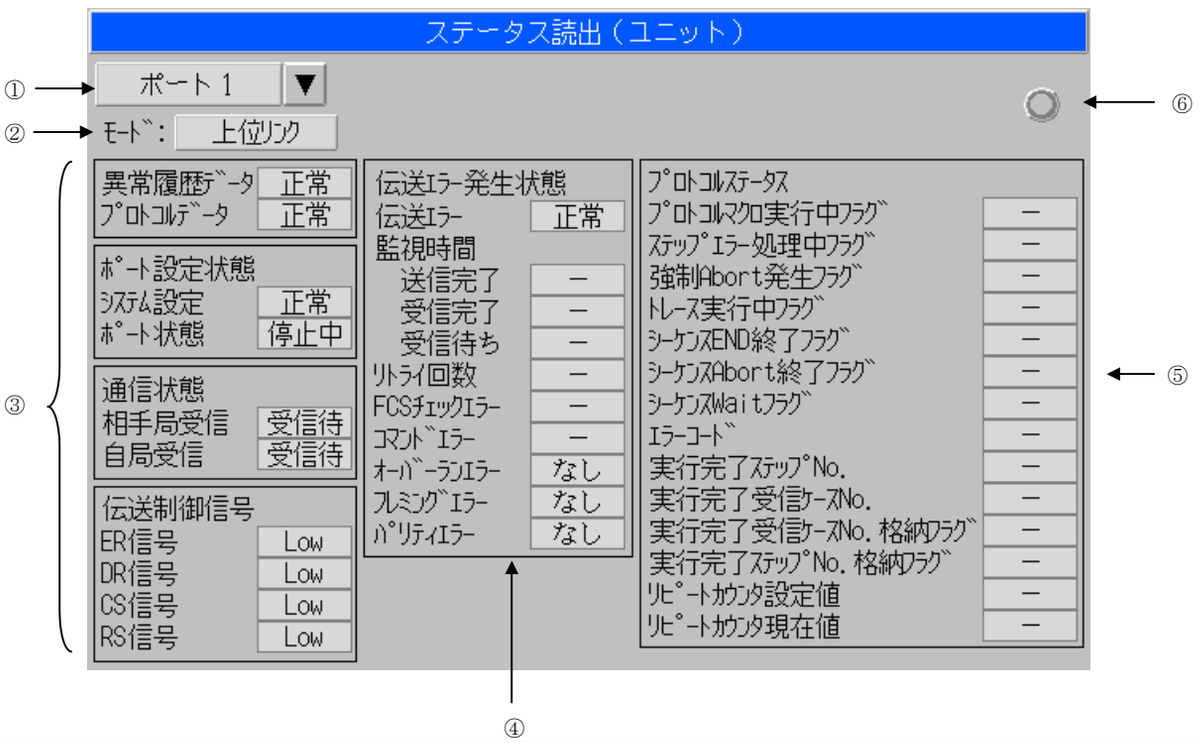
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定は不要です。

※ フレーム数：2 個

5-2-1.8 ステータス読出（ユニット）

ユニット種別	CS1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU21-V1 CJ1W-SCU41-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信 ユニット¥SCU	タイトル	ステータス読出（ユニット）
機能	シリアルコミュニケーションユニット（SCU）のネットワーク稼動状況を表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ポート	設定	ポートを選択します。
②	モード	表示	選択したポートのモードが表示されます。
③	共通ステータス	表示	異常履歴データ、プロトコルデータ、ポート設定状態、通信状態、伝送制御信号のステータスを表示します。
④	伝送エラー 発生状態	表示	伝送エラー発生状態を表示します。表示内容はモードによって異なります。 上位リンク　：伝送エラー、オーバーランエラー、フレミングエラー、パリティエラー以外表示なし（－） プロトコルマクロ　：全て表示 NT リンク　：表示なし（－） シリアルゲートウェイ　：全て表示 無手順　：全て表示
⑤	プロトコル ステータス	表示	プロトコルステータスを表示します。表示内容はモードによって異なります。 上位リンク　：表示なし（－） プロトコルマクロ　：プロトコルマクロ用のステータスを表示 NT リンク　：表示なし（－） シリアルゲートウェイ　：表示なし（－） 無手順　：無手順用のステータスを表示
⑥	読出ランプ	表示	1 秒周期でデータを読み込みます。データを読み込む際に、黄色点灯します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降 で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

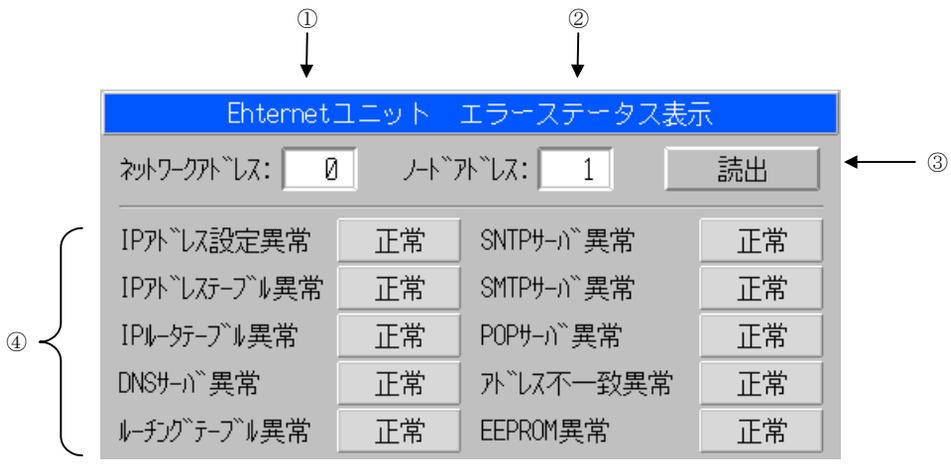
※ フレーム数:2 個

5-2-2 Ethernet

5-2-2.1 エラーステータス表示

ユニット種別	CS1W-ETN21 CJ1W-ETN21	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥Ethernet	タイトル	エラーステータス表示
機能	Ethernet ユニットのエラーステータスを表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ネットワークアドレス	設定	Ethernet ユニットのネットワークアドレスを設定します。
②	ノードアドレス	設定	Ethernet ユニットのノードアドレスを設定します。
③	読出	設定	ステータスを読込み、ステータスを表示します。
④	ステータス表示	表示	各ステータスを表示します。 正常　:表示色は灰色です。 異常　:表示色は赤色です。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

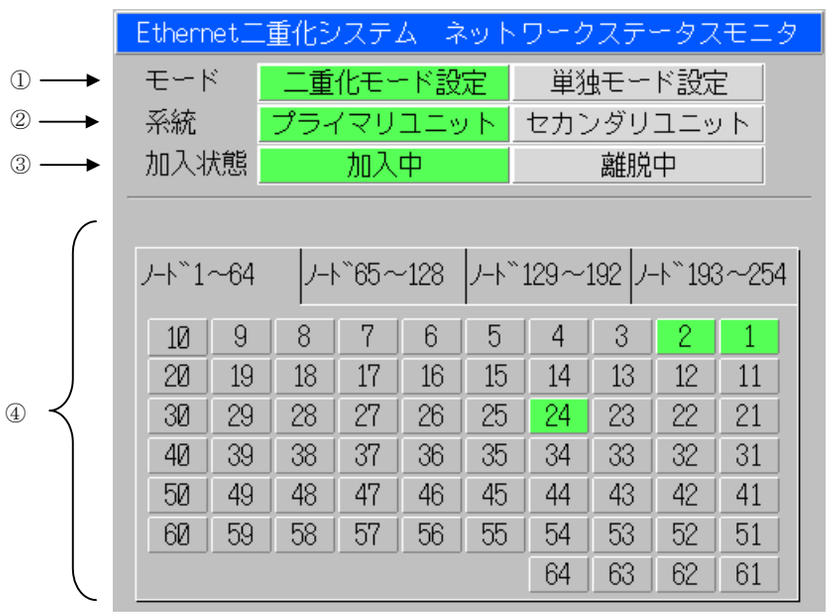
※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号を”254”と指定してください。

5-2-2.2 ネットワークステータスモニタ

ユニット種別	CS1D-ETN21D	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥Ethernet	タイトル	ネットワークステータスモニタ
機能	Ethernet ユニットのネットワークステータスを表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	モード	表示	自局のモードを表示します。 2重モード設定　：二重化モードの場合、表示色が緑色になります。 単独モード設定　：単独モードの場合、表示色が橙色になります。
②	系統	表示	自局の系統を表示します。モードが二重化モード設定の場合のみ、表示します。 プライマリユニット　：プライマリユニットの場合、表示色が緑色になります。 セカンダリユニット　：セカンダリユニットの場合、表示色が橙色になります。
③	加入状態	表示	自局のネットワーク加入状態を表示します。モードが二重化モード設定の場合のみ、表示します。 加入中　：ネットワーク加入中の場合、表示色が緑色になります。 離脱中　：ネットワーク離脱中の場合、表示色が赤色になります。
④	加入ステータス	表示	ノード 1～254 のネットワーク加入ステータスを表示します。加入状態が、加入中の場合のみ、表示されます。 加入中　：ネットワーク加入中の場合、表示色が緑色になります。 離脱中　：ネットワーク離脱中の場合、表示色が灰色になります。

【備考】

※　1 秒毎に更新されます。

※　この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※　起動画面には使用しないで下さい。

※　System Version 5 以降　で使用して下さい。

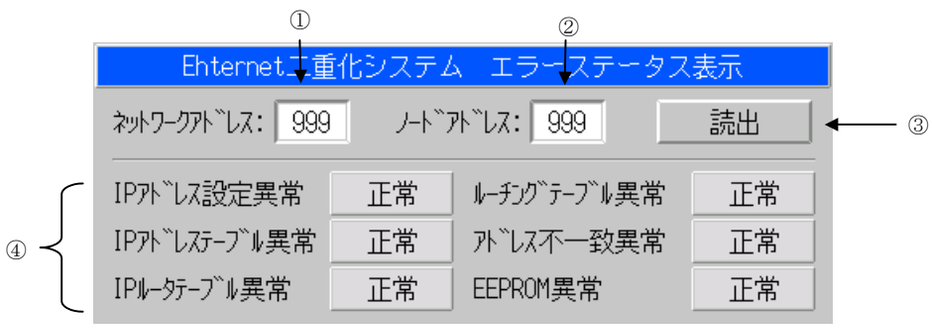
※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※　フレーム数:1 個

5-2-2.3 二重化エラーステータス表示

ユニット種別	CS1D-ETN21D	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥Ethernet	タイトル	二重化エラーステータス表示
機能	二重化 Ethernet ユニットのエラーステータスを表示する。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ネットワークアドレス	設定	Ethernet ユニットのネットワークアドレスを設定します。
②	ノードアドレス	設定	Ethernet ユニットのノードアドレスを設定します。
③	読出	設定	ステータスを読込み、ステータスを表示します。
④	ステータス表示	表示	各ステータスを表示します。 正常　:表示色は灰色です。 異常　:表示色は赤色です。

【備考】

※　この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※　起動画面には使用しないで下さい。

※　ライブラリ流用時、ユニット番号を”254”と指定してください。

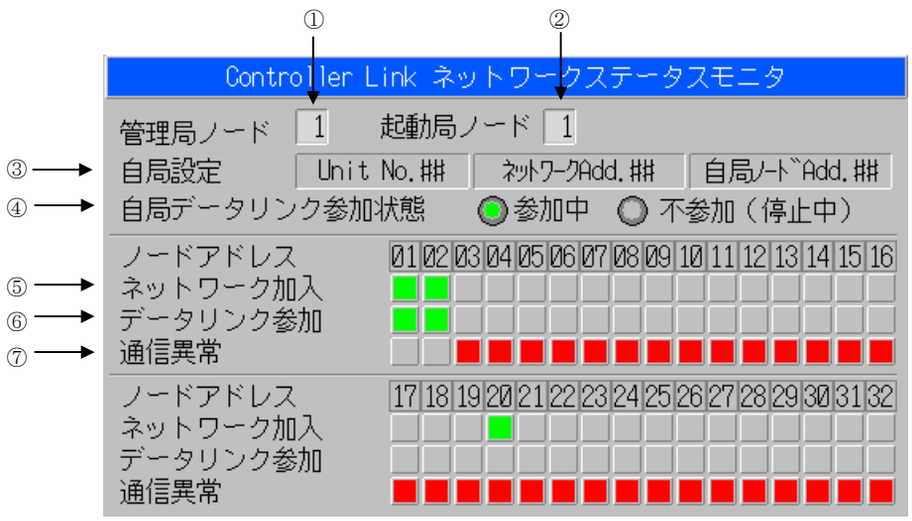
5-2 通信ユニット

5-2-3 Controller Link

5-2-3.1 Controller Link ネットワークステータスモニタ(32 ノード)

ユニット種別	CS1W-CLK21 CJ1W-CLK21 CS1W-CLK21-V1 CJ1W-CLK21-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥CLK	タイトル	Controller Link ネットワークステータスモニタ
機能	Controller Link ネットワーク(32 ノード)の通信状態をモニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	管理局ノード	表示	CLK ネットワークの管理局ノード No.を表示します。
②	起動局ノード	表示	CLK ネットワークの起動局ノード No.を表示します。
③	自局設定	表示	ここには特に表示される項目はありません。 お客様でご使用になられるネットワークの設定状態を、画面作成時に記入して下さい。
④	自局データリンク参加状態	表示	自局データリンク参加状態を表示します。
⑤	ネットワーク加入	表示	ノードごとにネットワーク加入ステータスを表示します。ネットワーク加入の場合、緑色で表示します。
⑥	データリンク参加	表示	ノードごとにデータリンク参加状態を表示します。データリンク参加の場合、緑色で表示します。
⑦	通信異常	表示	ノードごとに通信異常の発生状態を表示します。通信異常の場合、赤色で表示します。

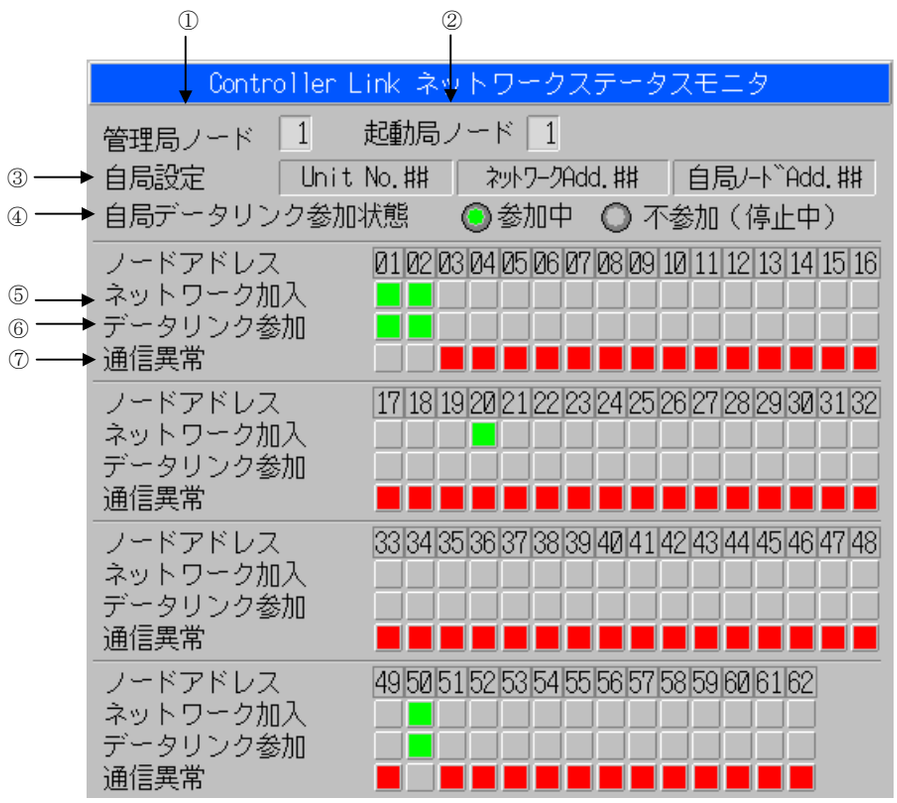
【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

5-2-3.2 Controller Link ネットワークステータスモニタ(62 ノード)

ユニット種別	CS1W-CLK21-V1 CJ1W-CLK21-V1	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット¥CLK	タイトル	Controller Link ネットワークステータスモニタ
機能	Controller Link ネットワーク(62 ノード)の通信状態をモニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	管理局ノード	表示	CLK ネットワークの管理局ノード No.を表示します。
②	起動局ノード	表示	CLK ネットワークの起動局ノード No.を表示します。
③	自局設定	表示	ここには特に表示される項目はありません。 お客様でご使用になられるネットワークの設定状態を、画面作成時に記入して下さい。
④	自局データリンク参加状態	表示	自局データリンク参加状態を表示します。
⑤	ネットワーク加入	表示	ノードごとにネットワーク加入ステータスを表示します。ネットワーク加入の場合、緑色で表示します。
⑥	データリンク参加	表示	ノードごとにデータリンク参加状態を表示します。データリンク参加の場合、緑色で表示します。
⑦	通信異常	表示	ノードごとに通信異常の発生状態を表示します。通信異常の場合、赤色で表示します。

【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

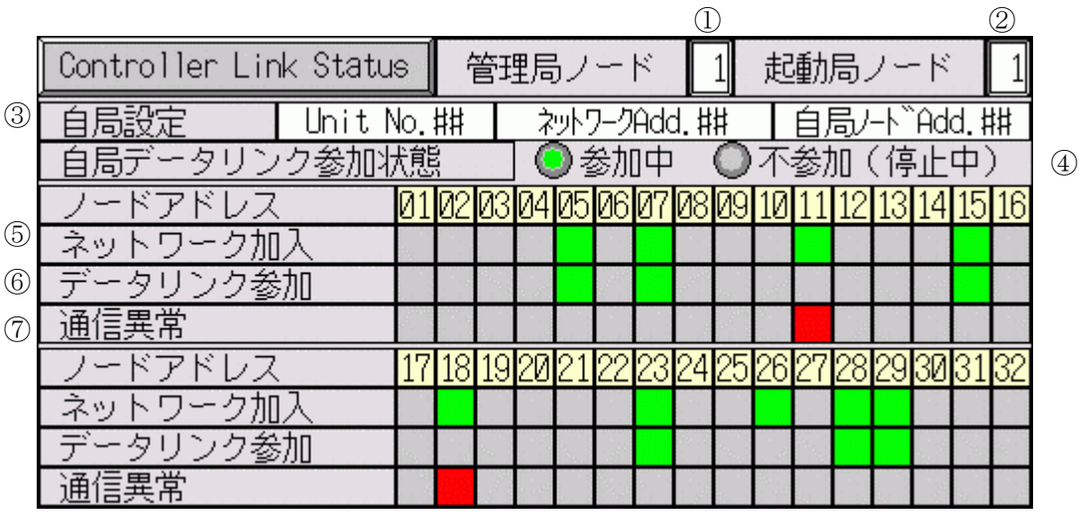
5-2 通信ユニット

5-2-4 Ver5 以前のライブラリ

5-2-4.1 CLK ネットワークステータスモニタ

ユニット種別	CS1W-CLK21 CJ1W-CLK21	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット ¥Ver5 以前のライブラリ ¥CS1W_CJ1W-CLK21_V1	タイトル	CLK ネットワークステータスモニタ
機能	CLK ネットワークの通信状態をモニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



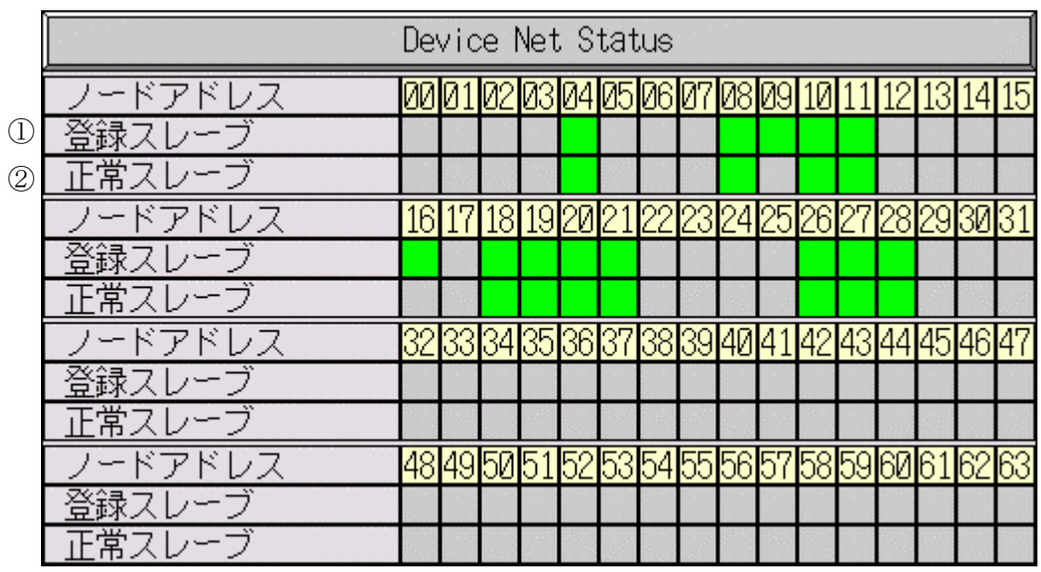
番号	項目	設/表	内容
①	管理局ノード No.	表示	CLK ネットワークの管理局ノード No.を表示します。
②	起動局ノード No.	表示	CLK ネットワークの起動局ノード No.を表示します。
③	自局設定	表示	ここには特に表示される項目はありません。 お客様でご使用になられるネットワークの設定状態を、画面作成時に記入してください。
④	自局データリンク参加状態	表示	自局データリンク参加状態を表示します。
⑤	ネットワーク加入	表示	ノードごとに、ネットワーク加入ステータスを表示します。
⑥	データリンク参加	表示	ノードごとに、データリンク参加状態を表示します。
⑦	通信異常	表示	ノードごとに、通信異常の発生状況を表示します。

【備考】

5-2-4.2 DeviceNet ネットワークステータスモニタ

ユニット種別	CS1W-DRM21 CJ1W-DRM21	インストール先	SmartActiveParts_J¥通信ユニット ¥Ver5 以前のライブラリ ¥CS1W_CJ1W-DRM21_V1	タイトル	DeviceNet ネットワークステータスモニタ
機能	CS1W-DRM21/CJ1W-DRM21をマスタとして使用する際、DeviceNetネットワークの通信状態をモニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	登録スレーブ	表示	マスタのスキャンリストに登録されているスレーブのノード No.を表示します。
②	正常スレーブ	表示	現在正常に通信が行われているスレーブのノード No.を表示します。

【備考】

MEMO

5-3　モーション関連

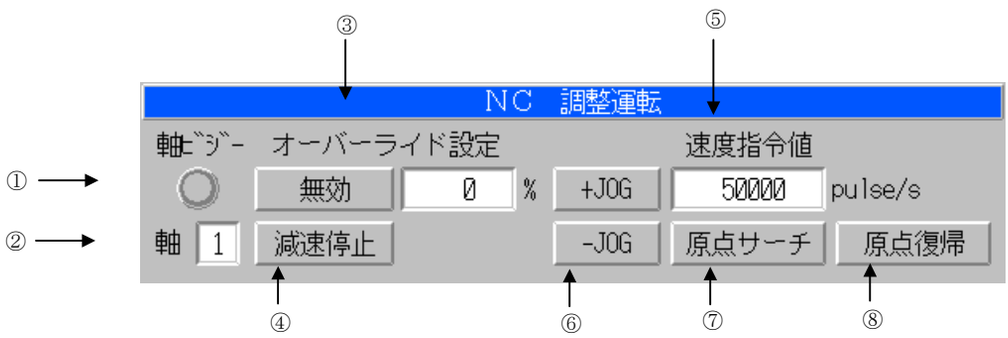
5-3 モーション関連

5-3-1 NC

5-3-1.1 調整運転

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	調整運転
機能	JOG 運転、原点サーチ、原点復帰を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:1～999)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。減速停止中は JOG 運転、原点サーチ、原点復帰は実行できません。
⑤	速度指令値	設定	速度を設定します。(設定範囲:1～500,000 パルス/s)
⑥	JOG 運転	設定	ボタンを押しつづけると、指定した方向にモータが回転します。ボタンをはなすと回転が停止します。
⑦	原点サーチ	設定	ボタンを押すと原点サーチ動作を開始します。
⑧	原点復帰	設定	ボタンを押すと原点復帰動作を開始します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ NC2□3、NC4□3 で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー一覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降 で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

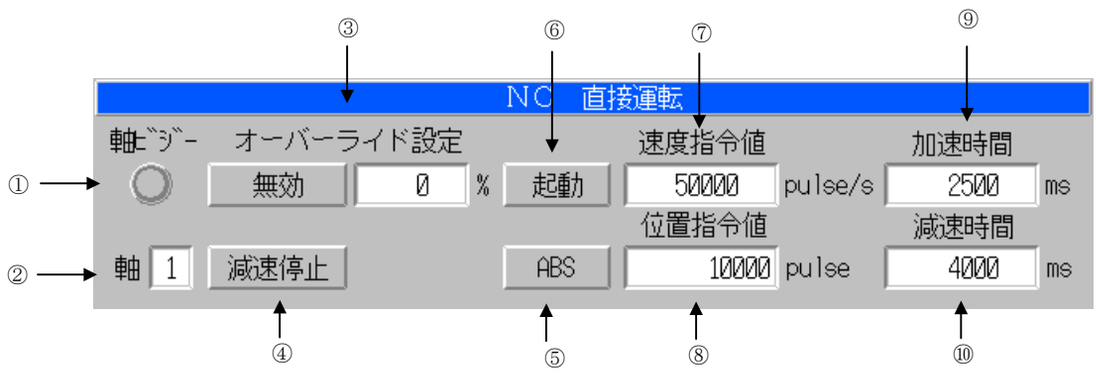
※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.2 直接運転

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	直接運転
機能	絶対移動指令、相対移動指令を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:1～999%)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。減速停止中は絶対移動指令，相対移動指令は実行できません。
⑤	ABS/INC	設定	ABS(絶対移動指令)⇔INC(相対移動指令)を切り替えます。
⑥	起動	設定	⑤で指定された移動指令で移動を開始します。
⑦	速度指令値	設定	速度を設定します。(設定範囲:1～500,000 ﾊﾟﾙｽ/s)
⑧	位置指令値	設定	位置を設定します。(設定範囲:-1,073,741,823～1,073,741,823 ﾊﾟﾙｽ)
⑨	加速時間	設定	加速時間を設定します。(設定範囲:0～250,000ms)
⑩	減速時間	設定	減速時間を設定します。(設定範囲:0～250,000ms)

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ NC2□3、NC4□3 で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

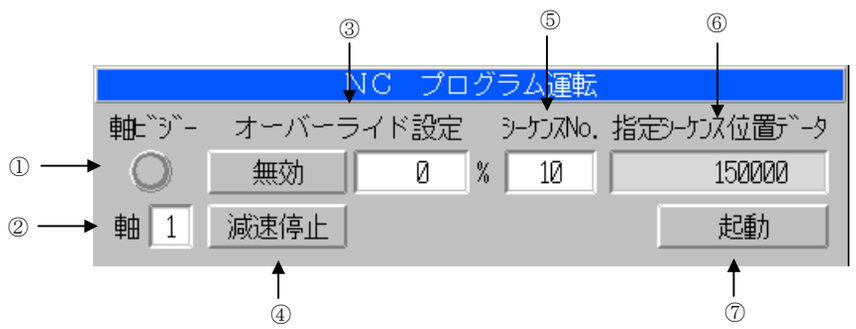
※ フレーム数:NC2□3 用 2 個、NC4□3 用 2 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.3 プログラム運転

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	プログラム運転
機能	プログラム(メモリ)運転を実行します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:1～999%)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。プログラム運転を実行できません。
⑤	シーケンス No.	設定	実行するシーケンス No.を設定します。(設定範囲:0～99)
⑥	指定シーケンス位置データ	表示	指定したシーケンス No.の位置データを表示します。
⑦	起動	設定	プログラム運転を実行します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

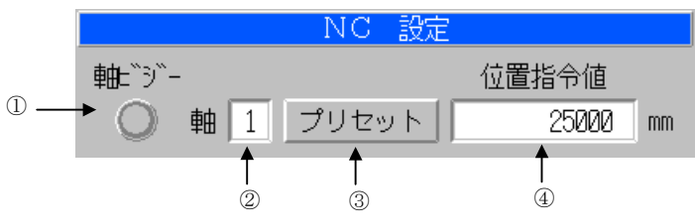
※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.4 設定

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	設定
機能	現在位置のプリセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	プリセット	設定	プリセットを実行します。
④	位置指令値	設定	位置を設定します。(設定範囲:-1,073,741,823～1,073,741,823 ﾊﾟﾙｽ)

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ NC2□3、NC4□3 で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

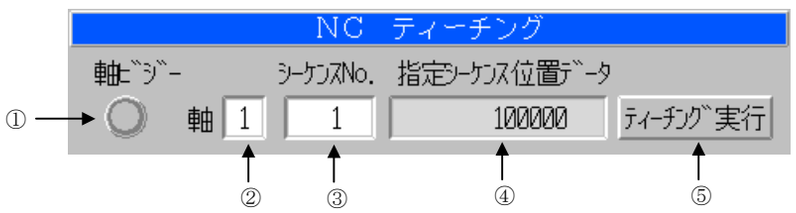
※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.5 ティーチング

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	ティーチング
機能	指定シーケンスのティーチングを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	シーケンス No.	設定	シーケンス No.を設定します。(設定範囲:0～99)
④	指定シーケンス 位置データ	表示	現在位置が表示されます。
⑤	ティーチング実行	設定	ティーチングを実行します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

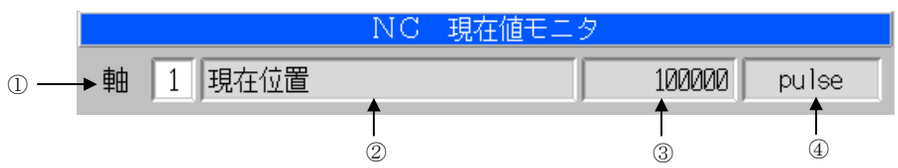
※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.6 現在値モニタ

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	現在値モニタ
機能	現在値を表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
②	モニタ種別	設定	モニタする現在位置の種類を表示します。
③	現在値	表示	現在値を表示します。
④	単位	表示	単位を表示します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 6 種類あります。
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用、任意 DM エリア割付用

※ NC2□3、NC4□3 で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 任意 DM エリア割付用で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

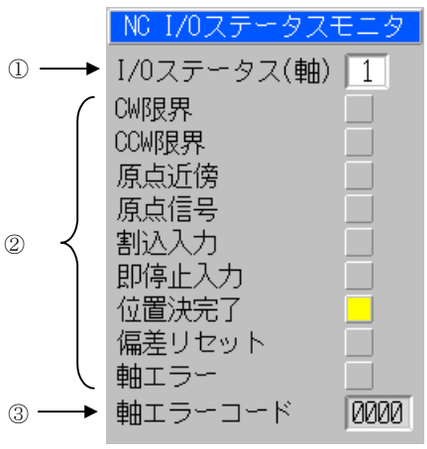
※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り
NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.7 I／Oステータスモニタ

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	I/O ステータスモニタ
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※　本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 3 種類あります。
　NC1□3 用、NC2□3 用、NC4□3 用

※　NC2□3、NC4□3　で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB　の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※　NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※　NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

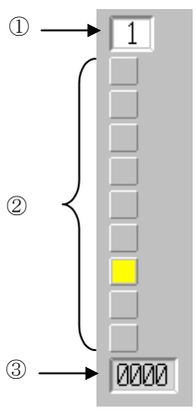
※　フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※　保存先は以下の通り
　NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　:　NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　:　NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
　NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　:　NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　:　NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
　NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　:　NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　:　NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.8 I／Oステータスモニタ（名称なし）

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	I/O ステータスモニタ（名称なし）
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3：1 固定　NC2□3：1～2　NC4□3：1～4 ※軸 1：軸 X、軸 2：軸 Y、軸 3：軸 Z、軸 4：軸 U
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。 ※該当ステータスの並びは、「2.7.7 I/O ステータス」と同様です。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※　本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 3 種類あります。
　　NC1□3 用、NC2□3 用、NC4□3 用

※　NC2□3、NC4□3　で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB　の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※　NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※　NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

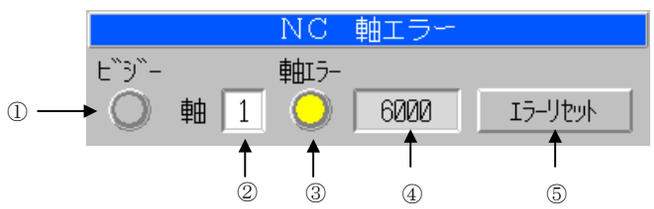
※　フレーム数：NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※　保存先は以下の通り
　　NC1□3：高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　：　NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　：　NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付
　　NC2□3：高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　：　NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　：　NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付
　　NC4□3：高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用　：　NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
　　任意 DM エリア割付用　：　NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-1.9 軸エラー

ユニット種別	CS1W-NC113/133/213/233/413/433 CJ1W-NC113/133/213/233/413/433	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NC□□3	タイトル	軸エラー
機能	軸エラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 NC1□3:1 固定　NC2□3:1～2　NC4□3:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	軸エラー	表示	軸エラー発生時に黄色点灯します。
④	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。
⑤	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 3 種類あります。
NC1□3 用、NC2□3 用、NC4□3 用

※ NC2□3、NC4□3 で使用する場合、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、起動画面には使用しないで下さい。

※ NC2□3、NC4□3 を使用する場合、System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:NC2□3 用 1 個、NC4□3 用 1 個

※ 保存先は以下の通り

NC1□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC1□3¥任意用 DM エリア割付

NC2□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC2□3¥任意用 DM エリア割付

NC4□3:高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付用 ： NC¥NC4□3¥高機能 I/O ユニット用 DM エリア割付
任意 DM エリア割付用 ： NC¥NC3□3¥任意用 DM エリア割付

5-3-2 NCF

5-3-2.1 共通制御

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	共通制御
機能	コネクションの確立、コネクション状態、各軸通信状態の表示を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	コネクション状態	表示	コネクション状態を表示します。ユニットが MECHATROLINK 通信の開始状態にある場合、黄色点灯します。
②	各軸通信状態	表示	ユニットと MECHATROLINK 機器の通信状態を表示します。通信中の場合、黄色点灯します。
③	コネクション確立	設定	コネクション確立を実行します。黄色点灯中のボタンを押すとコネクションが開放され、ボタンが灰色表示になります。

【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

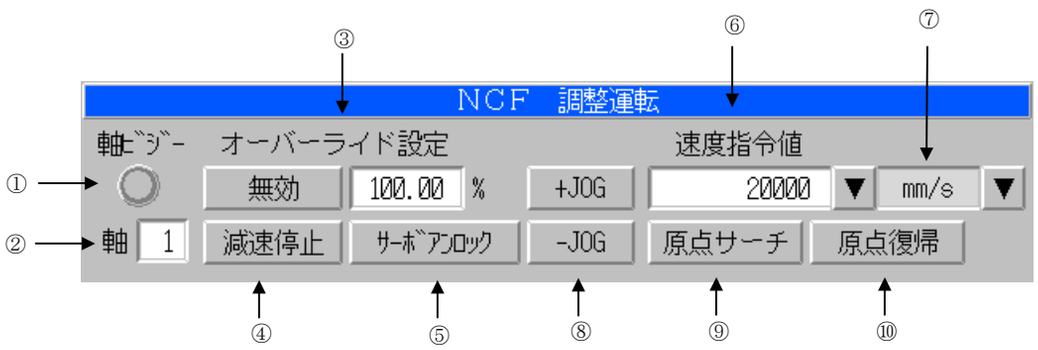
※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.2 調整運転

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	調整運転
機能	JOG 運転、原点サーチ、原点復帰を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:0.01～327.67%)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。減速停止中は JOG 運転、原点サーチ、原点復帰は実行できません。
⑤	サーボロック	設定	サーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑥	速度指令値	設定	速度を設定します。小数点の位置が設定可能です。設定可能な小数点位置は以下の通りです。小数点なし、0.1、0.01、0.001(設定範囲:0～2,147,483,647 指令単位/s)
⑦	単位	設定	単位を選択します。設定可能な単位は以下の通りです。 mm/s、inch/s、deg/s、pulse/s
⑧	JOG 運転	設定	ボタンを押しつづけると、指定した方向にモータが回転します。ボタンをはなすと回転が停止します。
⑨	原点サーチ	設定	ボタンを押すと原点サーチ動作を開始します。
⑩	原点復帰	設定	ボタンを押すと原点復帰動作を開始します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、小数点の位置が設定可能です。設定可能な少数点位置は以下の通りです。

※ 小数点なし、0.1、0.01、0.001

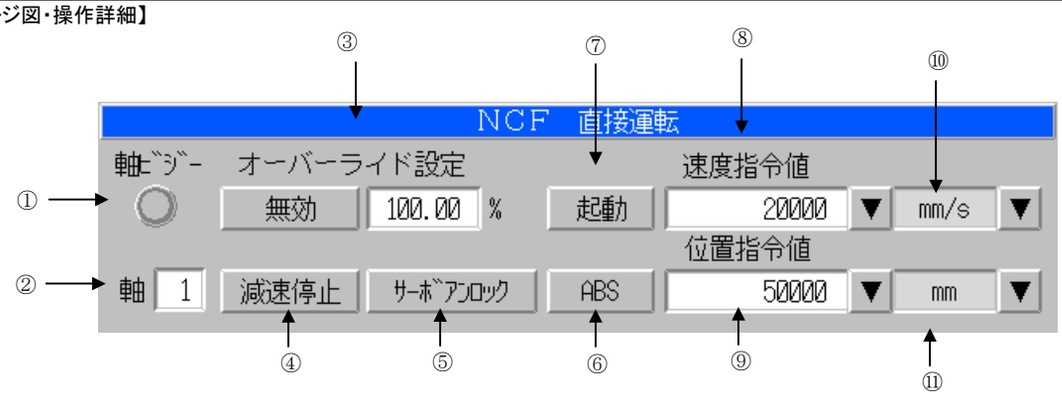
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.3 直接運転

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	直接運転
機能	絶対移動指令、相対移動指令を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:0.01～327.67%)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが停止します。減速停止中は絶対移動指令、相対移動指令は実行できません。
⑤	サーボロック	設定	サーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑥	ABS/INC	設定	ABS(絶対移動指令)⇔INC(相対移動指令)を切り替えます。
⑦	起動	設定	⑥で指定された移動指令で移動が開始します。
⑧	速度指令値	設定	速度を設定します。(設定範囲:0～2,147,483,647 指令単位/s)また、 小数点の位置が設定可能です。設定可能な小数点位置は以下の通りです。 小数点なし、0.1、0.01、0.001
⑨	位置指令値	設定	位置を設定します。(設定範囲:－2,147,483,648～+2,147,483,647 指令単位) 小数点の位置が設定可能です。設定可能な小数点位置は以下の通りです。 小数点なし、0.1、0.01、0.001
⑩	速度指令値単位	設定	速度指令値の単位を選択します。選択可能な単位は以下の通りです。 mm/s、inch/s、deg/s、pulse/s
⑪	位置指令値単位	設定	位置指令値の単位を選択します。選択可能な単位は以下の通りです。 mm、inch、deg、pulse

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.4 設定

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	設定
機能	現在位置のプリセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
③	プリセット	設定	現在位置プリセットを実行します。
④	位置指令値	設定	位置を設定します。(設定範囲:－2,147,483,648～+2,147,483,647 指令単位)
⑤	単位	設定	単位を選択します。選択可能な単位は以下の通りです。 mm、inch、deg、pulse

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:2 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.5 現在値モニタ

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	現在値モニタ
機能	選択したモニタ種別の現在値を表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
②	モニタ	設定	モニタエリアを設定します。(設定範囲:1～2)
③	モニタ種別	設定	モニタする現在位置の種類を設定します。設定可能なモニタ種別は以下の通りです。 現在位置(FB 現在位置)、現在位置(指令現在位置)、速度(FB)、速度(指令)、偏差、 トルク指令値
④	現在値	表示	モニタ種別で選択した種類の現在位置を表示します。
⑤	単位	表示	単位を選択します。選択可能な単位は以下の通りです。 現在位置、偏差 :mm、inch、deg、pulse 速度 :mm/s、inch/s、deg/s、pulse/s トルク指令値 :%

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

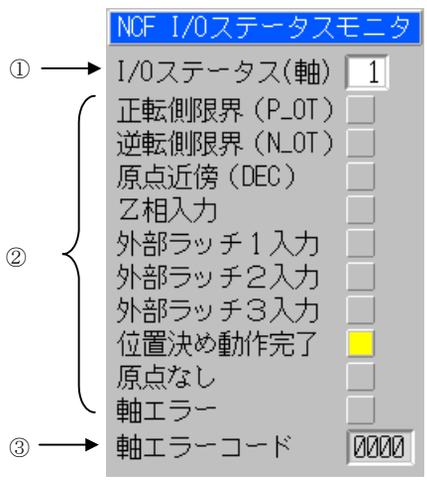
※ フレーム数:4 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.6 I/O ステータスモニタ

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	I/O ステータスモニタ
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 2 種類あります。
運転用入力リレーCIO 用、運転用入力リレーDM 用
この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

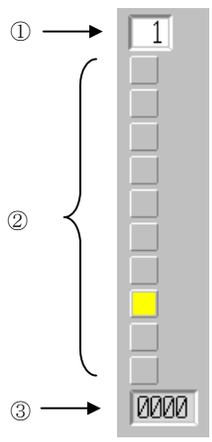
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.7 I/O ステータスモニタ（名称なし）

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	I/O ステータスモニタ（名称なし）
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。（設定範囲：1～16）
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。 ※該当ステータスの並びは、「2.8.6 I/O ステータス」と同様です。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 2 種類あります。
運転用入力リレーCIO 用、運転用入力リレーDM 用
この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

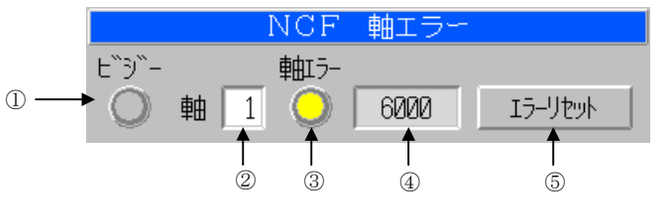
※ フレーム数：1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.8 軸エラー

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	軸エラー
機能	軸エラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
③	軸エラー	表示	軸エラー発生時に黄色点灯します。
④	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。
⑤	エラーリセット	設定	軸エラーをリセットします。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

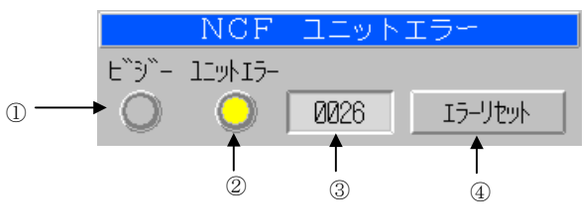
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.9 ユニットエラー

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	ユニットエラー
機能	ユニットエラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ビジー	表示	ユニットの処理中に黄色点灯します。
②	ユニットエラー	表示	ユニットエラー発生時に黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	ユニットエラー発生時にエラーコードが表示されます。
④	エラーリセット	設定	ユニットエラーをリセットします。

【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM

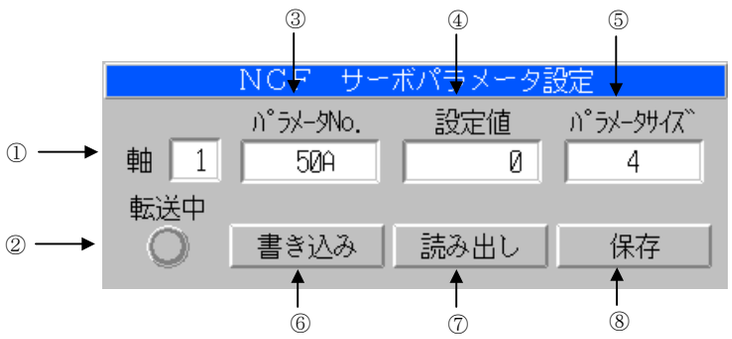
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO

運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.10 サーボパラメータ設定

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	サーボパラメータ設定
機能	サーボパラメータの設定、表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～16)
②	転送中	表示	サーボパラメータが転送中に黄色点灯します。
③	パラメータ No.	設定	パラメータ No.を設定します。
④	設定値	設／表	サーボドライバに書き込むデータを設定します。
⑤	パラメータサイズ	設定	パラメータサイズを設定します。設定値は 16 進数で設定します。十分確認してから入力して下さい。
⑥	書き込み	設定	設定をサーボドライバ内の制御用メモリに書き込みます。
⑦	読み出し	設定	サーボパラメータを読み出します。
⑧	保存	設定	サーボパラメータをサーボドライバの不揮発性メモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下のエリア割付ごと 4 種類あります。
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

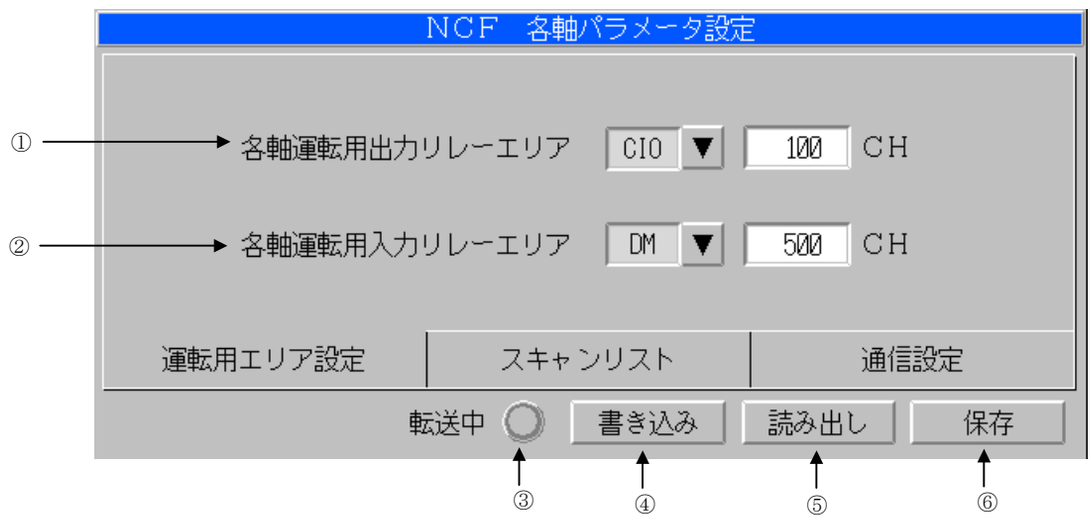
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.11 エリア設定

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	運転用エリア設定(共通パラメータ設定)
機能	運転用出力／入力リレーエリアの設定、表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	各軸運転用出力リレーエリア	設定	運転用出力リレーエリアの設定を行います。設定可能なのは以下の通りです。 エリア:CIO or DM CH:0～9200
②	各軸運転用入力リレーエリア	設定	運転用入力リレーエリアの設定を行います。設定可能なのは以下の通りです。 エリア:CIO or DM CH:0～9200
③	転送中	表示	転送中に黄色点灯します。
④	書き込み	設定	CPU ユニットから NC ユニットへデータを書き込みます。
⑤	読み出し	設定	NC ユニットから CPU ユニットへデータを読み出します。
⑥	保存	設定	NC ユニットの内部メモリの内容を内蔵フラッシュメモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個(運転用エリア設定、スキャンリスト、通信設定の合計)

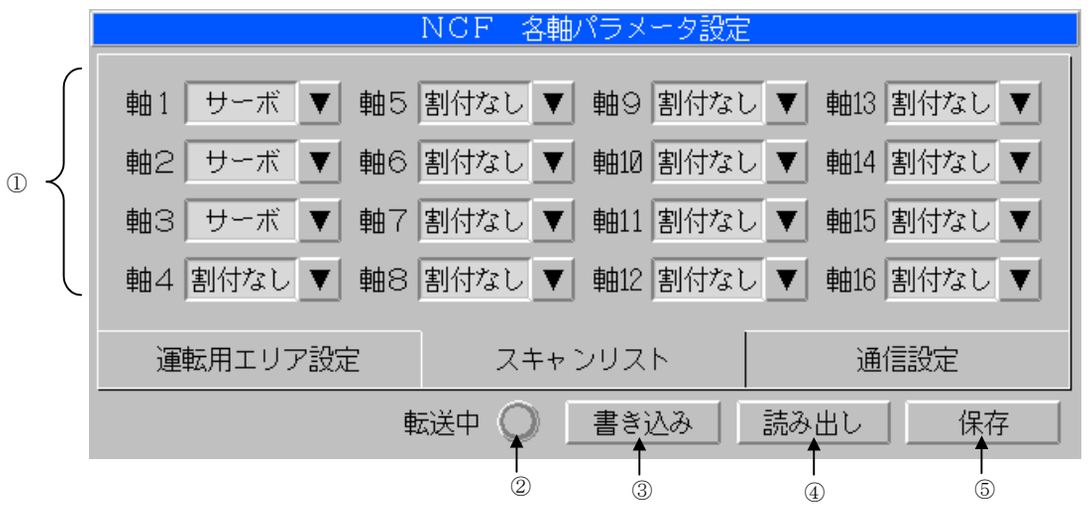
※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.12 スキャンリスト（共通パラメータ設定）

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	スキャンリスト（共通パラメータ設定）
機能	ユニットに接続する MECHATROLINK の割り付け（スキャンリスト）の設定、表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	スキャンリスト	設定	ユニットに接続する MECHATROLINK 機器の割付をサーボ⇔割付なしで切り替えます。
②	転送中	表示	転送中に黄色点灯します。
③	書き込み	設定	CPU ユニットから NC ユニットへデータを書き込みます。
④	読み出し	設定	NC ユニットから CPU ユニットへデータを読み出します。
⑤	保存	設定	NC ユニットの内部メモリの内容を内蔵フラッシュメモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個（運転用エリア設定、スキャンリスト、通信設定の合計）

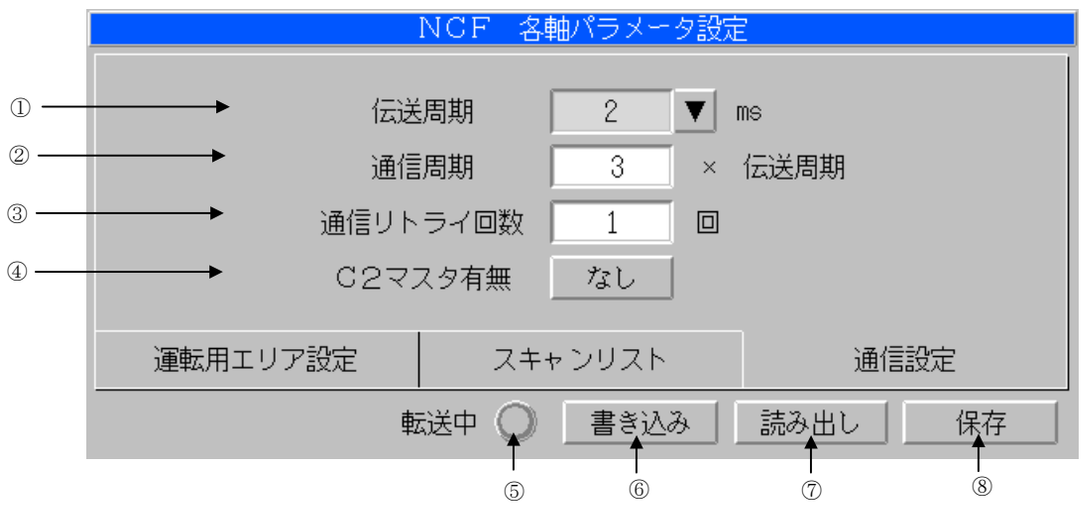
※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.13 通信設定(共通パラメータ設定)

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	通信設定(共通パラメータ設定)
機能	伝送周期、通信周期、通信リトライ回数、C2 マスタの設定、表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	伝送周期	設定	MECHATROLINK 通信におけるデータ送受信の周期を選択します。選択可能なのは以下の通りです。 1ms、2ms、3ms、4ms、5ms、6ms、7ms、8ms、0.25ms、0.5ms
②	通信周期	設定	ユニットと MECHATROLINK 機器とのデータ更新周期を設定します。(設定範囲:0～32ms)
③	通信リトライ回数	設定	ユニットと MECHATROLINK 機器間のデータ送受信時の通信リトライを行う最大局数を設定します。(設定範囲:0～7)
④	C2 マスタ有無	設定	MECHATROLINK システムサポート用に接続される通信親局の有無をなし⇔ありで切り替えます。
⑤	転送中	表示	転送中に黄色点灯します。
⑥	書き込み	設定	CPU ユニットから NC ユニットへデータを書き込みます。
⑦	読み出し	設定	NC ユニットから CPU ユニットへデータを読み出します。
⑧	保存	設定	NC ユニットの内部メモリの内容を内蔵フラッシュメモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個(運転用エリア設定、スキャンリスト、通信設定の合計)

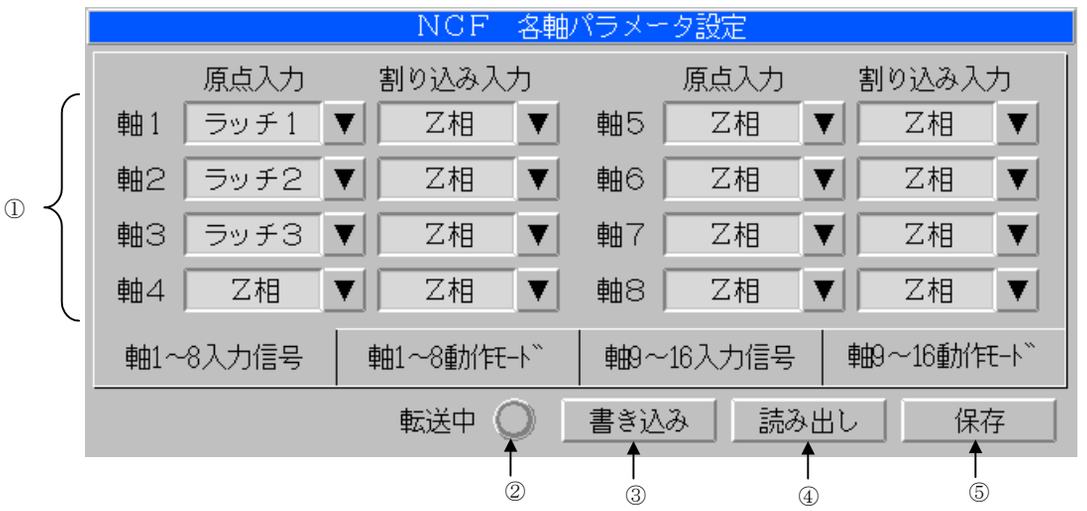
※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 : 出力 CIO 入力 CIO
運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 : 出力 CIO 入力 DM
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 : 出力 DM 入力 CIO
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 : 出力 DM 入力 DM

5-3-2.14 入力信号設定（各軸パラメータ設定）

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	入力信号設定（各軸パラメータ設定）
機能	各軸の入力信号を設定、表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	原点入力	設定	原点サーチで使用する原点入力信号を選択します。選択可能なのは以下の通りです。 Z 相、ラッチ 1、ラッチ 2、ラッチ 3
	割り込み入力	設定	割込定寸送りで使用する割込入力信号を選択します。選択可能なのは以下の通りです。 Z 相、ラッチ 1、ラッチ 2、ラッチ 3
②	転送中	表示	転送中に黄色点灯します。
③	書き込み	設定	CPU ユニットから NC ユニットへデータを書き込みます。
④	読み出し	設定	NC ユニットから CPU ユニットへデータを読み出します。
⑤	保存	設定	NC ユニットの内部メモリの内容を内蔵フラッシュメモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個（入力信号、動作モードの合計）

※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 CIO 入力 CIO

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 ： 出力 CIO 入力 DM

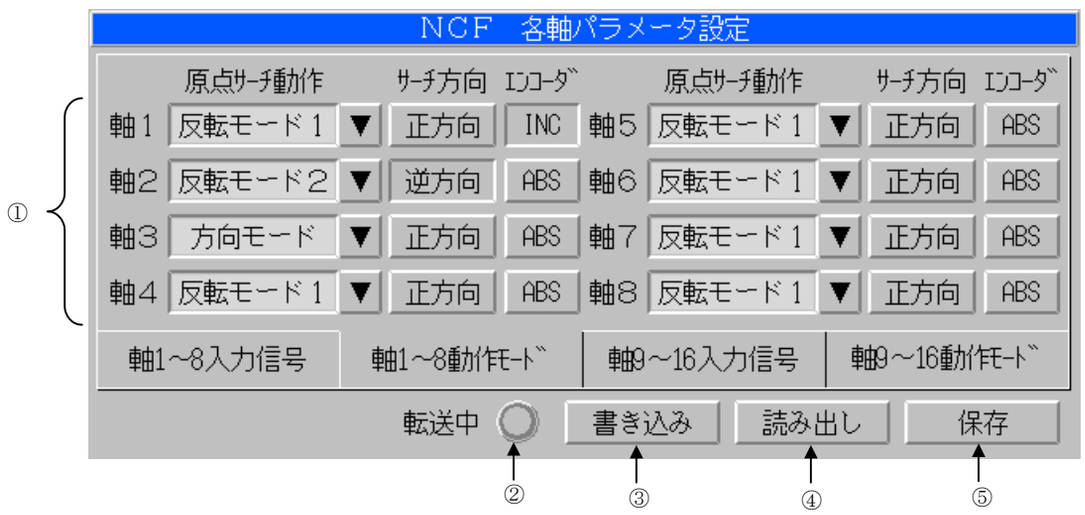
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 ： 出力 DM 入力 CIO

運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用： 出力 DM 入力 DM

5-3-2.15 動作モード設定(各軸パラメータ設定)

ユニット種別	CJ1W-NCF71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥NC¥NCF	タイトル	動作モード設定(各軸パラメータ設定)
機能	各軸の動作モードを設定、表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	原点サーチ動作	設定	原点サーチの動作パターンを選択します。選択可能なのは以下の通りです。 反転モード 1、反転モード 2、一方向モード
	サーチ方向	設定	原点サーチ方向を選択します。選択可能なのは以下の通りです。 正方向、逆方向
	エンコーダ	設定	サーボモータのエンコーダ種別を INC(インクリメンタルエンコーダ)⇔ABS(絶対値エンコーダ)で切り替えます。
②	転送中	表示	転送中に黄色点灯します。
③	書き込み	設定	CPU ユニットから NC ユニットへデータを書き込みます。
④	読み出し	設定	NC ユニットから CPU ユニットへデータを読み出します。
⑤	保存	設定	NC ユニットの内部メモリの内容を内蔵フラッシュメモリに保存します。

【備考】

※ この本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個(入力信号、動作モードの合計)

※ 保存先は以下の通り

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーCIO 用 : 出力 CIO 入力 CIO

運転用出力リレーCIO、運転用入力リレーDM 用 : 出力 CIO 入力 DM

運転用出力リレーDM、運転用入力リレーCIO 用 : 出力 DM 入力 CIO

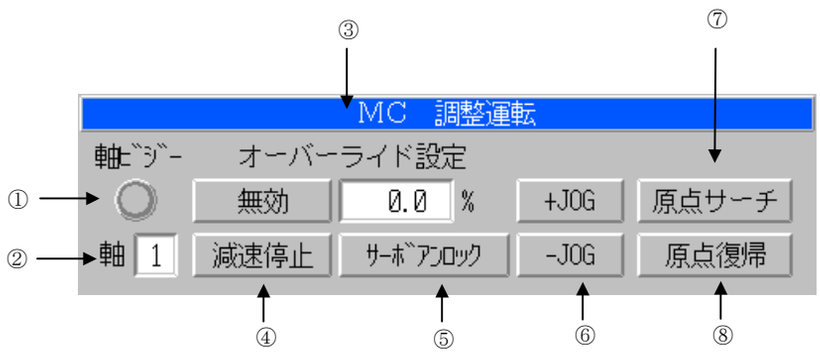
運転用出力リレーDM、運転用入力リレーDM 用 : 出力 DM 入力 DM

5-3-3 MC

5-3-3.1 調整運転

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥ﾓｰｼｮﾝ関連¥MC221 or MC421	タイトル	調整運転
機能	JOG 運転、原点サーチ、原点復帰を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:0.0～199.9)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。減速停止中は JOG 運転、原点サーチ、原点復帰は実行できません。
⑤	サーボロック	設定	サーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑥	JOG 運転	設定	ボタンを押しつづけると、指定した方向にモータが回転します。ボタンをはなすと回転が停止します。
⑦	原点サーチ	設定	ボタンを押すと原点サーチ動作を開始します。
⑧	原点復帰	設定	ボタンを押すと原点復帰動作を開始します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

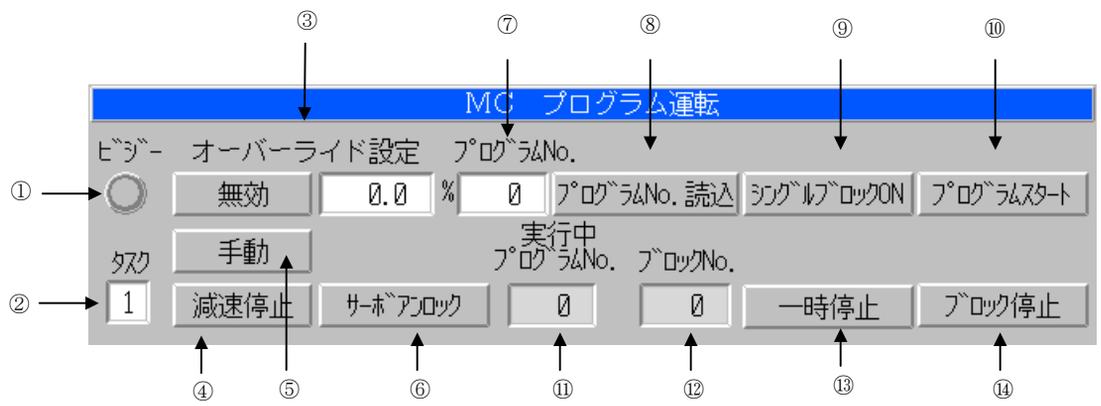
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1個

5-3-3.2 プログラム運転

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	プログラム運転
機能	プログラム(メモリ)運転を実行します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ビジー	表示	タスクの処理中に黄色点灯します。
②	タスク	設定	タスク番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	オーバーライド設定	設定	タスクで使用する軸のオーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。 (設定範囲:0.0～199.9%)
④	減速停止	設定	手動モードの場合、ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。自動モードの場合、ボタンは表示されません。
⑤	自動／手動	設定	自動⇔手動を切り替えます。自動モードにすると黄色点灯します。プログラムスタートする場合は、自動モードにする必要があります。
⑥	サーボロック	設定	タスクで使用する軸のサーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑦	プログラム No.	設定	自動モードで実行するプログラム No.を設定します。(設定範囲:0～999)
⑧	プログラム No.読込	設定	実行するプログラム No.の読込を指定します。
⑨	シングルブロック ON	設定	シングルブロック運転モードにします。(プログラムスタートの ON-OFF にてプログラムを1ブロックずつ実行します)
⑩	プログラムスタート	設定	プログラムを実行します。
⑪	実行中プログラム No.	表示	実行しているプログラム No.を表示します。
⑫	ブロック No.	表示	実行しているブロック No.を表示します。
⑬	一時停止	設定	プログラムの実行を一時停止します。
⑭	ブロック停止	設定	実行中のブロックを強制的に終了します。

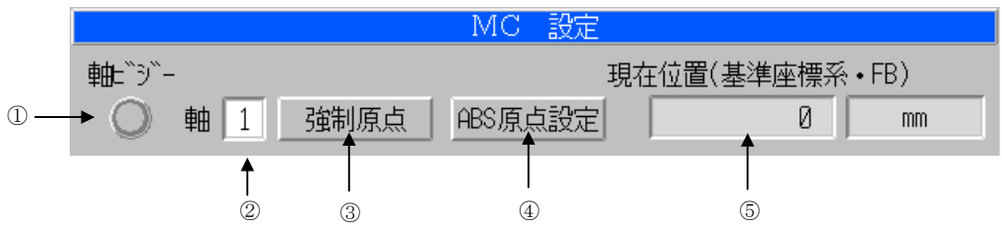
【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ System Version 5 以降で使用して下さい。
※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:1 個

5-3-3.3 設定

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥ﾓｰｼｮﾝ関連¥MC221 or MC421	タイトル	設定
機能	強制原点、ABS 原点の設定を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	強制原点	設定	モータが止まっている位置を強制的に 0 として原点を確定します。
④	ABS 原点設定	設定	現在停止している位置を絶対的な原点として MC ユニットに記憶します。(ABS エンコーダ使用時)
⑤	現在位置	表示	現在位置を表示します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.0001]にして下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

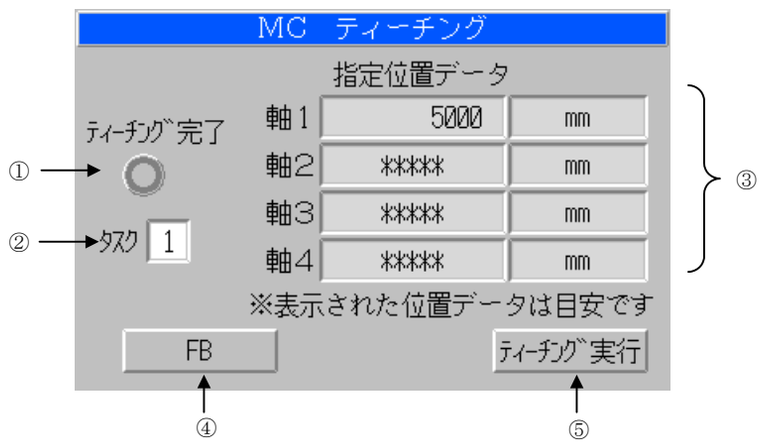
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:2 個

5-3-3.4 ティーチング

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	ティーチング
機能	ティーチングを実行します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ティーチング完了	表示	ティーチングの実行状態を表示します。 緑色点灯:正常完了 黄色点灯:ティーチングアドレスエラー 赤色点灯:ティーチングエラー
②	タスク	設定	タスク番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
③	指定位置データ	表示	タスクで使用している軸の位置データを表示します。使用していない軸は「*****」が表示されます。 ※MC221 の場合、軸数は 2 軸の表示になります。(軸 3、軸 4 はありません。)
④	FB	設定	ティーチング種別を設定します。現在位置(フィードバック値)を設定すると黄色点灯になります。目標位置を設定すると灰色表示になります。
⑤	ティーチング実行	設定	ティーチングを実行します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの［設定］ - ［数字単位・スケール設定］を選択し、1000 番の倍率を［0.0001］にして下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

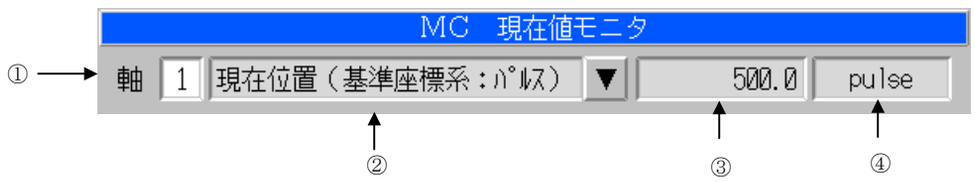
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:MC221 用1個、MC421 用1個

5-3-3.5 現在値モニタ

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	現在値モニタ
機能	選択したモニタ種別の現在値を表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221：1～2　MC421：1～4 ※軸 1：軸 X、軸 2：軸 Y、軸 3：軸 Z、軸 4：軸 U
②	モニタ種別	設定	モニタする現在位置の種類を選択します。選択可能な種類は以下の通りです。 現在位置（ワーク座標系）、現在位置（基準座標系）、現在位置（基準座標系：ﾊﾟﾙｽ）、 偏差、ワーク原点シフト量、多回転数
③	現在値	表示	モニタ種別で選択した種類の現在値を表示します。
④	単位	表示	単位を表示します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの［設定］ - ［数字単位・スケール設定］を選択し、1000 番の倍率を［0.0001］にして下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

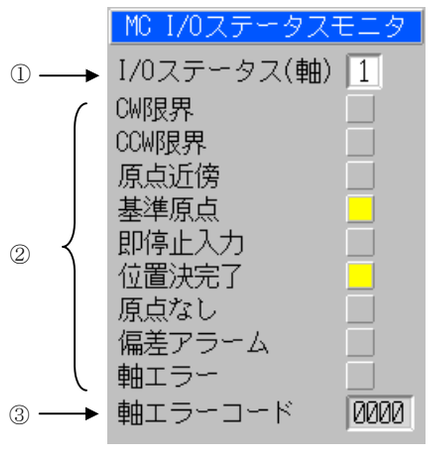
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数：2 個

5-3-3.6 I/O ステータスモニタ

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	I/O ステータスモニタ
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

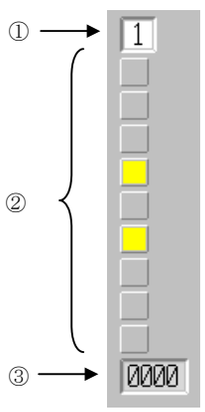
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:1 個

5-3-3.7 I/O ステータスモニタ(名称なし)

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	I/O ステータスモニタ(名称なし)
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。 ※該当ステータスの並びは、「2.9.6 I/O ステータス」と同様です。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

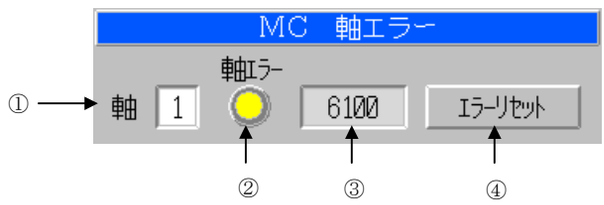
【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ System Version 5 以降で使用して下さい。
※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:1 個

5-3-3.8 軸エラー

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	軸エラー
機能	軸エラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221:1～2　MC421:1～4 ※軸 1:軸 X、軸 2:軸 Y、軸 3:軸 Z、軸 4:軸 U
②	軸エラー	表示	軸エラー発生時に黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。
④	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。 ※エラーリセットを実行すると、タスクエラー、ユニットエラーのエラーもリセットされます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

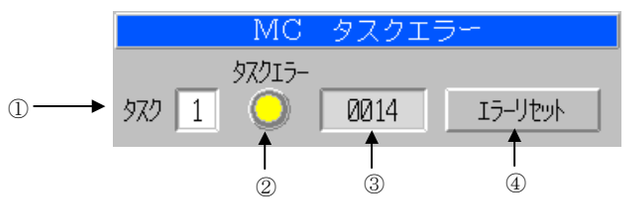
※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

5-3-3.9 タスクエラー

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	タスクエラー
機能	タスクエラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	タスク	設定	タスク番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。 MC221：1～2　MC421：1～4 ※軸 1：軸 X、軸 2：軸 Y、軸 3：軸 Z、軸 4：軸 U
②	タスクエラー	表示	タスクエラー発生時に黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	タスクエラー発生時にエラーコードが表示されます。
④	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。 ※エラーリセットを実行すると、軸エラー、ユニットエラーのエラーもリセットされます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

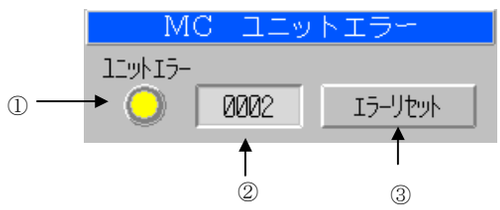
※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

5-3-3.10 ユニットエラー

ユニット種別	CS1W-MC221 CS1W-MC421	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	ユニットエラー
機能	ユニットエラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ユニットエラー	表示	ユニットエラー発生時に黄色点灯します。
②	エラーコード	表示	ユニットエラー発生時にエラーコードが表示されます。
③	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。 ※エラーリセットを実行すると、軸エラー、タスクエラーのエラーもリセットされます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「日付・時間」をチェック ON して下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、MC221 用と MC421 用があります。

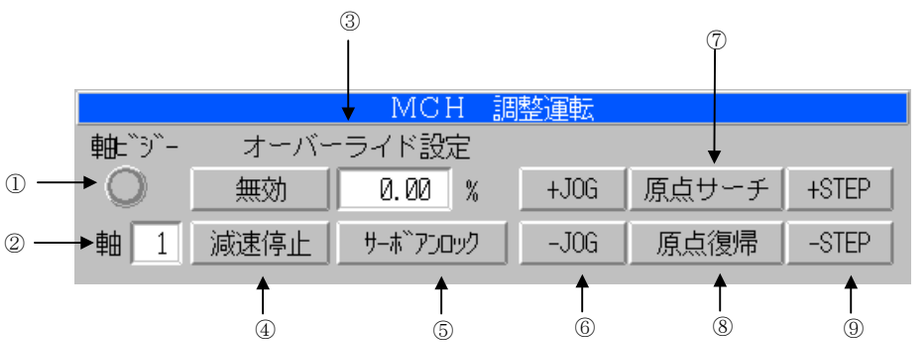
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

5-3-4 MCH

5-3-4.1 調整運転

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	調整運転
機能	JOG 運転、STEP 運転、原点サーチ、原点復帰を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
③	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:0.00～327.67)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、モータが減速停止します。減速停止中は JOG 運転、原点サーチ、原点復帰、STEP 運転は実行できません。
⑤	サーボロック	設定	サーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑥	JOG 運転	設定	ボタンを押しつづけると、指定した方向にモータが回転します。ボタンをはなすと回転が停止します。
⑦	原点サーチ	設定	ボタンを押すと原点サーチ動作動作を開始します。
⑧	原点復帰	設定	ボタンを押すと原点復帰動作を開始します。
⑨	STEP 運転	設定	ボタンを押すとステップ運転を開始します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下の任意エリアごと 4 種類あります。
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

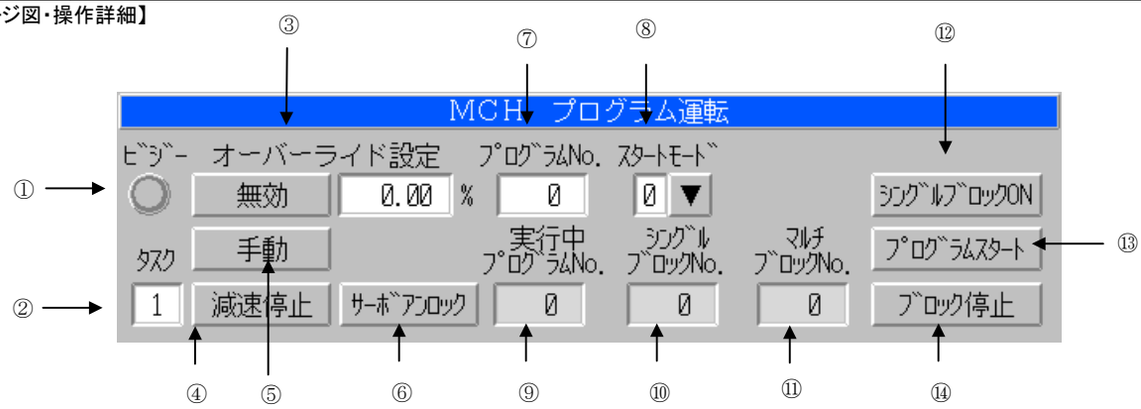
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用: リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.2 プログラム運転

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC221 or MC421	タイトル	プログラム運転
機能	プログラム(メモリ)運転を実行します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ビジー	表示	タスクの処理中に黄色点灯します。
②	タスク	設定	タスク番号を設定します。(設定範囲:1～8)
③	オーバーライド設定	設定	タスクのオーバーライドの値を設定して、有効⇔無効を切り替えます。(設定範囲:0.00～327.67%)
④	減速停止	設定	ボタンを押すと黄色点灯し、タスクで使用しているモータが減速停止します。減速停止中はプログラム運転を実行出来ません。
⑤	自動／手動	設定	タスクで使用する軸の自動⇔手動を切り替えます。自動モードにすると黄色点灯します。プログラムスタートする場合は、自動モードにする必要があります。
⑥	サーボロック	設定	タスクで使用する軸のサーボロック⇔サーボアンロックを切り替えます。
⑦	プログラム No.	設定	自動モードで実行するプログラム No.を設定します。(設定範囲:0～499)
⑧	スタートモード	設定	プログラムのスタート位置を指定します。選択可能な設定は以下の通りです。 プログラムの先頭から実行、実行中ブロックの途中から実行、 実行中ブロックの次のブロックから実行
⑨	実行中プログラム No.	表示	実行しているプログラム No.を表示します。
⑩	シングルブロック No.	表示	実行しているシングル実行命令のブロック No.を表示します。
⑪	マルチブロック No.	表示	実行しているマルチ実行命令のブロック No.を表示します。
⑫	シングルブロック ON	設定	シングルブロック運転モードにします。(プログラムスタートの ON-OFF にてプログラムを 1 ブロックずつ実行します)
⑬	プログラムスタート	設定	プログラムを実行します。
⑭	ブロック停止	設定	実行中のブロックの終端で停止します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、任意ビットエリア CIO 用と WR 用があります。

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:

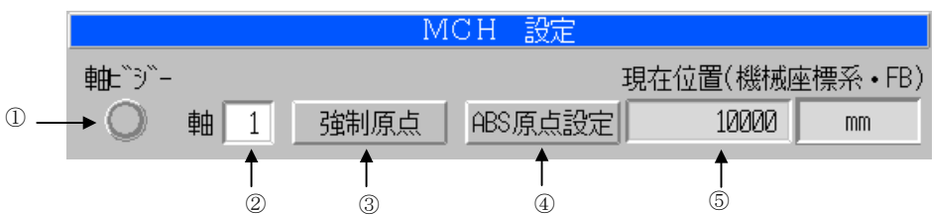
※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.3 設定

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	設定
機能	強制原点、ABS 原点の設定を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸ビジー	表示	軸の処理中に黄色点灯します。
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
③	強制原点	設定	モータが止まっている位置を強制的に 0 として原点を確定します。
④	ABS 原点設定	設定	現在停止している位置を絶対的な原点として MC ユニットに記憶します。(ABS エンコーダ使用時)
⑤	現在位置	表示	現在位置を表示します。

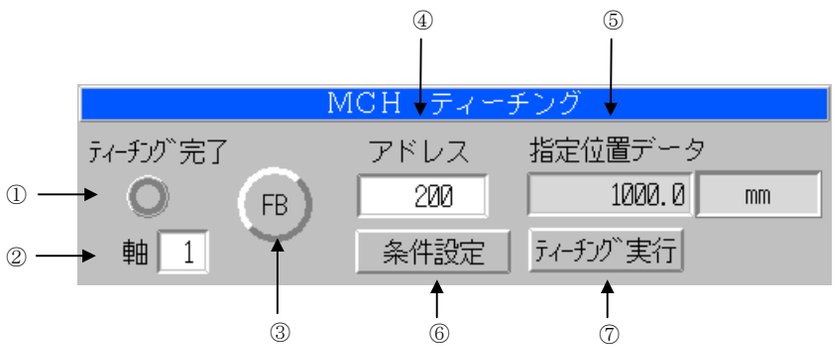
【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、任意ビットエリア CIO 用と WR 用があります。
※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]－[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.0001]にして下さい。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ System Version 5 以降で使用して下さい。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:2 個
※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用: リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.4 ティーチング

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	ティーチング
機能	ティーチングを実行します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ティーチング完了	表示	ティーチングの実行状態を表示します。 緑色点灯:ティーチング完了 黄色点灯:条件設定完了 赤色点灯:ワーニング
②	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
③	FB	設定	ティーチング種別を設定します。現在位置(フィードバック値)を設定すると黄色点灯になります。目標位置を設定すると灰色表示になります。
④	アドレス	設定	ティーチングアドレスを設定します。
⑤	指定位置データ	表示	指定位置データを表示します。
⑥	条件設定	設定	ティーチング軸設定、ティーチング軸アドレスを読み込みます。
⑦	ティーチング実行	設定	ティーチングを実行します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下の任意エリアごと 4 種類あります。
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]ー[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.0001]にして下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:2 個

※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用: リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.5 現在値モニタ

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	現在値モニタ
機能	選択したモニタ種別の現在値を表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
②	モニタ種別	設定	モニタする現在位置の種類を選択します。選択可能な種類は以下の通りです。 現在位置(現在座標系・FB)、現在位置(現在座標系・指令)、現在位置(機械座標系・FB)、現在位置(機械座標系・指令)、カウンタラッチ位置、速度(FB)、速度(指令)、偏差、トルク指令値、ワーク原点シフト量、原点余裕度、多回転数、マルチターン(ABS)、初期インクリ(ABS)、ユニットサイクル、通信サイクル
③	現在値	表示	モニタ種別で選択した種類の現在値を表示します。
④	単位	表示	単位を表示します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]－[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.0001]にして下さい。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ フレーム数:2 個

※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.6 I/O ステータスモニタ

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	I/O ステータスモニタ
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)は、以下の任意エリアごと 4 種類あります。
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

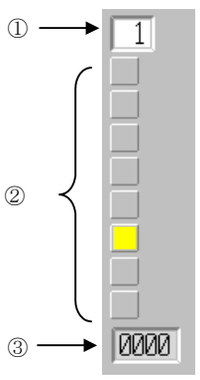
※ フレーム数:1 個

※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用: リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.7 I/O ステータスモニタ(名称なし)

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	I/O ステータスモニタ(名称なし)
機能	軸ごとの I/O ステータス及びエラーコードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
②	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。該当ステータスの信号が ON の場合、黄色点灯します。 ※該当ステータスの並びは、「2.10.6 I/O ステータス」と同様です。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。

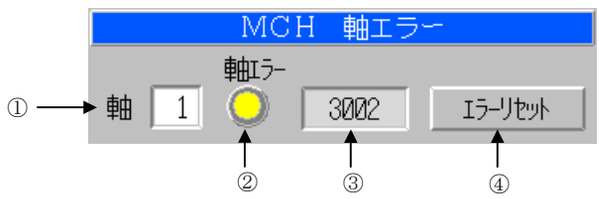
【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ System Version 5 以降で使用して下さい。
※ 本 SAP ライブラリは、以下の任意エリアごと 4 種類あります。
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:1 個
※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、 任意データエリア DM 用： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.8 軸エラー

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	軸エラー
機能	軸エラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。(設定範囲:1～32)
②	軸エラー	表示	軸エラー発生時に黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	軸エラー発生時にエラーコードが表示されます。
④	エラーリセット	設定	軸エラーをリセットします。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、以下の任意エリアごと 4 種類あります。
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用

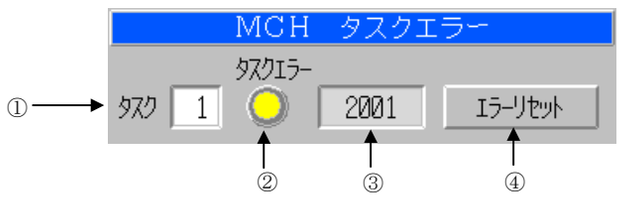
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.9 タスクエラー

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	タスクエラー
機能	タスクエラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	タスク	設定	タスク番号を設定します。(設定範囲:1～8)
②	タスクエラー	表示	タスクエラー発生時に黄色点灯します。
③	エラーコード	表示	タスクエラー発生時にエラーコードが表示されます。
④	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。

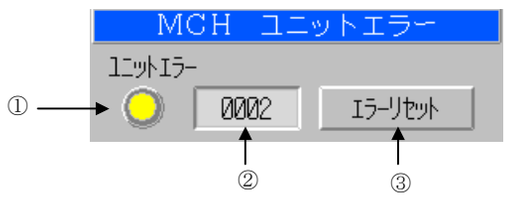
【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないで下さい。
※ System Version 5 以降で使用して下さい。
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。
※ フレーム数:1 個
※ 保存先は以下の通り
任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM
任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM
任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.10 ユニットエラー

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	ユニットエラー
機能	ユニットエラーの表示、リセットを行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ユニットエラー	表示	ユニットエラー発生時に黄色点灯します。
②	エラーコード	表示	ユニットエラー発生時にエラーコードが表示されます。
③	エラーリセット	設定	エラーをリセットします。

【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM

任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0

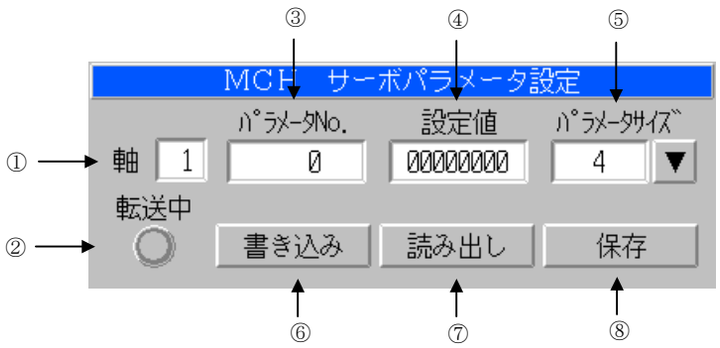
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM

任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.11 サーボパラメータ設定

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	サーボパラメータ設定
機能	サーボパラメータの設定、表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	設定	軸番号を設定します。設定可能範囲は以下の通りです。(設定範囲:1～32)
②	転送中	表示	サーボパラメータが転送中に黄色点灯します。
③	パラメータ No.	設定	パラメータ No.を設定します。
④	設定値	設／表	サーボドライバに書き込むデータを設定します。
⑤	パラメータサイズ	設定	パラメータサイズを設定します。(選択可能:2、4)
⑥	書き込み	設定	設定をサーボドライバ内の制御用メモリに書き込みます。
⑦	読み出し	設定	サーボパラメータを読み出します。
⑧	保存	設定	サーボパラメータをサーボドライバの不揮発性メモリに保存します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM

任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0

任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM

任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.12 プログラム運転ステータス

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	プログラム運転ステータス
機能	運転中のモーションタスクを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	モーションタスク	表示	運転中のモーションタスクが黄色点灯します。

【備考】

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM

任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0

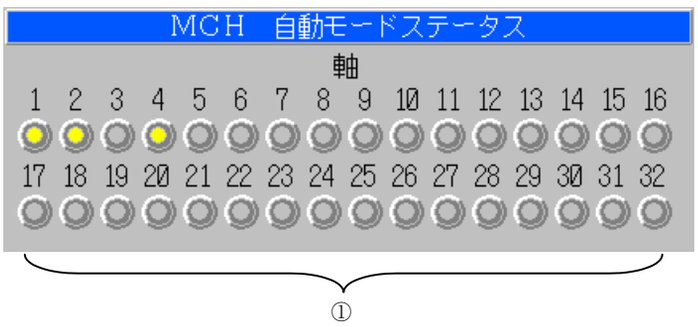
任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM

任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-4.13 自動モードステータス

ユニット種別	CS1W-MCH71	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥MC¥MCH	タイトル	自動モードステータス
機能	軸の自動／手動モードを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	軸	表示	自動モードの軸が黄色点灯します。

【備考】

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」、「日付・時間」、「アドレスインデックス」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ 本 SAP ライブラリは、任意ビットエリア CIO 用と WR 用があります。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。

※ 保存先は以下の通り

任意ビットエリア CIO、任意データエリア DM 用 ： リレーCIO データ DM

任意ビットエリア CIO、任意データエリア EM0 用： リレーCIO データ EM0

任意ビットエリア WR、任意データエリア DM 用 ： リレーWR データ DM

任意ビットエリア WR、任意データエリア EM0 用 ： リレーWR データ EM0

5-3-5　Ver5 以前のライブラリ

CS1W/CJ1W-NC413/433/213/233

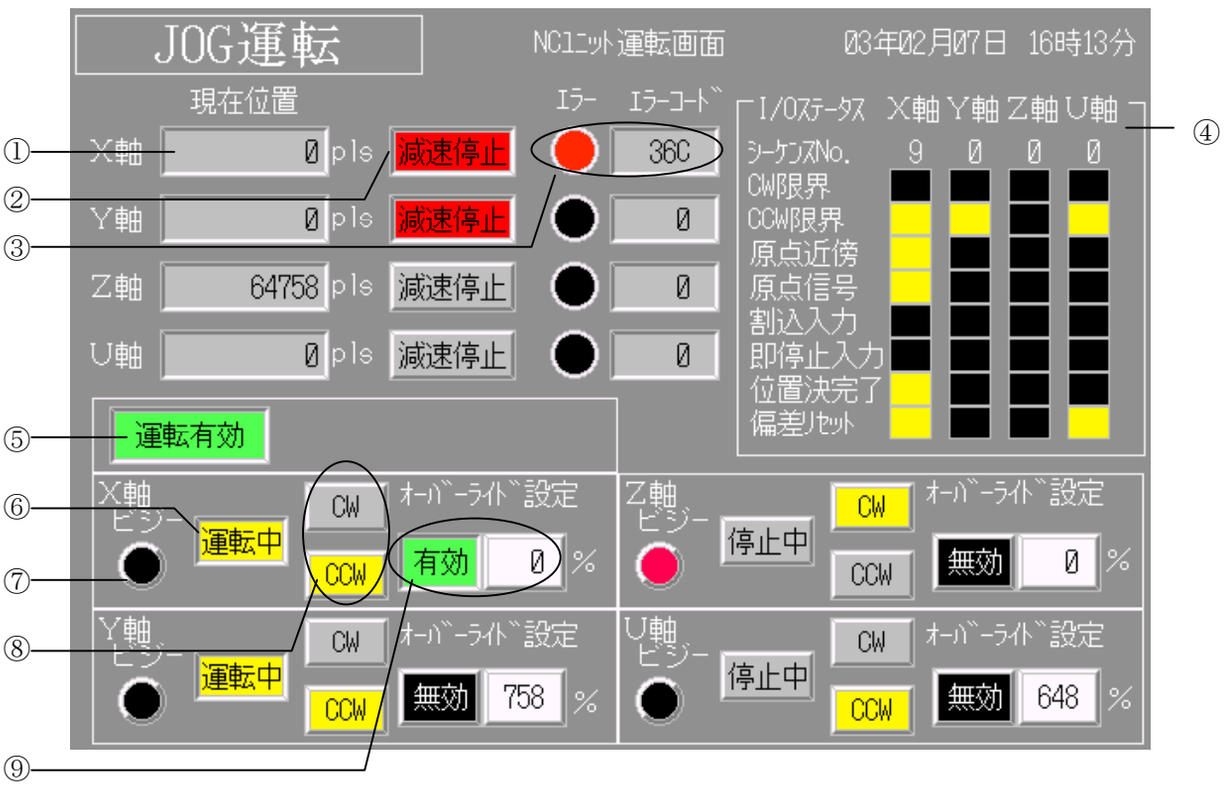
本節の SAP ライブラリは、運転用データエリアの先頭チャネルが号機 No.により固定されている場合（固定チャネル）のみ使用可能です。
[例] 2 号機の場合
　運転用データエリアは、m + 116～m + 187 に固定されます。
　　固定チャネルに設定するには、運転用データエリア（m）を 0000 に設定します。
　　m = D20000 + 100 * 号機 No.

※　任意の EM,DM エリアを指定することはできません。

5-3-5.1 JOG 運転

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	JOG 運転
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ（運転無効ボタン）を立てることによって運転⇔停止、CW⇔CCW の切換やオーバーライドを設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	運転中，停止中	設定	運転⇔停止を切り替えます。(0:停止中、1:運転中)
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	CW，CCW	設定	回転方向を指定します。(0:CW、1:CCW)
⑨	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して有効⇔無効を切り替えます。

【備考】

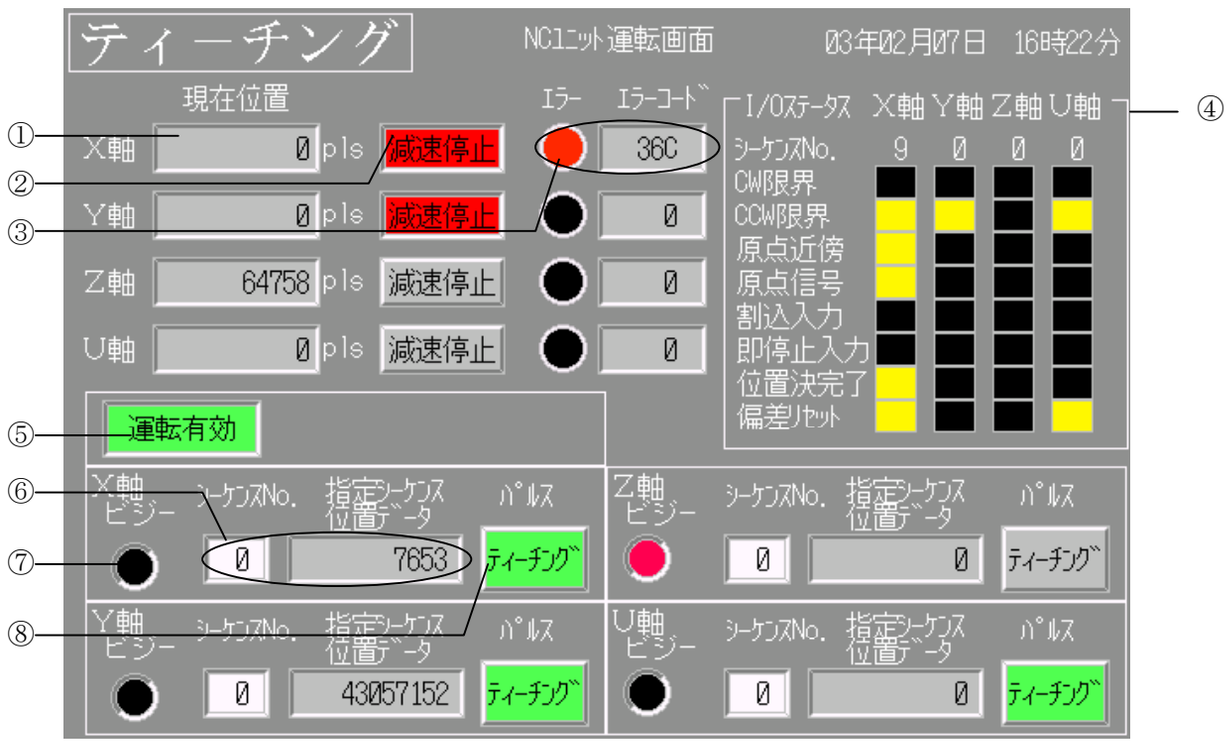
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.2 ティーチング

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	ティーチング
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによってシーケンスNo を設定しティーチングすることができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと、設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	シーケンス位置データ	設定	⑥によってFINS が走り設定したシーケンスNo. からNC 内のシーケンス位置データを読み込み数値表示部品に表示します。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	ティーチング	設定	現在値をシーケンス位置データに設定します。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON してください。

※ 起動画面には使用しないでください。

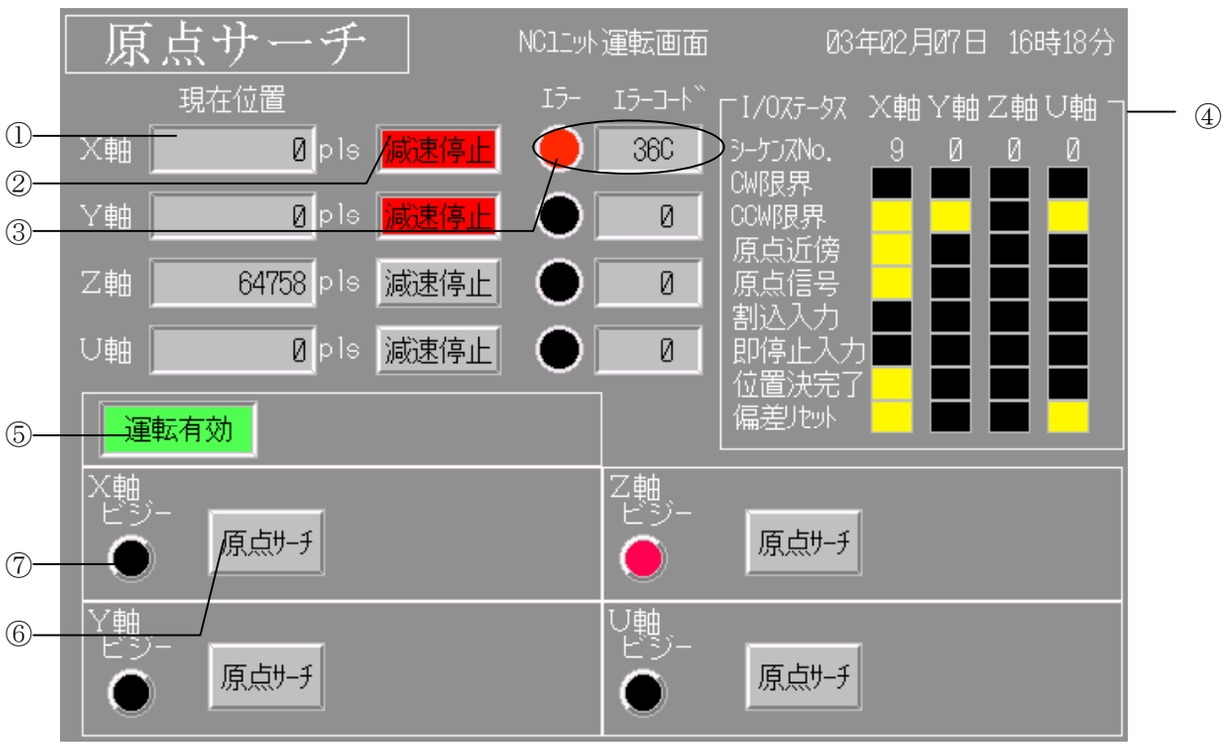
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.3 原点サーチ

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	原点サーチ
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによって原点サーチすることができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	原点サーチ	設定	ボタンを押すと原点サーチを開始します。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。

【備考】

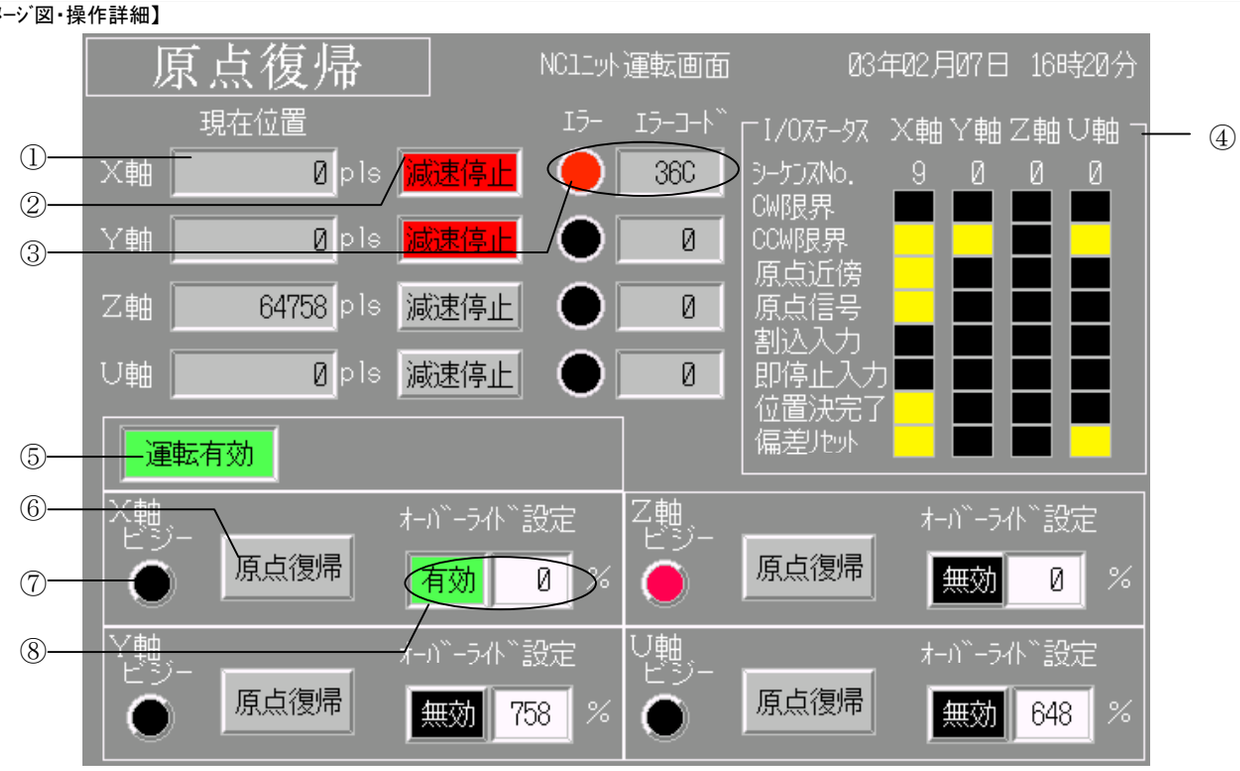
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.4 原点復帰

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	原点復帰
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによってオーバーライドの設定や原点復帰をすることができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	原点復帰	設定	押すと任意の位置から原点位置に軸が戻ります。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して有効⇔無効を切り替えます。

【備考】

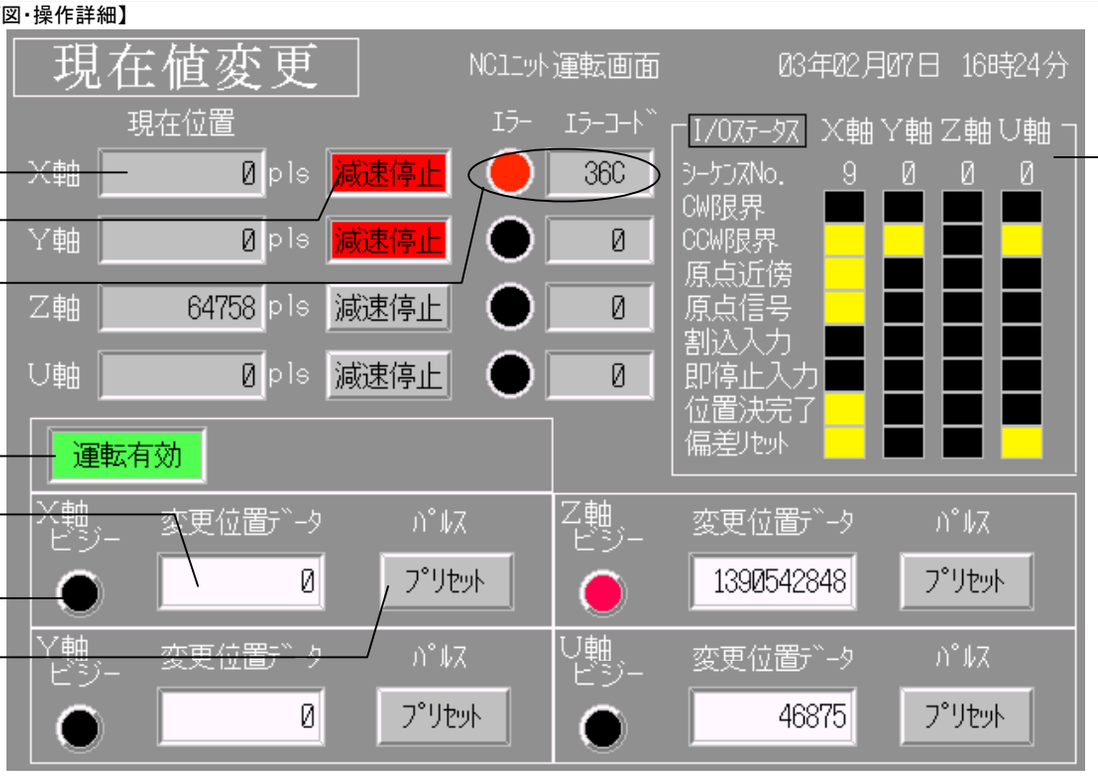
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.5 現在値変更

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActivePartsJ¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	現在値変更
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによって変更位置データを設定しプリセットすることができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	変更位置データ	設定	プリセットするときの位置データを設定します。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	プリセット	設定	ボタンを押すと現在位置を強制的に変更位置データ変更します。

【備考】

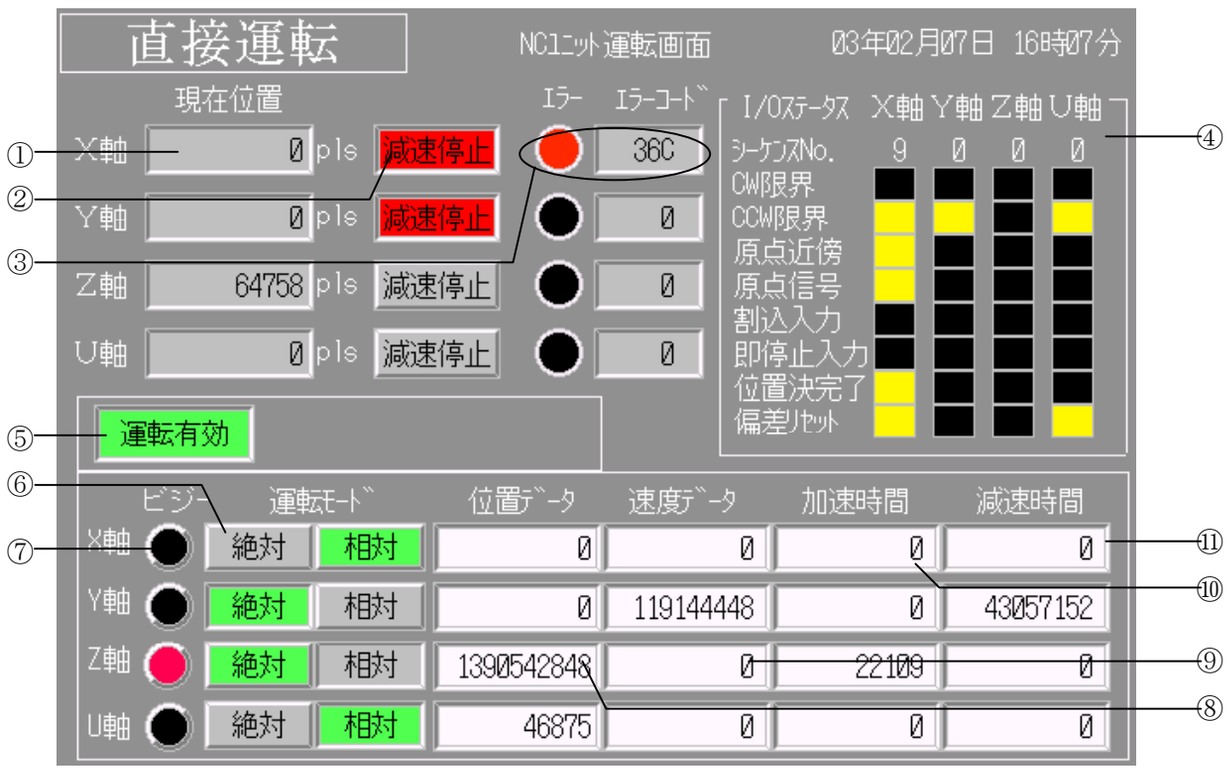
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.6 直接運転

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	直接運転
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによって運転モードやそれぞれのデータを設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	運転モード	設定	運転用データエリアの位置指令を絶対位置と相対位置に切り替えます。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	位置データ	設定	各軸の目標位置を設定します。
⑨	速度データ	設定	各軸の目標速度を設定します。
⑩	加速時間	設定	各軸の加速時間を設定します。
⑪	減速時間	設定	各軸の減速時間を設定します。

【備考】

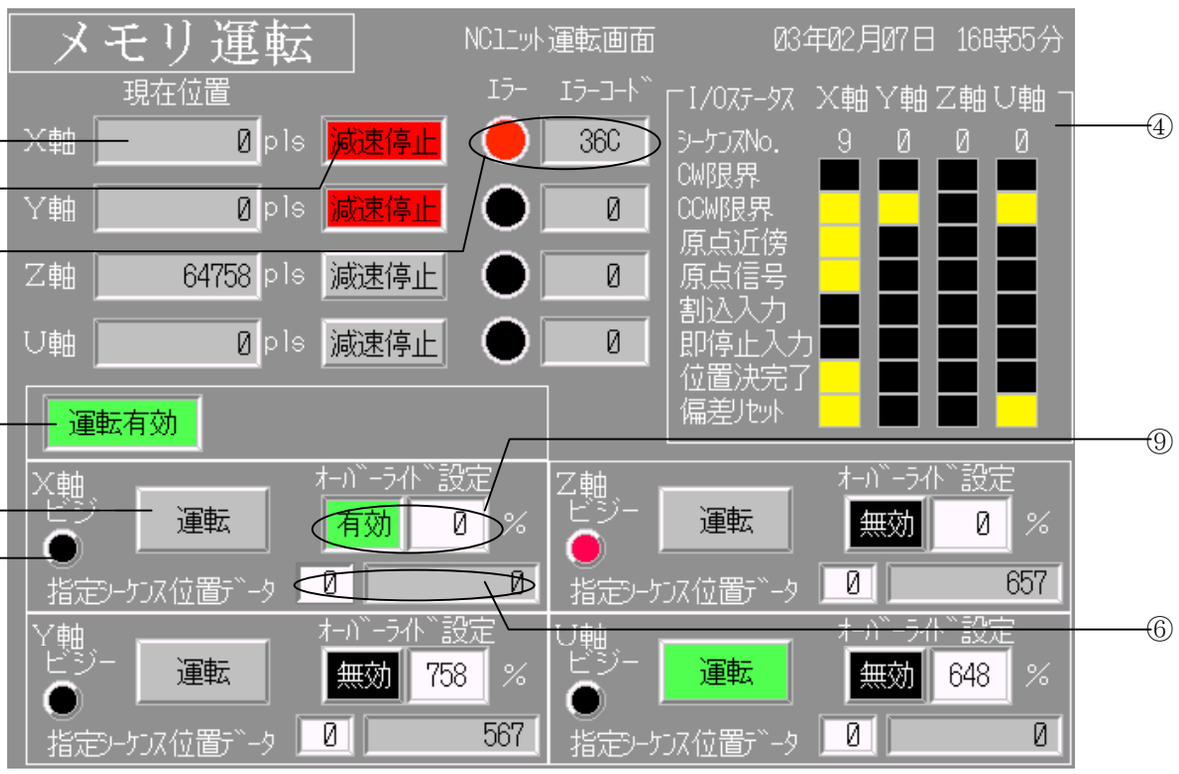
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.7 メモリ運転

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	メモリ運転
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのI/O ステータスや現在位値、エラーコードを表示し制御フラグ(運転無効ボタン)を立てることによってオーバーライドやシーケンス No. を設定し運転ボタンで設定した条件で運転を開始することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	現在位置	表示	NCユニットで制御する各軸の現在位置を表示します。 (-2,147,483,647～2,147,483,647)
②	減速停止	設定	ボタンを押すと設定時間で停止します。
③	エラー	表示	エラー時にランプがつきエラーコードが表示されます。
④	I/O ステータス	表示	I/O ステータスを表示します。
⑤	運転有効	設定	運転や読出し、オーバーライド、シーケンス位置データなどの入力を制御します。
⑥	シーケンス位置データ	設定	⑥によってFINS が走り設定したシーケンスNo. からNC 内のシーケンス位置データを読み込み数値表示部品に表示します。
⑦	ビジー	表示	NC ユニットが処理中に点灯します。 ※X 軸はユニットの初期処理中にも点灯します。
⑧	運転	設定	ボタンを押すとメモリ運転を開始します。
⑨	オーバーライド設定	設定	オーバーライドの値を設定して有効⇔無効を切り替えます。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。

※ 起動画面には使用しないでください。

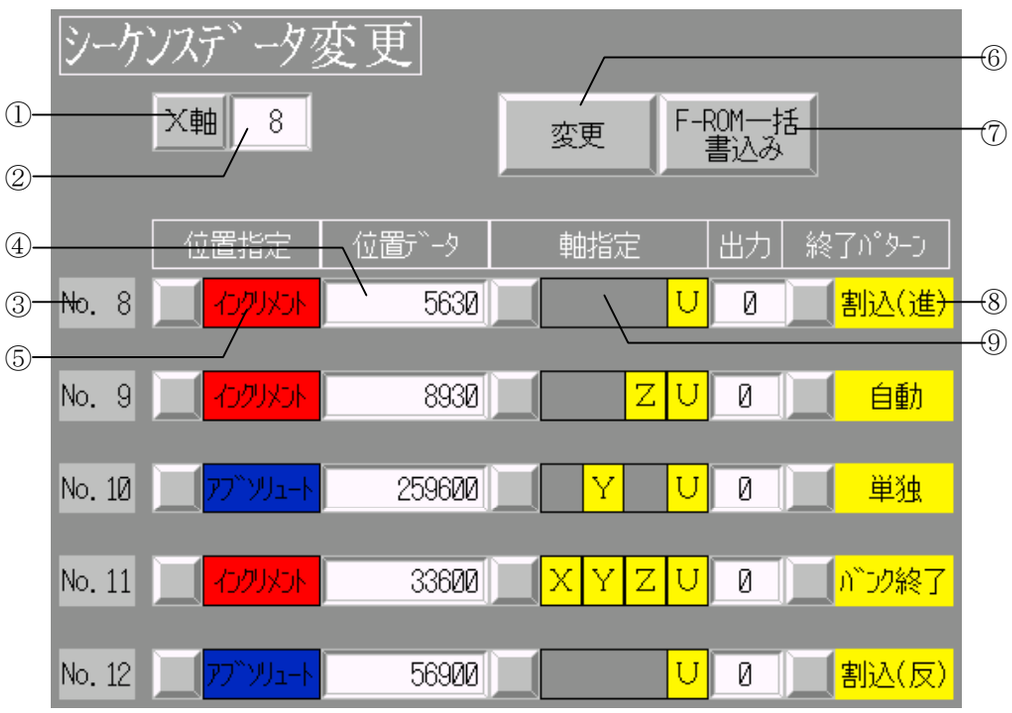
※ 画像は 4 軸用のため 2 軸用、1 軸用とは外観が多少異なる所があります。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

5-3-5.8 シーケンス設定 1、位置データ設定

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	シーケンス設定 1,位置データ設定
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのシーケンスデータ(位置指定、軸指定、出力、終了パターン)、位置データを設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	軸選択	表示	設定する軸を表示します。
②	シーケンス No.	設定	設定したいシーケンス No. を入力します。
③	シーケンス No.	表示	設定するシーケンス No. を表示します。
④	位置データ	設定	選択された軸の位置データを設定します。
⑤	位置指定	設定	位置データが絶対位置か相対位置かを設定します。
⑥	変更	設定	表示されているデータを NC 内部のパラメータエリアに書き込みます。
⑦	F-ROM 一括書込み	表示	パラメータエリアに書かれているデータを F-ROM に保存します。 (電源を落とす際には、必ず行ってください。)
⑧	終了パターン	設定	終了パターンを設定します。
⑨	軸指定	設定	起動させる軸を指定します。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。

※ 設定するシーケンス No を変えるとき「変更」を押してパラメータエリアに書き込まなければデータは消えてしまいます。

※ 電源を落とす際には「F-ROM 一括書込み」を押さなければデータは消えてしまいます。また「F-ROM 一括書き込み」で保存されるデータは表示されているデータでは無くパラメータエリアにあるデータです。

※ 起動画面には使用しないでください。

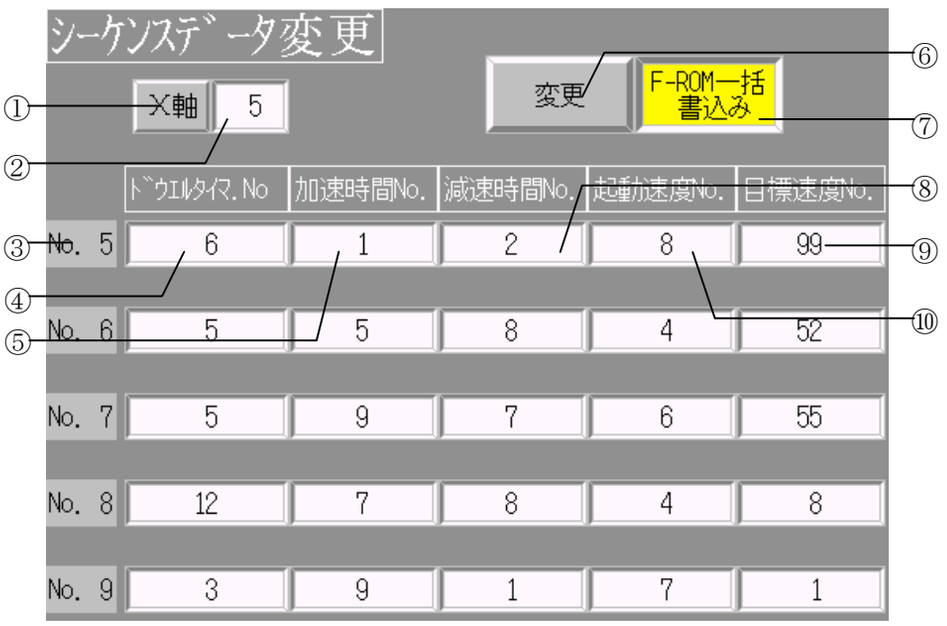
※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

※ 使用出来る軸は、NC1□3 時 X 軸、NC2□3 時 X,Y 軸、NC4□3 時 X,Y,Z,U 軸になります。

5-3-5.9 シーケンス設定 2

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	シーケンス設定 2
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのシーケンスデータ(ドウェルタイマ No、加減速 No、起動速度 No、目標速度 No)を設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	軸選択	表示	設定する軸を表示します。
②	シーケンス No.	設定	設定したいシーケンス No. を入力します。
③	シーケンス No.	表示	設定するシーケンス No. を表示します。
④	ドウェルタイマ No.	設定	ドウェルタイマの No. を設定します。
⑤	加速時間 No.	設定	加速時間の No. を設定します。
⑥	変更	設定	表示されているデータを NC 内部のパラメータエリアに書き込みます。
⑦	F-ROM 一括書込み	設定	パラメータエリアに書かれているデータを F-ROM に保存します。 (電源を落とす際には、必ず行ってください。)
⑧	減速時間 No.	設定	減速時間の No. を設定します。
⑨	目標速度 No.	設定	目標速度の No. を設定します。
⑩	起動速度 No.	設定	起動速度の No. を設定します。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。

※ 設定するシーケンス No を変える際は、「変更」を押してパラメータエリアに書き込まなければデータは消えてしまいます。

※ 電源を落とす際には「F-ROM 一括書込み」を押さなければデータは消えてしまいます。また「F-ROM 一括書き込み」で保存されるデータは表示されているデータではなくパラメータエリアにあるデータです。

※ 起動画面には使用しないでください。

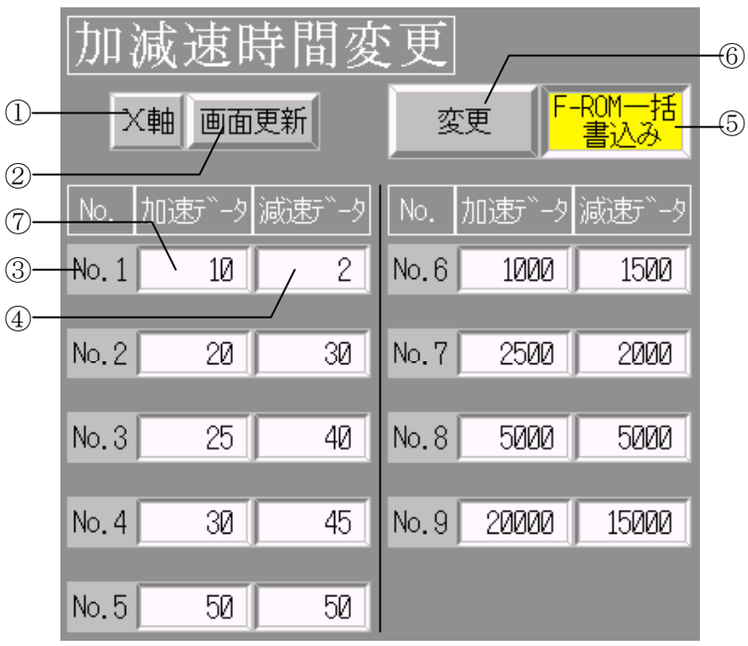
※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

※ 使用出来る軸は、NC1□3 時 X 軸、NC2□3 時 X,Y 軸、NC4□3 時 X,Y,Z,U 軸になります。

5-3-5.10 加減速時間設定

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	加減速時間設定
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれの加減速時間を設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	軸選択	表示	設定する軸を表示します。
②	画面更新	設定	表示データを再び読み込みます。
③	シーケンス No.	表示	設定するシーケンス No. を表示します。
④	減速時間	設定	減速時間を設定します。
⑤	F-ROM 一括書込み	設定	パラメータエリアに書かれているデータを F-ROM に保存します。 (電源を落とす際には、必ず行ってください。)
⑥	変更	設定	表示されているデータを NC 内部のパラメータエリアに書き込みます。
⑦	加速時間	設定	加速時間を設定します。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。

※ 設定するシーケンス No を変える際には、「変更」を押してパラメータエリアに書き込まなければデータは消えてしまいます。

※ 電源を落とす際には「F-ROM 一括書込み」を押さなければデータは消えてしまいます。また「F-ROM 一括書き込み」で保存されるデータは表示されているデータではなくパラメータエリアにあるデータです。

※ 起動画面には使用しないでください。

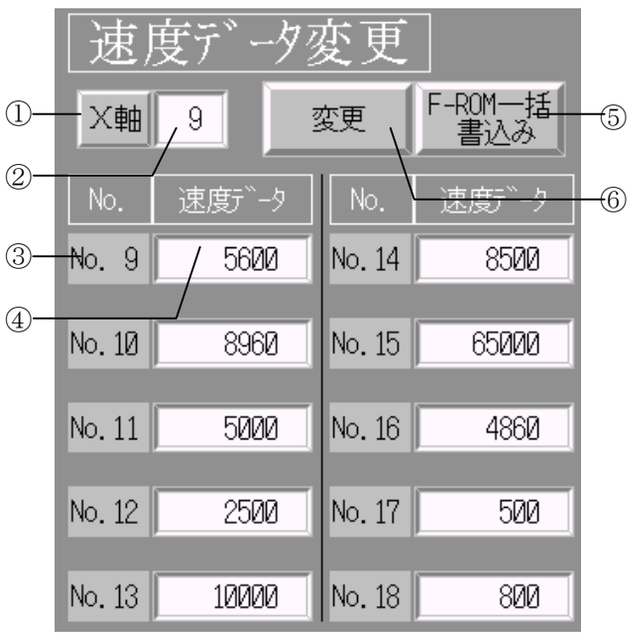
※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

※ 使用出来る軸は、NC1□3 時 X 軸、NC2□3 時 X,Y 軸、NC4□3 時 X,Y,Z,U 軸になります。

5-3-511 速度データ設定

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	速度データ設定
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれの速度データを設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	軸選択	表示	設定する軸を表示します。
②	シーケンス No.	設定	設定したいシーケンス No. を入力します。
③	シーケンス No.	表示	設定するシーケンス No. を表示します。
④	速度データ	設定	速度データを設定します。
⑤	F-ROM 一括書込み	設定	パラメータエリアに書かれているデータを F-ROM に保存します。 (電源を落とす際には、必ず行ってください。)
⑥	変更	設定	表示されているデータを NC 内部のパラメータエリアに書き込みます。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。

※ 設定するシーケンス No を変える際には、「変更」を押してパラメータエリアに書き込まなければデータは消えてしまいます。

※ 電源を落とす際には「F-ROM 一括書込み」を押さなければデータは消えてしまいます。また「F-ROM 一括書き込み」で保存されるデータは表示されているデータではなくパラメータエリアにあるデータです。

※ 起動画面には使用しないでください。

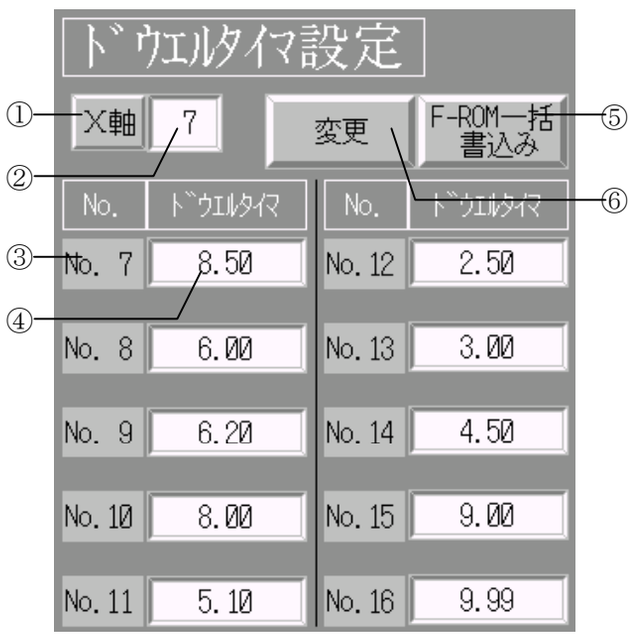
※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

※ 使用出来る軸は、NC1□3 時 X 軸、NC2□3 時 X,Y 軸、NC4□3 時 X,Y,Z,U 軸になります。

5-3-5.12 ドウェルタイマ設定

ユニット種別	CS(J)1W-NC413/433 CS(J)1W-NC213/233 CS(J)1W-NC113/133	インストール先	SmartActiveParts_J¥モーション関連¥Ver5 以前のライブラリ¥	タイトル	ドウェルタイマ設定
機能	X、Y、Z、U 軸それぞれのドウェルタイマを設定することができます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	軸選択	表示	設定する軸を表示します。
②	シーケンス No.	設定	設定したいシーケンス No. を入力します。
③	シーケンス No.	表示	設定するシーケンス No. を表示します。
④	ドウェルタイマ	設定	ドウェルタイマを設定します。
⑤	F-ROM 一括書込み	設定	パラメータエリアに書かれているデータを F-ROM に保存します。 (電源を落とす際には、必ず行ってください。)
⑥	変更	設定	表示されているデータを NC 内部のパラメータエリアに書き込みます。

【備考】

※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧ボタンを押して、$SB の割付アドレスの「基本動作」をチェック ON してください。また、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、12 番の倍率を「0.01」に設定してください。

※ 設定するシーケンス No を変える際には、「変更」を押してパラメータエリアに書き込まなければデータは消えてしまいます。

※ 電源を落とす際には「F-ROM 一括書込み」を押さなければデータは消えてしまいます。また、「F-ROM 一括書き込み」で保存されるデータは表示されているデータではなくパラメータエリアにあるデータです。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ 軸数によって使用するライブラリは異なります(必ず専用の軸数のライブラリを使用して下さい)

※ 使用出来る軸は、NC1□3 時 X 軸、NC2□3 時 X,Y 軸、NC4□3 時 X,Y,Z,U 軸になります。

MEMO

5-4 インバータ

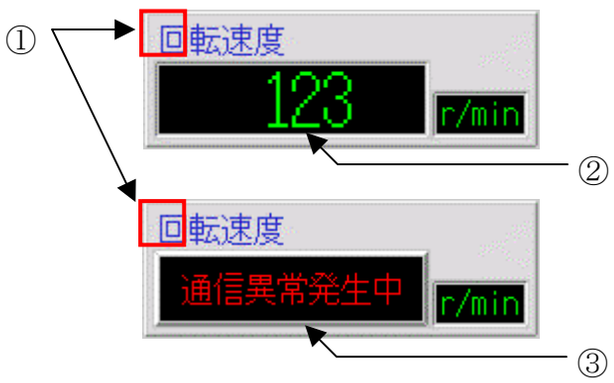
5-4-1 3G3MV

5-4-1.1 回転速度モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥モニタ	回転速度モニタ
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥モニタ	

機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズの回転速度をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3MVから回転速度の読み出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.15 ］となっています。
②	回転速度表示	表示	3G3MVから読み出した回転速度を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3MVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、3G3MVのパラメータ定数 No.n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

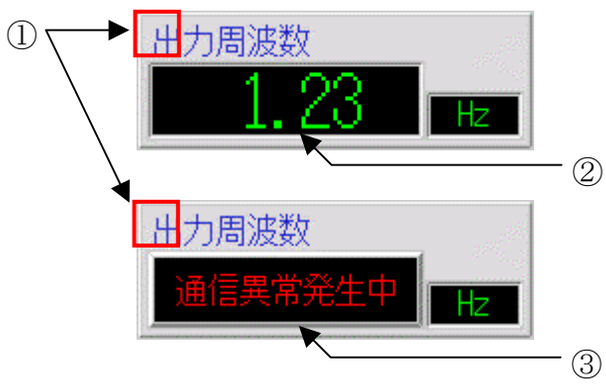
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1..2 出力周波数モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥モニタ	出力周波数モニタ
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥モニタ	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ の出力周波数をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3MVから出力周波数の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]となっています。
②	出力周波数表示	表示	3G3MVから読み出した出力周波数を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3MVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読み出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、3G3MVのパラメータ定数 No.n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、

※ 0.01Hz 単位(出荷時初期値)を選択してください。【具体的には、n035=0】

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に0.1秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

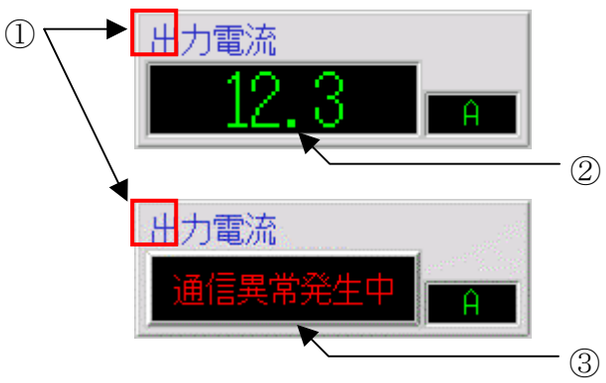
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1..3 出力電流モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥モニタ	出力電流モニタ
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥モニタ	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ の出力電流をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3MVから出力電流の読み出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］となっています。
②	出力電流表示	表示	3G3MVから読み出した出力電流を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3MVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に0.1 秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

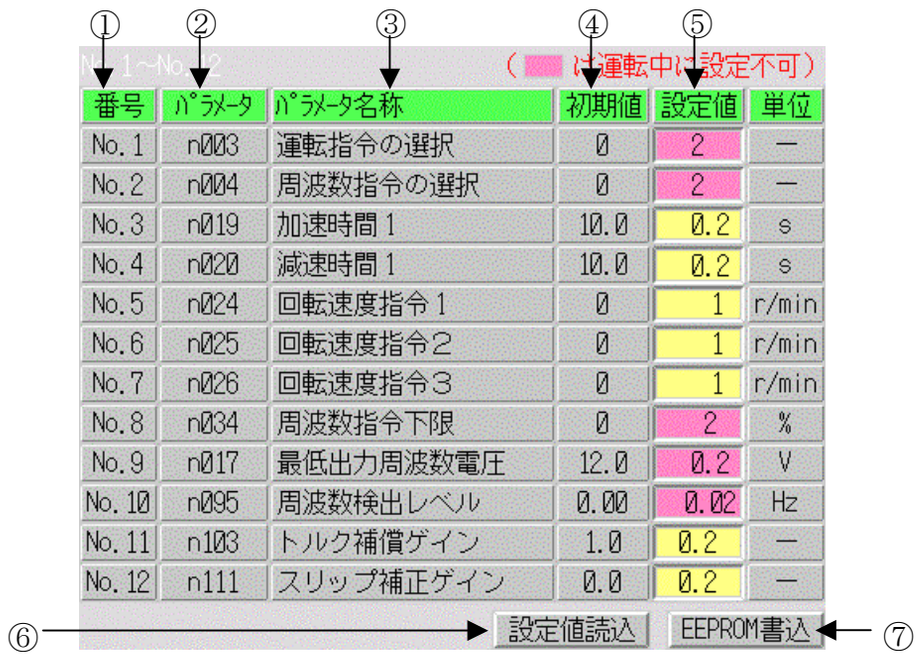
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.4 パラメータ No.1～12(r/min 単位)

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	パラメータ No.1～12(r/min 単位)
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]、999番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、インバータ3G3MVのパラメータ定数No. n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】 r/min 単位以外を選択していた場合は、パラメータ n024～n026 の値が正常に表示されません。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

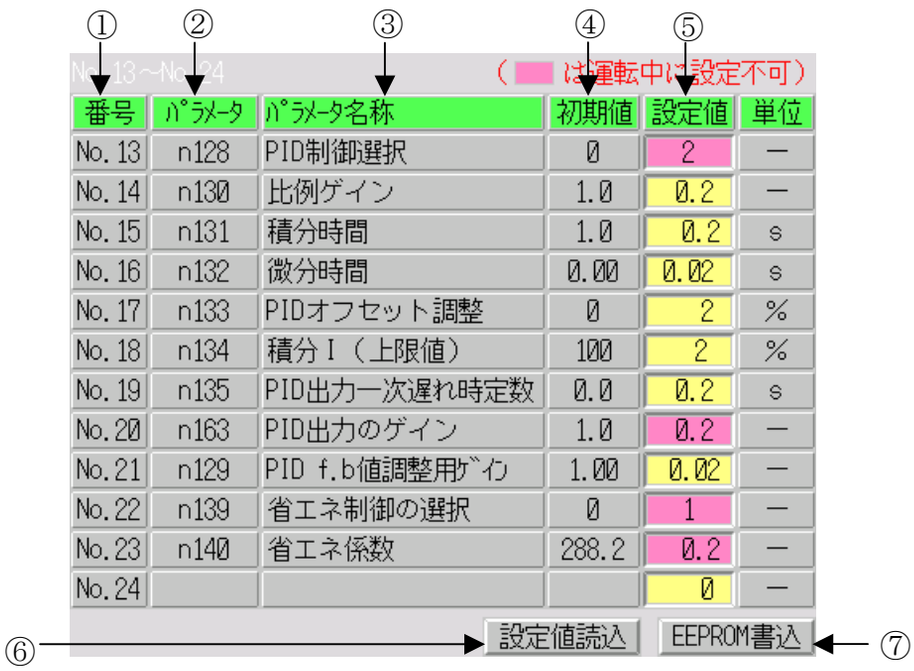
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.5 パラメータ No.13～24

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	パラメータ No.13～24
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

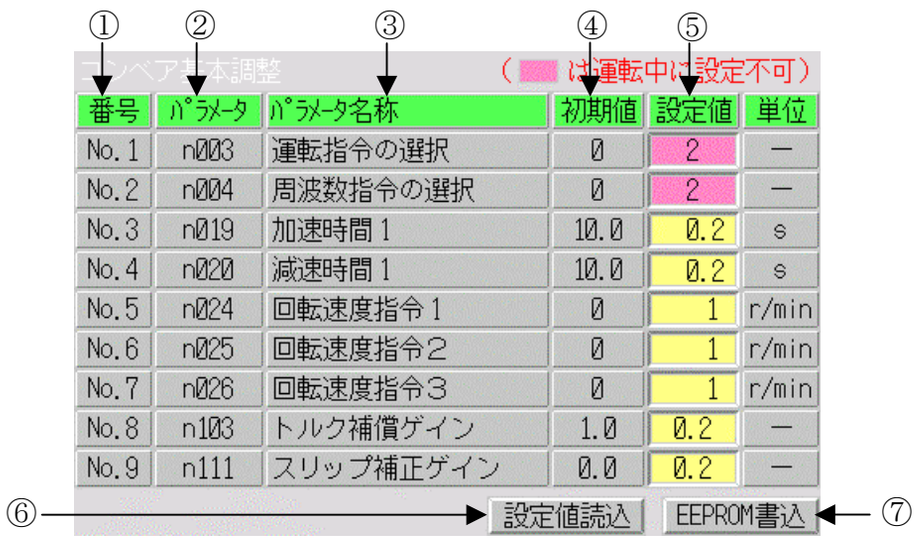
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.6 コンベア基本調整(r/min 単位)

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	コンベア基本調整(r/min 単位)
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。コンベアの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、インバータ3G3MVのパラメータ定数No. n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】 r/min 単位以外を選択していた場合は、パラメータ n024～n026 の値が正常に表示されません。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.7 ファン／ポンプ基本調整（r/min 単位）

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	ファン/ポンプ基本調整(r/min 単位)
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、インバータ3G3MVのパラメータ定数No. n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】 r/min 単位以外を選択していた場合は、パラメータ n024～n026 の値が正常に表示されません。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.8 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整(r/min 単位)

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	ファン/ポンプ基本+省エネ調整(r/min 単位)
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータ及び、省エネに関するパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、インバータ3G3MVのパラメータ定数No. n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】 r/min 単位以外を選択していた場合は、パラメータ n024～n026 の値が正常に表示されません。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

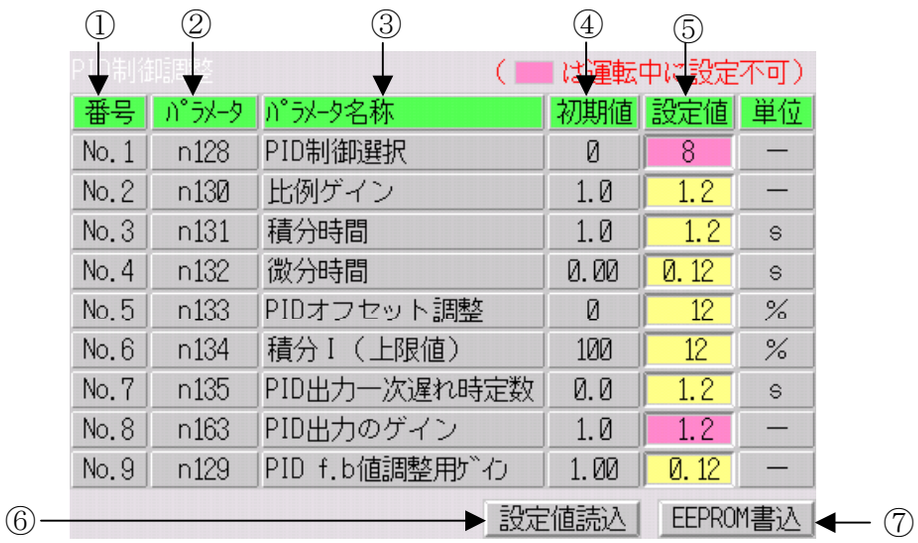
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.9 PID 制御調整

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	PID 制御調整
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。PID 制御に使用されるパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.10 昇降機基本調整(r/min 単位)

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3MV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥シリアル接続¥パラメータ調整	昇降機基本調整(r/min 単位)
3G3MV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。昇降機の制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。

【備考】

※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]、999番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、インバータ3G3MVのパラメータ定数No. n035[周波数指令設定／参照の単位選択]で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、n035=2～39(モータ極数を設定)】 r/min 単位以外を選択していた場合は、パラメータ n024～n026 の値が正常に表示されません。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

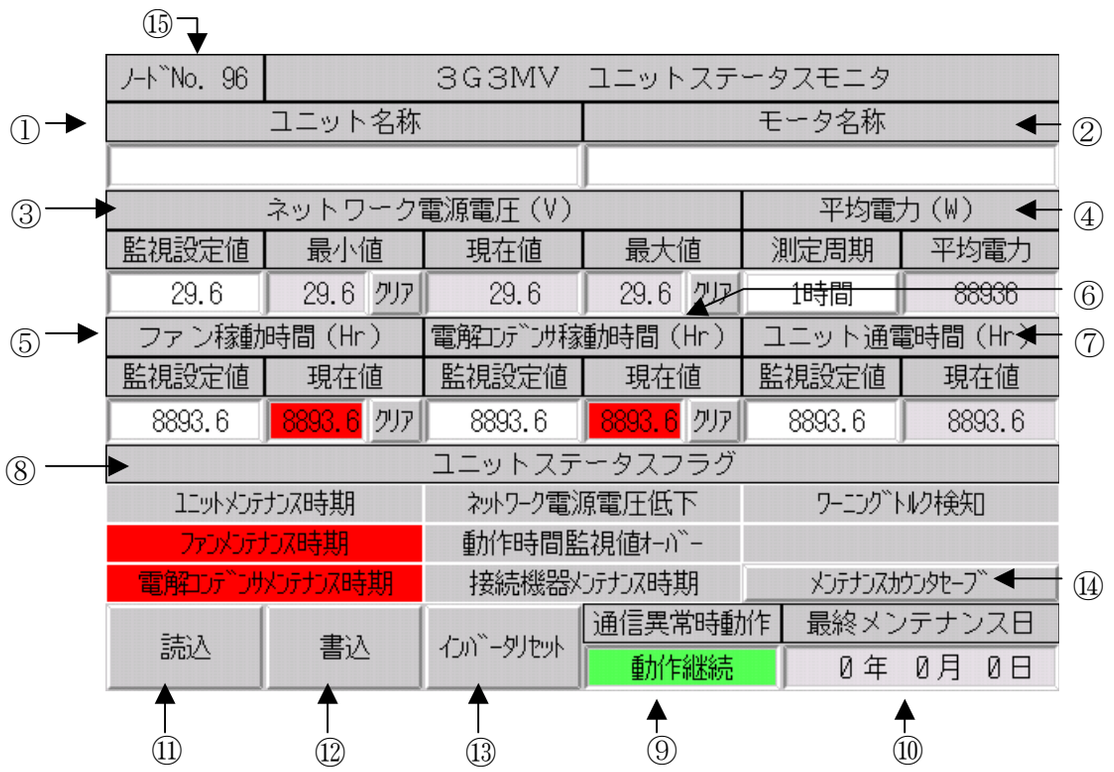
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.11 ユニットステータスモニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	ユニットステータスモニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 のユニットステータスのモニタ、パラメータの設定をします。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ユニット名称	設/表	ユニットに設定されているユニット名称を表示します。また、ユニット名称を書き換えることが可能です。
②	モータ名称	設/表	ユニットに設定されているモータ名称を表示します。また、モータ名称を書き換えることが可能です。
③	ネットワーク電源電圧	設/表	ネットワーク電源電圧の監視設定値、最小値、現在値、最大値を表示します。 監視設定値を設定することが可能です。最小値と最大値は、クリア釦を押下すると値をゼロクリアすることが可能です。現在値が監視設定値を下回ると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ネットワーク電源電圧低下」が赤色点灯します。
④	平均電力	設/表	測定周期設定値、平均電力計算値を表示します。 測定周期の設定(10 分、30 分、1 時間のいずれか)を変更することが可能です。
⑤	ファン稼動時間	設/表	ファン稼動時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。クリア釦を押下すると現在値をゼロクリアできます。また、現在値も設定することが可能です。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ファンメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑥	電解コンデンサ稼動時間	設/表	電解コンデンサ稼動時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。クリア釦を押下すると現在値をゼロクリアできます。また、現在値も設定することが可能です。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「電解コンデンサメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑦	ユニット通電時間	設/表	ユニット通電時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。なお、現在値は設定できません。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ユニットメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑧	ユニットステータスフラグ	表示	ユニットステータスフラグを表示します。ステータス異常のときは、赤色に点灯します。 各項目の詳細はユニットのマニュアル(番号 SBCE-320)を御参照ください。
⑨	通信異常時動作	設/表	DeviceNet通信異常時に、モータ動作を停止するか／継続するかの選択を表示します。釦を押下すると、動作停止／動作継続の選択が可能です。
⑩	最終メンテナンス日	表示	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。 書き換えることは出来ません。
⑪	読込	設定	押下することにより①～⑩のユニットステータスを一括で読み込みます。

⑫	書込	設定	ユニット名称、モータ名称、ネットワーク電源電圧監視設定値、平均電力測定周期選択、ユニット通電時間監視設定値、ファン稼動時間監視設定値/現在値設定、電解コンデンサ稼働時間監視設定値/現在値設定、通信異常時動作選択を書き込みます。
⑬	インバータリセット	設定	平均電力測定周期の設定を変更した時のみ、書込ボタンを押下した後に必ずこのボタンを押下してください。(インバータのソフトウェアリセットを行います)
⑭	メンテナンスカウンタセーブ	設定	メンテナンスカウンタ情報(ユニット通電時間、ファン稼働時間、電解コンデンサ稼働時間、各入出力端子のメンテナンスカウンタ値)を、DeviceNet通信ユニットのEEPROMに書き込みます。
⑮	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ ユニット名称、モータ名称、ネットワーク電源電圧監視設定値、平均電力測定周期選択、ユニット通電時間監視設定値、ファン稼働時間監視設定値/現在値設定、電解コンデンサ稼働時間監視設定値/現在値設定、通信異常時動作選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押し下げて、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

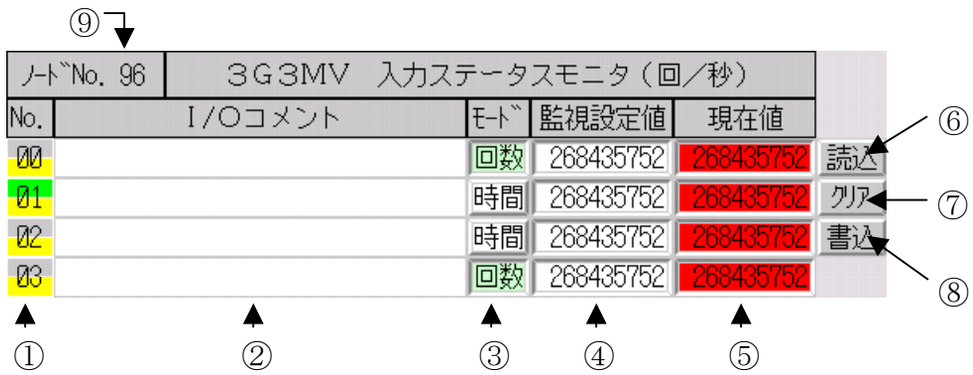
※ メンテナンスカウンタ情報は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押し下げてください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.12 入力ステータスモニタ(00～03)

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	入力ステータスモニタ(00～03)
機能	入力端子 00～03(端子 S1～S4)のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は入力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各入力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各入力端子に設定されているメンテナンスモード(時間/回数)の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	読込	設定	入力端子の ON/OFF 状態、I/Oコメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値、現在値を一括で読み込みます。
⑦	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値を一括で書き込みます。
⑨	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

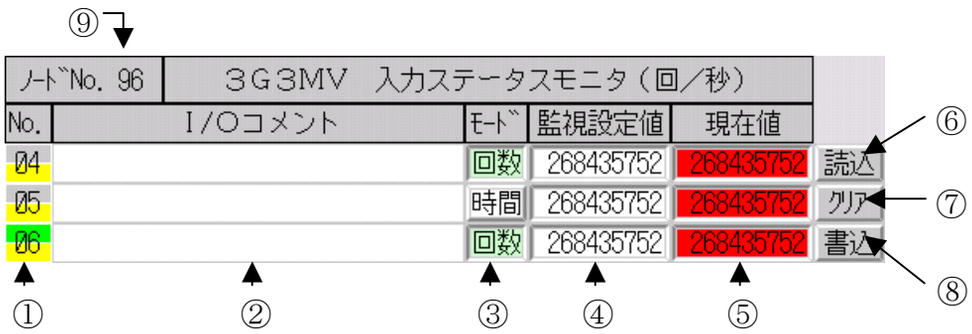
※ メンテナンスカウンタ値(接点動作回数、ON積算時間)は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」Smart Active Parts(SAP ライブラリ)内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.13 入力ステータスモニタ(04～06)

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	入力ステータスモニタ(04～06)
機能	入力端子 04～06(端子 S5～S7)のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は入力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各入力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各入力端子に設定されているメンテナンスモード(時間/回数)の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	読込	設定	入力端子の ON/OFF 状態、I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値、現在値を一括で読み込みます。
⑦	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値を一括で書き込みます。
⑨	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

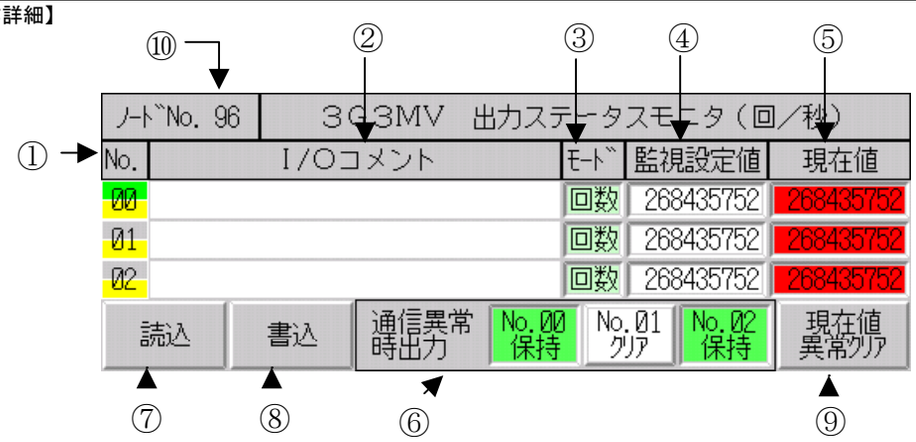
※ メンテナンスカウンタ値(接点動作回数、ON積算時間)は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」Smart Active Parts(SAP ライブラリ)内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.14 出力ステータスモニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	出力ステータスモニタ
機能	出力端子 00～02（端子 MA/MB、P1、P2）のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は出力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各出力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各出力端子に設定されているメンテナンスモード（時間/回数）の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	通信異常時出力	設/表	DeviceNet通信異常が発生した場合に、出力端子の状態を保持するか／クリアするかの選択を表示します。釦を押下することで、保持／クリアの選択ができます。
⑦	読込	設定	データを一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値設定、通信異常時出力選択を一括で書き込みます。
⑨	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑩	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、スレーブ側のリモートI／O機能の選択は、コネクションパスの設定で「制御入出力リモートI／O」を選択してください。他のリモートI／O機能を選択した場合には、出力ステータスの設定／モニタができません。

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値設定、通信異常時出力選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

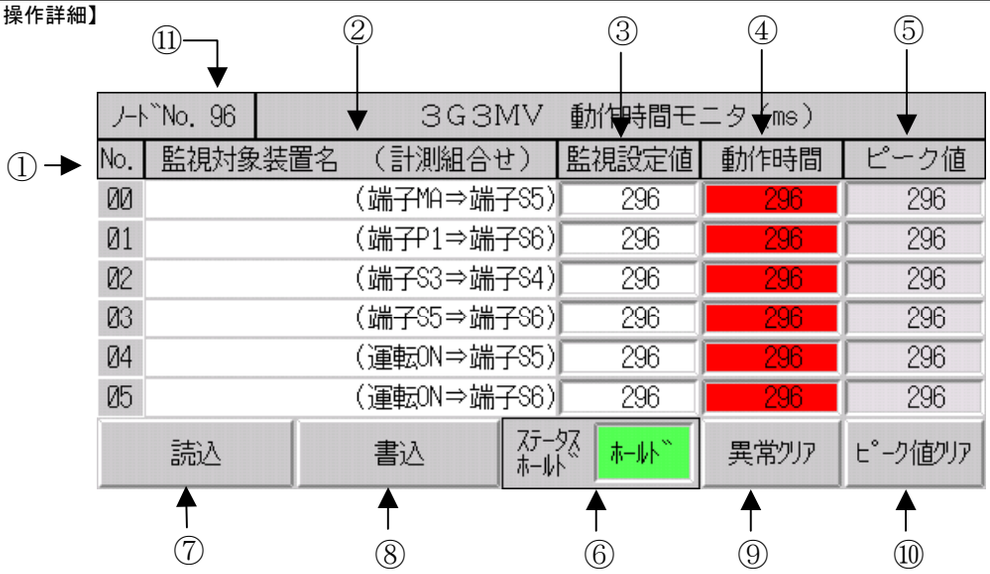
※ メンテナンスカウンタ値（接点動作回数、ON積算時間）は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」SAP ライブラリ内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.15 動作時間モニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	動作時間モニタ
機能	3G3MVに接続されている機器(モータや周辺機器)の動作時間の表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当No.を表示すると共に、動作時間モニタ異常クリアまたはピーク値クリアをする対象を、ランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	監視対象装置名	設/表	各監視対象装置名として設定されているコメントを表示します。設定が可能です。
③	監視設定値	設/表	動作時間監視設定値を表示します。設定することも可能です。
④	動作時間	表示	動作時間を表示します。動作時間が監視設定値を越えている場合には動作時間モニタ監視異常を検出して、表示欄が赤色に点灯します。
⑤	ピーク値	表示	動作時間のピーク値を表示します。
⑥	ステータスホールド	設/表	動作時間モニタ監視異常を検出した場合、その状態をホールドするか、毎回その状態をクリア(更新)するかの選択を表示します。釦を押下することで、ホールド／クリアの選択ができます。
⑦	読込	設定	No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値、動作時間、ピーク値データおよびステータスホールド選択を一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値およびステータスホールド選択を一括で書き込みます。
⑨	異常クリア	設定	No. 表示がランプ点灯している項目の動作時間監視モニタ異常をクリアします。
⑩	ピーク値クリア	設定	No. 表示がランプ点灯している項目のピーク値をゼロクリアします。
⑪	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値およびステータスホールド選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

※ 監視設定値の設定範囲は、0～65535(ms)です。

※ No. 00(端子 MA⇒端子 S5)およびNo. 01(端子 P1⇒端子 S6)の動作時間モニタは、スレーブ側のリモートI／O機能の選択が「制御入出力リモートI／O」のときのみ有効となります。他のリモートI／O機能を選択している場合にはモニタができません。

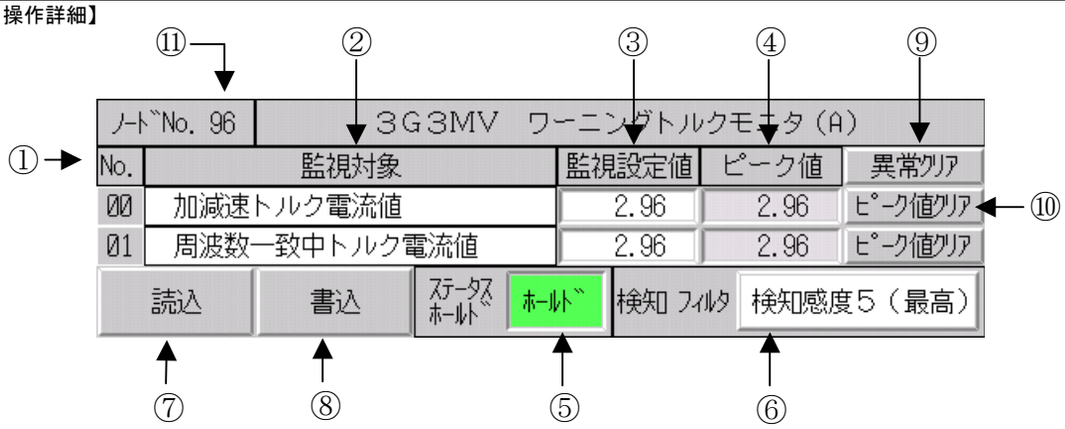
※ 「異常クリアボタン」は、「ステータスホールド」をホールドしている場合に有効となります。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.16 ワーニングトルクモニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	ﾜｰﾆﾝｸﾞﾄﾙｸﾓﾆﾀ
機能	インバータの電流(トルク)値で、負荷側の異常状態を監視する機能で、監視値の設定、電流ピーク値表示をします。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	表示	監視対象の No.を表示します。
②	監視対象	表示	監視対象名を表示します。
③	監視設定値	設/表	加減速中の出力電流の監視設定値、周波数一致中(等速運転中)の出力電流の監視設定値を表示します。設定することも可能です。
④	ピーク値	表示	加減速中の電流ピーク値、周波数一致中の電流ピーク値を表示します。 電流値が監視値を越えている場合にはワーニングトルクモニタ監視異常を検出して、表示欄が赤色に点灯します。
⑤	ステータスホールド	設/表	ワーニングトルクモニタ監視異常を検出した場合、その状態をホールドするか、毎回その状態をクリア(更新)するかの選択を表示します。釦を押下することで、ホールド／クリアの選択ができます。
⑥	検知フィルタ	設/表	一時的な監視値オーバーを検出しないようにするための検知感度設定状態を表示します。釦を押下すると、検知感度1(最低)から検知感度5(最高)までの5通りのフィルタから検知感度を選択できます。
⑦	読込	設定	No. 00-01 分のワーニングトルク電流監視設定値、ピーク値データおよびステータスホールド選択、検知フィルタ選択を一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	No. 00-01 分のワーニングトルク電流監視設定値およびステータスホールド選択、検知フィルタ選択を一括で書き込みます。
⑨	異常クリア	設定	ピーク値表示欄が赤色に点灯している項目のワーニングトルクモニタ監視異常をクリアします。(クリアされると赤色が消灯します。)
⑩	ピーク値クリア	設定	各ピーク値をゼロクリアします。
⑪	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ No. 00～01分のワーニングトルク電流監視設定値およびステータスホールド選択、検知フィルタ選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押し下げて、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

※ 監視設定値の設定範囲は、0.00～6553.5(A)です。

※ 監視設定値に“0.00(A)”を設定した場合、ワーニングトルクの検出は行いません。

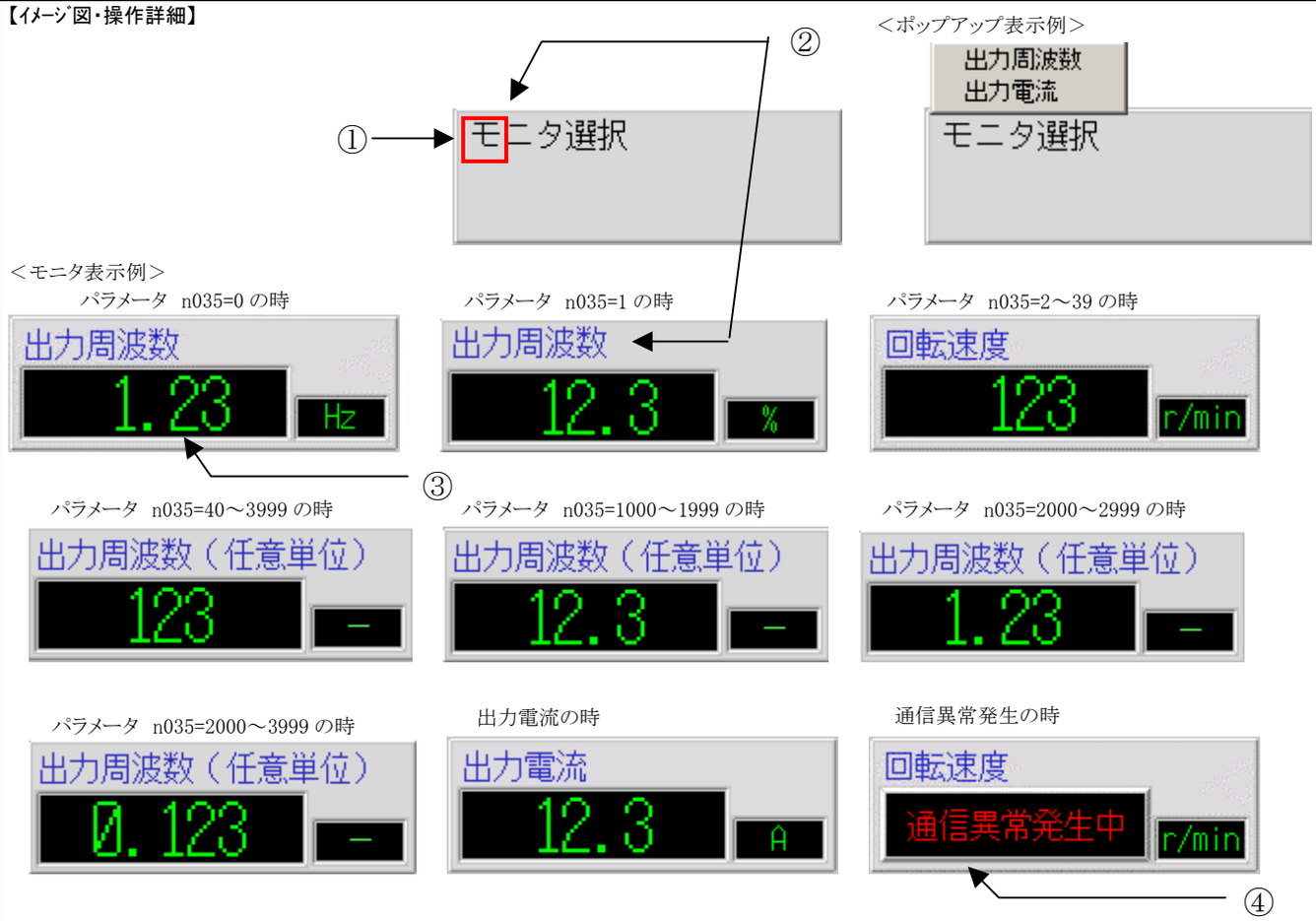
※ 検知感度 5(最高)は、フィルタをかけない設定です。検知感度 1(最低)は、サンプリングした電流値の5回の平均値(移動平均)を検出値とする設定です。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.17 出力周波数／出力電流モニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥モニタ	タイトル	出力周波数／出力電流モニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ の出力周波数／出力電流をモニタします。モニタ項目がポップアップメニュー機能で選択できます。出力周波数のモニタは、パラメータ定数 No.n035［周波数指令設定／参照の単位選択］に従って、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。出力モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3MVから出力周波数／出力電流の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレス は[SerialA:WR00511.15]となっています。
②	モニタ選択	設／表	「モニタ選択」または表示されているモニタ名称を押下げると、選択項目がポップアップしますので、表示したいモニタ項目（出力周波数または出力電流）を選択します。
③	出力周波数／出力電流表示	表示	3G3MVから読み出した出力周波数または出力電流を表示します。 出力周波数は、パラメータ定数 No.n035［周波数指令設定／参照の単位選択］に 従って表示単位が自動で変わります。（モニタ表示例参照）
④	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3MVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

5-4 インバータ

【備考】

※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に0.1秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタSAPライブラリ個数と他のSAPライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタSAPライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

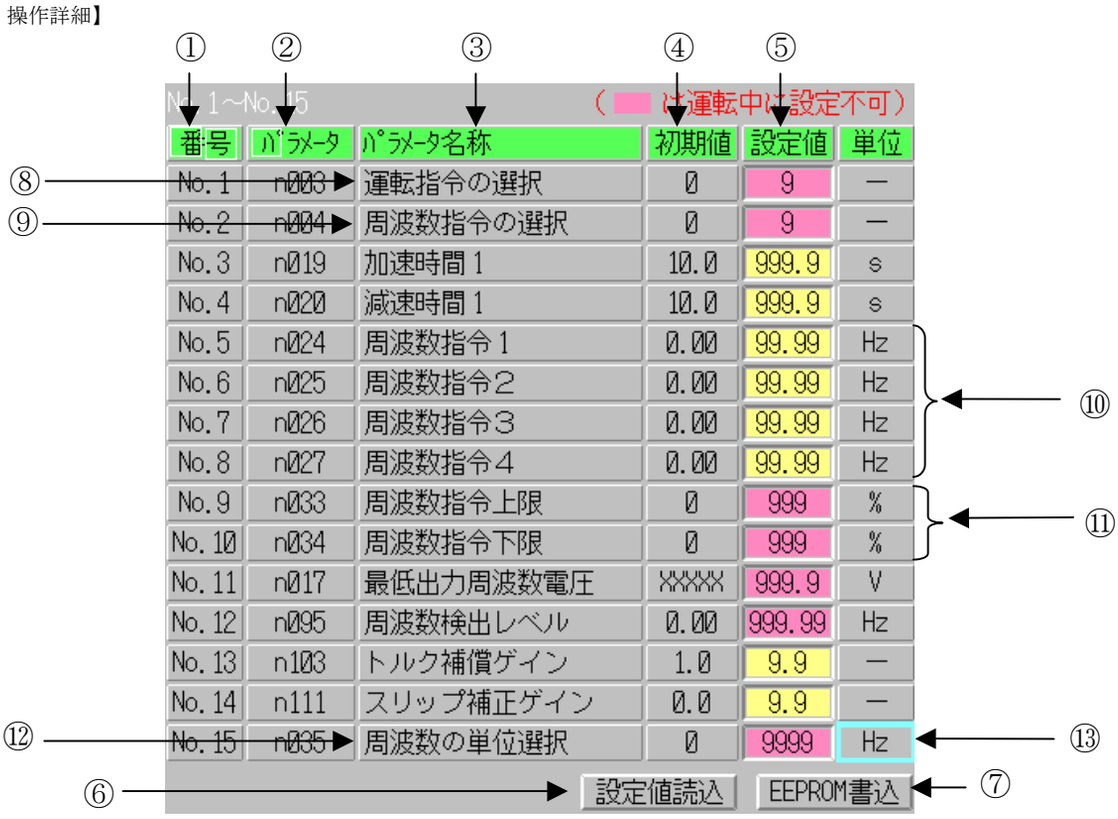
※ 画面上に他のSAPライブラリがあって、そのSAPライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他のSAPライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本SAPライブラリの通信設定は、NSーDesignerでSAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.18 パラメータNo. 1～15

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	パラメータ No.1～15
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。 運転指令の選択、周波数指令の選択および周波数の単位選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行います。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑪で設定された上限値を越える場合、または⑪で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(n034)≦指令設定値≦上限値(n033)≦最高出力周波数(n011)
⑪	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。

⑫	周波数指令の設定／表示の単位選択	設/表	「周波数の単位選択」を押下げると、周波数指令の設定／表示の単位項目がポップアップしますので単位を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。r／min単位を選択した場合は、4（極）を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。また、任意単位設定を選択した場合は、40を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。
⑬	単位表示	表示	⑫で選択した単位を表示します。 Hz　：Hz単位表示　　%　：%単位表示 r／min　：r／min単位表示　　－　：任意単位表示

【備考】

※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10万回です。

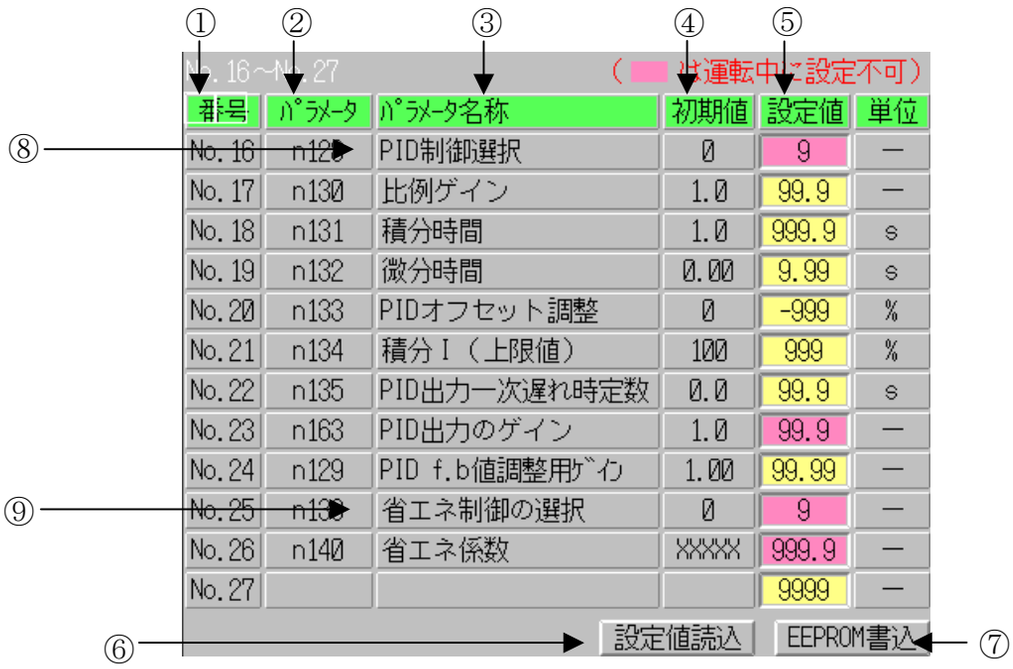
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル（SBCE－303□）を参照してください。

※ 本SAPライブラリの通信設定は、NS－Designerで SAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.19 パラメータNo. 16～27

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	パラメータ No.16～27
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。PID制御選択および省エネ制御の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	PID制御選択	設定	「PID制御選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますのでPID制御方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	省エネ制御の選択	設定	「省エネ制御の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので省エネ制御の有効／無効を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.20 コンベア基本調整

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	コンベア基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。コンベアの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行います。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑪で設定された上限値を越える場合は、メッセージが表示されますので、上限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(n034)≦指令設定値≦上限値(n033)≦最高出力周波数(n011)
⑪	周波数指令上限	設/表	周波数指令値の上限値を設定します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.21 ファン／ポンプ基本調整

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	ファン/ポンプ基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑪で設定された上限値を越える場合、または⑪で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(n034)≦指令設定値≦上限値(n033)≦最高出力周波数(n011)
⑪	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.22 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	ファン/ポンプ+省エネ基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータ及び、省エネに関するパラメータを抽出しています。運転指令の選択、周波数指令の選択および省エネ制御の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、％単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



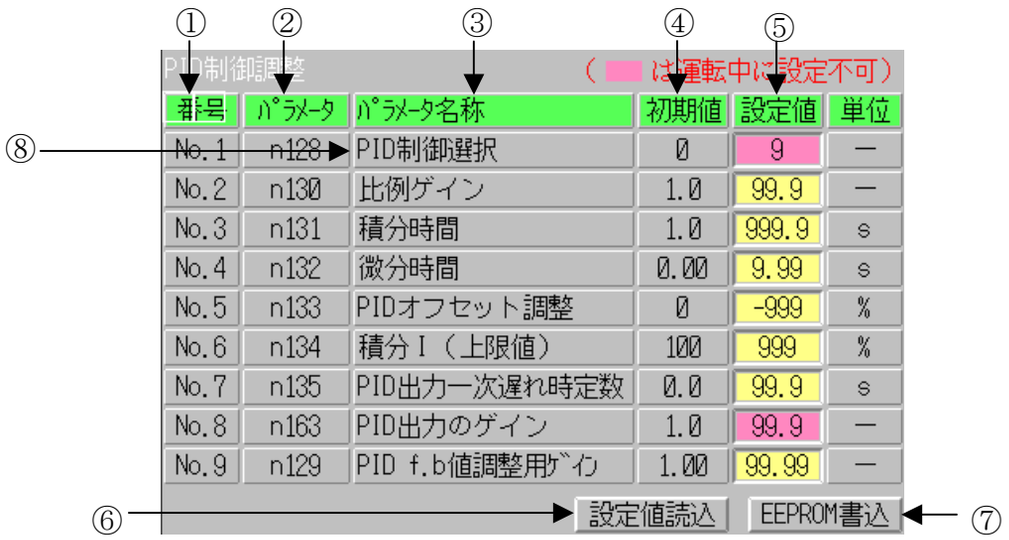
番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑪で設定された上限値を越える場合、または⑪で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(n034)≦指令設定値≦上限値(n033)≦最高出力周波数(n011)
⑪	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。
⑫	省エネ制御の選択	設定	「省エネ制御の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので省エネ制御の有効／無効を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】
※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。
※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10万回です。
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。
※ 本SAPライブラリの通信設定は、NS－Designerで SAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.23 PID制御調整

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	PID 制御調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。PID 制御に使用されるパラメータを抽出しています。 PID制御選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	PID制御選択	設定	「PID制御選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますのでPID制御方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.24 昇降機基本調整

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	昇降機基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ のパラメータ調整が可能です。昇降機の制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑨	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑪で設定された上限値を越える場合、または⑪で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(n034)≦指令設定値≦上限値(n033)≦最高出力周波数(n011)
⑪	周波数指令上限	設/表	周波数指令値の上限値を設定します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

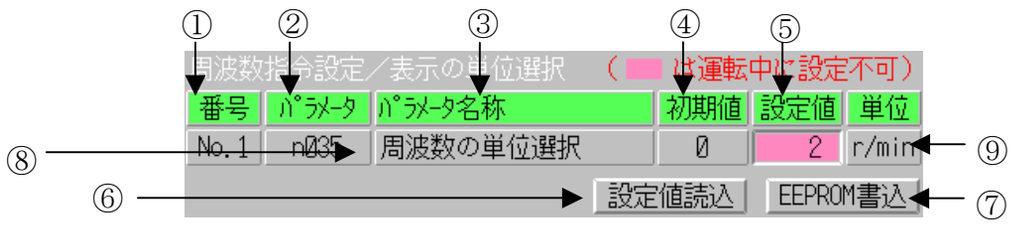
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.25 周波数指令設定／表示の単位選択

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	周波数指令設定／表示の単位選択
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ の周波数指令設定／表示の単位選択が可能です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑧	周波数指令の設定／表示の単位選択	設/表	「周波数の単位選択」を押下げると、周波数指令の設定／表示の単位項目がポップアップしますので単位を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。r／min単位を選択した場合は、4(極)を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。また、任意単位設定を選択した場合は、40を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。
⑨	単位表示	表示	⑧で選択した単位を表示します。 Hz ： Hz単位表示　　% ： %単位表示 r／min ： r／min単位表示　　－ ： 任意単位表示

【備考】

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

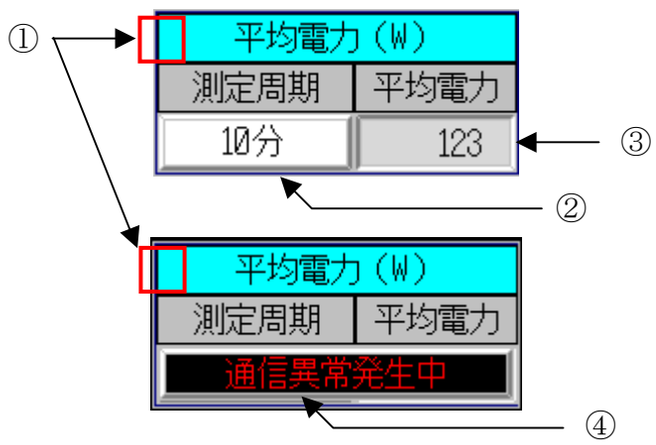
※ パラメータの詳細は、3G3MVのユーザーズマニュアル(SBCE－303□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-1.26 平均電力モニタ

ユニット種別	3G3MV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3MV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	平均電力モニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3MV-PDRT2 により接続された、多機能小型インバータ SYSDRIVE 形 3G3MV シリーズ の平均電力のモニタが可能です。				

【イメージ図・操作詳細】



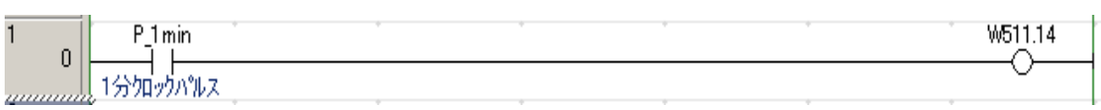
番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3MVから平均電力の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレス は[SerialA:WR00511.14]となっています。
②	測定周期	表示	測定周期の設定（10 分、30 分、1 時間のいずれか）を表示します。
③	平均電力	表示	平均電力計算値を表示します。
④	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3MVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ 平均電力モニタは、このライブラリが表示されているときのみモニタ数値の更新を行います。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.14]に

※ 1 分クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ Smart Active Parts(SAP ライブラリ)個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

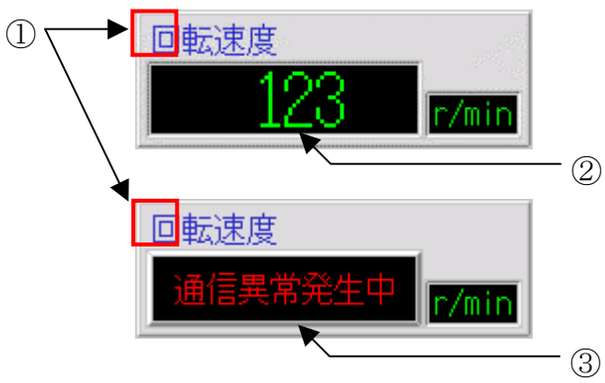
※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-.2 3G3RV

5-4-2.1 回転速度モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥モニタ	回転速度モニタ
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥モニタ	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ の回転速度をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3RVから回転速度の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.15 ］となっています。
②	回転速度表示	表示	3G3RVから読み出した回転速度を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3RVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読み出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、3G3RVのパラメータ定数No. o1-03［周波数指令設定／表示の単位］で、r/min 単位を選択してください。【具体的には、o1-03=2～39（モータ極数を設定）】

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

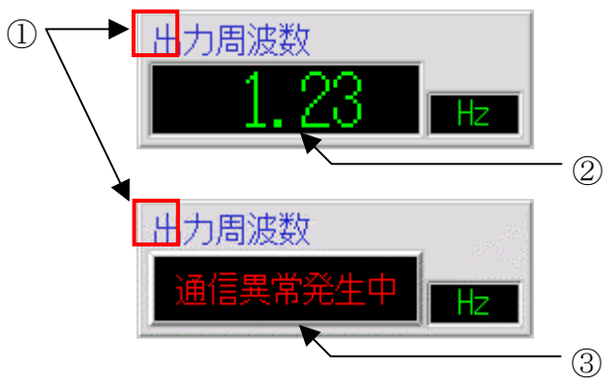
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.2 出力周波数モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥モニタ	出力周波数モニタ
3G3RV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥モニタ	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ の出力周波数をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3RVから出力周波数の読み出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON/OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.15 ］となっています。
②	出力周波数表示	表示	3G3RVから読み出した出力周波数を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3RVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読み出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、3G3RVのパラメータ定数No. o1-03[周波数指令設定／表示の単位]で、

※ 0.01Hz 単位(出荷時初期値)を選択してください。【具体的には o1-03=0】

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に0.1秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

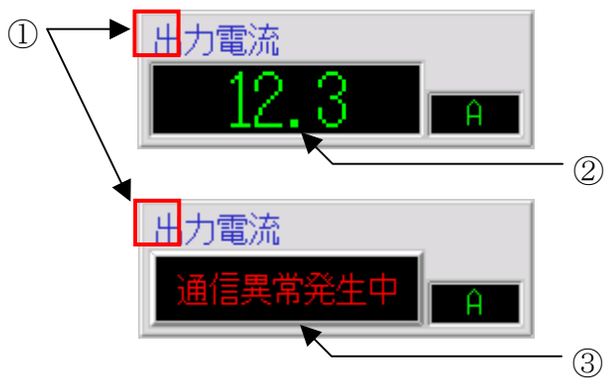
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.3 出力電流モニタ

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥モニタ	出力電流モニタ
3G3RV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥モニタ	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ の出力電流をモニタします。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3RVから出力電流の読み出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.15 ］となっています。
②	出力電流表示	表示	3G3RVから読み出した出力電流を表示します。
③	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3RVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読み出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ SAP ライブラリ個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.4 パラメータ No.1～12(Hz 単位)

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥パラメータ調整	パラメータ No.1～12(Hz 単位)
3G3RV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、3G3RVのパラメータ定数 No.o1-03[周波数指令設定／表示の単位]で、0.01Hz 単位(出荷時初期値)を選択してください。【具体的には、o1-03=0】 0.01Hz 単位以外を選択していた場合は、パラメータ d1-01～d1-03 の値が正常に表示されません。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.5 パラメータ No.13～24

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥パラメータ調整	パラメータ No.13～24
3G3RV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.6 ファン／ポンプ基本調整（Hz 単位）

ユニット種別	インストール先	タイトル
3G3RV	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥シリアル接続¥パラメータ調整	ファン/ポンプ基本調整(Hz 単位)
3G3RV-PDRT2	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	
機能	シリアル接続または DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。	

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称（内容）を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値（3G3RV出荷時設定）を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ この SAP ライブラリを使用する際には、3G3RVのパラメータ定数 No.o1-03[周波数指令設定／表示の単位]で、0.01Hz 単位（出荷時初期値）を選択してください。【具体的には、o1-03=0】　0.01Hz 単位以外を選択していた場合は、パラメータ d1-01～d1-03 の値が正常に表示されません。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

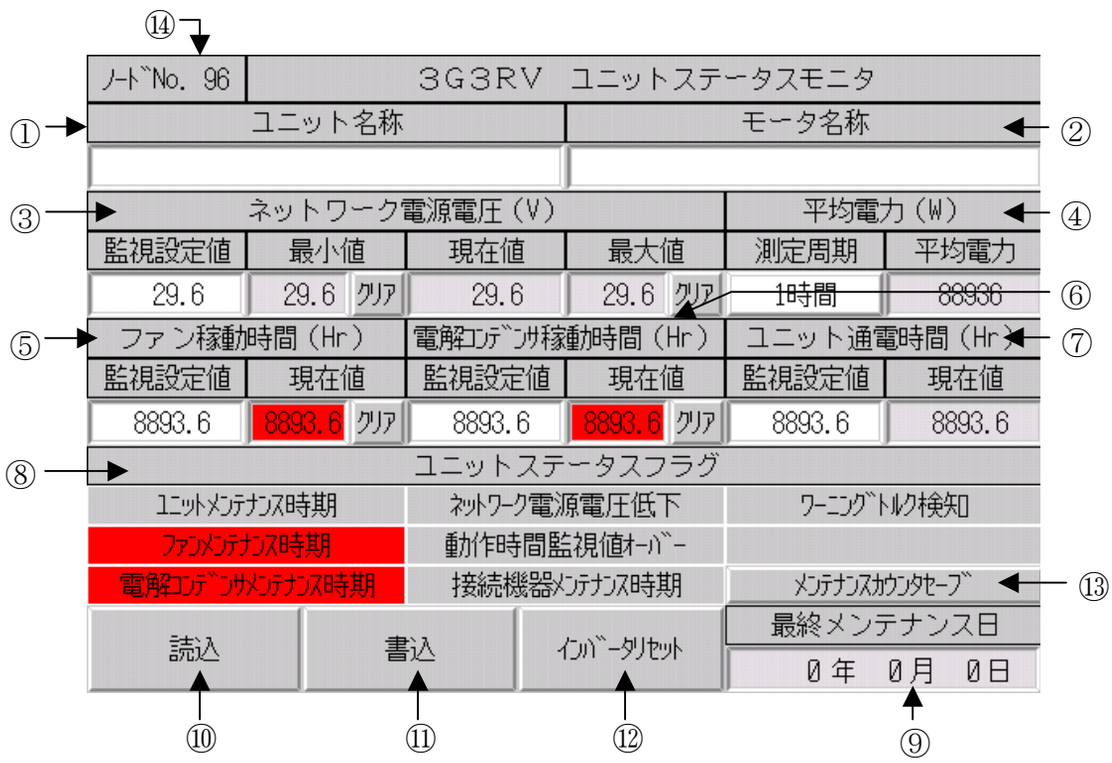
※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル（SBCE－320□）を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.7 ユニットステータスモニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	ユニットステータスモニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 のユニットステータスのモニタ、パラメータの設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ユニット名称	設/表	ユニットに設定されているユニット名称を表示します。また、ユニット名称を書き換えることが可能です。
②	モータ名称	設/表	ユニットに設定されているモータ名称を表示します。また、モータ名称を書き換えることが可能です。
③	ネットワーク電源電圧	設/表	ネットワーク電源電圧の監視設定値、最小値、現在値、最大値を表示します。 監視設定値を設定することが可能です。最小値と最大値は、クリア釦を押下すると値をゼロクリアすることが可能です。現在値が監視設定値を下回ると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ネットワーク電源電圧低下」が赤色点灯します。
④	平均電力	設/表	測定周期設定値、平均電力計算値を表示します。 測定周期の設定（10 分、30 分、1 時間のいずれか）を変更することが可能です。
⑤	ファン稼動時間	設/表	ファン稼動時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。クリア釦を押下すると現在値をゼロクリアできます。また、現在値も設定することが可能です。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ファンメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑥	電解コンデンサ稼動時間	設/表	電解コンデンサ稼動時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。クリア釦を押下すると現在値をゼロクリアできます。また、現在値も設定することが可能です。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「電解コンデンサメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑦	ユニット通電時間	設/表	ユニット通電時間の監視設定値、現在値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。なお、現在値は設定できません。現在値が監視設定値を越えると、現在値表示欄が赤色点灯し、ユニットステータスフラグ欄の「ユニットメンテナンス時期」が赤色点灯します。
⑧	ユニットステータスフラグ	表示	ユニットステータスフラグを表示します。ステータス異常のときは、赤色に点灯します。 各項目の詳細はユニットのマニュアル（番号 SBCE-320）を御参照ください。
⑨	最終メンテナンス日	表示	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。 書き換えることは出来ません。
⑩	読込	設定	押下することにより①～⑩のユニットステータスを一括で読み込みます。

⑪	書込	設定	ユニット名称、モータ名称、ネットワーク電源電圧監視設定値、平均電力測定周期選択、ユニット通電時間監視設定値、ファン稼動時間監視設定値/現在値設定、電解コンデンサ稼働時間監視設定値/現在値設定、通信異常時動作選択を書き込みます。
⑫	インバータリセット	設定	平均電力測定周期の設定を変更した時のみ、書込ボタンを押下した後に必ずこのボタンを押下してください。(インバータのソフトウェアリセットを行います)
⑬	メンテナンスカウンタセーブ	設定	メンテナンスカウンタ情報(ユニット通電時間、ファン稼働時間、電解コンデンサ稼働時間、各入出力端子のメンテナンスカウンタ値)を、DeviceNet通信ユニットのEEPROMに書き込みます。
⑭	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※ ユニット名称、モータ名称、ネットワーク電源電圧監視設定値、平均電力測定周期選択、ユニット通電時間監視設定値、ファン稼働時間監視設定値/現在値設定、電解コンデンサ稼働時間監視設定値/現在値設定、通信異常時動作選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押し下げて、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

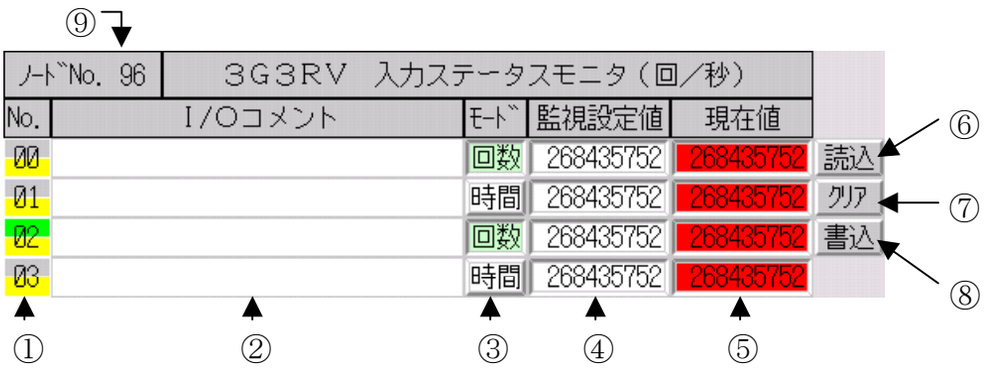
※ メンテナンスカウンタ情報は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押し下げてください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.8 入力ステータスモニタ(00～03)

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	入力ステータスモニタ(00～03)
機能	入力端子 00～03(端子 S1～S4)のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は入力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各入力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各入力端子に設定されているメンテナンスモード(時間/回数)の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	読込	設定	入力端子の ON/OFF 状態、I/Oコメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値、現在値を一括で読み込みます。
⑦	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値を一括で書き込みます。
⑨	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

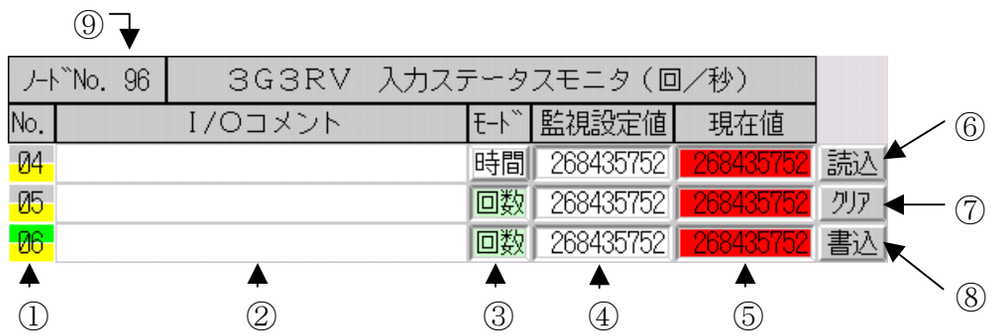
※ メンテナンスカウンタ値(接点動作回数、ON積算時間)は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」Smart Active Parts(SAP ライブラリ)内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.9 入力ステータスモニタ(04～06)

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	入力ステータスモニタ(04～06)
機能	入力端子 04～06(端子 S5～S7)のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は入力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各入力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各入力端子に設定されているメンテナンスモード(時間/回数)の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	読込	設定	入力端子の ON/OFF 状態、I/Oコメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値、現在値を一括で読み込みます。
⑦	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値を一括で書き込みます。
⑨	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

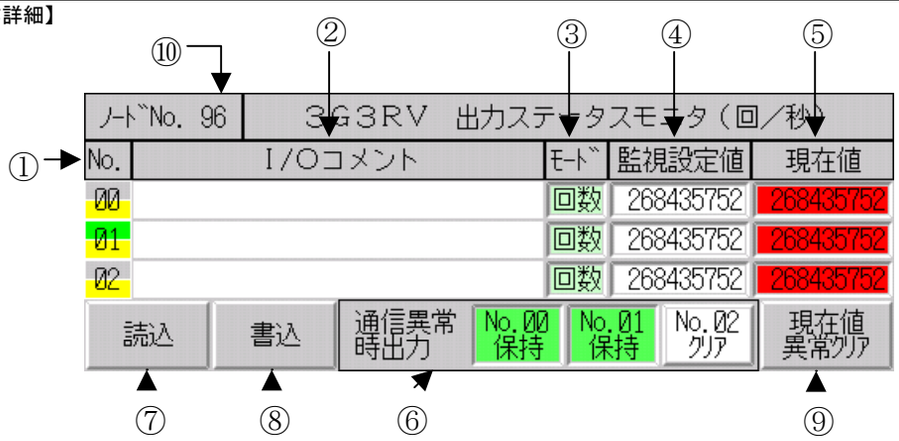
※ メンテナンスカウンタ値(接点動作回数、ON積算時間)は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」Smart Active Parts(SAP ライブラリ)内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.10 出力ステータスモニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	出力ステータスモニタ
機能	出力端子 00～02（端子 M1/M2、P1、P2）のステータスの表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当 No.を表示すると共に、下段は出力端子の ON/OFF 状態をランプ表示します。 上段はメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアする対象をランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	I/O コメント	設/表	各出力端子に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各出力端子に設定されているメンテナンスモード（時間/回数）の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	監視設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。 現在値が監視設定値を越えている場合には、表示欄が赤色に点灯します。
⑥	通信異常時出力	設/表	DeviceNet通信異常が発生した場合に、出力端子の状態を保持するか／クリアするかの選択を表示します。釦を押下することで、保持／クリアの選択ができます。
⑦	読込	設定	データを一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値設定、通信異常時出力選択を一括で書き込みます。
⑨	クリア	設定	No. 表示の上段がランプ点灯している項目のメンテナンスカウンタ現在値をゼロクリアします。
⑩	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、スレーブ側のリモートI／O機能の選択は、コネクションパスの設定で「制御入出力リモートI／O」を選択してください。他のリモートI／O機能を選択した場合には、出力ステータスの設定／モニタができません。

※ I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値設定、通信異常時出力選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

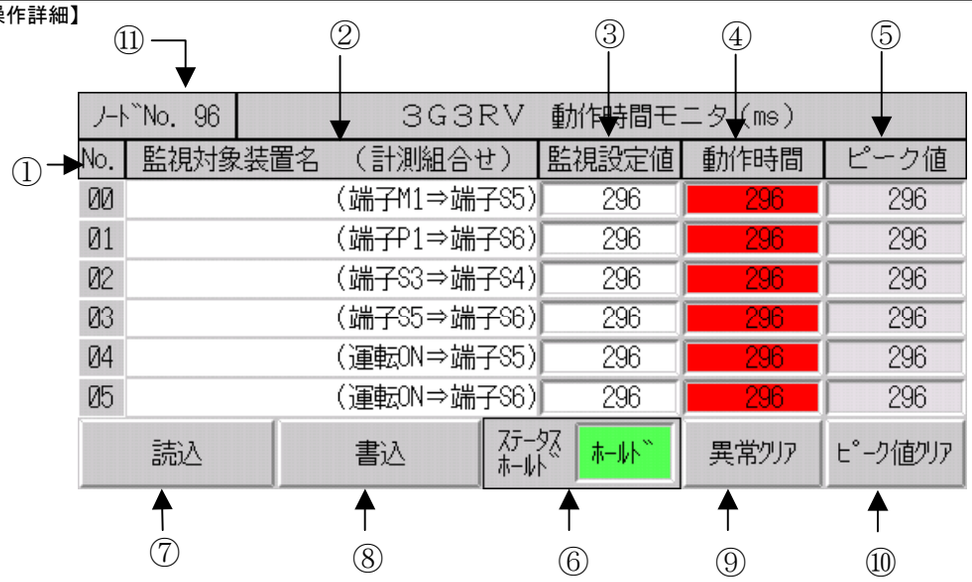
※ メンテナンスカウンタ値（接点動作回数、ON積算時間）は、約6分ごとにDeviceNet通信ユニット内のEEPROMに書き込まれます。このため、電源OFFのタイミングによっては、最大約6分間分のデータが失われることになります。より厳密に監視したい場合は、「ユニットステータスモニタ」SAP ライブラリ内の「メンテナンスカウンタセーブ」釦を電源OFFの直前に押下してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.11 動作時間モニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	動作時間モニタ
機能	3G3RVに接続されている機器(モータや周辺機器)の動作時間の表示、設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	設/表	該当No.を表示すると共に、動作時間モニタ異常クリアまたはピーク値クリアをする対象を、ランプ表示します。 選択状態は該当No. を押下するたびに変化します。
②	監視対象装置名	設/表	各監視対象装置名として設定されているコメントを表示します。設定が可能です。
③	監視設定値	設/表	動作時間監視設定値を表示します。設定することも可能です。
④	動作時間	表示	動作時間を表示します。動作時間が監視設定値を越えている場合には動作時間モニタ監視異常を検出して、表示欄が赤色に点灯します。
⑤	ピーク値	表示	動作時間のピーク値を表示します。
⑥	ステータスホールド	設/表	動作時間モニタ監視異常を検出した場合、その状態をホールドするか、毎回その状態をクリア(更新)するかの選択を表示します。釦を押下することで、ホールド／クリアの選択ができます。
⑦	読込	設定	No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値、動作時間、ピーク値データおよびステータスホールド選択を一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値およびステータスホールド選択を一括で書き込みます。
⑨	異常クリア	設定	No. 表示がランプ点灯している項目の動作時間監視モニタ異常をクリアします。
⑩	ピーク値クリア	設定	No. 表示がランプ点灯している項目のピーク値をゼロクリアします。
⑪	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ No. 00～05分の監視対象装置名、動作時間監視設定値およびステータスホールド選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押下して、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

※ 監視設定値の設定範囲は、0～65535(ms)です。

※ No. 00(端子 M1⇒端子 S5)およびNo. 01(端子 P1⇒端子 S6)の動作時間モニタは、スレーブ側のリモートI／O機能の選択が「制御入出力リモートI/O」のときのみ有効となります。他のリモートI/O 機能を選択している場合にはモニタができません。

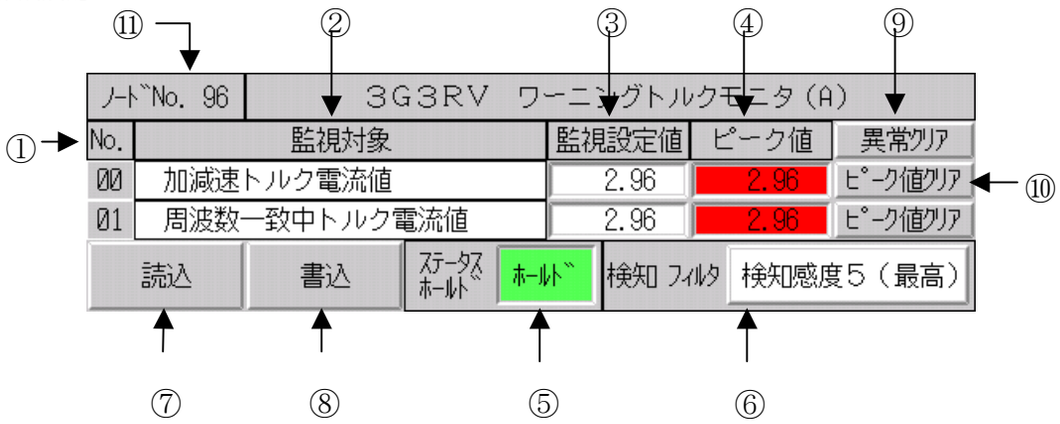
※ 「異常クリアボタン」は、「ステータスホールド」をホールドしている場合に有効となります。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.12 ワーニングトルクモニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	ﾜｰﾆﾝｸﾞﾄﾙｸﾓﾆﾀ
機能	インバータの電流(トルク)値で、負荷側の異常状態を監視する機能で、監視値の設定、電流ピーク値表示をします。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	No.	表示	監視対象の No.を表示します。
②	監視対象	表示	監視対象名を表示します。
③	監視設定値	設/表	加減速中の出力電流の監視設定値、周波数一致中(等速運転中)の出力電流の監視設定値を表示します。設定することも可能です。
④	ピーク値	表示	加減速中の電流ピーク値、周波数一致中の電流ピーク値を表示します。 電流値が監視値を越えている場合にはワーニングトルクモニタ監視異常を検出して、表示欄が赤色に点灯します。
⑤	ステータスホールド	設/表	ワーニングトルクモニタ監視異常を検出した場合、その状態をホールドするか、毎回その状態をクリア(更新)するかの選択を表示します。釦を押下することで、ホールド／クリアの選択ができます。
⑥	検知フィルタ	設/表	一時的な監視値オーバーを検出しないようにするための検知感度設定状態を表示します。釦を押下すると、検知感度1(最低)から検知感度5(最高)までの5通りのフィルタから検知感度を選択できます。
⑦	読込	設定	No. 00-01 分のワーニングトルク電流監視設定値、ピーク値データおよびステータスホールド選択、検知フィルタ選択を一括で読み込みます。
⑧	書込	設定	No. 00-01 分のワーニングトルク電流監視設定値およびステータスホールド選択、検知フィルタ選択を一括で書き込みます。
⑨	異常クリア	設定	ピーク値表示欄が赤色に点灯している項目のワーニングトルクモニタ監視異常をクリアします。(クリアされると赤色が消灯します。)
⑩	ピーク値クリア	設定	各ピーク値をゼロクリアします。
⑪	ノードNo.	表示	ユニットに設定されているノードNo. を表示します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ No. 00～01分のワーニングトルク電流監視設定値およびステータスホールド選択、検知フィルタ選択などの設定変更を行うときは、必ず「読込」釦を押し下げて、ユニットに設定されている現在の設定情報を読み出してから設定変更してください。例えばDeviceNet通信ネットワーク上にConfiguratorが有って、Configuratorから設定変更がされていた場合には、NSでの表示内容とユニットの設定内容が不一致となっている場合があり、NS側から誤った設定値に書き換えてしまうことがあります。

※ 監視設定値の設定範囲は、0.00～6553.5(A)です。

※ 監視設定値に“0.00(A)”を設定した場合、ワーニングトルクの検出は行いません。

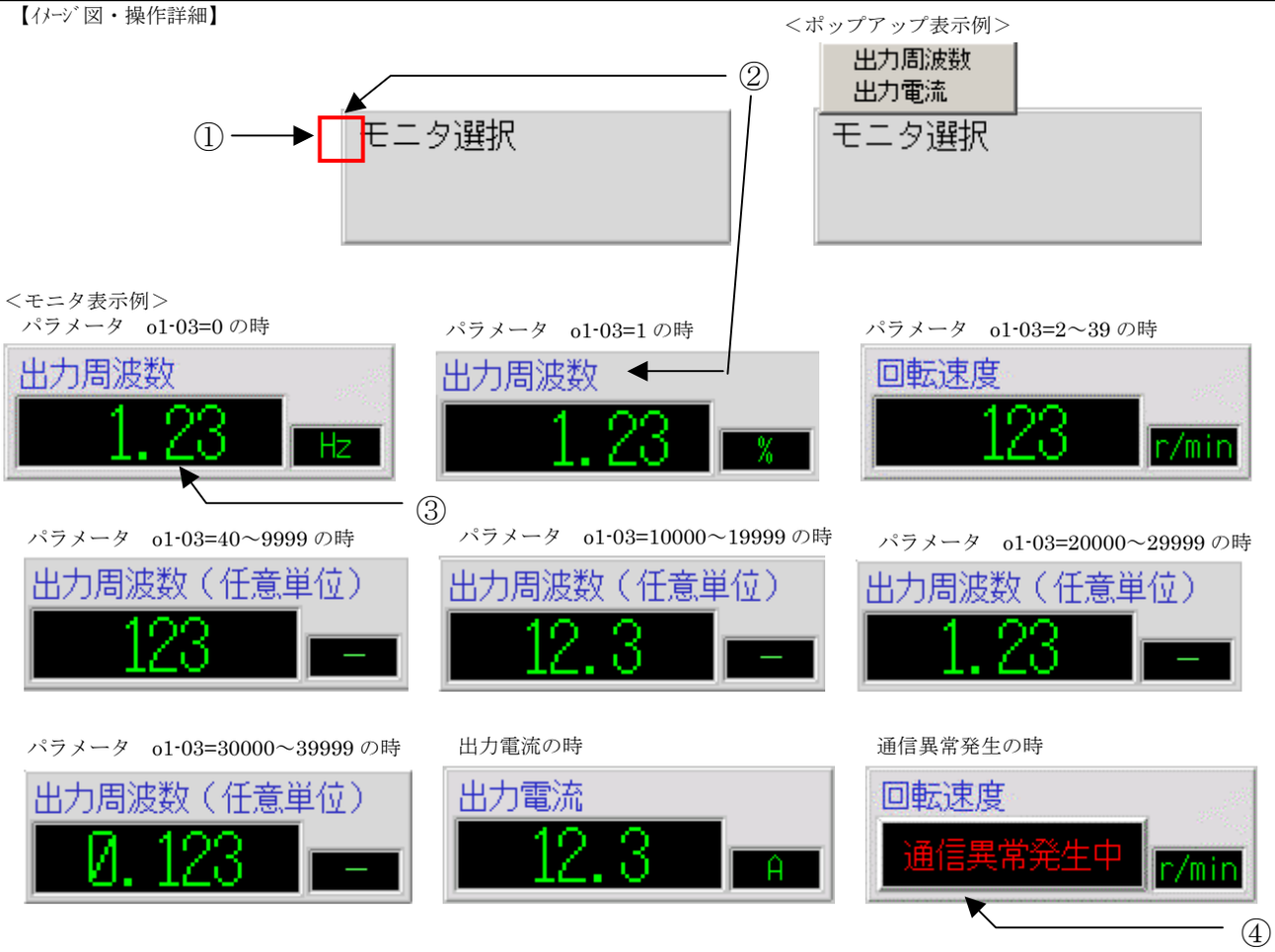
※ 検知感度 5(最高)は、フィルタをかけない設定です。検知感度 1(最低)は、サンプリングした電流値の5回の平均値(移動平均)を検出値とする設定です。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.13 出力周波数／出力電流モニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥モニタ	タイトル	出力周波数／出力電流モニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ の出力周波数／出力電流をモニタします。モニタ項目がポップアップメニュー機能で選択できます。出力周波数のモニタは、パラメータ定数 No.o1-03[周波数指令設定／表示の単位選択]に従って、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。モニタ周期は、PLC側のプログラムとの組み合わせで調整可能です。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



内容	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3RVから回転速度の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.15 ］になっています。
②	モニタ選択	設／表	「モニタ選択」または表示されているモニタ名称を押下げると、選択項目がポップアップしますので、表示したいモニタ項目（出力周波数または出力電流）を選択します。
③	出力周波数／出力電流表示	表示	3G3RVから読み出した出力周波数または出力電流を表示します。 出力周波数は、パラメータ定数 No.o1-03[周波数指令設定／表示の単位選択]に従って表示単位が自動で変わります。（モニタ表示例参照）
④	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3RVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

5-4 インバータ

【備考】

※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に0.1秒クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタSAPライブラリ個数と他のSAPライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタSAPライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。

※ 画面上に他のSAPライブラリがあって、そのSAPライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他のSAPライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。

※ 本SAPライブラリの通信設定は、NSーDesignerでSAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.14 パラメータNo. 1～15

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥モニタ	タイトル	パラメータ No.1～15
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。 運転指令の選択、周波数指令の選択および周波数の単位選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。
⑨	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑪	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑫で設定された上限値を越える場合、または⑫で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(d2-02)≦指令設定値≦上限値(d2-01)≦最高出力周波数(E1-04)
⑫	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。

⑬	周波数指令の設定／表示の単位選択	設/表	「周波数の単位選択」を押下げると、周波数指令の設定／表示の単位項目がポップアップしますので単位を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。r／min単位を選択した場合は、4(極)を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。また、任意単位設定を選択した場合は、40を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。
⑭	単位表示	表示	⑬で選択した単位を表示します。 Hz　：Hz単位表示　　%　：%単位表示 r／min　：r／min単位表示　　－　：任意単位表示

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.15 パラメータNo. 16～27

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	パラメータ No.16～27
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。パラメータ全体から主要な一部のパラメータを抽出しています。PID制御選択および省エネ制御の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。
⑨	PID制御選択	設定	「PID制御選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますのでPID制御方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	省エネ制御の選択	設定	「省エネ制御の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので省エネ制御の有効／無効を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.16 コンベア基本調整

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	コンベア基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。コンベアの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行います。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑨	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑪	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑫で設定された上限値を越える場合は、メッセージが表示されますので、上限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(d2-02)≦指令設定値≦上限値(d2-01)≦最高出力周波数(E1-04)
⑫	周波数指令上限	設/表	周波数指令値の上限値を設定します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3MVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROM書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 設定値有効ボタンを押すまでは、変更した値が本体の動作に反映されません。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.17 ファン／ポンプ基本調整

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	ファン/ポンプ基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。
⑨	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑪	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑫で設定された上限値を越える場合、または⑫で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(d2-02)≦指令設定値≦上限値(d2-01)≦最高出力周波数(E1-04)
⑫	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]に、998 番の倍率を[0.001]にしてください。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.18 ファン／ポンプ基本＋省エネ調整

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	ファン/ポンプ+省エネ基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。ファン／ポンプの制御に使用される基本的なパラメータ及び、省エネに関するパラメータを抽出しています。運転指令の選択、周波数指令の選択および省エネ制御の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



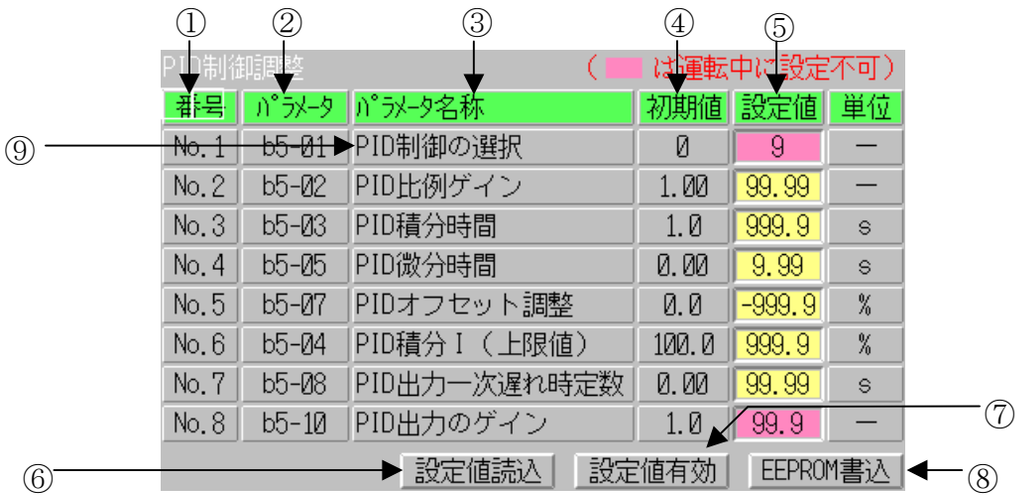
番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。
⑨	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑪	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑫で設定された上限値を越える場合、または⑫で設定された下限値未満の場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(d2-02)≦指令設定値≦上限値(d2-01)≦最高出力周波数(E1-04)
⑫	周波数指令上限／下限	設/表	周波数指令値の上限値と下限値を設定します。
⑬	省エネ制御の選択	設定	「省エネ制御の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので省エネ制御の有効／無効を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】
※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。
※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。
※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10万回です。
※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。
※ 本SAPライブラリの通信設定は、NS－Designerで SAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.19 PID制御調整

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	PID 制御調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。PID 制御に使用されるパラメータを抽出しています。 PID制御選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込み、本体の動作に反映させます。
⑨	PID制御選択	設定	「PID制御選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますのでPID制御方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]に、999 番の倍率を[0.01]にしてください。

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.20 昇降機基本調整

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	昇降機基本調整
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズ のパラメータ調整が可能です。昇降機の制御に使用される基本的なパラメータを抽出しています。 運転指令の選択および周波数指令の選択については、選択項目がポップアップしますのでパラメータ設定が簡単にできます。周波数指令の設定では、Hz単位、%単位、r／min単位のほか任意単位設定にも対応しています。周波数の単位選択で設定した単位に応じて、設定範囲の上下限チェックと設定単位の表示を行ないます。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3RV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	各パラメータの初期値(3G3RV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	各パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑨	運転指令の選択	設定	「運転指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑩	周波数指令の選択	設定	「周波数指令の選択」を押下げると、選択項目がポップアップしますので指令方法を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。
⑪	多段速の周波数指令設定値	設/表	設定値は、周波数指令の設定／表示の単位選択で選択された単位で表示されます。(Hz ： Hz単位表示、 % ： %単位表示、 r／min ： r／min単位表示 － ： 任意単位表示) 設定値が、⑫で設定された上限値を越える場合は、メッセージが表示されますので、上下限範囲内の値を設定します。有効な周波数指令の設定値は次の範囲内となります。 0≦下限値(d2-02)≦指令設定値≦上限値(d2-01)≦最高出力周波数(E1-04)
⑫	周波数指令上限	設/表	周波数指令値の上限値を設定します。

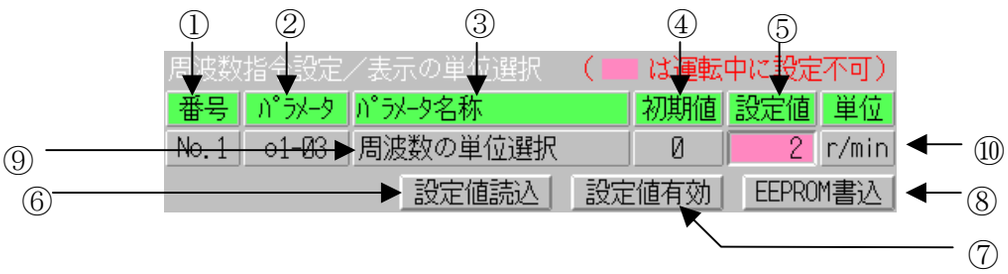
5-4 インバータ

【備考】
※ このSmart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000番の倍率を[0.1]に、999番の倍率を[0.01]に、998番の倍率を[0.001]にしてください。
※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させ、パラメータ調整します。
※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10万回です。
※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。
※ 本SAPライブラリの通信設定は、NS－Designerで SAPライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.21 周波数指令設定／表示の単位選択

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥パラメータ調整	タイトル	周波数指令設定／表示の単位選択
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズの周波数指令設定／表示の単位選択が可能です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	パラメータ項目番号	表示	パラメータ表の項目番号を表示します。
②	パラメータ定数No.	表示	3G3MV内部に保存されているパラメータ定数No. を表示します。
③	パラメータ名称	表示	パラメータの名称(内容)を表示します。
④	初期値	表示	パラメータの初期値(3G3MV出荷時設定)を表示します。
⑤	設定値	設/表	パラメータの設定値を表示します。押下することで設定値の書き換えが可能です。各設定項目は、書き換えを行った時点で本体の動作に反映されます。
⑥	設定値読込	設定	パラメータの現在設定されている内容を読み出します。
⑦	設定値有効	設定	設定した内容をEEPROMに書き込まないで本体の動作に反映させます。
⑧	EEPROM書込	設定	本体に設定した内容を、EEPROMに書込みます。
⑨	周波数指令の設定／表示の単位選択	設/表	「周波数の単位選択」を押下げると、周波数指令の設定／表示の単位項目がポップアップしますので単位を選択します。選択すると⑤の設定値欄に数字が表示されます。また、直接⑤に設定値を入力してもよいです。r／min単位を選択した場合は、4(極)を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。また、任意単位設定を選択した場合は、40を初期値としています。変更する場合は、⑤の設定値を押下げて入力します。
⑩	単位表示	表示	⑨で選択した単位を表示します。 Hz ： Hz単位表示　　% ： %単位表示 r／min ： r／min単位表示　　－ ： 任意単位表示

【備考】

※ 設定値が確定するまでの間は、設定を書き換えた後「設定値有効」を押して本体の動作に反映させます。

※ 設定を書き換えた後、電源遮断後もデータを記憶したい場合は「EEPROM書込」を行ってください。「EEPROM書込」を行わないまま3G3RVの電源をOFFすると、設定した内容は破棄されます。EEPROMの書込み回数の上限は、10 万回です。

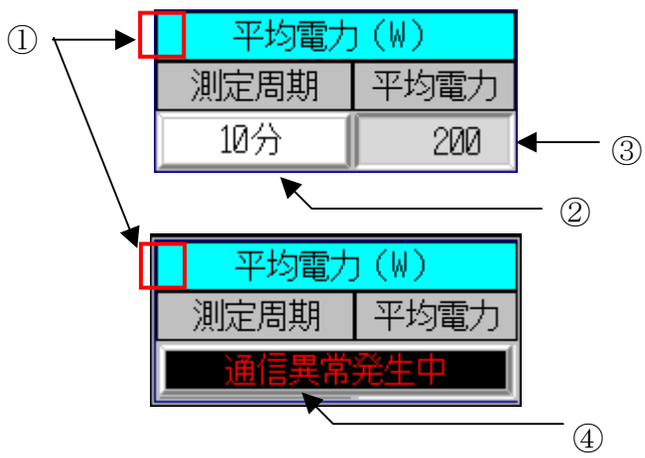
※ パラメータの詳細は、3G3RVのユーザーズマニュアル(SBCE－320□)を参照してください。

※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-4-2.22 平均電力モニタ

ユニット種別	3G3RV-PDRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥インバータ¥3G3RV¥DeviceNet 接続¥DRT2 機能	タイトル	平均電力モニタ
機能	DeviceNet 通信ユニット 形 3G3RV-PDRT2 により接続された、高機能型汎用インバータ SYSDRIVE 形 3G3RV シリーズの平均電力のモニタが可能です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	3G3RVから平均電力の読出しを行うためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割り付けられているアドレスを、PLC側のプログラムでON／OFFすることにより、定期的に値をモニタすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは［ SerialA:WR00511.14 ］になっています。
②	測定周期	表示	測定周期の設定（10 分、30 分、1 時間のいずれか）を表示します。
③	平均電力	表示	平均電力計算値を表示します。
④	通信異常表示	設/表	何らかの原因で3G3RVとの間で通信異常が発生した場合、その状態を表示します。この表示がされている間、読出し処理を行いません。 通信状態の回復が見込まれる場合は、表示部分を押下することで、読出処理を再開します。

【備考】

※ 平均電力モニタは、このライブラリが表示されているときのみモニタ数値の更新を行います。
※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.14 ］に
※ 1 分クロックパルスを割り付けています。



※ 実際のモニタ更新サイクルは、画面上のモニタ Smart Active Parts(SAP ライブラリ)個数と他の SAP ライブラリの動作状況で変化します。画面上のモニタ SAP ライブラリ個数が多くなるほど、更新サイクルは延びます。
※ 画面上に他の SAP ライブラリがあって、その SAP ライブラリが動作中の間はモニタの更新が停止します。他の SAP ライブラリの動作が終了すると、モニタは更新を再開します。
※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

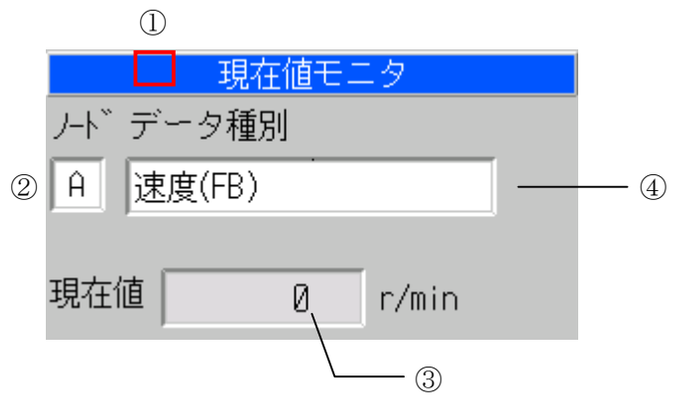
5-5　サーボ

5-5-1 R88D-WT/R7D-AP

5-5-1.1 現在値モニタ

ユニット種別	R88D-WT R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥サーボ¥R88D-WT or R7D-AP¥現在値モニタ	タイトル	現在値モニタ
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ、スマートステップ）の現在値情報を、ノード番号設定しデータ種別を選択することで読出しができます。未接続、通信異常のサーボドライバへの読出しは行われません。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	現在値をリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付けられているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	ノード番号	設定	表示したいノード番号を設定します。
③	現在値	表示	現在値を表示します。
④	データ種別	設定	データ種別を選択し、選択された種別とその単位を表示します。（単位表示は現在値の右側）

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 SAP ライブラリ は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に0.1秒クロックパルスを割り付けています。

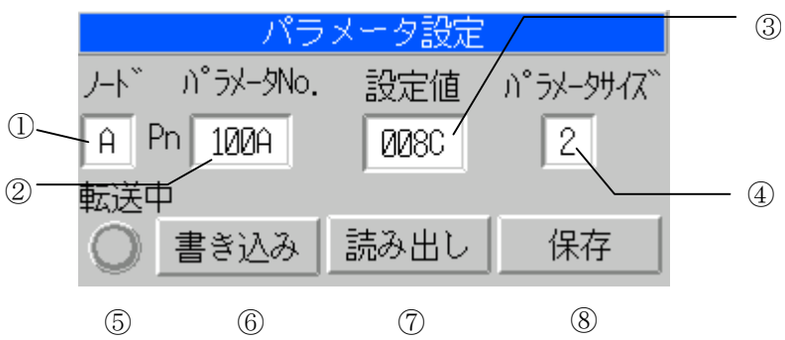


※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-5-1.2 パラメータ設定

ユニット種別	R88D-WT R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥サーボ¥R88D-WT or R7D-AP¥パラメータ設定	タイトル	パラメータ設定
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ、スマートステップ）のパラメータ情報を、ノード番号設定することで読み出し、設定ができます。未接続、通信異常のサーボドライバへの読出し、設定は行われません。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ノード番号	設定	ノード番号を設定します。
②	パラメータ No.	設定	パラメータ No.を設定します。
③	設定値	設/表	読み出したサーボドライバパラメータの設定値を表示します。設定することも可能です。
④	パラメータサイズ	表示	パラメータサイズを表示します。(2固定)
⑤	転送中	表示	通信中に点灯します。
⑥	書き込み	設定	設定値の内容をサーボドライバパラメータ No.の RAM へ書き込みします。 パラメータ No.下3桁のアドレスに設定データを書き込みます
⑦	読み出し	設定	サーボドライバパラメータ No.の内容を RAM あるいは EEPROM から読み出して設定値へ表示します。 パラメータ No.：0xxx（最上位が0）のときは、RAM エリアから読み出します。 1xxx（最上位桁が1）のときは、EEPROM から読み出します。
⑧	保存	設定	設定値の内容をサーボドライバパラメータ No.の EEPROM へ書き込みします。 パラメータ No.下3桁のアドレスに設定データを書き込みます

【備考】

※ スマートステップ盤面のゲイン設定ロータリスイッチが0でないと特定のパラメータはEEPROM書き込みができません。

※ パラメータの詳細は、ユニットのマニュアルを参照してください。

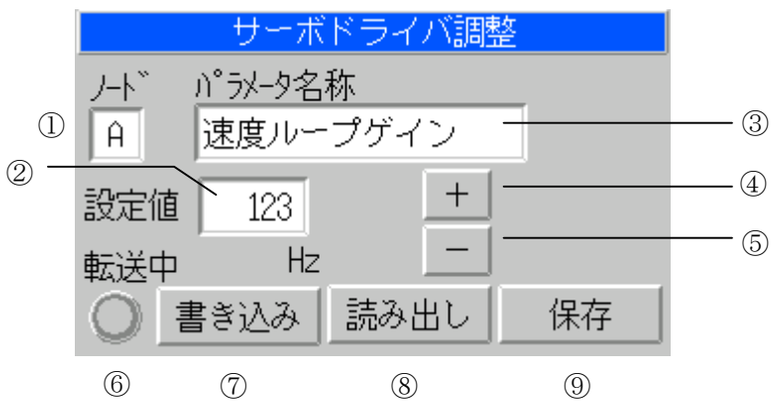
※ 書き込みボタンを押すまでは、設定値が本体の動作に反映されません。

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)の通信設定は、NSーDesigner で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-5-1.3 サーボドライバ調整

ユニット種別	R88D-WT R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥ｻｰﾎﾞ¥R88D-WT or R7D-AP¥ｻｰﾎﾞﾄﾞﾗｲﾊﾞ調整	タイトル	サーボドライバ調整
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ、スマートステップ）のサーボドライバ情報を、ノード番号設定とパラメータ名称選択することで読み出し、設定ができます。未接続、通信異常のサーボドライバへの読み出し、設定は行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ノード番号	設定	ノード番号を設定します。
②	設定値	設/表	読み出したサーボドライバパラメータの設定値を表示します。設定することも可能です。
③	パラメータ名称	設定	パラメータ名称を選択し、選択されたパラメータ名称とその単位を表示します。（単位表示は設定値枠の下側）
④	＋	設定	設定値を増加します。
⑤	－	設定	設定値を減少します。
⑥	転送中	表示	通信中に点灯します。
⑦	書き込み	設定	設定値の内容をサーボドライバパラメータ名称の RAM へ書き込みします。
⑧	読み出し	設定	サーボドライバパラメータ名称の RAM 内容を読み出して設定値へ表示します。
⑨	保存	設定	設定値の内容をサーボドライバパラメータ名称の EEPROM へ書き込みします。

【備考】

※ スマートステップ盤面のゲイン設定ロータリスイッチが0でないと特定のパラメータはEEPROM書き込みができません。

※ パラメータの詳細は、ユニットのマニュアルを参照してください。

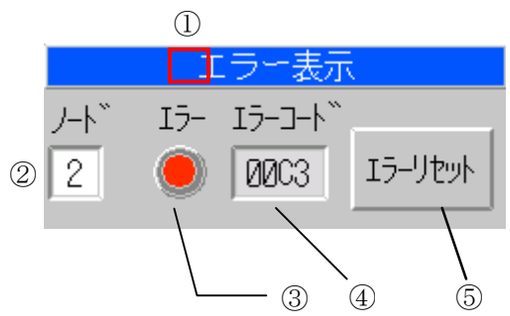
※ 書き込みボタンを押すまでは、設定値が本体の動作に反映されません。

※ 本 Smart Active Parts(SAP ライブラリ)の通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-5-1.4 エラー表示

ユニット種別	R88D-WT R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥ｻｰﾎﾞ¥R88D-WT or R7D-AP¥ｴﾗｰ表示	タイトル	エラー表示
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ、スマートステップ）のエラー情報を、ノード番号設定することで読み出しができます。未接続、通信異常のサーボドライバへの読み出しは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	エラーランプとエラーコードをリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付けられているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	ノード番号	設定	表示したいノード番号を設定します。
③	エラー	表示	エラー発生時に点灯します。
④	エラーコード	表示	エラー発生時にエラーコードを表示します。（正常時は 0000 を表示）
⑤	エラーリセット	設定	サーボドライバの発生中エラーをリセットします。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ) を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 SAP ライブラリは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［SerialA:WR00511.15］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。

※

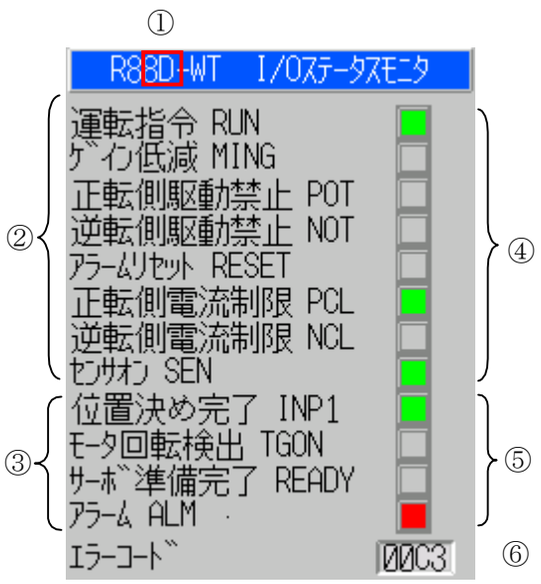


※ 本 SAP ライブラリの通信設定は、NS－Designer で SAP ライブラリのプロパティを開いて設定してください。

5-5-1.5 I/O ステータスモニタ1（本体）

ユニット種別	R88D-WT	インストール先	SmartActiveParts_J¥サーボ¥R88D-WT¥I/O ステータスモニタ	タイトル	I/O ステータスモニタ1（本体）
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ）の I/O ステータスモニタします。未接続、通信異常のサーボドライバへのモニタは行われません。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	I/O ステータスモニタをリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付られているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	入力信号 I/O ステータス名称	表示	入力信号 I/O ステータス名称を表示します。
③	出力信号 I/O ステータス名称	表示	出力信号 I/O ステータス名称を表示します。
④	入力信号 I/O ランプ	表示	入力信号 ON 時に点灯します。 以下の順に割付けされています。

No.	CN の Pin	名称表示
1	CN1-40	Pn50A～Pn50D,Pn513 で割付
2	CN1-41	同上
3	CN1-42	同上
4	CN1-43	同上
5	CN1-44	同上
6	CN1-45	同上
7	CN1-46	同上
8	CN1-4	SEN 固定

<table>
<tr><td>⑤</td><td>出力信号 I/O ステータスランプ</td><td>表示</td><td>出力信号 ON 時に点灯します。
以下の順に割付されています。
<table>
<tr><th>No.</th><th>CN の Pin</th><th>名称表示</th></tr>
<tr><td></td><td>CN1-25</td><td>Pn50E～Pn510 で割付</td></tr>
<tr><td></td><td>CN1-27</td><td>同上</td></tr>
<tr><td></td><td>CN1-29</td><td>同上</td></tr>
<tr><td></td><td>CN11-31</td><td>ALARM 固定</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>エラーコード</td><td>表示</td><td>エラー発生時にエラーコードを表示します。(正常時は 0000 を表示)</td></tr>
</table>

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 SAP ライブラリは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 入出力信号 I/O ステータス名称はサーボドライバパラメータによって可変設定となるため、予め表示したい内容でパラメータ設定してください。但し“センサオン SEN ”と“アラーム ALM”は固定表示となります。

※ 入力信号の設定を変更する場合は、Pn50A.0 を”1”にしてください。

※ 入力信号選択(Pn50A～Pn50D)を変更した場合、その機能を有効にするためには、主回路および制御電源をオフした後、再度電源をオンにする(電源の再投入操作)必要があります。

※ 出力信号(Pn50E～Pn510)は、Pn512.0～Pn512.2 で反転させることができます。

※ パラメータの詳細は、ユニットのマニュアルを参照してください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。

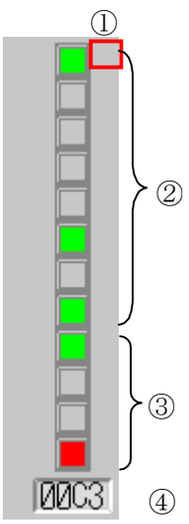


※ このSAPライブラリを使用する際には必ず、通信設定ダイアログ画面の送信先ユニットNo.の設定とともにサーボドライバノードアドレスを設定してください。

5-5-1.6 I/O ステータス1（名称なし）

ユニット種別	R88D-WT	インストール先	SmartActiveParts_J¥サーボ¥R88D-WT¥ I/O ステータスモニタ	タイトル	I/O ステータスモニタ1（名称無し）
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（Wシリーズ）の I/O ステータスモニタします。未接続、通信異常のサーボドライバへのモニタは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	I/O ステータスモニタをリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付けられているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	入力信号 I/O ランプ	表示	入力信号 ON 時に点灯します。
③	出力信号 I/O ステータスランプ	表示	出力信号 ON 時に点灯します。
④	エラーコード	表示	エラー発生時にエラーコードを表示します。（正常時は 0000 を表示）

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 SAP ライブラリは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 入出力信号 I/O ステータス名称はこの画面では表示しませんが、I/O ステータスモニタ1（本体）に表示される同じ内容を想定しているため、I/O ステータスモニタ1（本体）と同じパラメータ設定してください。

※ パラメータの詳細は、ユニットのマニュアルを参照してください。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［ SerialA:WR00511.15 ］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。

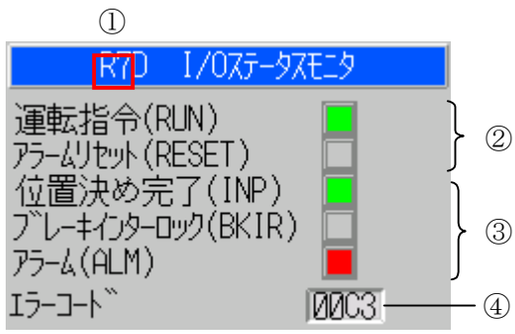


※ このSAPライブラリを使用する際には必ず、通信設定ダイアログ画面の送信先ユニットNo.の設定とともにサーボドライバノードアドレスを設定してください。

5-5-1.7 I/O ステータスモニタ2（本体）

ユニット種別	R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥ｻｰﾎﾞ¥R7D-AP¥ I/O ステータスモニタ	タイトル	I/O ステータスモニタ2（本体）
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（スマートステップ）の I/O ステータスモニタします。未接続、通信異常のサーボドライバへのモニタは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	I/O ステータスモニタをリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付られているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	入力信号 I/O ランプ	表示	入力信号 ON 時に点灯します。
③	出力信号 I/O ステータスランプ	表示	出力信号 ON 時に点灯します。
④	エラーコード	表示	エラー発生時にエラーコードを表示します。（正常時は 0000 を表示）

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 SAP ライブラリは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス［SerialA:WR00511.15］に 0.1 秒クロックパルスを割り付けています。

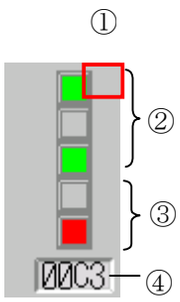


※ このSAPライブラリを使用する際には必ず、通信設定ダイアログ画面の送信先ユニットNo.の設定とともにサーボドライバノードアドレスを設定してください。

5-5-1.8 I/O ステータスモニタ2（名称なし）

ユニット種別	R7D-AP	インストール先	SmartActiveParts_J¥サーボ¥R7D-AP¥ I/O ステータスモニタ	タイトル	I/O ステータスモニタ2（名称無し）
機能	シリアル接続された最大 16 台のサーボドライバ（スマートステップ）の I/O ステータスモニタします。未接続、通信異常のサーボドライバへのモニタは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	トリガ用隠しランプ	表示	I/O ステータスモニタをリフレッシュ表示するためのトリガとなるランプです。本体上では表示されません。ここに割付けられているアドレスを、PLC 側のプログラムで ON/OFF することにより、定期的に表示をリフレッシュすることが出来ます。モニタのサイクルも、PLC 側のプログラムにより決定されますので、画面上にあるこの他の部品による通信負荷量に応じて調整してください。 規定のアドレスは[SerialA:WR00511.15]となっています。 リフレッシュの条件は設定されたノード番号にて正常に通信できた以後となります。 リフレッシュは画面切り替えでも行います。
②	入力信号 I/O ランプ	表示	入力信号 ON 時に点灯します。
③	出力信号 I/O ステータスランプ	表示	出力信号 ON 時に点灯します。
④	エラーコード	表示	エラー発生時にエラーコードを表示します。（正常時は 0000 を表示）

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAPライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して＄SBの「基本動作」をチェックONして下さい。また、SAPライブラリは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 入出力信号 I/O ステータス名称はこの画面では表示しませんが、I/O ステータスモニタ2（本体）に表示される同じ内容です。

※ 下図は定期的に値をモニタするためのPLC側のサンプルプログラムです。規定のアドレス [SerialA:WR00511.15]に0.1秒クロックパルスを割り付けています。



※ この SAP ライブラリを使用する際には必ず、通信設定ダイアログ画面の送信先ユニット No の設定とともにサーボドライバノードアドレスを設定してください。

5-6　温度調節器

5-6-1 温度調節器(E5ZN)

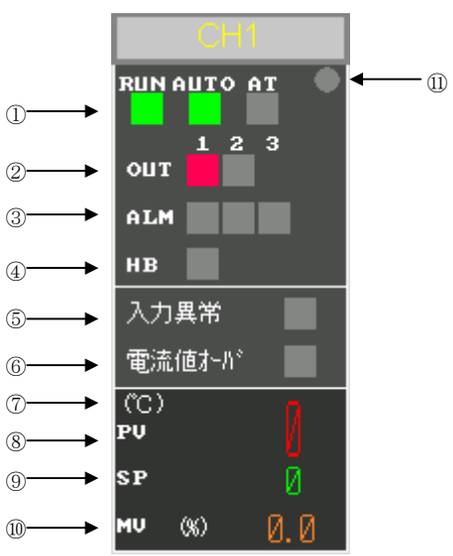
5-6-1.1 運転ﾚﾍﾞﾙ

運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J¥温度調節器¥E5ZN¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(標準制御)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄ／ﾏﾆｭｱﾙ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1，2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1，2，3の出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流値ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV	表示	操作量を表示します。
⑪	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

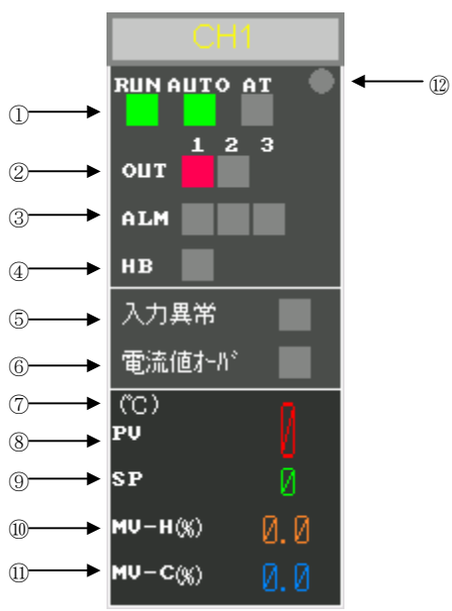
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥運転レベル	ﾀｲﾄﾙ	運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄ／ﾏﾆｭｱﾙ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1，2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1，2，3の出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流値ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV-H	表示	加熱側操作量を表示します。
⑪	MV-C	表示	冷却側操作量を表示します。
⑫	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

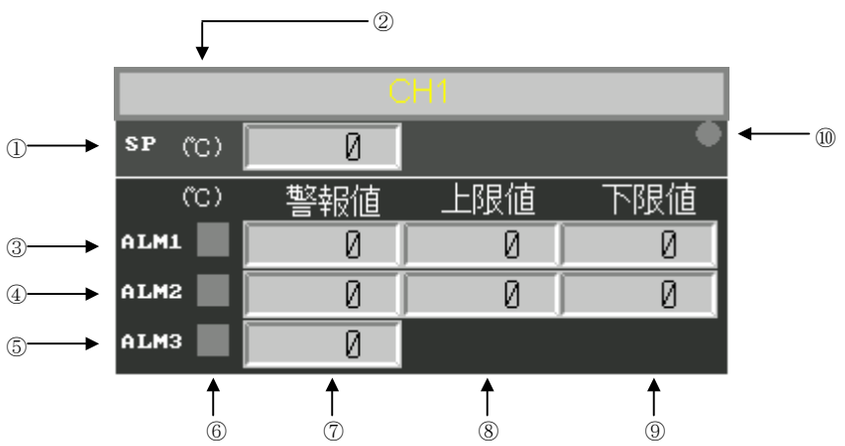
※ System Version 5 以降で使用してください。

警報値設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥運転レベル	タイトル	SP,警報値設定
機能	目標値、アラーム出力する警報値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値の設定をします。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	ALM1	―	ALM1 の横列が警報 1 の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
④	ALM2	―	ALM2の横列が警報2の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑤	ALM3	―	ALM3の横列が警報3の警報値の設定ラインです。
⑥	ALM ﾗﾝﾌﾟ	表示	警報出力1，2，3の出力状態を表示します。
⑦	警報値	設定	警報値を設定します。警報種別が上下限警報以外に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑧	上限値	設定	警報上限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑨	下限値	設定	警報下限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑩	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ALM 表示ランプを常時表示更新します。更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

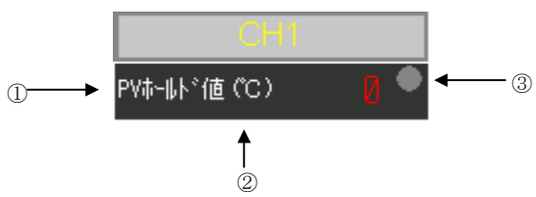
※ System Version 5 以降で使用してください。

PV ホールド値

設定レベル	入力タイプ	チャネル	部品
運転レベル	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―

ユニット種別	E5ZN	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥運転レベル	タイトル	PV ホールド値
機能	PV ホールド値を常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	PV ホールド値	表示	PV ホールド値を表示します。
②	℃／°F	表示	温度単位を表示します。
③	表示更新ランプ	表示	PV ホールド値を常時表示更新します。更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

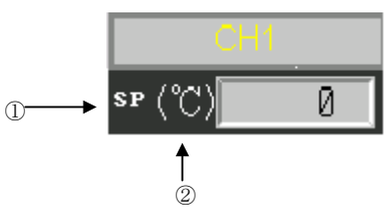
※ System Version 5 以降で使用してください。

SP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥運転レベル	タイトル	SP 設定
機能	SP 値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値を設定します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-1.2 調整ﾚﾍﾞﾙ

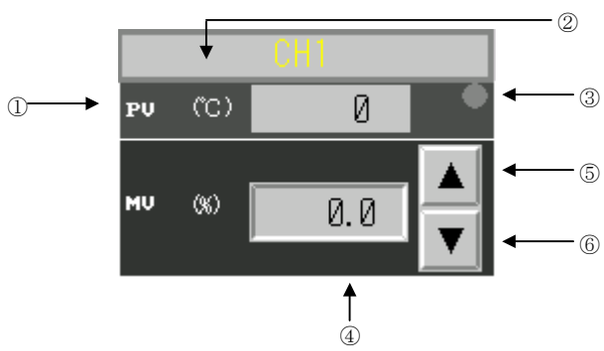
ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定

ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟとｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟごとに
各CHの部品が異なりますので、
機種を確認の上使用する部品を選択
してください。

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	ﾀｲﾄﾙ	ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定
機能	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	PV	表示	現在値を表示します。常時表示を更新します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	PV を表示更新するごとに点滅します。
④	MV	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。
⑤	▲	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位＋1します。
⑥	▼	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位－1します。

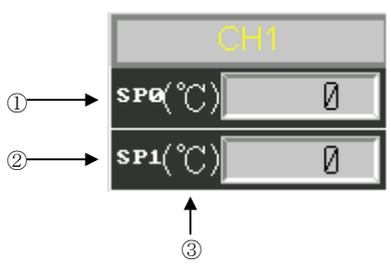
【備考】
※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないでください。
※ System Version 5 以降で使用してください。

マルチ SP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	タイトル	マルチ SP 設定
機能	目標値0と目標値1を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP0	設定	目標値 0 の設定をします。
②	SP1	設定	目標値1の設定をします。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

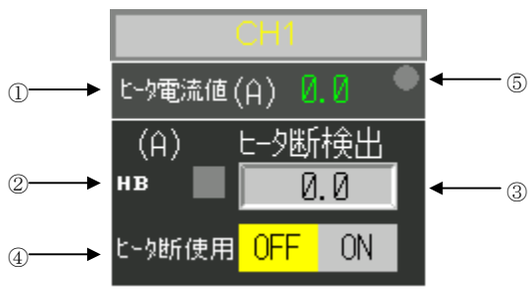
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾋｰﾀ断検出

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	ﾀｲﾄﾙ	ﾋｰﾀ断検出
機能	ヒータ断電流値をモニタし、ヒータ断検出値を設定します。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟで有効です。 ヒータ断検出はヒータ断使用が有効に設定されたとき機能します。 有効／無効の設定は高機能設定レベルの部品で設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾋｰﾀ電流値	表示	ﾋｰﾀ電流値を常時モニタします。
②	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を常時モニタします。
③	ﾋｰﾀ断検出値	設定	ﾋｰﾀ断検出値を設定します。
④	ﾋｰﾀ断使用	表示	ﾋｰﾀ断使用の設定状態(高機能設定ﾚﾍﾞﾙ)を表示します。
⑤	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ﾋｰﾀ電流値、HB を表示更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

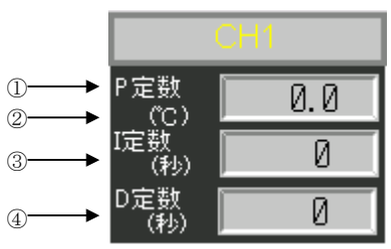
※ System Version 5 以降で使用してください。

PID 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	タイトル	PID 設定
機能	PID 定数の設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	P 定数	設定	P(比例帯)を設定します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	I 定数	設定	I(積分時間)を設定します。
④	D 定数	設定	D(微分時間)を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力補正値

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	ﾀｲﾄﾙ	入力補正値
機能	センサ計測値の入力補正値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	1 点補正 入力補正値	設定	1 点補正の場合の補正値を設定します。
②	2 点補正 入力補正値	設定	センサ範囲の上限値、下限値について補正値を設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ このSmartActiveParts(SAPライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

マニュアルリセット値

設定レベル	入力タイプ	チャネル	部品
調整レベル	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	タイトル	マニュアルリセット値
機能	マニュアルリセット値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	マニュアルリセット値	設定	マニュアルリセット値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

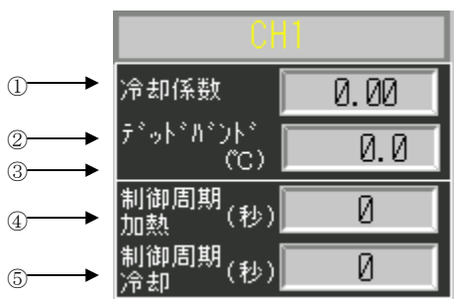
※ System Version 5 以降で使用してください。

冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	ﾀｲﾄﾙ	冷却係数,ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ,制御周期
機能	冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	冷却係数	設定	加熱冷却制御時の冷却係数を設定します。
②	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	加熱冷却制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
④	制御周期加熱	設定	加熱冷却制御時の加熱側出力の制御周期を設定します。 標準制御では制御周期加熱側の制御周期を設定します。
⑤	制御周期冷却	設定	加熱冷却制御時の冷却側出力の制御周期を設定します。

【備考】

※ このSmartActiveParts(SAPライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

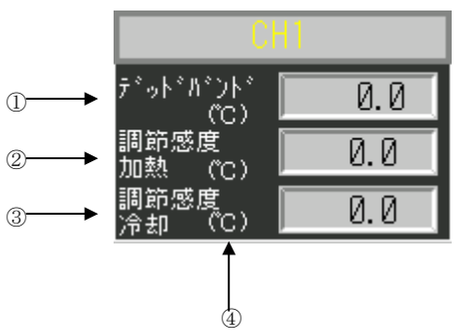
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
	測温抵抗体	CH2	○
	共通	CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥調整レベル	タイトル	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ,調節感度
機能	ON／OFF 制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
②	調節感度加熱	設定	加熱冷却制御時の加熱側の調節感度を設定します。 標準制御の調節感度を設定します。
③	調節感度冷却	設定	加熱冷却制御の冷却側の調節感度を設定します。
④	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-1.3 初期設定ﾚﾍﾞﾙ

入力種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点(熱電対)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	―
	測温抵抗体	CH1	―
		CH2	―
		CH 共通	―

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	入力 1 種別、単位,ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点
機能	熱電対入力タイプの入力種別、温度単位を設定します。 アナログ入力を選択した時は、スケーリング、小数点位置を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力種別	設定	熱電対入力種別を設定します。 入力種別は、Ch1、Ch2 で共通になります。
②	温度単位	設定	温度単位を設定します。 温度単位は、Ch1、Ch2 で共通になります。
③	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 上限値 下限値	設定	入力種別で[0-50mV]のアナログ入力を選択したとき、 スケーリングの上限値、下限値を設定します。 スケーリング上下限のデータは、Ch1、Ch2 個別の設定になります。
④	小数点位置	設定	入力種別で[0-50mV]のアナログ入力を選択したとき、 小数点以下の桁数を設定します。 小数点は、Ch1、Ch2 個別の設定になります。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力種別、温度単位（測温抵抗体）

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	入力 1 種別、温度単位
機能	測温抵抗体入力タイプの入力種別、温度単位を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力種別	設定	測温抵抗体入力タイプの入力種別を設定します。
②	温度単位	設定	温度単位を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

目標値ﾘﾐｯﾄ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー
	測温抵抗体	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	目標値ﾘﾐｯﾄ
機能	目標値の上下限リミットを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	目標値ﾘﾐｯﾄ 上限値 下限値	設定	目標値リミットの上限値、下限値を設定します。 入力温度設定範囲内で設定することができます。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

伝送出力上限下限設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
		CH2	―
		CH 共通	○
	測温抵抗体	CH1	―
		CH2	―
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	伝送出力上限下限
機能	アナログ出力タイプの設定です。 制御出力、補助出力に伝送出力を割り付けた場合に伝送出力の上下限値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	OUT1 伝送出力 上限値 下限値	設定	制御出力1（OUT1）に伝送出力を割り付けたときの スケーリングに使用する伝送出力の上限値、下限値を設定します。
②	OUT2 伝送出力 上限値 下限値	設定	制御出力2（OUT2）に伝送出力を割り付けたときの スケーリングに使用する伝送出力の上限値、下限値を設定します。
③	SUB3 伝送出力 上限値 下限値	設定	補助出力3（SUB3）に伝送出力を割り付けたときの スケーリングに使用する伝送出力の上限値、下限値を設定します。
④	SUB4 伝送出力 上限値 下限値	設定	補助出力4（SUB4）に伝送出力を割り付けたときの スケーリングに使用する伝送出力の上限値、下限値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

PID・ON/OFF

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	PID、ON/OFF
機能	PID 制御、ON/OFF 制御を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御方式	設定	PID 制御、ON/OFF 制御を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAPライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

正／逆動作

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	正動作、逆動作
機能	現在値の増加もしくは減少に対して、操作量を正動作・逆動作させるかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	動作	設定	現在値の増加もしくは減少に対して、操作量を正動作させるか、逆動作させるかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 1 種別、警報 1 励磁非励磁、警報 1 ヒステリシス、警報 1 ラッチ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	警報 1 種別、励磁、ﾋｽﾃﾘｼｽ、ﾗｯﾁ
機能	警報1の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報 1 種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報 1 種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。 メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報 1 励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ (℃)／(° F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報 1 ﾗｯﾁ	設定	警報出力状態をﾗｯﾁするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 2 種別、警報 2 励磁非励磁、警報 2 ヒステリシス、警報 2 ラッチ

設定レベル	入力タイプ	チャネル	部品
初期設定レベル	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	警報 2 種別、励磁、ヒステリシス、ラッチ
機能	警報2の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報 2 種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報 2 種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。 メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報 2 励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報 2 ヒステリシス (℃)／(° F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報 2 ラッチ	設定	警報出力状態をラッチするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 3 種別、警報 3 励磁非励磁、警報 3 ヒステリシス、警報 3 ラッチ

設定レベル	入力タイプ	チャネル	部品
初期設定レベル	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	○
		CH2	○
		CH 共通	ー

ユニット種別	E5ZN	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	警報 3 種別、励磁、ヒステリシス、ラッチ
機能	警報3の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報 3 種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報 3 種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。 メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報 3 励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報 3 ヒステリシス (℃)／(° F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報 3 ラッチ	設定	警報出力状態をラッチするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

制御出力 1･2 割付

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	―
		CH2	―
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	制御出力 1･2 割付
機能	制御出力1，2に出力する内容を割り当てます。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御出力１割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。 CH1(10-14)、CH2(15-19)は伝送出力の設定ﾎﾞﾀﾝです。ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
②	制御出力1割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。
③	制御出力2割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。 CH1(10-14)、CH2(15-19)は伝送出力の設定ﾎﾞﾀﾝです。ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
④	制御出力2割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

補助出力 1･2 割付

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	補助出力 1･2 割付
機能	補助出力1，2に出力する内容を割り当てます。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	補助出力 1 割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
②	補助出力 1 割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。
③	補助出力 2 割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
④	補助出力 2 割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

補助出力 3･4 割付

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	補助出力 3･4 割付
機能	アナログ出力タイプのみで使用する機能です。 補助出力3，4に出力する内容を割り当てます。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	補助出力 3 割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。 CH1(10-14)、CH2(15-19)は伝送出力の設定ﾎﾞﾀﾝです。ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
②	補助出力 3 割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。
③	補助出力 4 割付 設定ボタン	設定	設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。 CH1(0-4)、CH2(5-9)は制御出力、警報出力を設定するﾎﾞﾀﾝです。ﾊﾟﾙｽ出力ﾀｲﾌﾟ、ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。 CH1(10-14)、CH2(15-19)は伝送出力の設定ﾎﾞﾀﾝです。ｱﾅﾛｸﾞ出力ﾀｲﾌﾟで使用します。
④	補助出力 4 割付 表示	表示	設定している内容を番号で表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

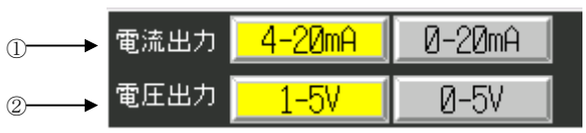
※ System Version 5 以降で使用してください。

電流出力、電圧出力

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	電流出力、電圧出力
機能	制御出力1，2の電流出力の種別、補助出力3，4の電圧出力の種別を設定します。 アナログ出力タイプの設定項目です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	電流出力	設定	制御出力1，2に出力する電流出力の種別を設定します。
②	電圧出力	設定	補助出力3，4に出力する電圧出力の種別を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

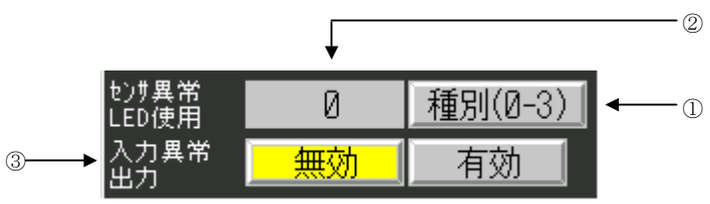
※ System Version 5 以降で使用してください。

ｾﾝｻ異常 LED 使用、入力異常出力

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	ｾﾝｻ異常 LED 使用、入力異常出力
機能	センサ異常時に E5ZN フロント部に LED 点灯させるかどうかを設定します。 入力異常出力では、センサ異常を警報出力するかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｾﾝｻ LED 使用 種別選択ボタン	設定	種別ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がメニュー表示されます。 メニューの中から設定内容を選択することで設定をします。
②	ｾﾝｻ LED 使用 種別表示	表示	設定されている内容を番号表示します。
③	入力異常出力	設定	センサ異常が検出されたとき、警報1出力に出力する場合[有効]を設定、出力しない場合[無効]を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

電源投入後動作

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥初期設定レベル	タイトル	電源投入後動作
機能	電源投入時の運転状態を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	電源投入後動作	設定	[停止]は、電源投入後は制御停止になります。 [継続]は、電源 OFF 時の状態になります。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

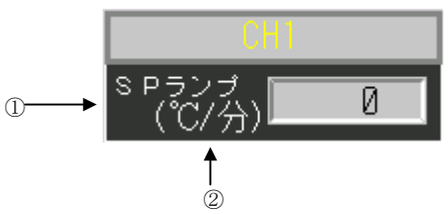
5-6-1.4 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ

SP ﾗﾝﾌﾟ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	―
		CH2	―
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	SP ﾗﾝﾌﾟ
機能	SP ランプ中の変化率を指定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP ﾗﾝﾌﾟ	設定	1 分あたりの最大許容変化幅を設定します。 「0」を設定すると SP ランプ機能が無効になります。
②	(℃/分)／(° F/分)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ヒータ断使用、ヒータ断ラッチ、ヒータ断ヒステリシス

設定レベル	入力タイプ	チャネル	部品
高機能設定レベル	熱電対入力 測温抵抗体 共通	CH1	ー
		CH2	ー
		CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	ヒータ断使用、ラッチ、ヒステリシス
機能	ヒータ断線検出の使用／未使用、ラッチの有無、ヒステリシスを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ヒータ断使用	設定	ヒータ断線検出機能を使用するかどうかを設定します。
②	ヒータ断ラッチ	設定	ヒータ断線警報をラッチするかどうかを設定します。
③	ヒータ断ヒステリシス	設定	ヒータ断検出時のヒステリシスを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

操作量ﾘﾐｯﾄ上限下限、入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
	測温抵抗体	CH2	―
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	操作量ﾘﾐｯﾄ上下限、入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ
機能	操作量ﾘﾐｯﾄでは、操作量の上限値、下限値を設定します。 入力デジタルフィルタでは、入力用のデジタルフィルタ時定数を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	操作量ﾘﾐｯﾄ上限値	設定	操作量の上限値を設定します。 操作量計算値が上限以上の値になった場合、上限値に制限されます。
②	操作量ﾘﾐｯﾄ下限値	設定	操作量の下限値を設定します。 操作量計算値が下限以下の値になった場合、下限値に制限されます。
③	入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ	設定	入力用のデジタルフィルタ時定数を設定します

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力補正種別

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	ー
	測温抵抗体	CH2	ー
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	入力補正種別
機能	入力補正において 1 点補正を用いるか 2 点補正を用いるかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力補正種別	設定	1 点補正か 2 点補正かの入力補正種別を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾏﾙﾁ SP 使用数、ｲﾍﾞﾝﾄ入力割付、ﾏﾙﾁ SP 使用 ON/OFF

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
	測温抵抗体	CH2	―
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	ﾏﾙﾁ SP 使用数、ｲﾍﾞﾝﾄ入力割付、ﾏﾙﾁ SP 使用
機能	ﾏﾙﾁ SP 使用数、イベント入力割付、ﾏﾙﾁ SP 使用の設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾏﾙﾁ SP 使用数	設定	イベント入力に使用するマルチ SP の数を選択します。
②	ｲﾍﾞﾝﾄ入力割付	設定	イベント入力で、RUN/STOP の切り替えをするかどうかを設定します。
③	ﾏﾙﾁ SP 使用	設定	マルチ SP 使用を ON すると、SP0/1 の切り替えが可能となります。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

待機ｼｰｹﾝｽ再起動

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
	測温抵抗体	CH2	―
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	待機ｼｰｹﾝｽ再起動
機能	警報の待機シーケンスが解除された後、再度起動可能にする条件を選択します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	待機ｼｰｹﾝｽ再起動	設定	条件Aか条件Bを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

α

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
	測温抵抗体	CH2	―
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	α
機能	2自由度 PID 定数αを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	α	設定	αの設定値を入力します。

【備考】

※ このSmartActivePartsⓇ(SAPライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

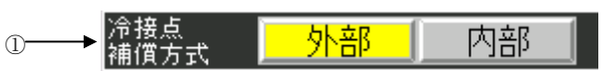
※ System Version 5 以降で使用してください。

冷接点補償方式

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	―
	測温抵抗体	CH2	―
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥高機能設定レベル	タイトル	冷接点補償方式
機能	冷接点補償方式を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	冷接点補償方式	設定	冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-1.5 通信設定ﾚﾍﾞﾙ

通信設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	ﾁｬﾈﾙ	部品
通信設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	CH1	ー
	測温抵抗体	CH2	ー
	共通	CH 共通	○

ユニット種別	E5ZN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5ZN¥通信設定レベル	タイトル	通信設定
機能	通信レベルを設定します。 NS と温調器との接続では、データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVEN の設定です。 上記以外の設定にすると、NS と温調器は通信不可となりますのでご注意ください。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	データ長	設定	通信データ長を設定します。 NS と温調器を接続はデータ長=7bit です。
②	ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ	設定	通信ストップビットを設定します。 NS と温調器との接続はｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ＝2bit です。
③	ﾊﾟﾘﾃｨ	設定	通信パリティを設定します。 NS と温調器との接続はﾊﾟﾘﾃｨ=EVEN です。
④	送信待ち時間	設定	通信レスポンス送信待ち時間を設定します。

【備考】

※ 温調器の通信ﾕﾆｯﾄ No.、通信速度は E5ZN のﾌﾛﾝﾄ面のﾛｰﾀﾘ SW で設定してください。

※ データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVEN 以外に設定して、温調器のソフトリセットまたは電源再投入すると

- 温調器と NS との通信ができなくなります。

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2 温度調節器(E5□R)

5-6-2.1 運転制御

ﾊﾞﾝｸ選択

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転ﾓｰﾄﾞ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	ﾊﾞﾝｸ選択
機能	バンク No.を切り替えます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾊﾞﾝｸ選択	設定	切り替え先のバンク No.を設定するとバンクが切り替わります。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

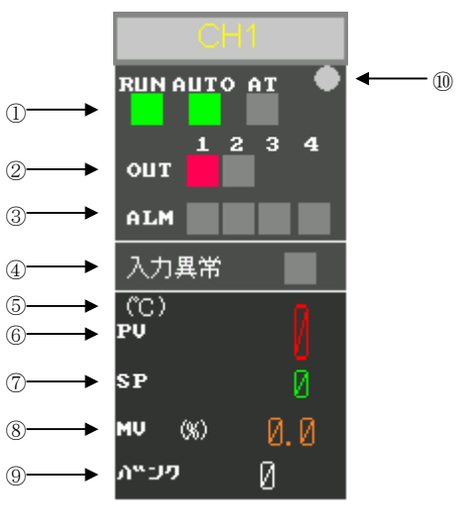
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄ／ﾏﾆｭｱﾙ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1，2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1，2，3、4の出力状態を表示します。
④	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑤	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
⑥	PV	表示	現在値を表示します。
⑦	SP	表示	目標値を表示します。
⑧	MV	表示	操作量を表示します。
⑨	ﾊﾞﾝｸ	表示	ﾊﾞﾝｸ No.を表示します。
⑩	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

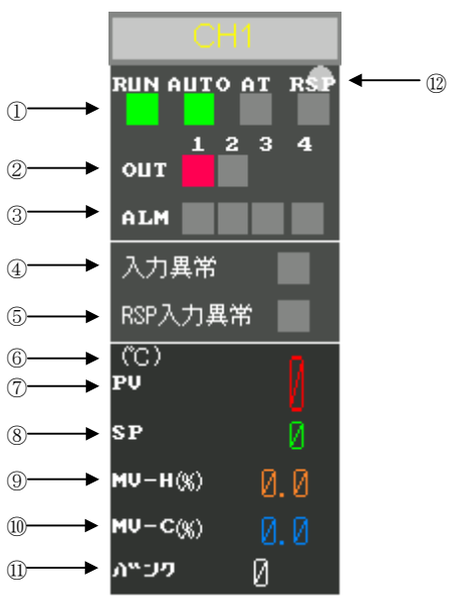
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT RSP	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄ／ﾏﾆｭｱﾙ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞ、ﾘﾓｰﾄ SP の運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1，2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1，2，3、4の出力状態を表示します。
④	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑤	RSP 入力異常	表示	RSP 入力異常の発生状態を表示します。
⑥	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑦	PV	表示	現在値を表示します。
⑧	SP	表示	目標値を表示します。
⑨	MV-H	表示	加熱側操作量を表示します。
⑩	MV-C	表示	冷却側操作量を表示します。
⑪	ﾊﾞﾝｸ	表示	ﾊﾞﾝｸ No.を表示します。
⑫	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

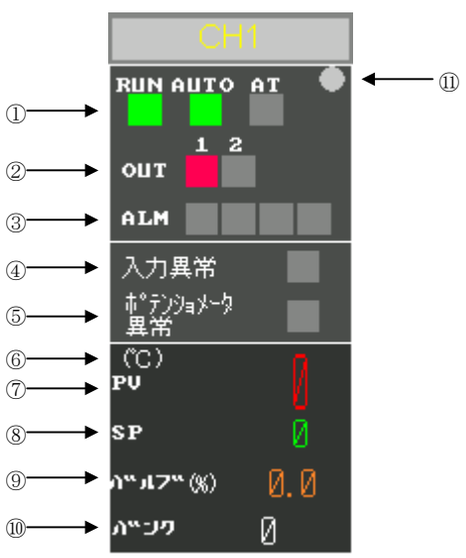
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(位置比例制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(位置比例制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。位置比例制御用のフェイスプレートです。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄ／ﾏﾆｭｱﾙ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1、2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1、2、3、4の出力状態を表示します。
④	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑤	ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常	表示	ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常の発生状態を表示します。
⑥	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑦	PV	表示	現在値を表示します。
⑧	SP	表示	目標値を表示します。
⑨	ﾊﾞﾙﾌﾞ	表示	ﾊﾞﾙﾌﾞ開度を表示します。
⑩	ﾊﾞﾝｸ	表示	ﾊﾞﾝｸ No.を表示します。
⑪	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

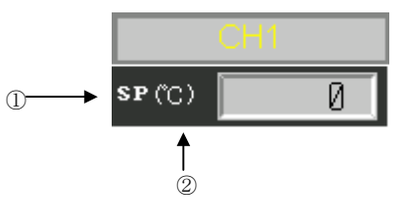
※ System Version 5 以降で使用してください。

SP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	SP 設定
機能	目標値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値を設定します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

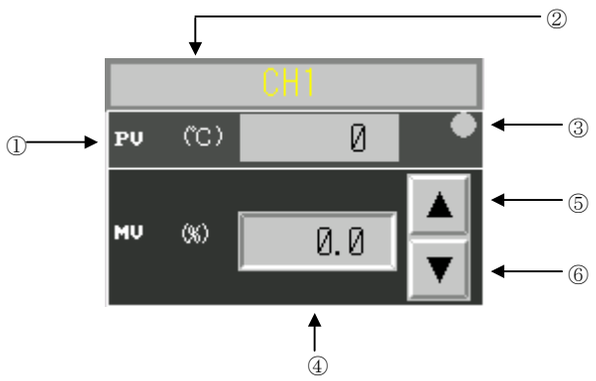
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定(標準／加熱冷却制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定
機能	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	PV	設定	現在値を表示します。常時表示を更新します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	設定	PV を表示更新するごとに点滅します。
④	MV	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。
⑤	▲	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位＋1します。
⑥	▼	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位－1します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

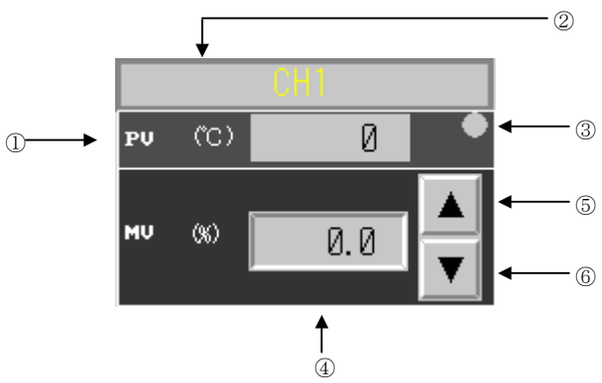
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定(位置比例制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
運転レベル	CH1	○
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥運転制御	タイトル	ﾏﾆｭｱﾙ操作量設定（位置比例制御用）
機能	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	PV	設定	現在値を表示します。常時表示を更新します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	設定	PV を表示更新するごとに点滅します。
④	MV	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を設定します。
⑤	▲	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位＋1します。
⑥	▼	設定	ﾏﾆｭｱﾙ操作量を 1 工業単位－1します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

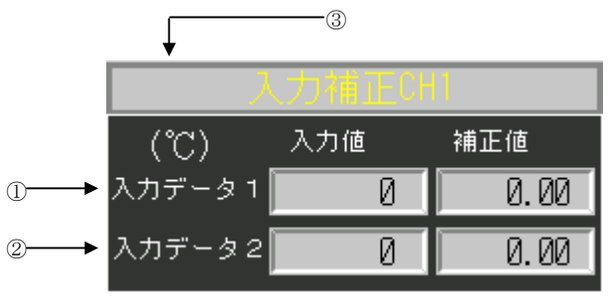
5-6-2.2 調整ﾚﾍﾞﾙ

入力補正値

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	入力補正値
機能	任意の2点で入力補正をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力ﾃﾞｰﾀ１ 入力値 補正値	設定	入力データ1の入力値を設定します。 入力データ1の補正値を設定します。
②	入力ﾃﾞｰﾀ２ 入力値 補正値	設定	入力データ2の入力値を設定します。 入力データ2の補正値を設定します。
③	(℃)／(° F)	設定	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

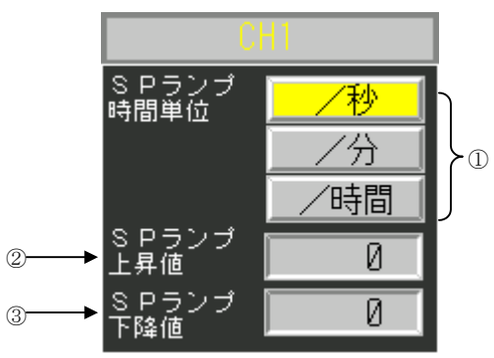
※ System Version 5 以降で使用してください。

SP ﾗﾝﾌﾟ時間単位、SP ﾗﾝﾌﾟ上昇値、SP ﾗﾝﾌﾟ下降値

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	SP ﾗﾝﾌﾟ
機能	SP ランプ時間単位、SP ランプ上昇値、SP ランプ下降値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP ﾗﾝﾌﾟ時間単位	設定	SP ランプ設定データの時間単位を選択します。
②	SP ﾗﾝﾌﾟ上昇値	設定	SP ランプ上昇値を設定します。 0 を設定すると無効となります。
③	SP ﾗﾝﾌﾟ下降値	設定	SP ランプ下降値を設定します。 0 を設定すると無効となります。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

マニュアルリセット値

設定レベル	チャネル	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	インストール先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	マニュアルリセット値
機能	マニュアルリセット値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	マニュアルリセット値	設定	マニュアルリセット値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

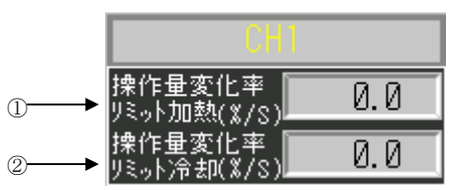
※ System Version 5 以降で使用してください。

操作量変化率ﾘﾐｯﾄ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	操作量変化率ﾘﾐｯﾄ
機能	操作量変化率リミットは、1 秒あたりの操作量の最大許容変化幅を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	操作量変化率ﾘﾐｯﾄ 加熱	設定	加熱冷却制御での加熱側の 1 秒あたりの操作量の最大許容変化幅を設定します。 標準制御では、操作量変化率ﾘﾐｯﾄ加熱側に設定します。 設定値を「0.0」にすると、この機能は無効になります。
②	操作量変化率ﾘﾐｯﾄ 冷却	設定	加熱冷却制御での冷却側の 1 秒あたりの操作量の最大許容変化幅を設定します。 設定値を「0.0」にすると、この機能は無効になります。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度
機能	ON／OFF 制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
②	調節感度加熱	設定	加熱冷却制御時の加熱側の調節感度を設定します。 標準制御の調節感度を設定します。
③	調節感度冷却	設定	加熱冷却制御の冷却側の調節感度を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

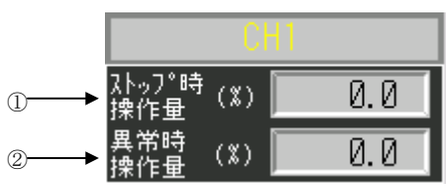
※ System Version 5 以降で使用してください。

ｽﾄｯﾌﾟ時操作量、異常時操作量

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	ｽﾄｯﾌﾟ時操作量、異常時操作量
機能	制御停止時の操作量、PV エラー、リモート SP 入力異常のときの操作量を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｽﾄｯﾌﾟ時操作量	設定	制御停止時の操作量を設定します。
②	異常時操作量	設定	PV エラー、リモート SP 入力異常時の操作量を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

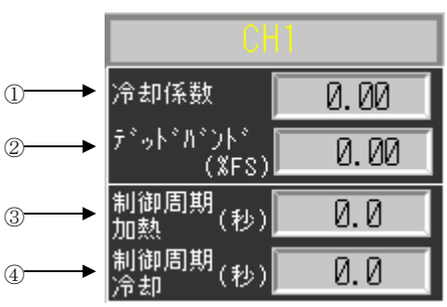
※ System Version 5 以降で使用してください。

冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期
機能	冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	冷却係数	設定	加熱冷却制御時の冷却係数を設定します。
②	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	加熱冷却制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
③	制御周期加熱	設定	加熱冷却制御時の加熱側出力の制御周期を設定します。 標準制御では制御周期加熱側の制御周期を設定します。
④	制御周期冷却	設定	加熱冷却制御時の冷却側出力の制御周期を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

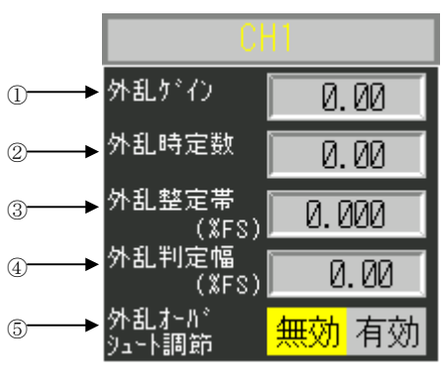
※ System Version 5 以降で使用してください。

外乱ｹﾞｲﾝ、外乱時定数、外乱整定帯、外乱判定幅、外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ調節

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	外乱設定
機能	外乱に対する調節機能の設定をします。 設定データは、外乱オーバシュート調節機能が有効に設定されたときに機能します。 外乱オーバシュート調節機能は、拡張制御設定レベルの部品で設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	外乱ｹﾞｲﾝ	設定	外乱ゲインを設定します。
②	外乱時定数	設定	外乱時定数を設定します。
③	外乱整定帯	設定	外乱整定帯を設定します。
④	外乱判定幅	設定	外乱判定幅を設定します。
⑤	外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ調節	表示	外乱オーバシュート調節機能が有効か無効かを表示します。 設定は、拡張制御設定レベルの部品を使ってします。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2.3 調整 2 ﾚﾍﾞﾙ

一次遅れ演算、移動平均、開閉演算ローカット点

4入力タイプ、2入力タイプ、1入力タイプ

の3種の部品があります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	一次遅れ演算、移動平均、開閉演算(4 点ﾀｲﾌﾟ)
機能	入力1，2，3，4に対する一時遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算時定数を設定します。 一時遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算時定数は有効に設定されたとき機能します。 有効／無効の設定は制御初期設定レベル2の部品で設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力1、入力2 入力 3、入力4 の 1 次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点	設定	各入力に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点を設定します。
②	入力1、入力 2 入力 3、入力 4 の 1 次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点 有効無効	表示	各入力に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点の機能が有効か無効かを表示します。 有効／無効の設定は、制御初期設定レベル2の部品で行います。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

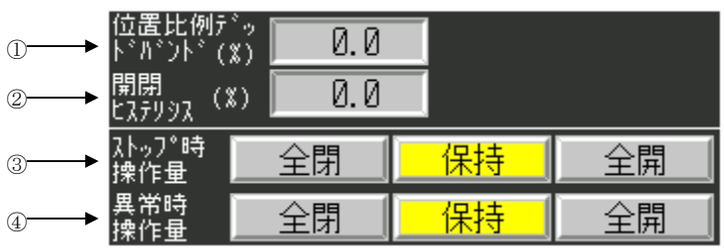
※ System Version 5 以降で使用してください。

位置比例ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、開閉ﾋｽﾃﾘｼｽ、ｽﾄｯﾌﾟ時操作量、異常時操作量（位置比例制御用）

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	位置比例制御調整
機能	位置比例制御タイプのﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、開閉ﾋｽﾃﾘｼｽ、ストップ時操作量、異常時操作量を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	位置比例ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	位置比例制御の出力ホールド区間をﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞで設定します。
②	開閉ﾋｽﾃﾘｼｽ	設定	位置比例制御の開閉ﾋｽﾃﾘｼｽを設定します。
③	ｽﾄｯﾌﾟ時操作量	設定	運転停止中の位置（全閉／保持／全開）を指定します。
④	異常時操作量	設定	異常時の位置（全閉／保持／全開）を指定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

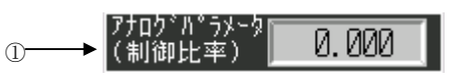
※ System Version 5 以降で使用してください。

ｱﾅﾛｸﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
調整レベル	CH1	ー
	CH2	ー
	CH3	ー
	CH4	ー
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥調整レベル	タイトル	比率制御ｱﾅﾛｸﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀ
機能	比率制御のときの比率を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｱﾅﾛｸﾞﾊﾟﾗﾒｰﾀ 制御比率	設定	比率制御のときの比率を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

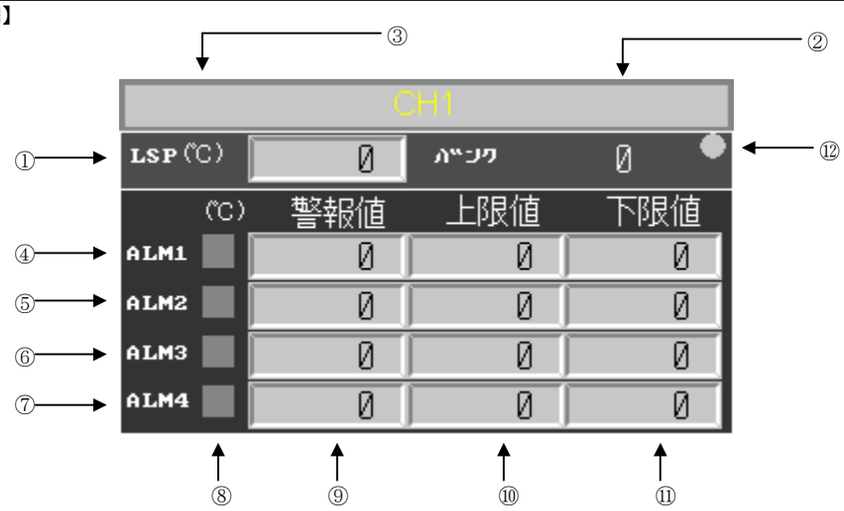
5-6-2.4 ﾊﾞﾝｸ設定ﾚﾍﾞﾙ

LSP、警報値設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
ﾊﾞﾝｸ設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥バンク設定レベル	タイトル	LSP、警報値設定
機能	表示されているバンクのLSP、アラーム出力する警報値を設定します。 ﾊﾞﾝｸ No.が変化したときは、自動的に該当ﾊﾞﾝｸのデータに表示更新します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	LSP	設定	表示されているﾊﾞﾝｸの目標値の設定をします。
②	ﾊﾞﾝｸ	表示	選択中のﾊﾞﾝｸ No.を表示します。 ﾊﾞﾝｸ No.は常時表示更新します。ﾊﾞﾝｸ No.が変化したときは全データを表示更新します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
④	ALM1	―	ALM1の横列が警報 1 の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑤	ALM2	―	ALM2の横列が警報2の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑥	ALM3	―	ALM3の横列が警報3の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑦	ALM4	―	表示されているﾊﾞﾝｸの ALM4の横列が警報4の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑧	ALM 表示ランプ	設定	警報出力1，2，3、4の出力状態を表示します。表示は常時更新します。
⑨	警報値	設定	表示されているﾊﾞﾝｸの警報値を設定します。 警報種別が上下限警報以外に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑩	上限値	設定	表示されているﾊﾞﾝｸの警報上限値を設定します。 警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑪	下限値	設定	表示されているﾊﾞﾝｸの警報下限値を設定します。 警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑫	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ALM 表示ランプ、バンク No.を常時表示更新します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

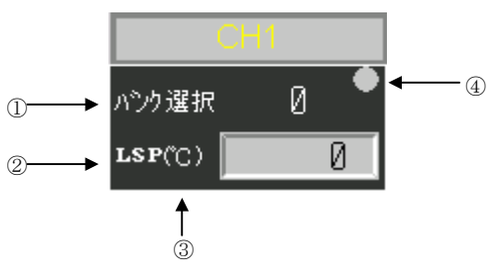
※ System Version 5 以降で使用してください。

LSP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
ﾊﾞﾝｸ設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥バンク設定レベル	タイトル	LSP 設定
機能	表示されているﾊﾞﾝｸの LSP を設定します。 ﾊﾞﾝｸが変化したときは、自動的に該当ﾊﾞﾝｸの LSP データを表示します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾊﾞﾝｸ選択	表示	選択中のﾊﾞﾝｸ No.を表示します。
②	LSP	設定	表示されているﾊﾞﾝｸの LSP を設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
④	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。表示は定期的に更新します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

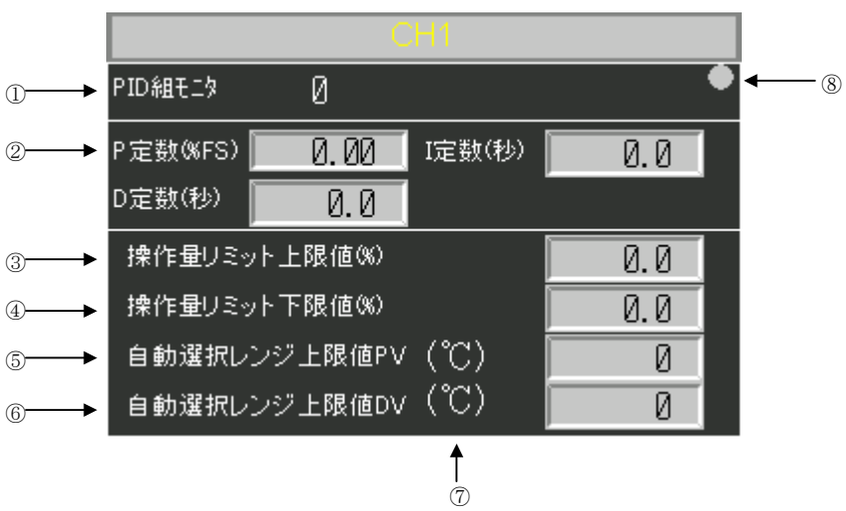
5-6-2.5 PID 設定ﾚﾍﾞﾙ

PID 設定、操作量ﾘﾐｯﾄ、自動選択ﾚﾝｼﾞ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
PID 設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥PID 設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	PID 設定、操作量ﾘﾐｯﾄ上下限、自動選択レンジ上下限
機能	PID 制御のための設定データを設定します。 PID 組番号が変化したときは、自動的に全データを表示更新します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	PID 組ﾓﾆﾀ	設定	選択されている PID 組を表示します。
②	P 定数 I定数 D 定数	設定	表示している PID 組の P(比例帯)、I(積分時間)、D(微分時間)を設定します。
③	操作量ﾘﾐｯﾄ上限値	設定	表示している PID 組の操作量の上限値を設定します。
④	操作量ﾘﾐｯﾄ下限値	設定	表示している PID 組の操作量の下限値を設定します。
⑤	自動選択ﾚﾝｼﾞ 上限値 PV	設定	表示している PID 組が選択される上限値を設定します。
⑥	自動選択ﾚﾝｼﾞ 上限値 DV	設定	表示している PID 組が選択される上限値を設定します。
⑦	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	PID 組の表示を更新するごとに点滅します。 PID 組が変化したときは全データを表示更新します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2.6 近似設定ﾚﾍﾞﾙ

直線近似

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
近似設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥近似設定レベル	タイトル	直線近似
機能	直線近似演算を行うときの特性を設定します。 各データは有効に設定されたとき機能します。 有効／無効の設定は制御初期設定レベル2の部品で設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	直線近似1 ﾃﾞｰﾀ1入力値 ﾃﾞｰﾀ1補正値	設定	直線近似1のデータ1について 入力値と出力値を設定します。
②	直線近似 1 ﾃﾞｰﾀ 2 入力値 ﾃﾞｰﾀ 2 補正値	設定	直線近似1のデータ2について 入力値と出力値を設定します。
③	直線近似 1 有効無効	表示	直線近似1が有効か無効かを表示します。 有効／無効の設定は、制御初期設定レベル2の部品で行います。
④	直線近似 2 ﾃﾞｰﾀ1入力値 ﾃﾞｰﾀ1補正値	設定	直線近似2のデータ1について 入力値と出力値を設定します。
⑤	直線近似2 ﾃﾞｰﾀ 2 入力値 ﾃﾞｰﾀ 2 補正値	設定	直線近似2のデータ2について 入力値と出力値を設定します。
⑥	直線近似 2 有効無効	表示	直線近似2が有効か無効かを表示します。 有効／無効の設定は、制御初期設定レベル2の部品で行います。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

折線近似 1-10

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
近似設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥近似設定レベル	タイトル	折れ線近似(1-10)
機能	折れ線近似演算を行うときの特性を設定します。 20 点まで指定できます。11－20 の設定は別部品を使って設定します。 各データは有効に設定されたとき機能します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 1 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 2 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 3 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 4 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 5 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 6 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 7 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 8 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 9 折れ線近似ﾃﾞｰﾀ 10 入力値 出力値	設定	折れ線近似データ1－10に対して、 入力値と出力値を設定します。
②	折れ線近似 有効無効	表示	折れ線近似が有効か無効かを表示します。 有効／無効の設定は、制御初期設定レベル2の部品で行います。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

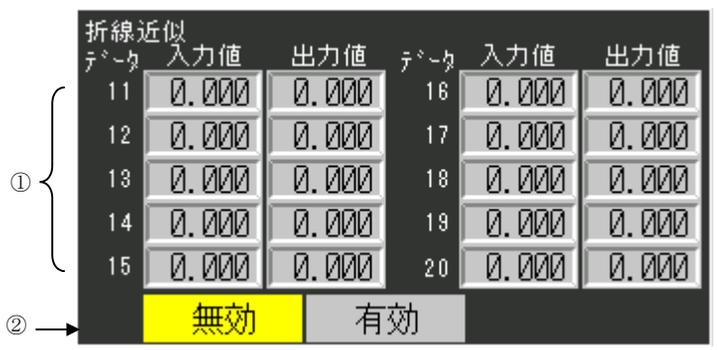
※ System Version 5 以降で使用してください。

折線近似 11-20

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
近似設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveparts_J ¥温度調節器¥E5□R¥近似設定レベル	タイトル	折れ線近似(11-20)
機能	折れ線近似演算を行うときの特性を設定します。 20 点まで指定できます。1－10 の設定は別部品を使って設定します。 各データは有効に設定されたとき機能します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	折れ線近似データ 11 折れ線近似データ 12 折れ線近似データ 13 折れ線近似データ 14 折れ線近似データ 15 折れ線近似データ 16 折れ線近似データ 17 折れ線近似データ 18 折れ線近似データ 19 折れ線近似データ 20 入力値 出力値	設定	折れ線近似データ11－20に対して、 入力値と出力値を設定します。
②	折れ線近似 有効無効	設定	折れ線近似が有効か無効かを表示します。 有効／無効の設定は、制御初期設定レベル2の部品で行います。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2.7 入力初期設定ﾚﾍﾞﾙ

ﾘﾓｰﾄ SP 上限値、下限値

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
入力初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥入力初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	ﾘﾓｰﾄ SP 上限値、下限値
機能	リモートSPの上下限を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾘﾓｰﾄ SP 上限値	設定	入力 2 の入力範囲上限値を設定します。
②	ﾘﾓｰﾄ SP 下限値	設定	入力 2 の入力範囲下限値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力 1 種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点

入力種別1、入力種別2、

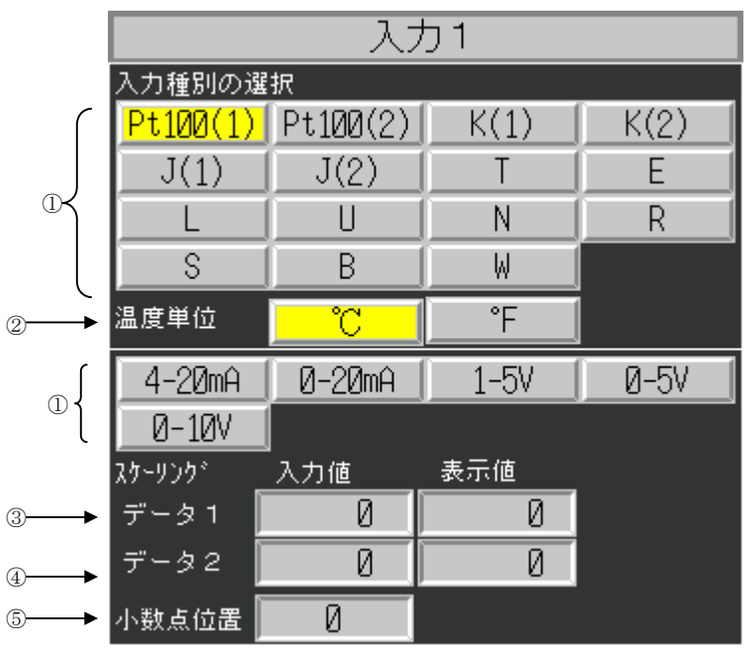
入力種別3、入力種別4

の 4 種の部品があります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
入力初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥入力初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	入力 1 種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点
機能	入力種別、温度単位を設定します。 アナログ入力を選択した時は、スケーリング、小数点位置を設定します。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力種別	設定	入力種別を設定します。
②	温度単位	設定	温度単位を設定します。
③	ｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃﾞｰﾀ 1 入力値 表示値	設定	入力種別で[4-20mA] [0-20mA] [1-5V] [0-5V] [0-10V] のアナログ入力を選択したとき、 スケーリングデータ1の入力値と表示値を設定します。 スケーリングデータの入力1は Ch1 に設定されます。 入力2，3，4の部品ではそれぞれ Ch2、Ch3、Ch4 に設定されます。
④	ｽｹｰﾘﾝｸﾞﾃﾞｰﾀ2 入力値 表示値	設定	入力種別で[4-20mA] [0-20mA] [1-5V] [0-5V] [0-10V] のアナログ入力を選択したとき、 スケーリングデータ2の入力値と表示値を設定します。 スケーリングデータの入力2は Ch2 に設定されます。 入力2，3，4の部品ではそれぞれ Ch2、Ch3、Ch4 に設定されます。
⑤	小数点位置	設定	入力種別で[4-20mA] [0-20mA] [1-5V] [0-5V] [0-10V] のアナログ入力を選択したとき、 小数点以下の桁数を設定します。 スケーリングデータの入力1は Ch1 に設定されます。 入力2，3，4の部品ではそれぞれ Ch2、Ch3、Ch4 に設定されます。

【備考】
※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。
※ 起動画面には使用しないでください。
※ System Version 5 以降で使用してください。

ｾﾝｻ誘導ﾉｲｽﾞ除去

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
入力初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR／E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥入力初期設定レベル	タイトル	ｾﾝｻ誘導ﾉｲｽﾞ除去
機能	入力に混入する電源の誘導ノイズを低減するための設定です。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｾﾝｻ誘導ﾉｲｽﾞ除去	設定	50Hz か 60Hz を選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2.8 制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ

正／逆動作

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	ー

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定レベル	タイトル	正動作、逆動作
機能	現在値の増加もしくは減少に対して操作量を、正動作・逆動作させるかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	動作	設定	現在値の増加もしくは減少に対して操作量を、正動作させるか逆動作させるかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

目標値ﾘﾐｯﾄ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定レベル	ﾀｲﾄﾙ	目標値ﾘﾐｯﾄ
機能	目標値の上下限リミットを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	目標値ﾘﾐｯﾄ 上限値 下限値	設定	目標値リミットの上限値、下限値を設定します。 入力温度設定範囲内で設定することができます。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ｸﾛｰｽﾞﾌﾛｰﾃｨﾝｸﾞ、ﾄﾗﾍﾞﾙﾀｲﾑ、PV ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常時動作（位置比例制御用）

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定レベル	タイトル	位置比例制御初期設定，拡張設定
機能	位置比例制御の制御方式と制御機能の設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｸﾛｰｽﾞ／ﾌﾛｰﾃｨﾝｸﾞ	設定	位置比例制御の制御方式を選択します。
②	ﾄﾗﾍﾞﾙﾀｲﾑ	設定	バルブ全開から全閉までの時間を設定します。
③	PV ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	PV ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
④	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
⑤	ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常時動作	設定	ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀが異常時の動作を指定します。 無効:動作停止 有効:制御継続

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

出力種別

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定レベル	タイトル	出力種別
機能	マルチ出力の出力種別を選択します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	OUT1,OUT2	設定	出力1／2の出力をパルス出力／リニア電流かに設定します。
②	OUT3,OUT4	設定	出力3／4の出力をパルス出力／リニア電流かに設定します。
③	OUT1 電流値	設定	リニア電流出力を設定したときに表示されます。 0-20mA／4-20mA かを選択します。
④	OUT2 電流値	設定	リニア電流出力を設定したときに表示されます。 0-20mA／4-20mA かを選択します。
⑤	OUT3 電流値	設定	リニア電流出力を設定したときに表示されます。 0-20mA／4-20mA かを選択します。
⑥	OUT4 電流値	設定	リニア電流出力を設定したときに表示されます。 0-20mA／4-20mA かを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

制御ﾓｰﾄﾞ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定レベル	タイトル	制御ﾓｰﾄﾞ
機能	制御方式を選択します。 1 入力タイプ／2 入力タイプでは、標準、加熱冷却を選択します。 2 入力タイプでは、標準、加熱冷却、RSP 標準、RSP 加熱冷却、比率。カスケード標準。カスケード加熱冷却が選択できます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御ﾓｰﾄﾞ	設定	設定ボタンを押して選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

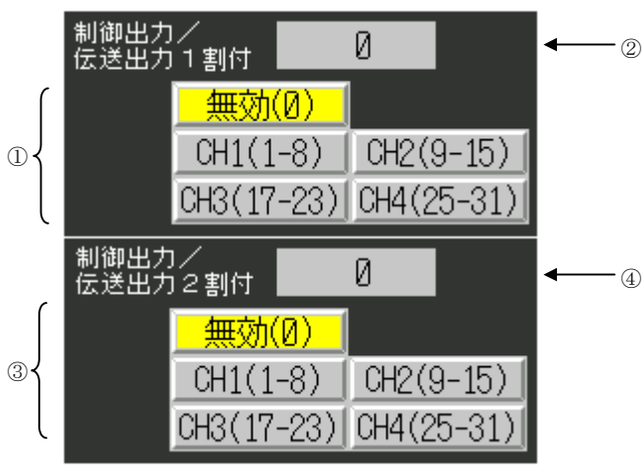
5-6-2.9 初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ

制御出力／伝送出力 1･2 割付

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	制御出力、伝送出力 1･2 割付
機能	制御出力／伝送出力1、制御出力／伝送出力2に出力する内容を割り当てします。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御出力／伝送出力１割付設定ボタン	設定	CH1(1-8)、CH2(9-15)、CH3(17-23)、CH4(25-31)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。
②	制御出力／伝送出力1割付表示	表示	設定している内容を番号表示します。
③	制御出力／伝送出力2割付設定ボタン	設定	CH1(1-8)、CH2(9-15)、CH3(17-23)、CH4(25-31)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。
④	制御出力／伝送出力2割付表示	表示	設定している内容を番号表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

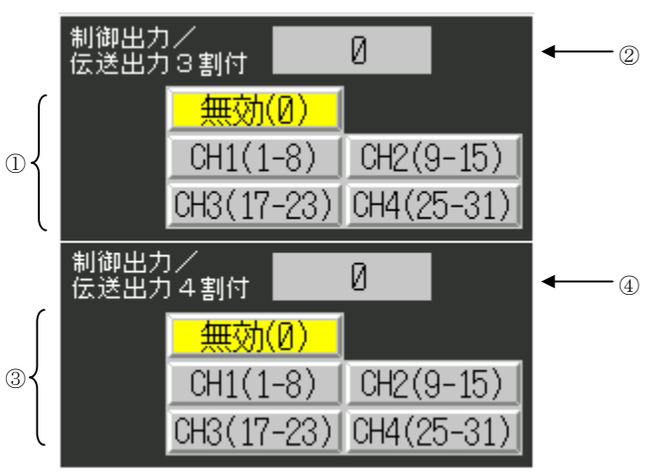
※ System Version 5 以降で使用してください。

制御出力／伝送出力 3･4 割付

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期	CH1	―
設定 2	CH2	―
ﾚﾍﾞﾙ	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	制御出力、伝送出力 3･4 割付
機能	制御出力／伝送出力3、制御出力／伝送出力4に出力する内容を割り当てします。				

【イメージ図･操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御出力／伝送出力3割付設定ボタン	設定	CH1(1-8)、CH2(9-15)、CH3(17-23)、CH4(25-31)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。
②	制御出力／伝送出力3割付表示	表示	設定している内容を番号表示します。
③	制御出力／伝送出力4割付設定ボタン	設定	CH1(1-8)、CH2(9-15)、CH3(17-23)、CH4(25-31)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。
④	制御出力／伝送出力4割付表示	表示	設定している内容を番号表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ｲﾍﾞﾝﾄ入力 1 割付

イベント入力1割付、イベント入力2割付

イベント入力3割付、イベント入力4割付

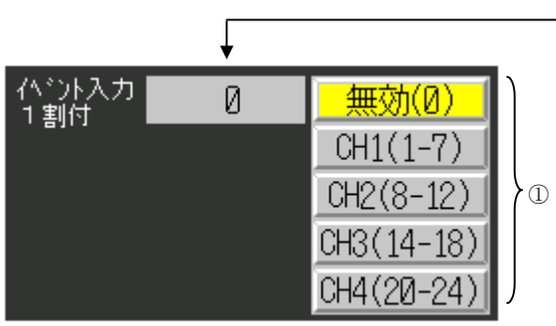
イベント入力5割付、イベント入力6割付

の6種の部品があります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	ｲﾍﾞﾝﾄ入力 1 割付
機能	イベント入力の機能を割り当てます。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ｲﾍﾞﾝﾄ入力 1 割付設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	CH1(1-7)、CH2(8-12)、CH3(14-18)、CH4(20-24)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。 ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付けます。
②	ｲﾍﾞﾝﾄ入力 1 割付表示	表示	設定している内容を番号表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

補助出力 1 割付、補助出力 1 励磁／非励磁

補助出力1割付、補助出力2割付

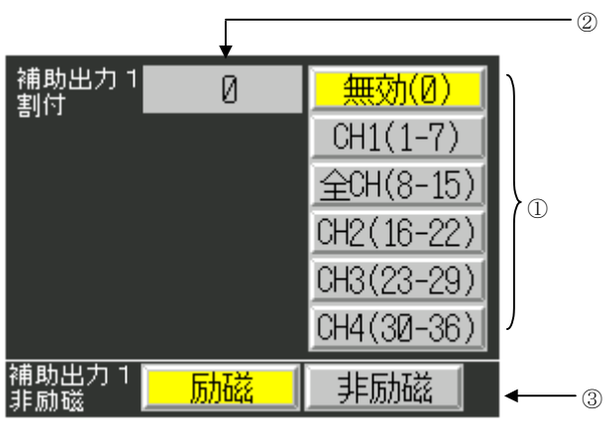
補助出力3割付、補助出力4割付

の 4 種の部品があります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	補助出力 1 割付
機能	補助出力に出力する内容を割り当てます。 補助出力の出力状態について励磁／非励磁を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	補助出力1割付 設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	CH1(1-7)、全 CH(8-15)、CH2(16-22)、CH3(23-29)、CH4(30-36)でﾁｬﾈﾙを選択し出力内容を設定します。設定ﾎﾞﾀﾝを押すと設定内容がﾒﾆｭｰ表示されます。 ﾒﾆｭｰから設定内容を選択することで割付ます。
②	補助出力1割付 表示	表示	設定している内容を番号表示します。
③	補助出力1 非励磁	設定	補助出力の出力状態について励磁／非励磁を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

伝送出力１上限下限

伝送出力1上下限、伝送出力2上下限

伝送出力3上下限、伝送出力4上下限

の 4 種の部品があります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	ー
	CH2	ー
	CH3	ー
	CH4	ー
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	伝送出力１上限下限
機能	出力割付で伝送出力を選択した伝送出力上下限値を設定します。 伝送出力の上下限値は有効ランプが点灯時に機能します。 有効は制御出力／伝送出力1の出力割付が伝送出力に設定しているときに点灯します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	伝送出力1 上限値 下限値	設定	伝送出力1の上限値、下限値を設定します。 上限値、下限値を設定することで、伝送出力のスケーリングが可能となります。 上下限値の設定は、伝送出力有効時にのみ入力可能です。無効時は入力できません。
②	伝送出力1 有効無効	表示	[有効]:制御出力／伝送出力1の出力割付が伝送出力に設定しているときに点灯します。 [無効]:制御出力／伝送出力1の出力割付が伝送出力に設定されていないときに点灯します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

一次遅れ演算・移動平均・開閉演算有効無効

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	一次遅れ演算、移動平均、開閉演算有効無効(4点ﾀｲﾌﾟ)
機能	入力1，2，3，4に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算時定数を設定に対して、機能を有効とするか無効とするか設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力1 1次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点 有効無効設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	入力1に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点の機能が有効か無効かを設定します。
②	入力2 1次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点 有効無効設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	入力2に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点の機能が有効か無効かを設定します。
③	入力3 1次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点 有効無効設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	入力3に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点の機能が有効か無効かを設定します。
④	入力4 1次遅れ演算時定数 移動平均回数 ﾛｰｶｯﾄ点 有効無効設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	入力4に対する一次遅れ演算時定数、移動平均回数、開閉演算ローカット点の機能が有効か無効かを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

直線近似、折れ線近似有効無効

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
制御初期設定 2 ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥制御初期設定2レベル	タイトル	直線近似、折れ線近似有効無効
機能	直線近似演算、折れ線近似演算を有効とするか無効とするかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	直線近似 1 有効無効	設定	直線近似1演算が有効か無効かを設定します。
②	直線近似2 有効無効	設定	直線近似2演算が有効か無効かを設定します。
③	折線近似 有効無効	設定	折線近似演算が有効か無効かを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-2.10 警報設定ﾚﾍﾞﾙ

警報 1 種別、警報 1 ﾗｯﾁ、警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ

警報種別1、警報種別2

警報種別3、警報種別4

の 4 種の部品が CH 毎にあります。

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
警報設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥警報設定レベル	タイトル	警報 1 種別、ﾗｯﾁ、ﾋｽﾃﾘｼｽ
機能	警報1の警報種別、警報ラッチ、ヒステリシスを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報 1 種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報1種別 設定ﾎﾞﾀﾝ	設定	種別ﾎﾞﾀﾝを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報1ﾗｯﾁ	設定	警報出力状態をﾗｯﾁするかしないかを設定します。
④	警報1ﾋｽﾃﾘｼｽ	設定	警報出力 ON/OFF 時のﾋｽﾃﾘｼｽを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

待機ｼｰｹﾝｽ再起動

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
警報設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥警報設定レベル	タイトル	待機ｼｰｹﾝｽ再起動
機能	警報の待機シーケンスが解除された後、再度起動可能にする条件を選択します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	待機ｼｰｹﾝｽ再起動	設定	条件Aか条件Bを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

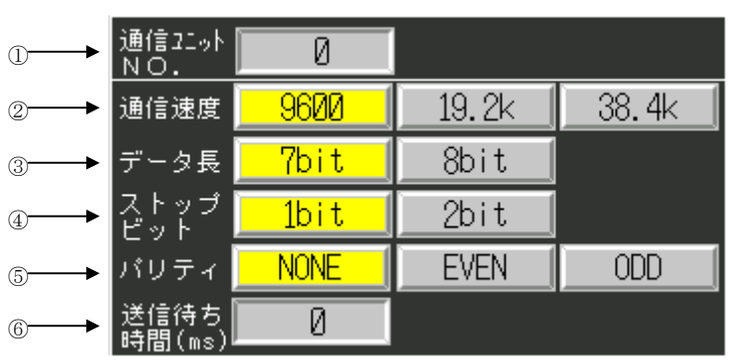
5-6-2.11 通信設定ﾚﾍﾞﾙ

通信設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
通信設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥通信設定レベル	タイトル	通信設定
機能	通信ﾕﾆｯﾄNO.および通信レベルを設定します。 NSと温調器との接続では、データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVENの設定です。 上記以外の設定にすると、NSと温調器は通信不可となりますのでご注意ください。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	通信ﾕﾆｯﾄNO.	設定	接続する温調器ごとに異なるﾕﾆｯﾄ番号を設定します。
②	通信速度	設定	通信速度を設定します。 NSおよび接続する全温調器で同じ設定にします。
③	ﾃﾞｰﾀ長	設定	通信データ長を設定します。 NSと温調器との接続はデータ長=7bitです。
④	ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ	設定	通信ストップビットを設定します。 NSと温調器との接続はｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ＝2bitです。
⑤	ﾊﾟﾘﾃｨ	設定	通信パリティを設定します。 NSと温調器との接続はﾊﾟﾘﾃｨ=EVENです。
⑥	送信待ち時間	設定	送信待ち時間を設定します。

【備考】

※ データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVEN以外に設定して、温調器のソフトリセットまたは電源再投入をすると
- 温調器とNSとの通信ができなくなります。

※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本Smart Active Partsは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5以降で使用してください。

5-6-2.12 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ

有効ﾁｬﾈﾙ数

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	ー
	CH2	ー
	CH3	ー
	CH4	ー
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥高機能設定レベル	タイトル	有効ﾁｬﾈﾙ数
機能	多点入力タイプの有効チャネル数を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	有効ﾁｬﾈﾙ数	設定	有効チャネル数を設定します。 2 入力タイプ：比率制御、RSP 標準、RSP 加熱冷却のときは1 それ以外の制御では1～2で設定します。 4入力タイプ：1～4で設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

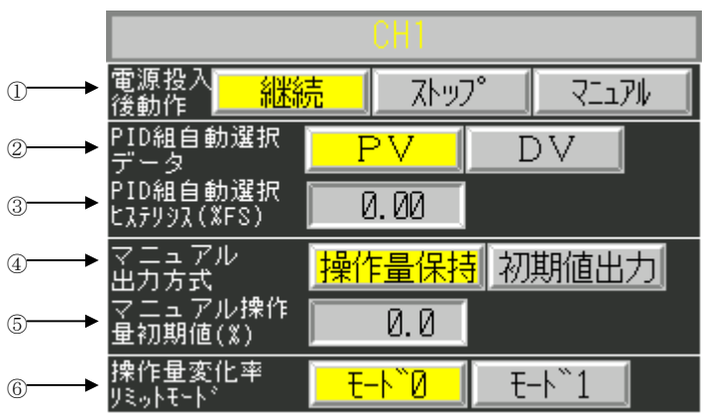
5-6-2.13 拡張設定ﾚﾍﾞﾙ

電源投入後動作、PID 自動選択、PID 自動選択ﾋｽﾃﾘｼｽ、ﾏﾆｭｱﾙ出力方式、ﾏﾆｭｱﾙ操作量初期値、操作量変化率ﾘﾐｯﾄﾓｰﾄﾞ

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
拡張制御設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥拡張設定レベル	タイトル	電源投入後動作、PID 自動選択、ﾏﾆｭｱﾙ出力、操作量変化率
機能	電源投入後動作、PID 組自動選択データ／ヒステリシス、マニュアル出力方式／操作量初期値、操作量変化率リミットモードの設定をします。、				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	電源投入後動作	設定	[継続]は、電源 OFF 時の状態になります。 [STOP]は、電源投入後は制御停止になります。 [ﾏﾆｭｱﾙ]は、ﾏﾆｭｱﾙﾓｰﾄﾞとなります。
②	PID 組自動選択 ﾃﾞｰﾀ	設定	PID 組自動選択を PV（現在値）か DV（偏差）のどちらでするかを設定します。
③	PID 組自動選択 ﾋｽﾃﾘｼｽ	設定	PID 組切り替え時のヒステリシスを設定します。
④	ﾏﾆｭｱﾙ出力方式	設定	オートからマニュアルに切り替えたときの、操作量の出力方式を設定します。
⑤	ﾏﾆｭｱﾙ操作量初期値	設定	初期値出力を設定したときの操作量初期値を設定します。
⑥	操作量変化率 ﾘﾐｯﾄﾓｰﾄﾞ	設定	操作量変化率リミットをモード 0／モード1で行うかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

SP ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ、PV ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ、ﾗﾝ時ﾊﾟﾝﾌﾟﾚｽ、ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常時動作、外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ有効無効

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
拡張制御設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥拡張設定レベル	タイトル	ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ、ﾊﾟﾝﾌﾟﾚｽ、ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ、外乱有効無効
機能	SP ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ、PV ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ、ﾗﾝ時ﾊﾟﾝﾌﾟﾚｽ、ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ異常時動作、外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ調節の各機能について有効／無効を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ 有無	設定	リモート SP モードからローカル SP モードに切り替わるときの動作を指定します。 無し:ローカル SP はリモート SP の影響を受けない。 有り:ローカル SP はリモート SP を引きつぎます。
②	PV ﾄﾗｯｷﾝｸﾞ 有無	設定	マニュアルモード中にローカル SP を PV に追従させるかの設定です。 無し:ローカル SP は PV に追従しません。 有り:ローカル SP は PV に追従します。
③	ﾗﾝ時ﾊﾟﾝﾌﾟﾚｽ 有効無効	設定	ストップからラン切り替え時にバンプレスを行うかどうかを設定します。 無効:バンプレス無し。 有効:バンプレスを行う。
④	ﾎﾟﾃﾝｼｮﾒｰﾀ 異常時動作 有効無効	設定	ポテンショメータに異常が発生したとき、制御を停止するか、継続するかを設定します。 無効:制御を停止する。 有効:フローティング制御に切り替えて制御を継続する。
⑤	外乱ｵｰﾊﾞｼｭｰﾄ調節 有効無効	設定	無効:外乱オーバシュート調節機能を無効とします。 有効:外乱オーバシュート調節機能を有効とします。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

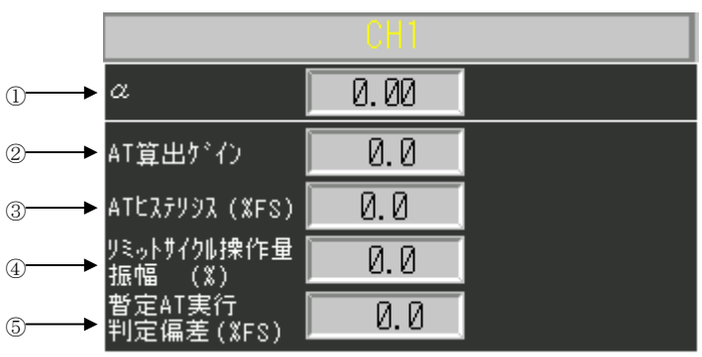
※ System Version 5 以降で使用してください。

α、AT 算出ｹﾞｲﾝ、AT ﾋｽﾃﾘｼｽ、暫定 AT 実行判定偏差

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
拡張制御設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	○
	CH2	○
	CH3	○
	CH4	○
	CH 共通	―

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥拡張設定レベル	タイトル	α、AT 算出ｹﾞｲﾝ、AT ﾋｽﾃﾘｼｽ、AT 実行判定偏差
機能	α、AT 算出ゲイン、AT ヒステリシス、暫定 AT 実行判定偏差の設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	α	設定	2 自由度 PID 定数 αを設定します。
②	AT 算出ｹﾞｲﾝ	設定	AT で PID 値を算出するときのゲインを設定します。
③	AT ﾋｽﾃﾘｼｽ	設定	AT 実行中のリミットサイクル動作のヒステリシスを設定します。
④	ﾘﾐｯﾄｻｲｸﾙ操作量振幅	設定	AT 実行中のリミットサイクル動作時の操作量振幅を設定します。
⑤	暫定 AT 実行判定偏差	設定	AT を実行したとき、暫定 AT を実行する判定条件の偏差を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

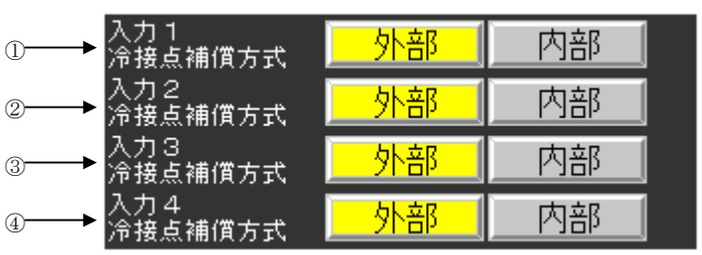
※ System Version 5 以降で使用してください。

冷接点補償方式

設定ﾚﾍﾞﾙ	ﾁｬﾈﾙ	部品
拡張制御設定ﾚﾍﾞﾙ	CH1	―
	CH2	―
	CH3	―
	CH4	―
	CH 共通	○

ユニット種別	E5AR/E5ER	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□R¥拡張設定レベル	タイトル	冷接点補償方式
機能	入力1，2，3，4に対して冷接点補償方式を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力1 冷接点補償方式	設定	入力1の冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。
②	入力2 冷接点補償方式	設定	入力2の冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。
③	入力3 冷接点補償方式	設定	入力3の冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。
④	入力4 冷接点補償方式	設定	入力4の冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-3 温度調節器（E5□N）

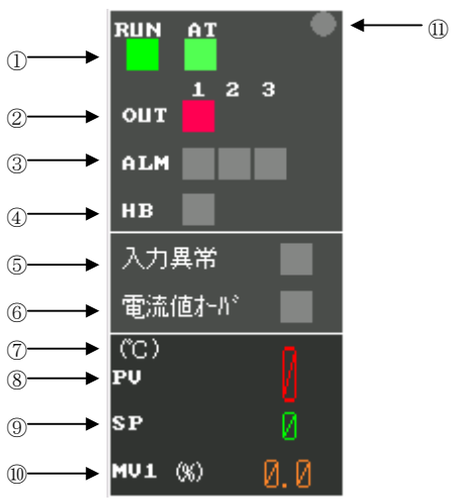
5-6-3.1 運転ﾚﾍﾞﾙ

運転ﾓﾆﾀ(E5AN／E5EN 標準制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1、2、3の出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流値ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV1	表示	OUT1 の操作量を表示します。
⑪	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

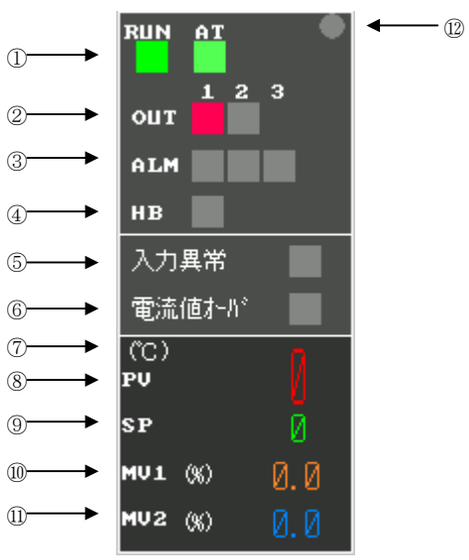
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(E5AN/E5EN 加熱冷却制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AUTO AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1、2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1、2、3の出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流値ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV1	表示	OUT1 の操作量を表示します。
⑪	MV2	表示	OUT2 の操作量を表示します。
⑫	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

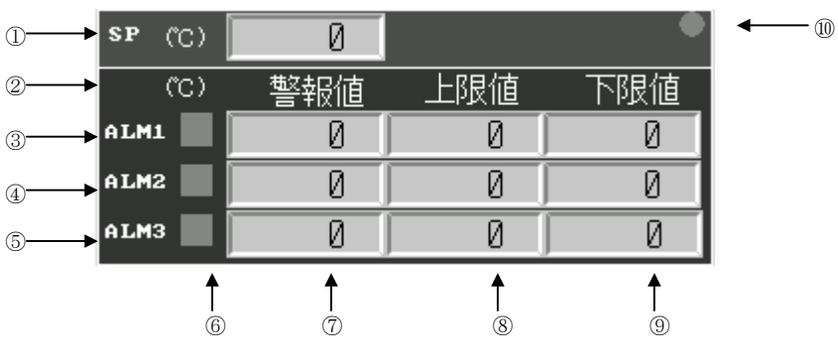
※ System Version 5 以降で使用してください。

警報値設定(E5AN／E5EN)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	SP、警報値設定
機能	目標値、アラーム出力する警報値を設定します。 アラーム出力は常時表示更新します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値の設定をします。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	ALM1	―	ALM1 の横列が警報 1 の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
④	ALM2	―	ALM2の横列が警報2の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑤	ALM3	―	ALM3の横列が警報3の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑥	ALM ﾗﾝﾌﾟ	表示	警報出力1、2、3の出力状態を表示します。 常時、表示更新します。
⑦	警報値	設定	警報値を設定します。警報種別が上下限警報以外で設定されている時に表示され設定可能となります。
⑧	上限値	設定	警報上限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑨	下限値	設定	警報下限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑩	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ALM ランプを常時表示更新します。更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

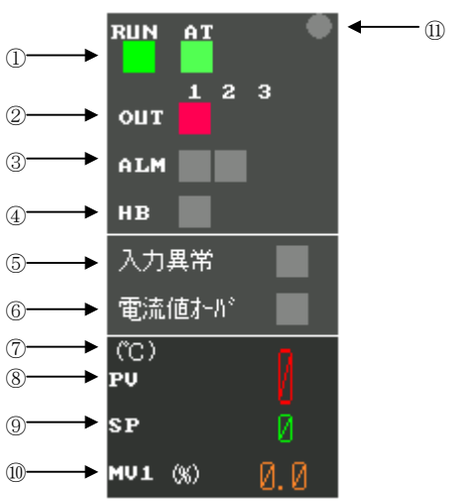
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(E5CN 標準制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5CN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1、2出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV	表示	OUT1 の操作量を表示します。
⑪	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

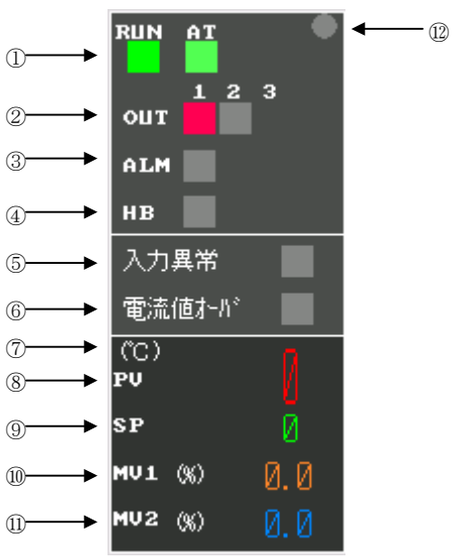
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(E5CN 加熱冷却制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5CN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(加熱冷却制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1、2の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1の出力状態を表示します。
④	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を表示します。
⑤	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑥	電流値ｵｰﾊﾞ	表示	電流値ｵｰﾊﾞの発生状態を表示します。
⑦	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。
⑧	PV	表示	現在値を表示します。
⑨	SP	表示	目標値を表示します。
⑩	MV1	表示	OUT1 の操作量を表示します。
⑪	MV2	表示	OUT2 の操作量を表示します。
⑫	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

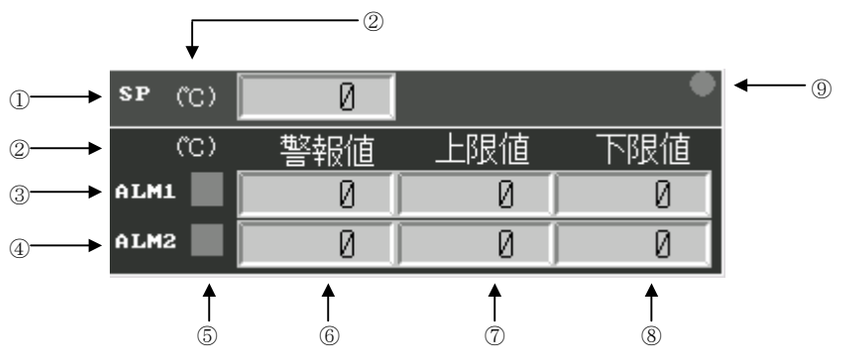
※ System Version 5 以降で使用してください。

警報値設定(E5CN)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5CN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	SP、警報値設定
機能	目標値、アラーム出力する警報値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値の設定をします。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	ALM1	―	ALM1 の横列が警報 1 の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
④	ALM2	―	ALM2の横列が警報2の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
⑤	ALM ﾗﾝﾌﾟ	表示	警報出力1，2の出力状態を表示します。 常時、表示更新します。
⑥	警報値	設定	警報値を設定します。警報種別が上下限警報以外に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑦	上限値	設定	警報上限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑧	下限値	設定	警報下限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑨	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ALM ランプを常時表示更新します。更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

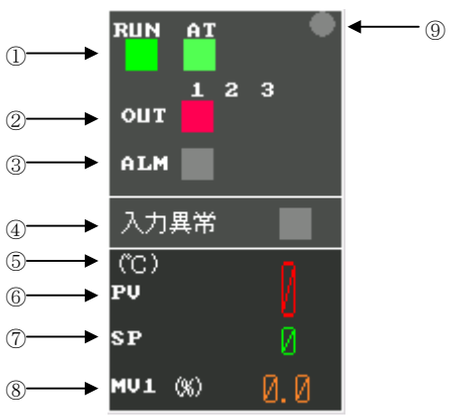
※ System Version 5 以降で使用してください。

運転ﾓﾆﾀ(E5GN 標準制御用)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	ー

ユニット種別	E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	運転ﾓﾆﾀ(標準制御用)
機能	運転状態をフェイスプレート上に常時モニタします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	RUN AT	表示	ﾗﾝ／ｽﾄｯﾌﾟ、ｵｰﾄﾁｭｰﾆﾝｸﾞの運転状態を表示します。
②	OUT	表示	制御出力1の出力状態を表示します。
③	ALM	表示	警報出力1の出力状態を表示します。
④	入力異常	表示	入力異常の発生状態を表示します。
⑤	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
⑥	PV	表示	現在値を表示します。
⑦	SP	表示	目標値を表示します。
⑧	MV1	表示	操作量を表示します。
⑨	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	表示を更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

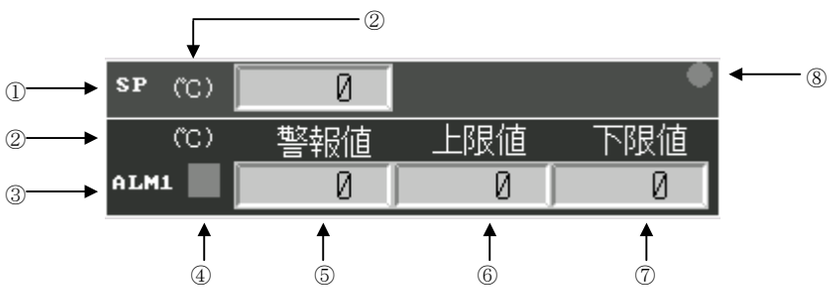
※ System Version 5 以降で使用してください。

警報値設定(E5GN)

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	SP、警報値設定
機能	目標値、アラーム出力する警報値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値の設定をします。
②	(℃)／(° F)	―	温度単位を表示します。
③	ALM1	―	ALM1 の横列が警報 1 の警報値、上限値、下限値の設定ラインです。
④	ALM ﾗﾝﾌﾟ	表示	警報出力1の出力状態を表示します。 常時、表示更新します。
⑤	警報値	設定	警報値を設定します。警報種別が上下限警報以外に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑥	上限値	設定	警報上限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑦	下限値	設定	警報下限値を設定します。警報種別が上下限警報に設定されている時に表示され設定可能となります。
⑧	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	設定	ALM ランプを常時表示更新します。更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

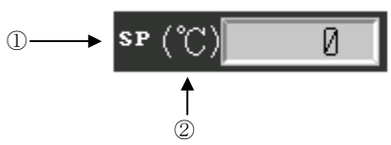
※ System Version 5 以降で使用してください。

SP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
運転ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥運転レベル	タイトル	SP 設定
機能	目標値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP	設定	目標値を設定します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

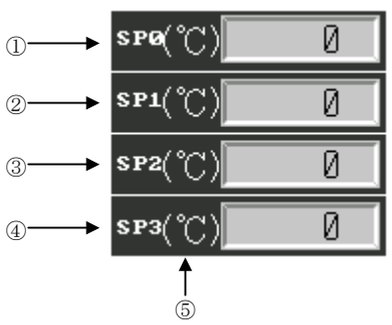
5-6-3.2 調整ﾚﾍﾞﾙ

ﾏﾙﾁ SP 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	ﾏﾙﾁ SP 設定
機能	マルチ目標値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP0	設定	目標値 0 の設定をします。
②	SP1	設定	目標値1の設定をします。
③	SP2	設定	目標値2の設定をします。
④	SP3	設定	目標値3の設定をします。
⑤	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

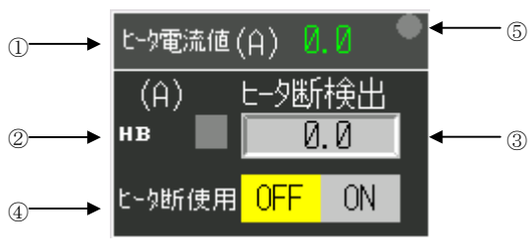
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾋｰﾀ断検出

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	ﾋｰﾀ断検出
機能	ヒータ断電流値をモニタし、ヒータ断検出値を設定します。 ヒータ断検出は有効に設定されたとき機能します。 有効／無効の設定は高機能設定レベルの部品で設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾋｰﾀ電流値	表示	ﾋｰﾀ電流値を常時モニタします。
②	HB	表示	ﾋｰﾀ断線出力状態を常時モニタします。
③	ﾋｰﾀ断検出値	設定	ﾋｰﾀ断検出値を設定します。
④	ﾋｰﾀ断使用	表示	ﾋｰﾀ断使用の設定状態(高機能設定ﾚﾍﾞﾙ)を表示します。
⑤	表示更新ﾗﾝﾌﾟ	表示	ﾋｰﾀ電流値、HB を表示更新するごとに点滅します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

PID 設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	ー
	測温抵抗体	ー
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	PID 設定
機能	PID 定数を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	P 定数	設定	P(比例帯)を設定します。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
③	I 定数	設定	I(積分時間)を設定します。
④	D 定数	設定	D(微分時間)を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力補正値

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	入力補正値
機能	センサ計測値の入力補正値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	1 点補正 入力補正値	設定	1 点補正の場合の補正値を設定します。
②	2 点補正 入力補正値 上限温度 下限温度	設定	センサ範囲の上限値、下限値について補正値を設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

マニュアルリセット値

設定レベル	入力タイプ	部品
調整レベル	熱電対入力	ー
	測温抵抗体	ー
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	マニュアルリセット値
機能	マニュアルリセット値を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	マニュアルリセット値	設定	マニュアルリセット値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期
機能	冷却係数、ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、制御周期を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	冷却係数	設定	加熱冷却制御時の冷却係数を設定します。
②	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	加熱冷却制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。
④	制御周期 OUT1	設定	加熱冷却制御時の制御出力 OUT1 の制御周期を設定します。 標準制御時の制御出力 OUT1 の制御周期を設定します。
⑤	制御周期 OUT2	設定	加熱冷却制御時の制御出力 OUT2 の制御周期を設定します。 制御周期 OUT2は加熱冷却時のみに有効です。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

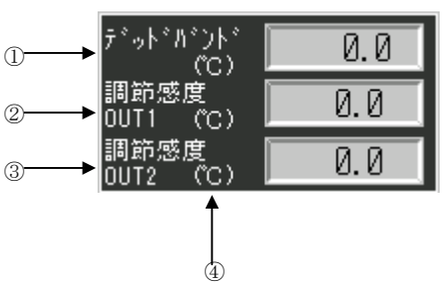
※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
調整ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥調整レベル	タイトル	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度
機能	ON／OFF 制御時のﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、調節感度を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞ	設定	ﾃﾞｯﾄﾞﾊﾞﾝﾄﾞを設定します。
②	調節感度 OUT1	設定	加熱冷却制御時の制御出力 OUT1 の調節感度を設定します。 標準制御時の制御出力 OUT1 調節感度を設定します。
③	調節感度 OUT2	設定	加熱冷却制御時の制御出力 OUT2 の調節感度を設定します。
④	(℃)／(°F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

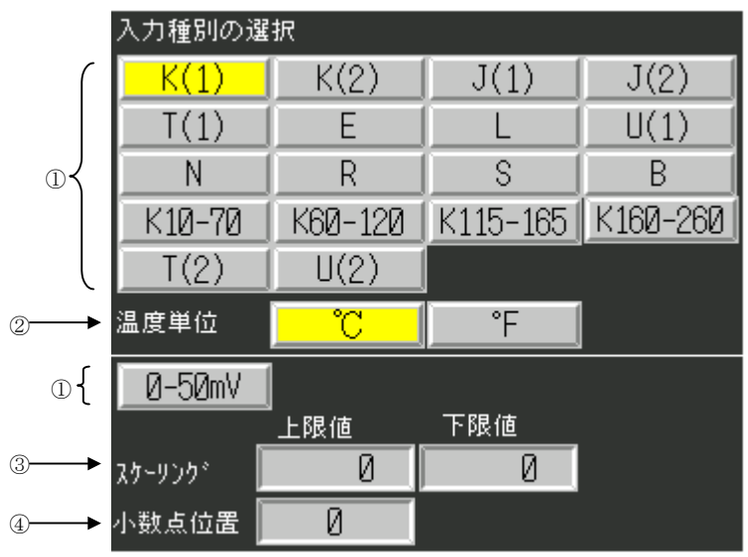
5-6-3.3 初期設定ﾚﾍﾞﾙ

入力種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点（熱電対入力）

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	―
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	入力種別、温度単位、ｽｹｰﾘﾝｸﾞ、小数点
機能	熱電対入力タイプの入力種別、温度単位を設定します。 アナログ入力を選択した時は、スケーリング、小数点位置を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力種別	設定	熱電対入力種別を設定します。 入力種別は、Ch1、Ch2 で共通になります。
②	温度単位	設定	温度単位を設定します。
③	ｽｹｰﾘﾝｸﾞ 上限値 下限値	設定	入力種別で[0-50mV]のアナログ入力を選択したとき、 スケーリングの上限値、下限値を設定します。
④	小数点位置	設定	入力種別で[0-50mV]のアナログ入力を選択したとき、 小数点以下の桁数を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力種別、温度単位（測温抵抗体）

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	入力種別、温度単位
機能	測温抵抗体入力タイプの入力種別、温度単位を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力種別	設定	測温抵抗体入力タイプの入力種別を設定します。
②	温度単位	設定	温度単位を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

目標値ﾘﾐｯﾄ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	目標値ﾘﾐｯﾄ
機能	目標値の上下限リミットを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	目標値ﾘﾐｯﾄ 上限値 下限値	設定	目標値リミットの上限値、下限値を設定します。 入力温度設定範囲内で設定することができます。
②	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

PID・ON/OFF

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	ー
	測温抵抗体	ー
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	PID、ON/OFF
機能	PID 制御、ON/OFF 制御を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御方式	設定	PID 制御、ON/OFF 制御を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

正／逆動作

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	正動作、逆動作
機能	現在値の増加もしくは減少に対して、操作量を正動作・逆動作させるかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	動作	設定	現在値の増加もしくは減少に対して操作量を、正動作させるか逆動作させるかを設定します。

【備考】

※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本Smart Active Partsは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5以降で使用してください。

制御ﾓｰﾄﾞ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	ー
	測温抵抗体	ー
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	制御ﾓｰﾄﾞ
機能	標準制御／加熱冷却制御を選択します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	制御ﾓｰﾄﾞ	設定	標準制御／加熱冷却制御を選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

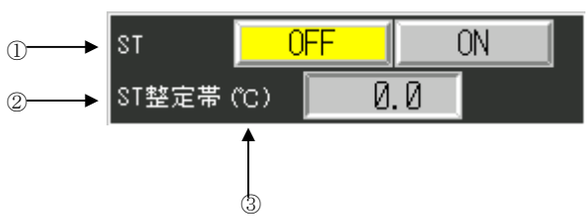
※ System Version 5 以降で使用してください。

ST ON/OFF、ST 整定帯

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	ST、ST 整定帯
機能	ST 機能の ON/OFF と ST 整定帯を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ST ON/OFF	設定	ST 機能の ON/OFF を設定します。
②	ST 整定帯	設定	ST 整定帯を設定します。
③	(℃)／(° F)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 1 種別、警報 1 励磁非励磁、警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ、警報 1 ﾗｯﾁ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	警報 1 種別、励磁、ﾋｽﾃﾘｼｽ、ﾗｯﾁ
機能	警報1の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報 1 種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報 1 種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報 1 励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報 1 ﾋｽﾃﾘｼｽ (℃)／(° F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報 1 ﾗｯﾁ	設定	警報出力状態をラッチするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 2 種別、警報 2 励磁非励磁、警報 2 ヒステリシス、警報 2 ラッチ

設定レベル	入力タイプ	部品
初期設定レベル	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	警報 2 種別、励磁、ヒステリシス、ラッチ
機能	警報2の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報2種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報2種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報2励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報2ヒステリシス (℃)／(° F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報2ラッチ	設定	警報出力状態をラッチするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

警報 3 種別、警報 3 励磁非励磁、警報 3 ﾋｽﾃﾘｼｽ、警報 3 ﾗｯﾁ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
初期設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥初期設定レベル	タイトル	警報 3 種別、励磁、ﾋｽﾃﾘｼｽ、ﾗｯﾁ
機能	警報3の警報種別、警報出力の励磁非励磁、ヒステリシス、警報ラッチを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	警報3種別	表示	設定している警報種別を表示します。
②	警報3種別設定ボタン	設定	種別ボタンを押すと、警報の設定種別がメニュー表示されます。メニューの中から種別を選択することで設定を行います。
③	警報3励磁	設定	警報出力の励磁、非励磁を設定します。
④	警報3ﾋｽﾃﾘｼｽ (℃)／(°F)	設定 表示	警報出力 ON/OFF 時のヒステリシスを設定します。 温度単位を表示します。
⑤	警報 3 ﾗｯﾁ	設定	警報出力状態をラッチするかしないかを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

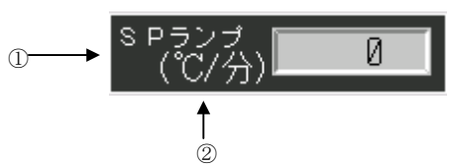
5-6-3.4 高機能設定ﾚﾍﾞﾙ

SP ﾗﾝﾌﾟ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	○
	測温抵抗体	○
	共通	―

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	SP ﾗﾝﾌﾟ
機能	SP ランプ中の変化率を指定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	SP ﾗﾝﾌﾟ	設定	1 分あたりの最大許容変化幅を設定します。 「0」を設定すると SP ランプ機能が無効になります。
②	(℃/分)／(° F/分)	表示	温度単位を表示します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

ﾏﾙﾁ SP 使用 ON/OFF

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	ﾏﾙﾁ SP 使用 ON/OFF
機能	目標値の切り替えを可能とするかどうかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾏﾙﾁ SP 使用	設定	[ON]を選択すると切り替え可能となります。 [OFF]を選択すると切り替え不可となります。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

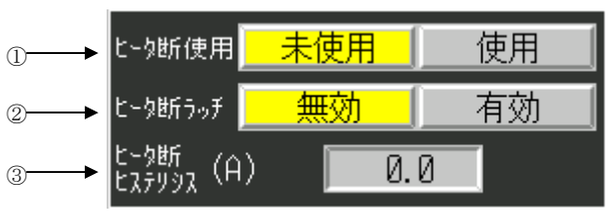
※ System Version 5 以降で使用してください。

ヒータ断使用、ヒータ断ラッチ、ヒータ断ヒステリシス

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	ﾋｰﾀ断使用、ﾗｯﾁ、ﾋｽﾃﾘｼｽ
機能	ヒータ断線検出の使用／未使用、ラッチの有無、ヒステリシスを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	ﾋｰﾀ断使用	設定	ヒータ断線検出機能を使用するかどうかを設定します。
②	ﾋｰﾀ断ﾗｯﾁ	設定	ヒータ断線警報をﾗｯﾁするかどうかを設定します。
③	ﾋｰﾀ断ﾋｽﾃﾘｼｽ	設定	ヒータ断検出時のヒステリシスを設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

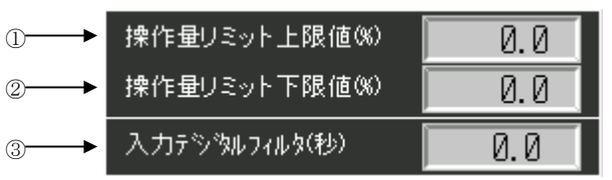
※ System Version 5 以降で使用してください。

操作量ﾘﾐｯﾄ、入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	操作量ﾘﾐｯﾄ上限下限、入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ
機能	操作量ﾘﾐｯﾄでは、操作量の上限値、下限値を設定します。 入力デジタルフィルタでは、入力用のデジタルフィルタ時定数を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	操作量ﾘﾐｯﾄ上限値	設定	操作量の上限値を設定します。 操作量計算値が上限以上の値になった場合、上限値に制限されます。
②	操作量ﾘﾐｯﾄ下限値	設定	操作量の下限値を設定します。 操作量計算値が下限以下の値になった場合、下限値に制限されます。
③	入力ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｨﾙﾀ	設定	入力用のデジタルフィルタ時定数を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

待機ｼｰｹﾝｽ再起動

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	待機ｼｰｹﾝｽ再起動
機能	警報の待機シーケンスが解除された後、再度起動可能にする条件を選択します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	待機ｼｰｹﾝｽ再起動	設定	条件Aか条件Bを選択します。

【備考】

※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本Smart Active Partsは、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5以降で使用してください。

α

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	α
機能	2自由度 PID 定数αを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	α	設定	αの設定値を設定します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

入力異常出力

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	入力異常出力
機能	センサの入力異常を警報出力するかどうかを設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	入力異常検出	設定	警報1出力に出力する場合[ON]を設定、出力しない場合[OFF]を設定します。

【備考】

※ このSmartActiveParts（SAPライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SBの「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

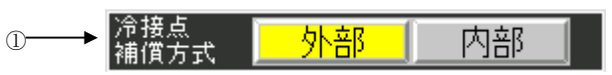
※ System Version 5 以降で使用してください。

冷接点補償方式

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
高機能設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥高機能設定レベル	タイトル	冷接点補償方式
機能	冷接点補償方式を設定します。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	冷接点補償方式	設定	冷接点補償を温調器内部で行うか外部で行うかを選択します。

【備考】

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリー一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-3.5 通信設定ﾚﾍﾞﾙ

通信設定

設定ﾚﾍﾞﾙ	入力ﾀｲﾌﾟ	部品
通信設定ﾚﾍﾞﾙ	熱電対入力	―
	測温抵抗体	―
	共通	○

ユニット種別	E5AN／E5EN E5CN／E5GN	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥E5□N¥通信設定レベル	タイトル	通信設定レベル
機能	通信ユニット NO.および通信レベルを設定します。 NS と温調器との接続では、データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVEN の設定です。 上記以外の設定にすると、NS と温調器は通信不可となりますのでご注意ください。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	通信ﾕﾆｯﾄ NO.	設定	接続する温調器ごとに異なるﾕﾆｯﾄ番号を設定します。
②	通信速度	設定	通信速度を設定します。 NS および接続する全温調器で同じ設定にします。
③	ﾃﾞｰﾀ長	設定	通信データ長を設定します。 NS と温調器との接続はデータ長=7bit です。
④	ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ	設定	通信ストップビットを設定します。 NS と温調器との接続はｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ＝2bit です。
⑤	ﾊﾟﾘﾃｨ	設定	通信パリティを設定します。 NS と温調器との接続はﾊﾟﾘﾃｨ=EVEN です。

【備考】

※ データ長=7bit、ストップビット=2bit、パリティ=EVEN 以外に設定して、温調器のソフトリセットまたは電源再投入すると温調器とNSとの通信ができなくなります。

※ この SmartActiveParts（SAP ライブラリ）を使用する際には必ず、メニューバーの［設定］-［システム設定］を選択し、［イニシャル］タブのシステムメモリ一覧を開き$SB の「基本動作」のチェックを入れてください。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないでください。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-6-4　Ver5 以前のライブラリ　E5ZN-DRT

5-6-4.1　目標値設定 0-15 号機

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥目標値設定	タイトル	目標値設定 0-15 号機
機能	E5ZN-DRT に接続された最大 16 台の E5ZN 温度調節器の目標値を、ボタンをタッチ ON することで読出し、書込みができます。未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器への読出し、書込みは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】（例では、E5ZN 温度調節器の接続台数は 00～05 の 6 台）



番号	項目	設/表	内容
①	全てに適用	設定	左隣の「入力値」欄の値を各 CH の「入力値」欄へ設定します。
②	設定値	表示	E5ZN 温度調節器から読み出した目標値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
③	入力値	設定	E5ZN 温度調節器に書込む目標値を設定します。
④	読出し	設定	E5ZN 温度調節器の目標値を「設定値」欄へ読み出します。
⑤	書込み	設定	「入力値」欄の値をE5ZN 温度調節器の目標値へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の目標値を「設定値」欄へ読み出します。
⑥	設定→入力	設定	「設定値」欄の値を「入力値」欄へ設定します。

【備考】
※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。
※DVminiフォルダにインストールされるライブラリには、設定値・入力値の表示に同一欄を使用するため、[設定→入力]ボタンはありません。

5-6-4.2 PID 設定 0-7 号機

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥PID 設定	タイトル	PID 設定 0-7 号機
機能	E5ZN-DRT に接続されたユニット番号 0～7 の E5ZN 温度調節器の P.I.D.値を、ボタンをタッチ ON することで読出し、書込みができます。 未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器への読出し、書込みは行われません。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	全てに適用	設定	上部の「入力値」の「P」「I」「D」欄の値を各 CH の「入力値」の「P」「I」「D」欄へ設定します。
②	設定値	表示	E5ZN 温度調節器から読み出した P.I.D.値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
③	入力値	設定	E5ZN 温度調節器に書込む P.I.D.値を設定します。設定範囲外を設定すると文字色と背景色が変化します。
④	読出し	設定	E5ZN 温度調節器の P.I.D.値を「設定値」の「P」「I」「D」欄へ読み出します。
⑤	書込み	設定	「入力値」の「P」「I」「D」欄の値をE5ZN 温度調節器の P.I.D.値へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の P.I.D.値を「設定値」の「P」「I」「D」欄へ読み出します。
⑥	設定→入力	設定	「設定値」の「P」「I」「D」欄の値を「入力値」の「P」「I」「D」欄へ設定します。

【備考】

※このSAPライブラリを使用する際には、NSの通信タイムアウト時間を6秒以上に設定してください。また、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1」に設定してください。

※ユニット番号 8～15 の E5ZN 温度調節器には、タイトル名：PID 設定 8-15 号機の SAP ライブラリをお使いください。

※DVminiフォルダにインストールされるライブラリには、設定値・入力値の表示に同一欄を使用するため、[設定→入力]ボタンはありません。

5-6-4.3 ラン／ストップ指令

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥動作指令	タイトル	ラン／ストップ指令
機能	E5ZN-DRT に接続された最大 16 台の E5ZN 温度調節器へ制御開始(ラン)/制御停止(ストップ)の指令を行います。全ての E5ZN 温度調節器に対して指令を行う一括指令、各ユニットの CH 別に指令を行う個別指令ができます。未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器へ制御開始(ラン)/制御停止(ストップ)の指令は行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	一括ラン	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へ制御開始(ラン)の指令を行います。
②	一括ストップ	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へ制御停止(ストップ)の指令を行います。
③	ラン	設定	該当するユニット番号の CH へ制御開始(ラン)の指令を行います。
④	ストップ	設定	該当するユニット番号の CH へ制御停止(ストップ)の指令を行います。

【備考】

※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。

※

※

5-6-4.4 AT 実行/中止指令

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥動作指令	タイトル	AT 実行/中止指令
機能	E5ZN-DRT に接続された最大 16 台の E5ZN 温度調節器へ AT 実行/中止の指令を行います。全ての E5ZN 温度調節器に対して指令を行う一括指令、各ユニットの CH 別に指令を行う個別指令ができます。未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器へ AT 実行/中止の指令は行われません。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	一括実行	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へ AT 実行の指令を行います。
②	一括中止	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へ AT 中止の指令を行います。
③	実行	設定	該当するユニット番号の CH へ AT 実行の指令を行います。
④	中止	設定	該当するユニット番号の CH へ AT 中止の指令を行います。

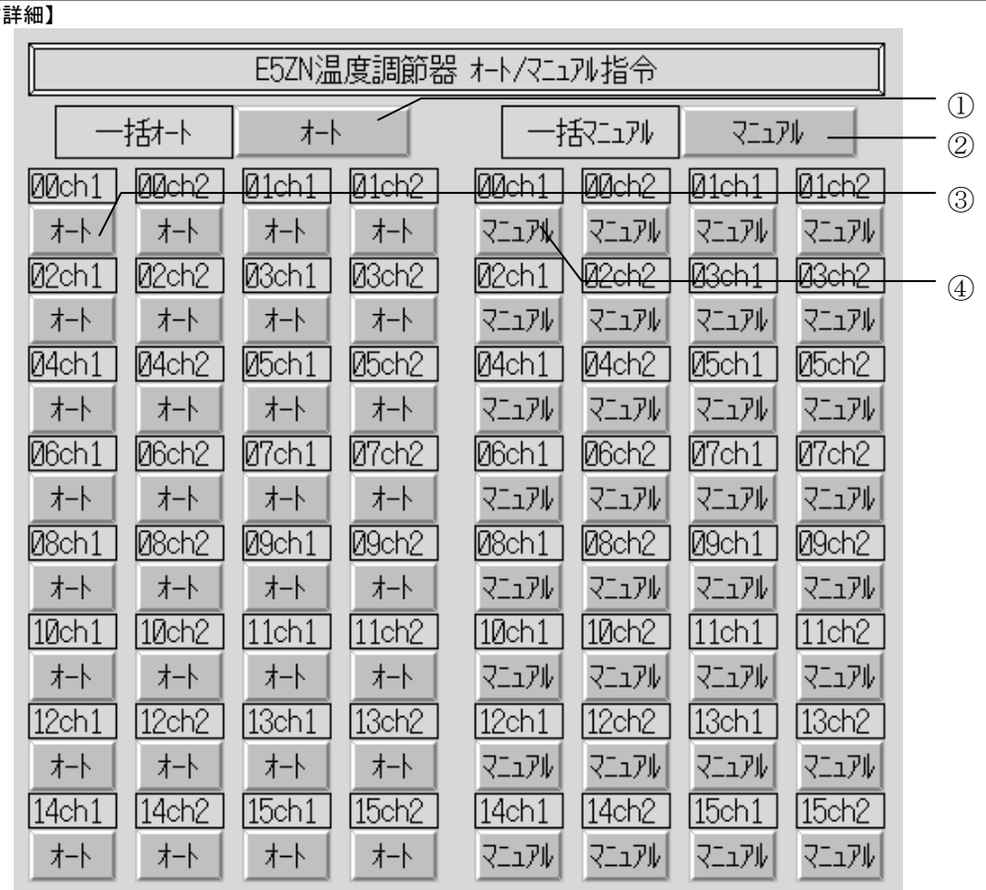
【備考】

※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。

5-6-4.5 オート／マニュアル指令

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥動作指令	タイトル	オート／マニュアル指令
機能	E5ZN-DRT に接続された最大 16 台の E5ZN 温度調節器へオート／マニュアルの指令を行います。全ての E5ZN 温度調節器へ指令を行う一括指令、各ユニットの CH 別に指令行う個別指令ができます。未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器へオート／マニュアルの指令は行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	一括実行	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へオート動作の指令を行います。
②	一括中止	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へマニュアル動作の指令を行います。
③	実行	設定	該当するユニット番号の CH へオート動作の指令を行います。
④	中止	設定	該当するユニット番号の CH へマニュアル動作の指令を行います。

【備考】

※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。

5-6-4.6 設定エリア 0 設定 0 号機(～15 号機)

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥設定エリア 0 設定	タイトル	設定エリア 0 設定 0 号機(～15 号機)
機能	E5ZN-DRT に接続されたの E5ZN 温度調節器の設定エリア 0 を、ボタンをタッチ ON することで読出し、書込みができます。未接続、通信異常の場合には設定エリア 0 の読出し、書込みは行われません。0 号機には 0 号機用、1 号機なら 1 号機用、15 号機なら 15 号機用の SAP ライブラリが用意されています。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	CH1 設定	表示	E5ZN 温度調節器の CH1 から読み出した設定エリア 0 の値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
②	CH1 入力	設定	E5ZN 温度調節器の CH1 に書込む設定エリア 0 の値を設定します。設定範囲外を設定すると文字色と背景色が変化します。
③	CH2 設定	表示	E5ZN 温度調節器の CH2 から読み出した設定エリア 0 の値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
④	CH2 入力	設定	E5ZN 温度調節器の CH2 に書込む設定エリア 0 の値を設定します。設定範囲外を設定すると文字色と背景色が変化します。
⑤	CH1/CH2 読出し	設定	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 の設定エリア 0 を、CH1/CH2 の「設定値」欄へ読み出します。
⑥	CH1 設定→入力	設定	CH1 の「設定値」欄の値を「入力値」欄へ設定します。
⑦	CH1 書込み	設定	CH1 の「入力値」欄の値を E5ZN 温度調節器の CH1 の設定エリア 0 へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の CH1 の設定エリア 0 の値を「設定値」欄へ読み出します。
⑧	CH2 設定→入力	設定	CH2 の「設定値」欄の値を「入力値」欄へ設定します。
⑨	CH2 書込み	設定	CH2 の「入力値」欄の値を E5ZN 温度調節器の CH2 の設定エリア 0 へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の CH2 の設定エリア 0 の値を「設定値」欄へ読み出します。

【備考】

※このSAPライブラリを使用する際には、NSの通信タイムアウト時間を6秒以上に設定してください。また、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1」に、999 番の倍率を「0.01」に設定してください。

※DVminiフォルダにインストールされるライブラリはCH1とCH2表示用として個別にライブラリが用意されています。また、設定値・入力値は同一欄を使用して表示するため、[設定→入力]ボタンはありません。

5-6-4.7 設定エリア 0 設定 0-15 号機選択

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥Ver5 以前のライブラリ E5ZN-DRT_V1_2¥設定エリア 0 設定	タイトル	設定エリア 0 設定 0-15 号機選択
機能	E5ZN-DRT に接続された E5ZN 温度調節器の中から任意のユニット No.の設定エリア 0 を、ボタンをタッチ ON することで読出し、書込みができます。未接続、通信異常の場合には設定エリア 0 の読出し、書込みは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ユニット No.入力	設定	設定エリア 0 を表示・設定したいユニット No.を入力します。 ユニット No.入力後、「設定」の値が更新されます。
②	CH1 設定	表示	E5ZN 温度調節器の CH1 から読み出した設定エリア 0 の値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
③	CH1 入力	設定	E5ZN 温度調節器の CH1 に書込む設定エリア 0 の値を設定します。設定範囲外を設定すると文字色と背景色が変化します。
④	CH2 設定	表示	E5ZN 温度調節器の CH2 から読み出した設定エリア 0 の値を表示します。 「読出し」「書込み」時に値が更新されます。
⑤	CH2 入力	設定	E5ZN 温度調節器の CH2 に書込む設定エリア 0 の値を設定します。設定範囲外を設定すると文字色と背景色が変化します。
⑥	CH1/CH2 読出し	設定	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 の設定エリア 0 を、CH1/CH2 の「設定値」欄へ読み出します。
⑦	CH1 設定→入力	設定	CH1 の「設定値」欄の値を「入力値」欄へ設定します。
⑧	CH1 書込み	設定	CH1 の「入力値」欄の値を E5ZN 温度調節器の CH1 の設定エリア 0 へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の CH1 の設定エリア 0 の値を「設定値」欄へ読み出します。
⑨	CH2 設定→入力	設定	CH2 の「設定値」欄の値を「入力値」欄へ設定します。
⑩	CH2 書込み	設定	CH2 の「入力値」欄の値を E5ZN 温度調節器の CH2 の設定エリア 0 へ書込みます。書込み後、E5ZN 温度調節器の CH2 の設定エリア 0 の値を「設定値」欄へ読み出します。

【備考】

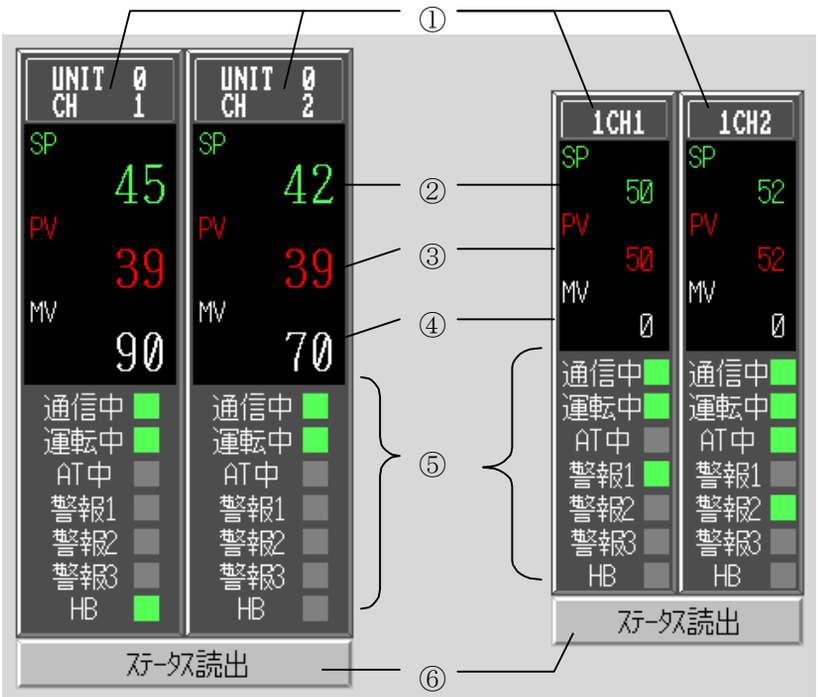
※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。また、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1」に、999 番の倍率を「0.01」に設定してください

※DVmini にインストールされるライブラリは CH1、CH2 を同時に表示することができません。[CH1]、[CH2]ボタンで切り替えて表示してください。

5-6-4.8 フェースプレート(大)0 号機(～15 号機), フェースプレート(小)0 号機(～15 号機)

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1_2¥フェースプレート(大)/フェースプレート(小)	タイトル	フェースプレート(大)0 号機(～15 号機) フェースプレート(小)0 号機(～15 号機)
機能	E5ZN-DRT に接続された E5ZN 温度調節器のステータスを、ボタンをタッチ ON することで読出して表示します。未接続、通信異常の場合にはステータスの読出しは行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】(下図では、左:フェースプレート(大)0 号機、右:フェースプレート(小)1 号機)



番号	項目	設/表	内容
①	ユニット No.、CH 種別	表示	モニタしている E5ZN 温度調節器のユニット No.、CH 種別を表示します。
②	SP(目標値)	表示	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 から読み出した目標値を表示します。 「ステータス読出」時に値が更新されます。
③	PV(現在値)	表示	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 から読み出した現在値を表示します。 「ステータス読出」時に値が更新されます。
④	MV(操作量)	表示	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 から読み出した操作量を表示します。 「ステータス読出」時に値が更新されます。
⑤	ステータス	表示	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 から読み出したステータスを表示します。 「ステータス読出」時に値が更新されます。
⑥	ステータス読出	設定	E5ZN 温度調節器の CH1/CH2 の目標値、現在値、操作量、ステータスを読み出します。

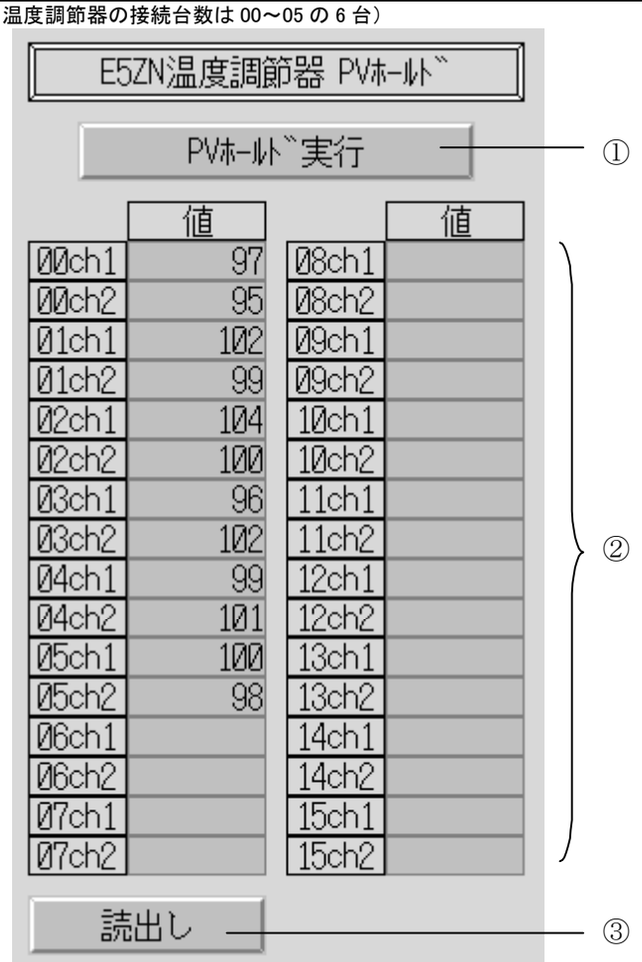
【備考】

※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。また、メニューバーの[設定]-[数字単位・スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1」に設定してください。

5-6-4.9 PV ホールド

ユニット種別	E5ZN-DRT	インストール先	SmartActiveParts_J¥温度調節器¥Ver5 以前のライブラリ¥E5ZN-DRT_V1¥PV ホールド	タイトル	PV ホールド
機能	E5ZN-DRT に接続された E5ZN 温度調節器の PV ホールドの指令を行い、各ユニットの PV ホールド値を読み出して表示します。未接続、通信異常の E5ZN 温度調節器には PV ホールドの指令は行われません。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】（例では、E5ZN 温度調節器の接続台数は 00～05 の 6 台）



番号	項目	設/表	内容
①	PV ホールド実行	設定	E5ZN-DRT に接続されている全ての E5ZN 温度調節器へ PV ホールドの指令を行います。
②	PV ホールド値	表示	E5ZN 温度調節器から読み出した PV ホールド値を表示します。
③	読出し	設定	E5ZN 温度調節器の保存されている PV ホールド値を読み出します。

【備考】

※この SAP ライブラリを使用する際には、NS の通信タイムアウト時間を 6 秒以上に設定してください。

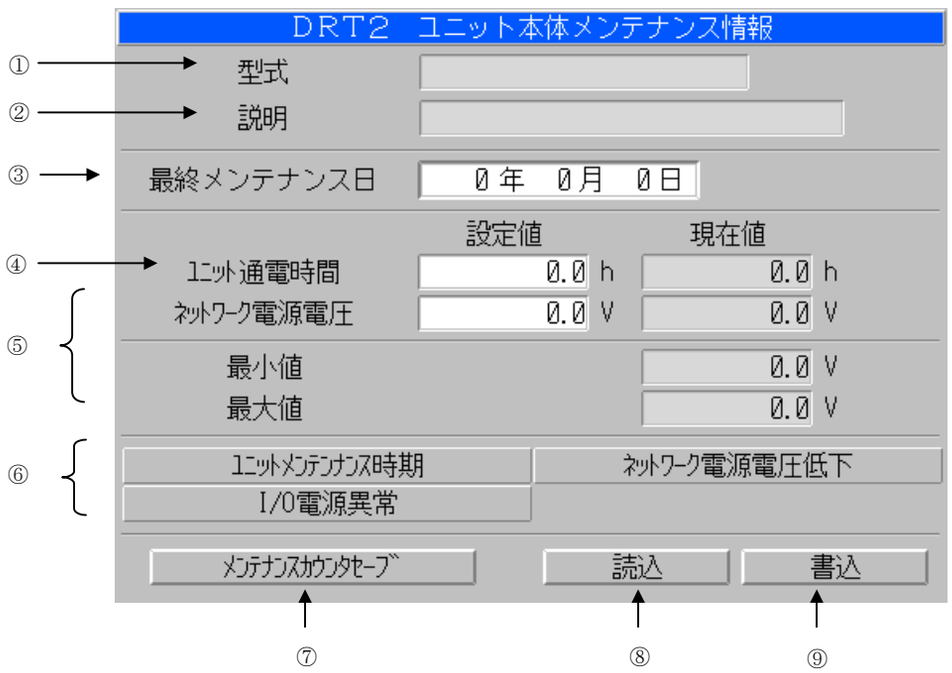
5-7 DRT2

5-7-1 DRT2

5-7-1.1 ユニット本体メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2 関連¥ユニット本体	タイトル	DRT2 ユニット本体メンテナンス情報
機能	スマートスレーブ（DRT2）のユニットメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。（拡張ユニットの型式は表示されません。）
②	説明	表示	ユニットに設定されている説明を表示します。
③	最終 メンテナンス日	設／表	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
④	ユニット通電時間	設／表	ユニット通電時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。
⑤	ネットワーク 電源電圧	設／表	ネットワーク電源電圧の設定値、現在値、最小値、最大値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が変わります。 ユニット通電時間　現在値　　：橙色 ネットワーク電源電圧　現在値　：赤色
⑥	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 ユニットメンテナンス時期　　：橙色 ネットワーク電源電圧低下　：赤色 I/O 電源異常　　：赤色
⑦	メンテナンス カウンタセーブ	設定	メンテナンスカウンタをセーブします。
⑧	読込	設定	①～⑥の項目を読み込みます。
⑨	書込	設定	③～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑥を読み込みます。

【備考】

※ SAPライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet 上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※ System Version 5 以降で使用してください。

5-7-1.2 ユニット本体ステータス情報

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥ DRT2 関連¥ユニット本体	タイトル	DRT2 ユニット本体ステータス情報
機能	スマートスレーブ(DRT2)のユニットステータスのモニタする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。(拡張ユニットの型式は表示されません。)
②	ステータスサマリ	表示	ユニットで異常が発生した場合、色が変わります。表示するステータスサマリはユニットにより異なり、モニタするユニットにステータスが存在しない場合、ステータスサマリは表示されません。 IN センサ短絡 :赤色 IN センサ未接続 :赤色 IN 接続機器メンテナンス時期 :橙色 OUT 外部負荷電源短絡 :赤色 OUT 外部負荷電源未接続 :赤色 OUT 接続機器メンテナンス時期 :橙色
③	ビットサマリ	表示	4Bit 単位で異常の発生状況を表示します。異常が発生した場合、色が変わります。表示するビットサマリはユニットにより異なり、モニタするユニットにビットが存在しない場合、ビットサマリは表示されません。 IN センサ短絡 :赤色 IN センサ未接続 :赤色 IN 接続機器メンテナンス時期 :橙色 OUT 外部負荷電源短絡 :赤色 OUT 外部負荷電源未接続 :赤色 OUT 接続機器メンテナンス時期 :橙色 接続機器メンテナンス時期以外の異常が発生している場合、赤色で表示します。
④	読込	設定	①～③の項目を読み込みます。読み込みが開始すると進捗ダイアログが表示され、読み込み完了後、自動的に閉じます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「基本動作」をチェック ON して下さい。また、本 Smart Active Parts は、ポップアップ画面上で使用することはできません。

※ 起動画面には使用しないで下さい。

※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet 上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

5-7-1.3 IN 情報モニタ

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2関連¥IN	タイトル	DRT2 IN 情報モニタ
機能	4Bit 単位で IN 情報の表示、設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。(拡張ユニットの型式は表示されません。)
②	Bit	表示	該当 Bit を表示すると共に、ON/OFF 状態をランプ表示します。ON の場合、黄色に変わります。
③	I/O コメント	表示	各接点に設定されている I/O コメントを表示します。
④	設定値	設／表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設／表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。設定閾値を超えると橙色に変わります。
⑥	単位	表示	各接点に設定されているメンテナンスモード(秒／回)を表示します。
⑦	短絡	表示	センサ電源短絡の状態をランプ表示します。ランプ表示はユニットにより異なります。センサ電源短絡の機能がないユニットの場合、ランプ表示はしません。短絡の場合、赤色に変わります。
⑧	未接続	表示	センサ未接続の状態をランプ表示します。ランプ表示はユニットにより異なります。センサ未接続の機能がないユニットの場合、ランプ表示はしません。未接続の場合、赤色点滅に変わります。
⑨	読込	設定	①～⑧の項目を読み込みます。読み込みが開始すると進捗ダイアログが表示され、読み込み完了後、自動的に閉じます。
⑩	書込	設定	④～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑧を読み込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「日付・時間」をチェック ON して下さい。

※ 4bit 単位のモニタは、0～3Bit、4～7Bit、8～11Bit、12～15Bit、16～19Bit、20～23Bit、24～27Bit、28～31Bit があります。実際に接続されるユニット(耐環境、IN、OUT 等)に合わせた Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を適切に選択し、使用して下さい。

5-7-1.4 OUT 情報モニタ

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2関連¥OUT	タイトル	DRT2 OUT 情報モニタ
機能	4Bit 単位で OUT 情報の表示、設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。(拡張ユニットの型式は表示されません。)
②	Bit	表示	該当 Bit を表示すると共に、ON/OFF 状態をランプ表示します。ON の場合、黄色に変わります。
③	I/O コメント	表示	各接点に設定されている I/O コメントを表示します。
④	設定値	設／表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設／表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。設定閾値を超えると橙色に変わります。
⑥	単位	表示	各接点に設定されているメンテナンスモード(秒／回)を表示します。
⑦	短絡	表示	外部負荷電源短絡の状態をランプ表示します。ランプ表示はユニットにより異なります。外部負荷電源短絡の機能がないユニットの場合、ランプ表示はしません。短絡の場合、赤色に変わります。
⑧	未接続	表示	外部負荷未接続の状態をランプ表示します。ランプ表示はユニットにより異なります。外部負荷未接続の機能がないユニットの場合、ランプ表示はしません。未接続の場合、赤色点滅に変わります。
⑨	読込	設定	①～⑧の項目を読み込みます。読み込みが開始すると進捗ダイアログが表示され、読み込み完了後、自動的に閉じます。
⑩	書込	設定	④～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑧を読み込みます。

【備考】

※ この Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を使用する際には必ず、メニューバーの[設定]-[システム設定]を選択し、[イニシャル]タブのシステムメモリ一覧を押して$SB の「日付・時間」をチェック ON して下さい。

※ 4bit 単位のモニタは、0～3Bit、4～7Bit、8～11Bit、12～15Bit、16～19Bit、20～23Bit、24～27Bit、28～31Bit があります。実際に接続されるユニット(耐環境、IN、OUT 等)に合わせた Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を適切に選択し、使用して下さい。

5-7-1.5 モニタ時間情報

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2 関連¥モニタ	タイトル	DRT2 モニタ時間情報
機能	4Bit 単位で OUT→IN の ON タイミング情報の表示、設定を行う。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。(拡張ユニットの型式は表示されません。)
②	Bit	表示	該当 Bit を表示します。
③	I/O コメント	表示	各接点に設定されている I/O コメントを表示します。
④	設定値	設／表	設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設／表	現在値を表示します。設定することも可能です。設定閾値を超えると橙色に変わります。
⑥	単位	表示	単位を表示します。
⑦	読込	設定	①、③～⑤の項目を読み込みます。読み込みが開始すると進捗ダイアログが表示され、読み込み完了後、自動的に閉じます。
⑧	書込	設定	④の項目を書き込みます。書き込み後、①、③～⑤を読み込みます。

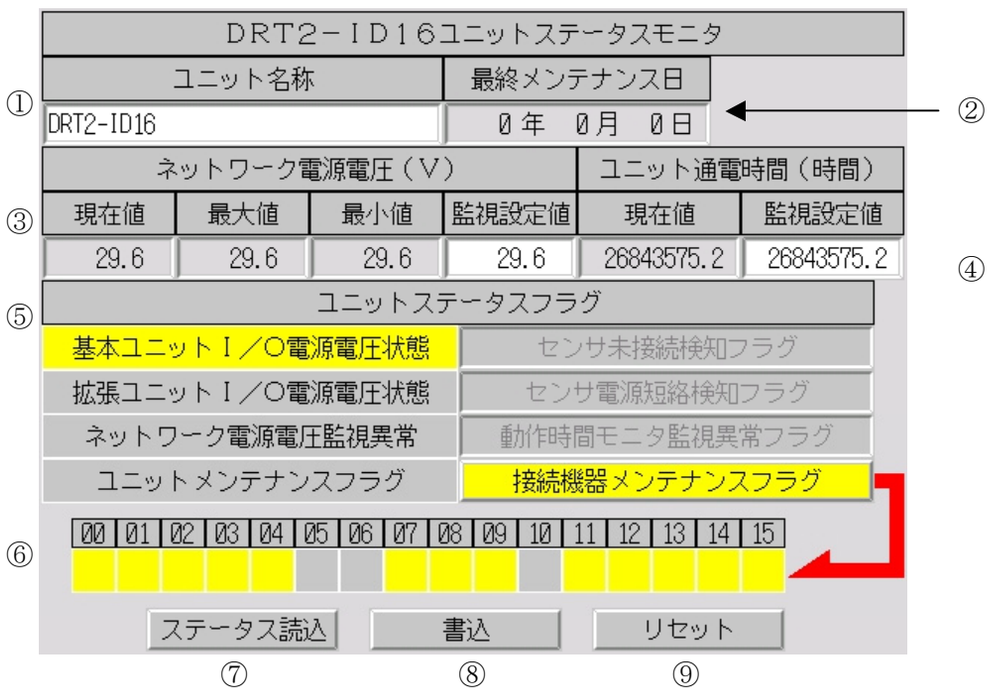
【備考】

※ 4bit 単位のモニタは、0～3Bit、4～7Bit があります。実際に接続されるユニット(耐環境、IN、OUT 等)に合わせた Smart Active Parts(SAP ライブラリ)を適切に選択し、使用して下さい。

5-7-1.6 ユニットステータスモニタ(DRT2)

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2 関連¥Ver5 以前のライブラリ¥DRT2_V1¥DRT2-*****	タイトル	ユニットステータスモニタ
機能	スマートスレーブ(DRT2)のユニットステータスのモニタ、パラメータの設定をします。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	ユニット名称	設/表	ユニットに設定されているユニット名称を表示します。また、ユニット名称を書き換えることが可能です。
②	最終メンテナンス日	表示	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。 書き換えることは出来ません
③	ネットワーク電源電圧	設/表	ネットワーク電源電圧の現在値、最大値、最小値、監視設定値を表示します。 監視設定値を設定することが可能です
④	ユニット通電時間	設/表	ユニット通電時間の現在値、監視設定値を表示します。監視設定値を設定することが可能です。
⑤	ユニットステータスフラグ	設/表	ユニットステータスフラグを表示します。各項目の詳細はユニットのマニュアルを御参照ください
⑥	I/O ステータス (00～15)	表示	ユニットステータスフラグの中で未接続検知、短絡検知、動作時間監視異常、接続機器メンテナンスフラグの表示部ははそれぞれタッチスイッチになっており、押下することによりその項目の I/O ステータスを読み込み、ここに表示します。(使用可能項目はユニットによって異なります。)表示中の I/O ステータスの内容は赤い矢印で指し示します。
⑦	ステータス読込	設定	押下することにより①～⑤のユニットステータスを一括で読み込みます。
⑧	書込み	設定	ユニット名称、ネットワーク電源電圧監視設定値、ユニット通電時間監視設定値を書き込みます。
⑨	リセット	設定	ネットワーク電源電圧最大/最小値、ユニット通電時間現在値をリセットします。

【備考】

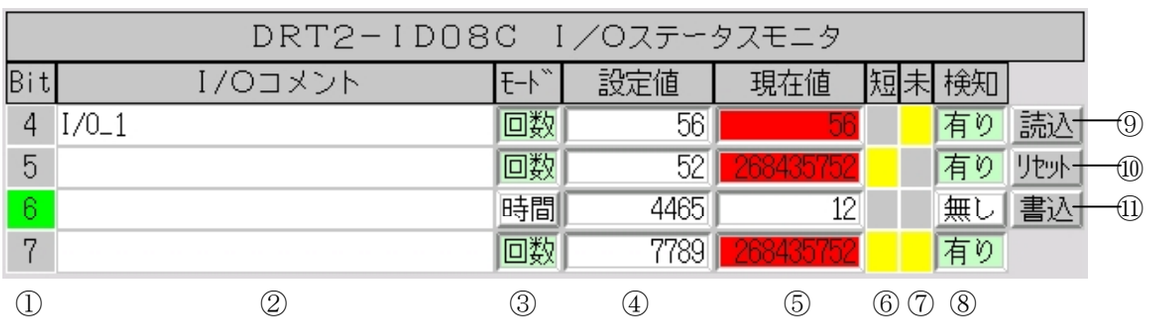
※この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位･スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を[0.1]にしてください。

※IN/OUT、耐環境ユニット、それぞれにより、ユニットステータスフラグの内容が異なります。その詳細は、DRT2 シリーズのマニュアルを御参照ください。

5-7-1.7 I/O ステータスモニタ(DRT2)

ユニット種別	DRT2	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2 関連¥Ver5 以前のﾗｲﾌﾞﾗﾘ¥DRT2_V1¥DRT2-*****	タイトル	I/O ステータスモニタ
機能	4Bit 単位で、I/O ステータスの表示、設定をします。				

【ｲﾒｰｼﾞ図・操作詳細】



番号	項目	設/表	内容
①	Bit	表示	該当 BitNo.を表示すると共に、ON/OFF 状態をランプ表示します。
②	I/O コメント	設/表	各接点に設定されている I/O コメントを表示します。設定が可能です。
③	モード	設/表	各接点に設定されているメンテナンスモード(時間/回数)の設定を表示します。 モードを設定することが可能です。
④	設定値	設/表	メンテナンス監視設定値を表示します。設定することも可能です。
⑤	現在値	設/表	メンテナンスカウンタの現在値を表示します。設定することも可能です。
⑥	短	表示	耐環境ユニットの短絡検知フラグの状態を表示します。IN ユニットの場合センサ電源短絡検知、OUT ユニットの場合外部負荷短絡検知となります。
⑦	未	表示	耐環境 IN ユニットのセンサ未接続検知フラグの状態を表示します。
⑧	検知	表示	耐環境 IN ユニットのセンサ未接続検知設定を表示します。検知の有無を設定することが可能です。
⑨	読込	設定	4Bit 分のデータを一括で読み込みます。
⑩	リセット	設定	メンテナンスカウンタ現在値をリセットします。
⑪	書込み	設定	4Bit 分の I/O コメント、メンテナンスモード、メンテナンスカウンタ監視設定値/現在値、センサ未接続検知設定を一括で書き込みます。

【備考】

※ 実際に接続されるユニット(耐環境、IN、OUT 等)に合わせた SAP ライブラリを適切に選択して御使用ください。

※ 拡張ユニットには対応しておりません。

5-7-2 アナログ

5-7-2.1 アナログユニット メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-AD04	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥ｱﾅﾛｸﾞ(AD)¥ｱﾅﾛｸﾞ入力ﾕﾆｯﾄ	ﾀｲﾄﾙ	DRT2 アナログ入力ユニット メンテナンス情報
機能	アナログ入力ユニット(DRT2)のユニットメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。
②	説明	表示	ユニットに設定されている説明を表示します。
③	最終 メンテナンス日	設／表	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
④	ユニット通電時間	設／表	ユニット通電時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。
⑤	ネットワーク 電源電圧	設／表	ネットワーク電源電圧の設定値、現在値、最小値、最大値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が変わります。 ユニット通電時間　現在値　　:橙色 ネットワーク電源電圧　現在値　:赤色
⑥	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 ユニットエラー　　:赤色
⑦	読込	設定	①～⑥の項目を読み込みます。
⑧	書込	設定	③～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑥を読み込みます。

【備考】

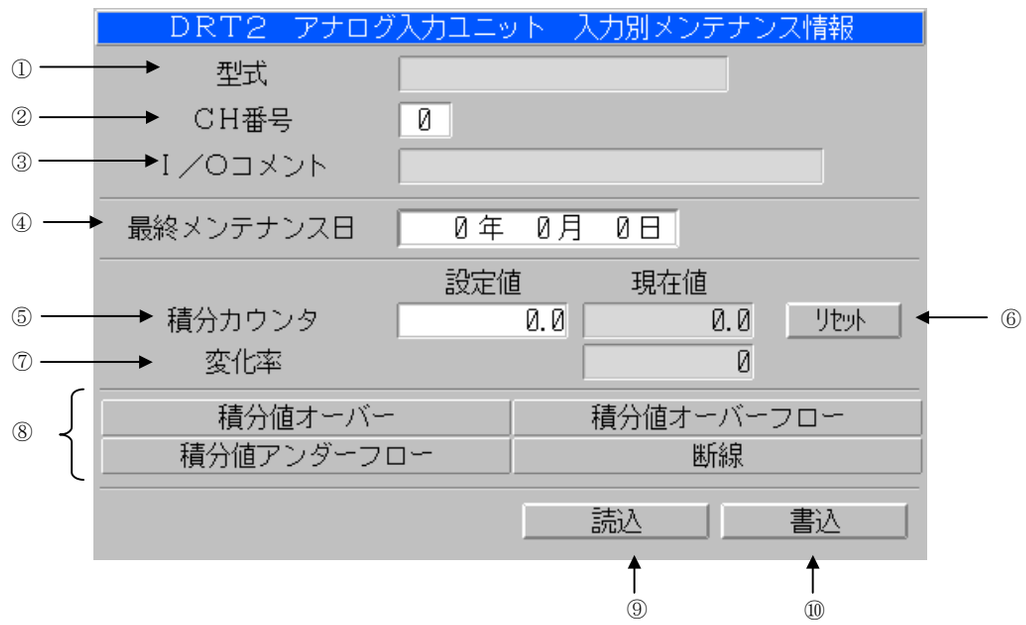
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet 上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

5-7-2.2 アナログ入力ユニット　入力別メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-AD04	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥ｱﾅﾛｸﾞ(AD)¥ｱﾅﾛｸﾞ入力ﾕﾆｯﾄ	ﾀｲﾄﾙ	DRT2　アナログ入力ユニット 入力別メンテナンス情報
機能	アナログ入力ユニット(DRT2)の入力 CH 別のメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。
②	CH 番号	設定	入力 CH 番号を設定します。
③	説明	表示	CH 番号に設定されている説明を表示します。
④	最終 メンテナンス日	設／表	接続機器の最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
⑤	積分カウンタ	設／表	積分カウンタの設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が橙色に変わります。
⑥	リセット	設定	積分カウンタの現在値をリセットします。
⑦	変化率	表示	変化率を表示します。
⑧	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 積分値オーバー　:橙色 積分値オーバーフロー　:橙色 積分値アンダーフロー　:橙色 断線　:赤色
⑨	読込	設定	①～⑧の項目を読み込みます。
⑩	書込	設定	④～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑧を読み込みます。

【備考】

※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet　上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※　System Version 5　で以降使用して下さい。

5-7-2.3 アナログ出力ユニット　メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-DA02	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥アナログ(AD)¥アナログ出力ユニット	タイトル	DRT2　アナログ出力ユニット メンテナンス情報
機能	アナログ出力ユニット(DRT2)のユニットメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。
②	説明	表示	ユニットに設定されている説明を表示します。
③	最終 メンテナンス日	設／表	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
④	ユニット通電時間	設／表	ユニット通電時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。
⑤	ネットワーク 電源電圧	設／表	ネットワーク電源電圧の設定値、現在値、最小値、最大値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が変わります。 ユニット通電時間　現在値　　:橙色 ネットワーク電源電圧　現在値　:赤色
⑥	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 ユニットエラー　　:赤色
⑦	読込	設定	①～⑥の項目を読み込みます。
⑧	書込	設定	③～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑥を読み込みます。

【備考】

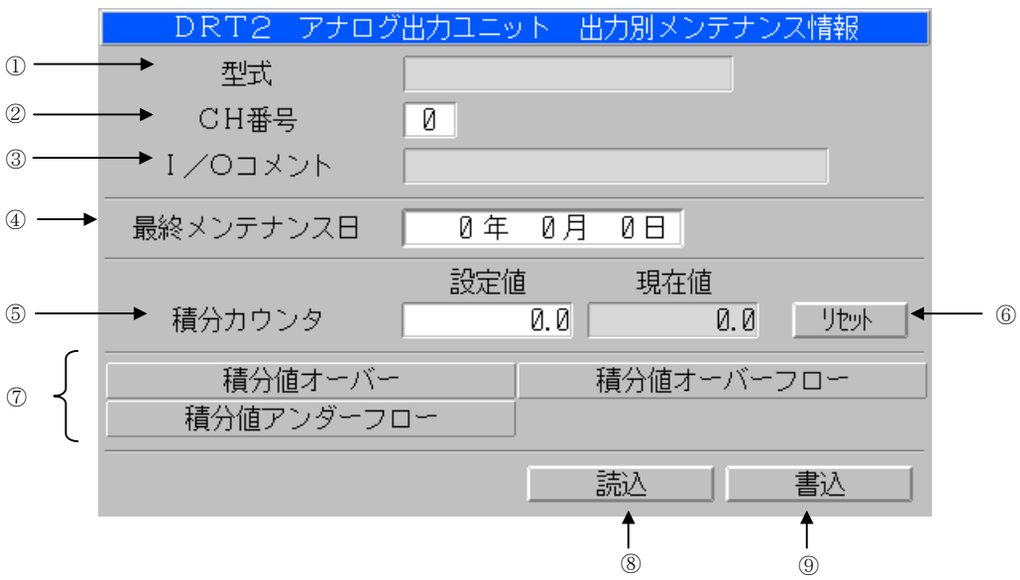
※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet　上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※　System Version 5　以降で使用して下さい。

5-7-2.4 アナログ出力ユニット 出力別メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-DA02	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥アナログ(AD)¥アナログ出力ユニット	タイトル	DRT2 アナログ出力ユニット 出力別メンテナンス情報
機能	アナログ出力ユニット(DRT2)の出力 CH 別のメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。(拡張ユニットの型式は表示されません。)
②	CH 番号	設定	出力 CH 番号を設定します。
③	説明	表示	CH 番号に設定されている説明を表示します。
④	最終 メンテナンス日	設／表	接続機器の最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
⑤	積分カウンタ	設／表	積分カウンタの設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が橙色に変わります。
⑥	リセット	設定	積分カウンタの現在値をリセットします。
⑦	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 積分値オーバー :橙色 積分値オーバーフロー :橙色 積分値アンダーフロー :橙色
⑧	読込	設定	①～⑧の項目を読み込みます。
⑨	書込	設定	④～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑧を読み込みます。

【備考】

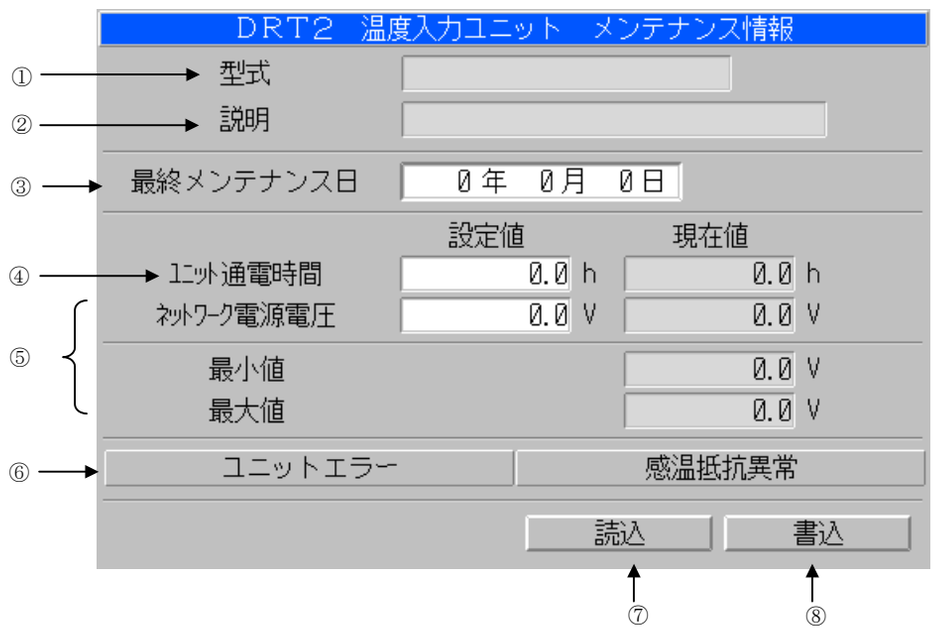
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet 上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

5-7-2.5 温度入力ユニット メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-TS04T DRT2-TS04P	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥温度入力(TS)	タイトル	DRT2 温度入力ユニット メンテナンス情報
機能	温度入力ユニット(DRT2)のユニットメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。
②	説明	表示	ユニットに設定されている説明を表示します。
③	最終 メンテナンス日	設／表	ユニットに記録されている最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
④	ユニット通電時間	設／表	ユニット通電時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。
⑤	ネットワーク 電源電圧	設／表	ネットワーク電源電圧の設定値、現在値、最小値、最大値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が変わります。 ユニット通電時間 現在値 :橙色 ネットワーク電源電圧 現在値 :赤色
⑥	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 ユニットエラー :赤色 感温抵抗異常 :赤色
⑦	読込	設定	①～⑥の項目を読み込みます。
⑧	書込	設定	③～⑤の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑥を読み込みます。

【備考】

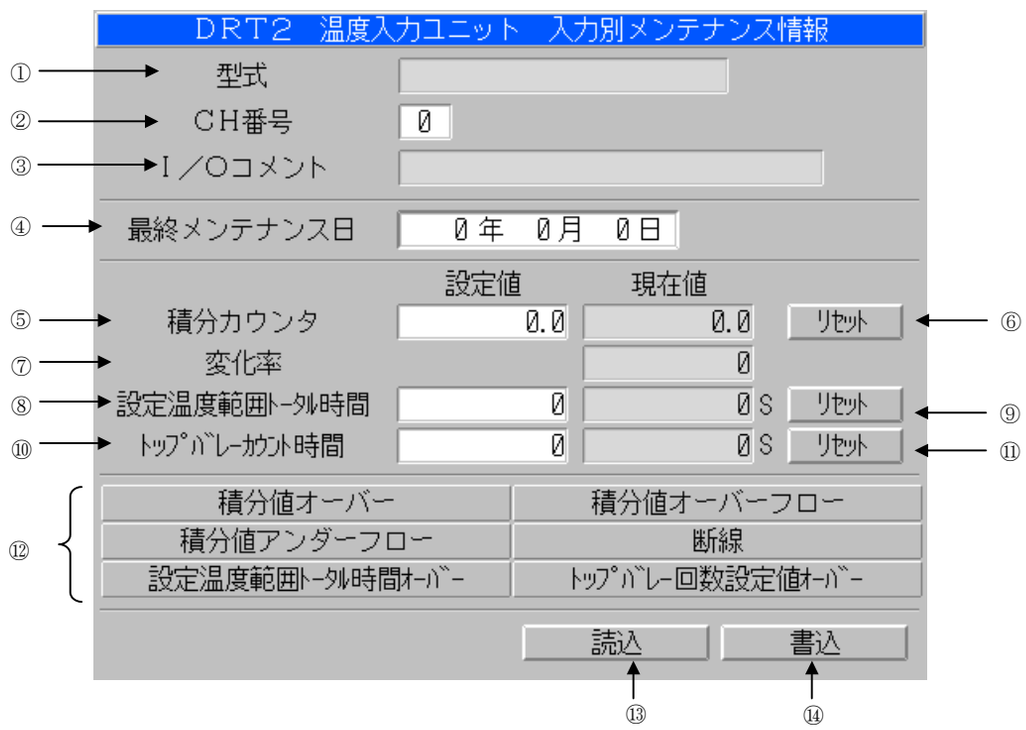
※ ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet 上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※ System Version 5 以降で使用して下さい。

5-7-2.6 温度入力ユニット　入力別メンテナンス情報

ユニット種別	DRT2-TS04T DRT2-TS04P	インストール先	SmartActiveParts_J¥DRT2¥温度入力(TS)	タイトル	DRT2　温度入力ユニット 入力別メンテナンス情報
機能	温度入力ユニット(DRT2)の入力 CH 別のメンテナンスのモニタ、パラメータの設定をする。				

【イメージ図・操作詳細】



番号	項目	設／表	内容
①	型式	表示	ユニットの型式を表示します。
②	CH 番号	設定	入力 CH 番号を設定します。
③	説明	表示	CH 番号に設定されている説明を表示します。
④	最終 メンテナンス日	設／表	接続機器の最終メンテナンス日を表示します。また、最終メンテナンス日を書き換えることが可能です。
⑤	積分カウンタ	設／表	積分カウンタの設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が橙色に変わります。
⑥	リセット	設定	積分カウンタの現在値をリセットします。
⑦	変化率	表示	変化率を表示します。
⑧	設定温度範囲 トータル時間	設／表	設定温度範囲トータル時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が赤色に変わります。
⑨	リセット	設定	設定温度範囲トータル時間の現在値をリセットします。
⑩	トップバレー カウント時間	設／表	トップバレーカウント時間の設定値、現在値を表示します。また、設定値を設定することが可能です。設定閾値オーバーの場合、現在値の表示色が赤色に変わります。
⑪	リセット	設定	トップバレーカウント時間の現在値をリセットします。
⑫	異常状態	表示	異常状態により表示色が変わります。 積分値オーバー　:橙色　積分値アンダーフロー　:橙色 積分値オーバーフロー　:橙色　断線　:赤色 設定温度範囲ﾄｰﾀﾙ時間ｵｰﾊﾞｰ:橙色　ﾄｯﾌﾟﾊﾞﾚｰ回数設定値ｵｰﾊﾞｰ　:赤色
⑬	読込	設定	①～⑫の項目を読み込みます。
⑭	書込	設定	④～⑩の項目を書き込みます。書き込み後、①～⑧を読み込みます。

【備考】

※　ライブラリ流用時、ユニット番号の指定が必要です。また、DeviceNet　上に複数のスレーブユニットが存在する場合、スレーブユニット番号の指定が必要です。

※　System Version 5　以降で使用して下さい。

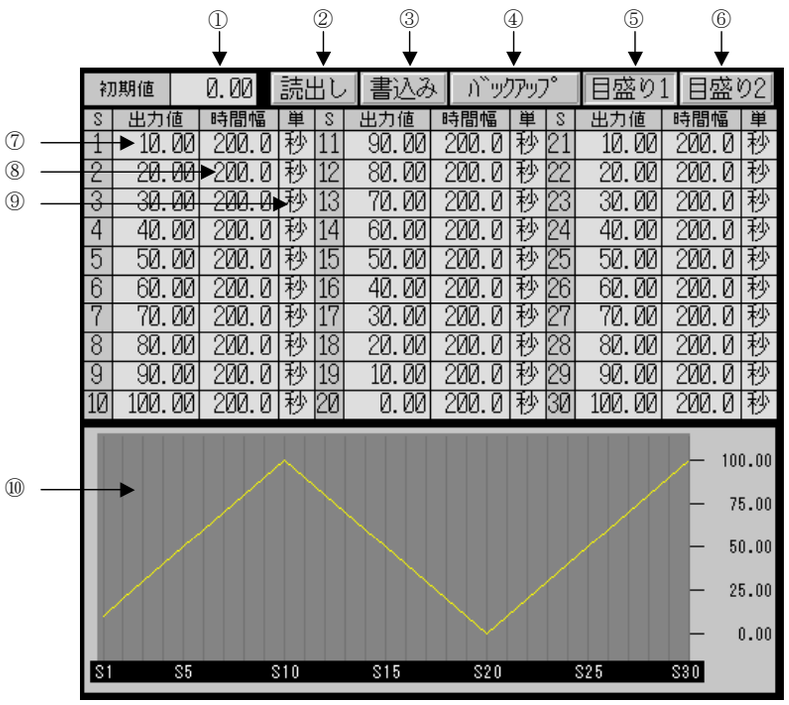
5-8　ループコントローラ

5-8-1 時間関数ブロック

5-8-1.1 折れ線プログラム 2 時間幅/出力量設定

ユニット種別	LC001/LCB01 LCB05/LCB05D	インストール先	SmartActiveParts_J¥ループ_プロセスコントロール¥LCB_LCU¥時間関数¥折れ線プログラム 2	タイトル	折れ線プログラム 2 時間幅/出力量設定
機能	ループコントローラの折れ線プログラム 2 ブロックの各ステップの時間幅および出力量を設定する。				

【イメージ図・操作詳細】

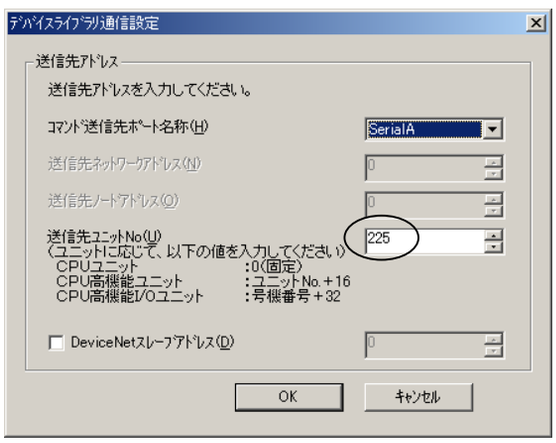


番号	項目	設／表	内容
①	初期値	設／表	初期出力値(ステップ 0)を設定/表示します。
②	読出し	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックからすべて読み出します。
③	書込み	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックへすべて書込みます。
④	バックアップ	設定	書き込んだデータをループコントローラの FROM にバックアップします。 この機能は、LCB01/05 の Ver.1.5 以降, LCB05D でのみ使用可能です。
⑤	目盛り 1	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を-15%～115%の幅に設定します。
⑥	目盛り 2	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を±320%の幅に設定します。
⑦	出力値 (1~30 ステップ)	設／表	各ステップの出力値を±320.00%の範囲で設定します。
⑧	時間幅 (1~30 ステップ)	設／表	各ステップの出力時間幅を 0~3200.0 の範囲で設定します。単位は⑨の設定に従います。
⑨	時間単位 (1~30 ステップ)	設／表	各ステップの出力時間幅単位を時, 分, 秒から選択します。
⑩	グラフ部	表示	対象となる折れ線プログラム 2 の出力がステップごとに連続したグラフとして表示されます。時間幅は横軸には反映されません。ご注意ください。また目盛り 1 を選択している場合に、出力値が-15%～115%の範囲外である場合には、そのステップは赤色で表示されます。

【備考】

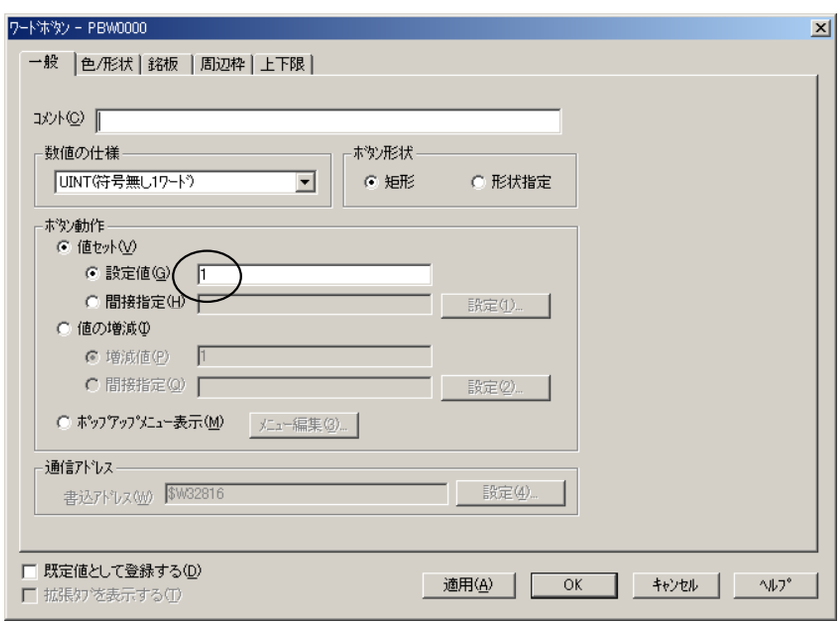
※　本 SAP ライブラリを使用する場合は、下記の設定を行ってください。

①　対象号機番号の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリをダブルクリックすると以下の画面が表示されます。
(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックを外した状態。)



送信先ユニット No.の欄には LC001 の場合は、CPU 高機能ユニット番号+16 を, LCB01/05/05D の場合は 225 を入力してください。

②　対象計器ブロック番地の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリの”読出し”ボタン部をダブルクリックすると以下の画面が表示されます。(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックをつけた状態。)



設定値の欄に、対象となる計器ブロックのループコントローラ上でのブロック番地を指定してください。対象となる計器ブロックのブロック番地は、CX-Process Tool 上でご確認ください。

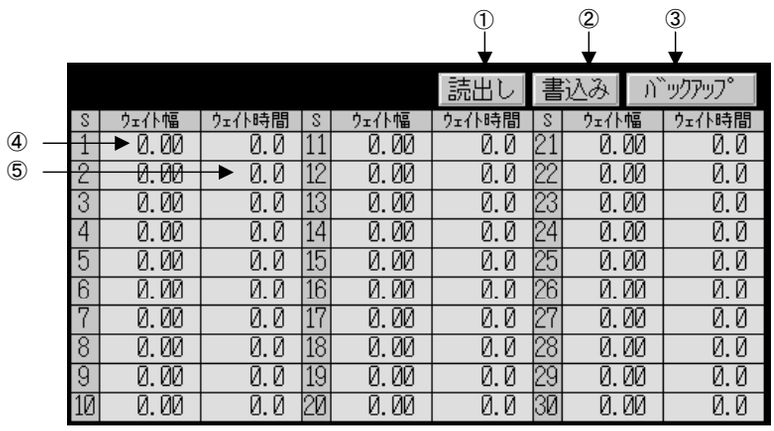
※　この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位･スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1 」に、999 番の倍率を「0.01 」に設定してください。

※　前項の①, ⑦, ⑧, ⑨の各項目は、NS 上で設定しても、即座にループコントローラには反映されません。設定変更後書込みボタンにてループコントローラに書込み処理を行ってください。書込み処理を行わずに他の画面に遷移した場合、編集内容は破棄されます。ご注意ください。

5-8-1.2 折れ線プログラム 2 ウェイト設定

ユニット種別	LC001/LCB01 LCB05/LCB05D	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥ループ_プロセスコントロール¥LCB_LCU¥時間関数¥折れ線プログラム 2	タイトル	折れ線プログラム 2 ウェイト設定
機能	ループコントローラの折れ線プログラム 2 ブロックの各ステップのウェイト幅/ウェイト時間を設定する。				

【イメージ図・操作詳細】



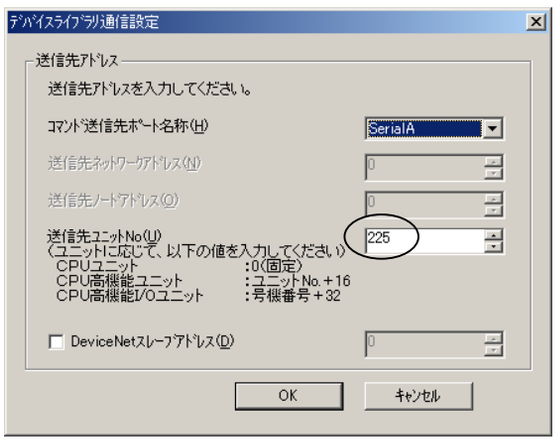
S	ｳｪｲﾄ幅	ｳｪｲﾄ時間	S	ｳｪｲﾄ幅	ｳｪｲﾄ時間	S	ｳｪｲﾄ幅	ｳｪｲﾄ時間
1	0.00	0.0	11	0.00	0.0	21	0.00	0.0
2	0.00	0.0	12	0.00	0.0	22	0.00	0.0
3	0.00	0.0	13	0.00	0.0	23	0.00	0.0
4	0.00	0.0	14	0.00	0.0	24	0.00	0.0
5	0.00	0.0	15	0.00	0.0	25	0.00	0.0
6	0.00	0.0	16	0.00	0.0	26	0.00	0.0
7	0.00	0.0	17	0.00	0.0	27	0.00	0.0
8	0.00	0.0	18	0.00	0.0	28	0.00	0.0
9	0.00	0.0	19	0.00	0.0	29	0.00	0.0
10	0.00	0.0	20	0.00	0.0	30	0.00	0.0

番号	項目	設／表	内容
①	読出し	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックからすべて読み出します。
②	書込み	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックへすべて書込みます。
③	バックアップ	設定	書き込んだデータをループコントローラの FROM にバックアップします。 この機能は、LCB01/05 の Ver.1.5 以降, LCB05D でのみ使用可能です。
④	ウェイト幅	設／表	各ステップのウェイト幅を 0~320.00%の範囲で設定します。
⑤	ウェイト時間	設／表	各ステップのウェイト時間を 0~3200.0 の範囲で設定します。時間の単位は、各ステップの出力時間幅の単位設定に従います。

【備考】

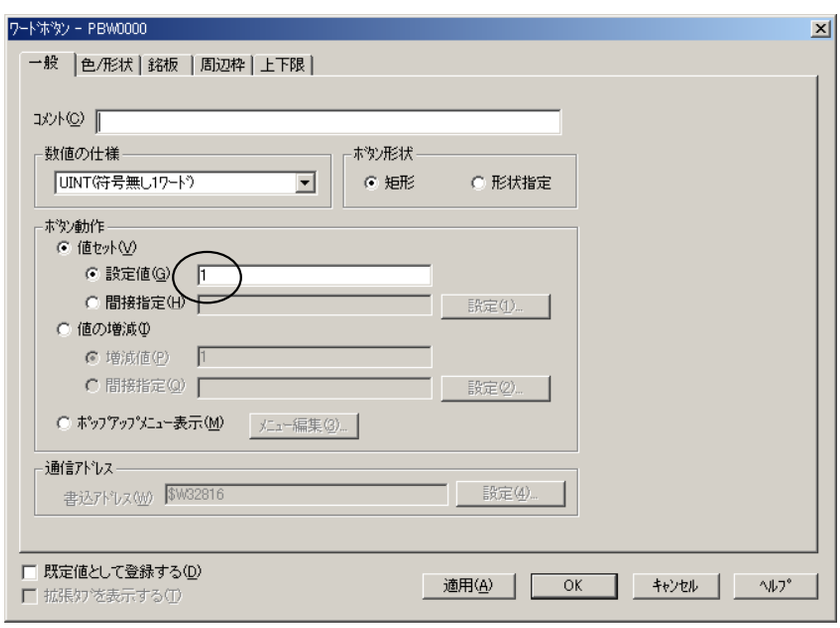
※　本 SAP ライブラリを使用する場合は、下記の設定を行ってください。

③　対象号機番号の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリをダブルクリックすると以下の画面が表示されます。
(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックを外した状態。)



送信先ユニット No.の欄には LC001 の場合は、CPU 高機能ユニット番号+16 を, LCB01/05/05D の場合は 225 を入力してください。

④　対象計器ブロック番地の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリの”読出し”ボタン部をダブルクリックすると以下の画面が表示されます。(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックをつけた状態。)



設定値の欄に、対象となる計器ブロックのループコントローラ上でのブロック番地を指定してください。対象となる計器ブロックのブロック番地は、CX-Process Tool 上でご確認ください。

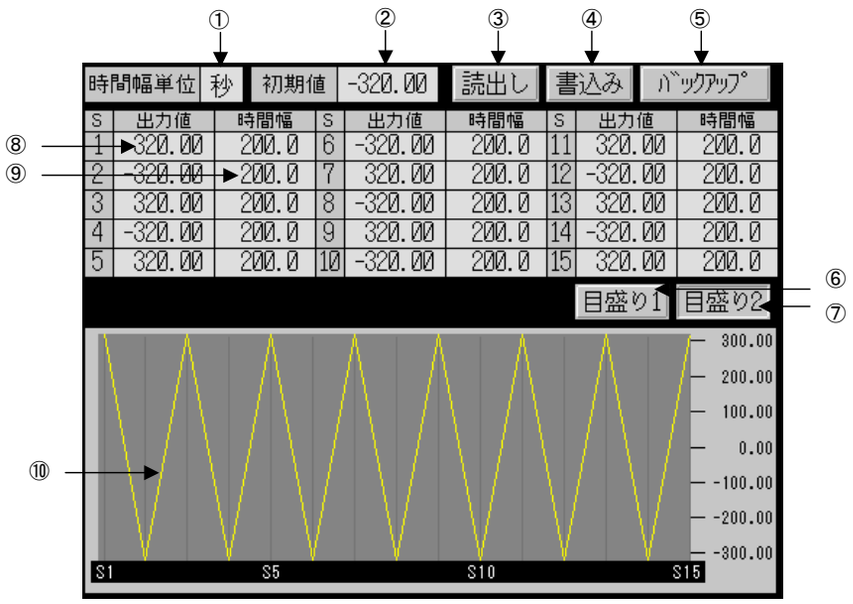
※　この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位･スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1 」に、999 番の倍率を「0.01 」に設定してください。

※　前項の④, ⑤の各項目は、NS 上で設定しても、即座にループコントローラには反映されません。設定変更後書込みボタンにてループコントローラに書込み処理を行ってください。書込み処理を行わずに他の画面に遷移した場合、編集内容は破棄されます。ご注意ください。

5-8-1.3 折れ線プログラム 時間幅/出力量設定

ユニット種別	LC001/LCB01 LCB05/LCB05D	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥ループ_プロセスコントロール¥LCB_LCU¥時間関数¥折れ線プログラム	タイトル	折れ線プログラム 時間幅/出力量設定
機能	ループコントローラの折れ線プログラムブロックの各ステップの時間幅および出力量を設定する。				

【イメージ図・操作詳細】

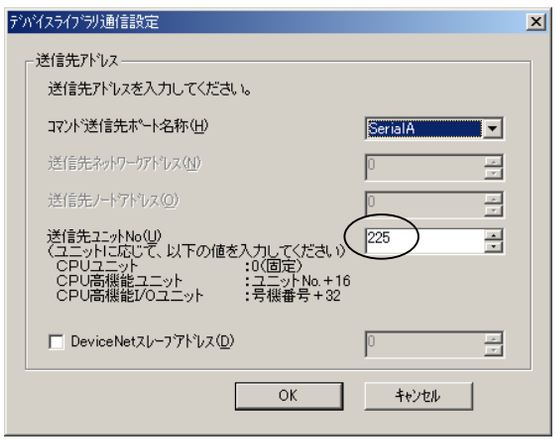


番号	項目	設／表	内容
①	時間単位 (全ステップ共通)	設／表	各ステップの時間幅の単位を時，分，秒から選択します。
②	初期値	設／表	初期出力値(ステップ 0)を設定/表示します。
③	読出し	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックからすべて読み出します。
④	書込み	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックへすべて書込みます。
⑤	バックアップ	設定	書き込んだデータをループコントローラの FROM にバックアップします。 この機能は、LCB01/05 の Ver.1.5 以降，LCB05D でのみ使用可能です。
⑥	目盛り 1	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を-15%～115%の幅に設定します。
⑦	目盛り 2	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を±320%の幅に設定します。
⑧	出力値 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの出力値を±320.00%の範囲で設定します。
⑨	時間幅 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの出力時間幅を 0~3200.0 の範囲で設定します。単位は①の設定に従います。
⑩	グラフ部	表示	対象となる折れ線プログラムの出力がステップごとに連続したグラフとして表示されます。時間幅は横軸には反映されません。ご注意ください。また目盛り 1 を選択している場合に、出力値が-15%～115%の範囲外である場合には、そのステップは赤色で表示されます。

【備考】

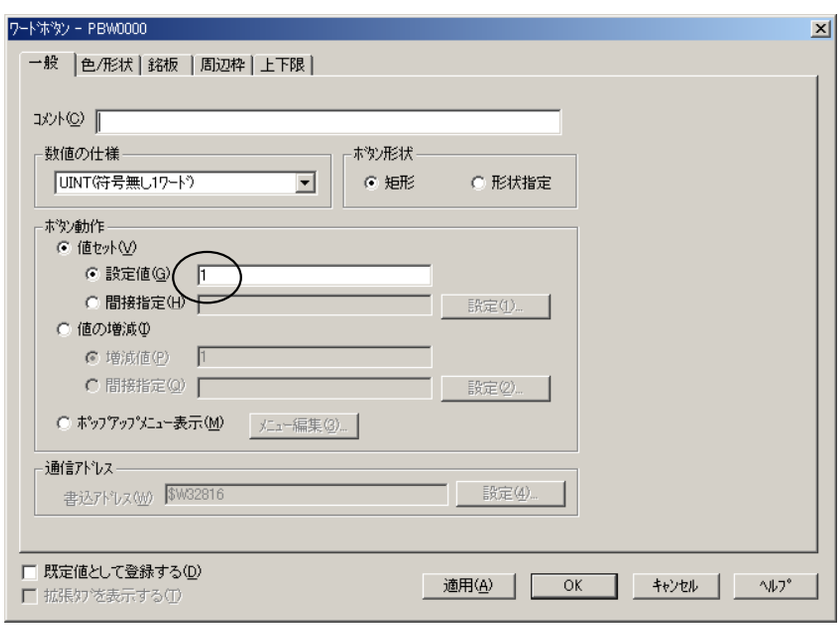
※　本 SAP ライブラリを使用する場合は、下記の設定を行ってください。

⑤　対象号機番号の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリをダブルクリックすると以下の画面が表示されます。
(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックを外した状態。)



送信先ユニット No.の欄には LC001 の場合は、CPU 高機能ユニット番号+16 を, LCB01/05/05D の場合は 225 を入力してください。

⑥　対象計器ブロック番地の設定:プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリの”読出し”ボタン部をダブルクリックすると以下の画面が表示されます。(オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックをつけた状態。)



設定値の欄に、対象となる計器ブロックのループコントローラ上でのブロック番地を指定してください。対象となる計器ブロックのブロック番地は、CX-Process Tool 上でご確認ください。

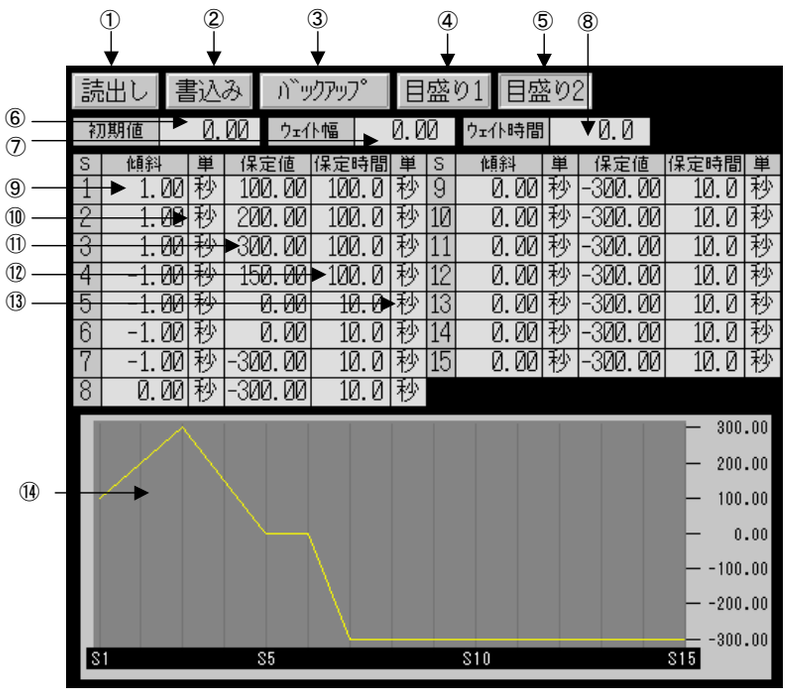
※　この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位･スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1 」に、999 番の倍率を「0.01 」に設定してください。

※　前項の①, ②, ⑧, ⑨の各項目は、NS 上で設定しても、即座にループコントローラには反映されません。設定変更後書込みボタンにてループコントローラに書込み処理を行ってください。書込み処理を行わずに他の画面に遷移した場合、編集内容は破棄されます。ご注意ください。

5-8-1.4 台形プログラム パラメータ設定

ユニット種別	LC001/LCB01 LCB05/LCB05D	ｲﾝｽﾄｰﾙ先	SmartActiveParts_J¥ループ_プロセスコントロール¥LCB_LCU¥時間関数¥台形プログラム	タイトル	折れ線プログラム パラメータ設定
機能	ループコントローラの台形プログラムブロックの各ステップの傾斜および保定値を設定する。				

【イメージ図・操作詳細】

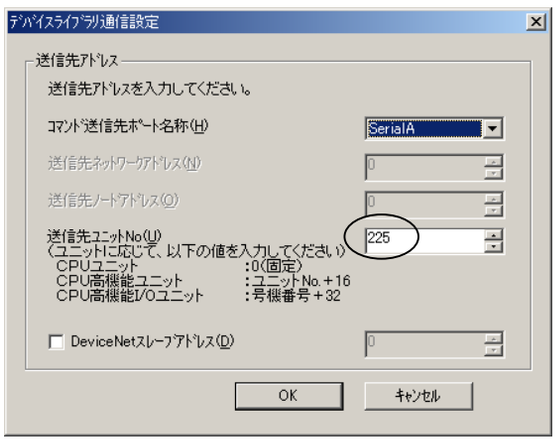


番号	項目	設／表	内容
①	読出し	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックからすべて読み出します。
②	書込み	設定	対象となるデータ(出力値/時間幅/単位時間)を対象となるブロックへすべて書込みます。
③	バックアップ	設定	書き込んだデータをループコントローラの FROM にバックアップします。 この機能は、LCB01/05 の Ver.1.5 以降, LCB05D でのみ使用可能です。
④	目盛り 1	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を-15%～115%の幅に設定します。
⑤	目盛り 2	設定	グラフ表示される出力値の縦軸を±320%の幅に設定します。
⑥	初期値	設／表	初期出力値(ステップ 0)を設定/表示します。
⑦	ウェイト幅 (各ステップ共通)	設／表	各ステップのウェイト幅を 0~320.00%の範囲で設定します。
⑧	ウェイト時間 (各ステップ共通)	設／表	各ステップのウェイト時間を 0~3200.0 の範囲で設定します。設定値は各ステップ共通ですが、時間の単位は各ステップの傾斜の単位設定(項目⑩)に従います。
⑨	傾斜 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの傾斜を単位時間あたりの変化率として入力します。±115.00%の範囲で設定します。単位時間は⑩の設定に従います。
⑩	傾斜の単位時間 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの傾斜の時間単位を時, 分, 秒から選択します。
⑪	保定値 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの傾斜完了後の保定値を、±320.00%の範囲で設定します。
⑫	保定時間 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの保定値の保持時間を、0~3200.0 の範囲で設定します。時間の単位は⑬の設定に従います。
⑬	保定時間単位 (1~15 ステップ)	設／表	各ステップの保定時間の時間単位を時, 分, 秒から選択します。
⑭	グラフ部	表示	対象となる台形プログラムの出力がステップごとに連続したグラフとして表示されます。保定時間およびその時間は横軸には反映されません。ご注意ください。また目盛り 1 を選択している場合に、出力値が-15%～115%の範囲外である場合には、そのステップは赤色で表示されます。

【備考】

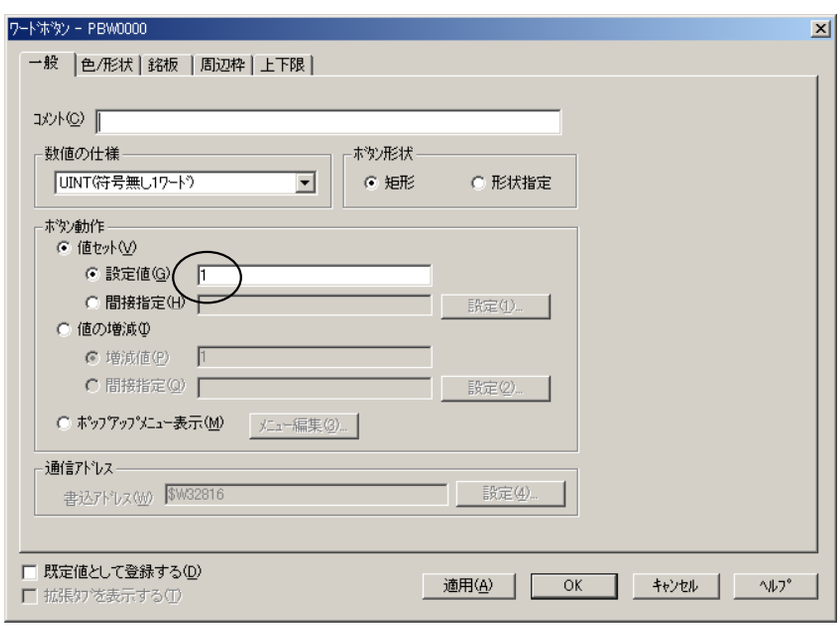
※　本 SAP ライブラリを使用する場合は、下記の設定を行ってください。

⑦　対象号機番号の設定：プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリをダブルクリックすると以下の画面が表示されます。
（オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックを外した状態。）



送信先ユニット No.の欄には LC001 の場合は、CPU 高機能ユニット番号+16 を，LCB01/05/05D の場合は 225 を入力してください。

⑧　対象計器ブロック番地の設定：プロジェクトに貼り付けた SAP ライブラリの”読出し”ボタン部をダブルクリックすると以下の画面が表示されます。（オプションにて”SAP ライブラリを編集する”のチェックをつけた状態。）



設定値の欄に、対象となる計器ブロックのループコントローラ上でのブロック番地を指定してください。対象となる計器ブロックのブロック番地は、CX-Process Tool 上でご確認ください。

※　この SAP ライブラリを使用する際には、メニューバーの[設定]-[数字単位･スケール設定]を選択し、1000 番の倍率を「0.1 」に、999 番の倍率を「0.01 」に設定してください。

※　前項の⑥～⑬の各項目は、NS 上で設定しても、即座にループコントローラには反映されません。設定変更後書込みボタンにてループコントローラに書込み処理を行ってください。書込み処理を行わずに他の画面に遷移した場合、編集内容は破棄されます。ご注意ください。

MEMO

●本誌に記載のない条件や環境での使用、および原子力制御・鉄道・航空・車両・燃焼装置・医療機器・娯楽機械・安全機器、その他人命や財産に大きな影響が予測されるなど、特に安全性が要求される用途に使用される際には、当社の意図した特別な商品用途の場合や特別の合意がある場合を除き、当社は当社商品に対して一切保証をいたしません。
●本製品の内、外国為替及び外国貿易法に定める輸出許可、承認対象貨物（又は技術）に該当するものを輸出（又は非居住者に提供）する場合は同法に基づく輸出許可、承認（又は役務取引許可）が必要です。

オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー

●製品に関するお問い合わせ先
お客様相談室
フリー通話 **0120-919-066**（クイック／オムロン）
携帯電話・PHS・IP電話などではご利用いただけませんので、下記の電話番号へおかけください。
電話 **055-982-5015**（通話料がかかります）
■営業時間：8:00～21:00　■営業日：365日
●FAXやWebページでもお問い合わせいただけます。
FAX **055-982-5051 / www.fa.omron.co.jp**

●その他のお問い合わせ
納期・価格・サンプル・仕様書は貴社のお取引先、または貴社担当オムロン販売員にご相談ください。
オムロン制御機器販売店やオムロン販売拠点は、Webページでご案内しています。

オムロン制御機器の最新情報をご覧いただけます。
www.fa.omron.co.jp
緊急時のご購入にもご利用ください。

オムロン商品のご用命は

Man. No. SBSA-521H　2018年11月現在 （WEB版1）

© OMRON Corporation 2004-2018　All Rights Reserved.
お断りなく仕様などを変更することがありますのでご了承ください